

高齢者福祉計画（第9期介護保険事業計画）
策定のための実態調査及び分析等報告書

令和5年3月

宮城県 多賀城市

目 次

第 1 部 調査の概要	3
第 1 章 調査の概要	3
1. 調査目的について	3
2. 調査設計について	3
第 2 章 回収結果	3
1. 回収結果について	3
2. 報告書の見方について	3
第 3 章 調査結果のまとめ	4
1. 生きがい活動の推進について	4
2. 介護予防の推進について	4
3. 日常生活の支援について	5
4. 地域包括ケアシステム（地域共生社会）の推進について	7
5. 認知症対策の推進について	9
6. 介護保険サービスの適切な利用について	10
7. 新型コロナウイルス感染症の影響について	14
第 2 部 調査結果の分析	19
第 1 章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	19
1. 回答者の属性について	19
(1) 回答者の性別	19
(2) 回答者の年齢	19
(3) 回答者の居住地域	20
2. 家族や生活状況について	21
(1) 家族構成	21
(2) 日中、一人になる頻度	22
(3) 普段の生活における介護・介助の必要性	23
(4) 介護・介助が必要になった主な原因	24
(5) 主な介護・介助者	25
(6) 経済的にみた現在の暮らしの状況	25
(7) 居住形態	26

3. からだを動かすことについて	27
(1) 階段を手すりや壁を使わずに昇ることの可否	27
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることの可否	27
(3) 15分位続けて歩くことの可否	28
(4) 過去1年間に転んだ経験	28
(5) 転倒に対する不安	29
(6) 週の外出頻度	29
(7) 外出を控えている理由	30
(8) 昨年と比べての外出回数の減少状況	30
(9) 外出する際の移動手段	31
4. 食べることについて	32
(1) 身長・体重 (BMI 値)	32
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	32
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況	33
(4) 噛み合わせは良いか	33
(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか	34
(6) 誰かと食事をともにする機会の有無	34
(7) お茶や汁物等でむせることがあるか	35
(8) 口の渇きが気になるか	35
(9) 歯磨き (人にやってもら場合も含む) を毎日しているか	36
(10) 6か月間で2~3kg以上の体重減少があったか	36
5. 毎日の生活について	37
(1) 物忘れが多いと感じるか	37
(2) バスや電車を使って1人での外出の可否 (自家用車でも可)	37
(3) 自分での食品・日用品の買物の可否	38
(4) 食品・日用品の買物をする人	38
(5) 自分での食事の用意の可否	39
(6) 食事の用意をする人	39
(7) 自分での請求書の支払いの可否	40
(8) 自分での預貯金の出し入れの可否	40
(9) 今日が何月何日かわからない時があるか	41
(10) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けるか	41
(11) 新聞を読んでいるか	42

(12) 本や雑誌を読んでいるか	42
(13) 健康についての記事や番組に関心があるか.....	43
(14) 趣味はあるか	43
(15) 生きがいはあるか	44
(16) 生活の中で、自身が毎日担っている役割などはあるか.....	44
6. 地域での活動について	45
(1) 地域活動への参加頻度	45
(2) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向.....	46
(3) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営側としての参加意向.....	46
(4) 自分が地域でできると思う支援活動	47
7. たすけあいについて	49
(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	49
(2) あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	51
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人.....	53
(4) あなたが看病や世話をしてあげる人	55
(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手.....	57
(6) 友人・知人と会う頻度	59
(7) この1か月に会った友人・知人の人数.....	59
(8) よく会う友人・知人との関係性	60
8. 健康について	62
(1) 現在の健康状態	62
(2) 現在の幸福度	63
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったか.....	64
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない等の感じがあったか.....	64
(5) 喫煙状況	65
(6) 飲酒状況	66
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気	67
(8) 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか.....	69
9. 認知症等について	70
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか.....	70
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか.....	71
(3) 認知症関連の取り組みの認知度	72
(4) あなた自身や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なもの.....	74

10. 市の高齢者福祉サービスについて	76
(1) 地域包括支援センターの認知状況	76
(2) 家にひとりでいる時間に助けを呼ぶ場合に連絡する人	77
(3) 普段、使用している通信手段	78
(4) 将来からだの自由が利かなくなった際に、地域でもらいたい支えあい	79
11. 新型コロナウイルス感染症の影響について	81
(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無	81
(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容	82
12. 介護保険制度について	83
(1) 今後、自分に介護が必要な状態になったときに受けたい介護	83
(2) 必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考え	84
13. 今後の施策について	85
(1) 今後、より充実してほしい高齢者施策	85
14. 生活機能判定評価について	87
(1) 生活機能判定評価の結果	87
(2) 運動器の機能低下	88
(3) 閉じこもり傾向	90
(4) 転倒リスク	92
(5) 低栄養の傾向	94
(6) 口腔機能の低下	96
(7) 認知機能低下	98
(8) うつ傾向	100
(9) 虚弱	102
(10) 介護予防・日常生活支援総合事業対象者	104
(11) IADL（手段的自立度）	106
(12) 社会参加（知的能動性）	108
(13) 日常生活圏域ニーズにおける生活機能判定評価の概要	110
第2章 在宅介護実態調査	115
1. 回答者の属性について	115
(1) 回答者の性別	115
(2) 回答者の年齢	115
(3) 回答者の居住地域	116
(4) 回答者の要介護度	116

(5) 回答者の認知症高齢者の日常生活自立度.....	117
2. ご本人（要介護者）の状況について	118
(1) 調査票の回答者	118
(2) 本人（要介護者）の生活場所	118
(3) 世帯類型	119
(4) 家族や親族の方から介護してもらう日数.....	119
3. 主な介護者等の状況（属性等）について	120
(1) 主な介護者の続柄	120
(2) 主な介護者の性別	120
(3) 主な介護者の年齢	121
(4) 主な介護者を含めた介護者数	121
(5) 家族の中に 18 歳未満で介護をしている方の有無.....	122
(6) 主な介護者の、本人（要介護者）との同居状況.....	122
(7) 本人と同居していない場合の居住地	123
(8) 主な介護者が行っている介護等	124
(9) 本人（要介護者）の介護のために、仕事を辞めた・転職した家族や親族の有無.....	125
4. 支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて.....	126
(1) 「介護保険サービス以外」で利用している支援・サービス.....	126
(2) 在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス.....	127
(3) 施設等への入所・入居の検討状況	128
(4) 本人（要介護者）が現在抱えている傷病名.....	129
(5) 訪問診療の利用状況	130
(6) 訪問診療の利用頻度	130
(7) 利用している訪問診療への満足度	131
(8) 介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況.....	131
(9) 介護保険サービスを利用していない理由.....	133
(10) 利用している介護保険サービス	135
5. 主な介護者の就労状況について	136
(1) 主な介護者の現在の勤務形態	136
(2) 介護をするにあたって、行っている働き方についての調整等.....	137
(3) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援.....	138
(4) 主な介護者が今後も働きながら介護を継続できる可能性.....	139
6. 介護生活を続ける際の不安や困りごと	140

(1) 現在の生活を今後も続けていくにあたり、主な介護者が不安に感じる介護等.....	140
(2) 主な介護者が、介護について相談している人.....	142
(3) 主な介護者が介護を続けていくうえで困ることや不安に感じること.....	143
7. 認知症について	145
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか.....	145
(2) 認知症関連の取り組みの認知度	146
(3) 主な介護者や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なもの.....	147
8. ケアプラン等について	149
(1) 本人（要介護者）のケアプランに対する主な介護者の満足度.....	149
(2) 本人（要介護者）のケアプランに主な介護者が不満な一番の理由.....	149
(3) 訪問診療と訪問介護などのサービス提供者間での連携状況.....	150
9. 新型コロナウイルス感染症の影響について	151
(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無..	151
(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容.....	152
(3) 新型コロナウイルスの影響により介護保険（介護予防）サービスの利用を控えたか..	152
10. 介護保険制度について	153
(1) 本人（要介護者）に、今後受けさせたい介護.....	153
(2) 必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考え.....	154
11. 今後の施策について	155
(1) 本人（要介護者）のために今後、より充実してほしい高齢者施策.....	155
第3章 ケアマネジャーに対する調査	159
1. 回答者の属性について	159
(1) 勤務先の所在地	159
(2) ケアマネジャー歴	159
(3) ケアプラン担当人数	160
2. サービスの過不足について	161
(1) 介護保険対象サービスの過不足	161
(2) 最も供給が不足していると感じる介護保険対象サービスとその理由.....	162
(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の過不足.....	164
3. 必要なサービスについて	165
(1) 地域にあったら良いと思う生活支援サービス.....	165
4. 介護保険以外のサービスについて	166
(1) 多賀城市が行っている高齢者福祉サービスのケアプランへの取り入れ.....	166

(2) 高齢者向け施設（介護保険サービス以外）の過不足	167
5. 関係者・関係機関との連携について	168
(1) 関係者・関係機関との連携状況	168
6. 認知症の対応について	169
(1) 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいること	169
7. サービスの質の向上を図ることについて	170
(1) サービスの質の向上を図るために今後必要な取り組み	170
8. 地域包括ケアの実現に向けた取り組みについて	171
(1) 利用者にとっての望ましい人生の最期の場所	171
(2) 自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うこと	172
9. 行政に対する要望について	173
(1) 行政の支援等が必要だと思われること	173
(2) 地域包括支援センターの支援等が必要だと思われること	174
10. 新型コロナウイルス感染症の影響について	175
(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無	175
(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容	176
(3) 新型コロナウイルスの影響により介護保険（介護予防）サービスの利用を控えたか	176
第4章 介護サービス事業所に対する調査	179
1. 回答者の属性について	179
(1) 職員数	179
2. 運営状況について	180
(1) 1年前と比べたサービスの利用者数の変化	180
(2) 経営上の問題	180
3. サービスの提供状況等について	181
(1) 介護保険対象サービスの現状と今後	181
(2) 新規に参入したいと考える一番の介護保険対象サービスとその理由	182
(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の過不足	183
4. 人材の定着・育成等について	184
(1) 人材の定着・育成についての取り組み	184
(2) 人材不足により新規利用者の受け入れを断ったことの有無	185
(3) 外国人人材の活用状況	185
(4) ICT機器の導入状況	186
5. 苦情処理体制やサービスの質の向上への対策について	187

(1) 利用者や家族からあげられる苦情の内容.....	187
(2) サービスの質の向上のために行っていること.....	188
6. 地域とのつながりについて	189
(1) 地域との交流状況	189
(2) 交流を行っている団体・組織	189
7. 関係機関との連携について	190
(1) 連携状況	190
(2) 他法人との連携について取り組んでいること.....	191
8. 認知症の対応について	192
(1) 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して悩んでいること.....	192
9. 地域包括ケアの実現に向けた取り組みについて	193
(1) 利用者にとっての望ましい人生の最期の場所.....	193
(2) 自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うこと.....	194
10. 行政に対する要望について	195
(1) 行政の支援等が必要だと思われること	195
(2) 地域包括支援センターの支援等が必要だと思われること.....	196

第 1 部 調査の概要

第 1 章 調査の概要

第 2 章 回収結果

第 3 章 調査結果のまとめ

第1章 調査の概要

1. 調査目的について

本調査は、令和6年度から実施する多賀城市高齢者福祉計画（第9期介護保険事業計画）の策定に当たり、現在の高齢者の意識やニーズ、高齢者福祉サービス及び介護サービスの利用動向を把握し、計画期間における高齢者への保健・福祉サービス及び介護保険サービスの内容と必要量を見込むための基礎資料とすると共に、高齢者の受益と負担のバランスについて分析調査し、高齢者の意識を当該事業計画に反映することを目的に実施した。

2. 調査設計について

調査対象	①要介護認定を受けていない高齢者 ②在宅の要介護認定者（要支援を含む） ③ケアマネジャー ④介護サービス事業所
調査対象者	①②は、上記の調査対象者から系統抽出 ③④は、対象名簿より選定
調査方法	①②は、郵送配付一郵送回収（WEB回収併用）、④は郵送配付一郵送回収、 ③は④に同封しての託送配付一郵送回収
調査期間	令和4年12月15日～令和5年1月6日 （令和5年1月26日までの回収票を有効とした）
企画実施	多賀城市保健福祉部 介護・障害福祉課
集計・分析	株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所

第2章 回収結果

1. 回収結果について

	対象者数	回収数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,700人	1,256人	1,253人	73.7%
在宅介護実態調査	1,000人	649人	647人	64.7%
ケアマネジャーに対する調査	83人	63人	63人	75.9%
介護サービス事業所に対する調査	57事業所	47事業所	47事業所	82.5%

※回収数には、白紙回収を含む

2. 報告書の見方について

- ◆ 調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ◆ 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- ◆ 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ◆ 調査票における設問及び選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

第3章 調査結果のまとめ

1. 生きがい活動の推進について

【家族構成について】

要介護認定を受けていない高齢者の家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（37.4%）が最も多く、「息子・娘との2世帯」（32.0%）、「1人暮らし」（14.4%）、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」（4.2%）、多世代世帯を内包する「その他」は11.3%となっている。

また、「1人暮らし」は女性が17.3%と男性を上回り、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【日中独居について】

高齢者が日中、一人になる頻度は、「よくある」が全体では27.8%、女性が33.0%と男性を10.6ポイント上回り、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【疾病と生きがいなどについて】

現在治療中または後遺症のある病気は、「高血圧」（43.7%）が最も多く、「目の病気」（28.9%）、「高脂血症（脂質異常）」（16.8%）、「糖尿病」（14.8%）、「心臓病」（11.5%）などとなっている。

一方、「ない」は11.4%となっている。男性は「高血圧」、「糖尿病」、「心臓病」、「腎臓・前立腺の病気」などで女性を上回っており、女性は「目の病気」、「高脂血症（脂質異常）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」で男性を上回っている。概ね年齢が上がるにしたがって「高脂血症（脂質異常）」は減少しているが、それ以外の治療中または後遺症のある病気は増加している。

要介護認定を受けていない高齢者の78.6%は健康状態がよく、72.9%が趣味を持ち、57.1%が生きがいがあり、85.3%が生活の中で高齢者自身が毎日担っている役割などがある。

2. 介護予防の推進について

【高齢者の孤立防止について】

要介護認定を受けていない高齢者自身の心配事や愚痴を聞いてくれる相手は、「配偶者」（56.6%）が最も多く、「友人」（45.9%）、「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（ともに35.9%）、「同居の子ども」（23.9%）、「近隣」（12.1%）となっている。

男性の心配事や愚痴を聞いてくれる相手は「配偶者」（69.3%）に集中し、女性は「友人」（57.1%）が最も多いが、次いで「配偶者」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」と分散している。

一方、高齢者自身が心配事や愚痴の聞き手となる相手は、「配偶者」（53.8%）が最も多く、「友人」（44.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（36.8%）、「別居の子ども」（31.5%）、「同居の子ども」（19.5%）、「近隣」（14.2%）となっている。

男性が聞き手となる相手は「配偶者」（68.2%）に集中し、女性は「友人」（56.7%）が最も多

く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「配偶者」と分散しており、心配事や愚痴を聞いてくれる相手と同様の傾向がみられる。

【高齢者の生活機能の評価項目のリスクについて】

虚弱、運動器の低下、低栄養の傾向、口腔機能の低下の4つの項目すべてを判定できた回答者において、1つでも該当した場合、総合事業対象者となる。高齢者における総合事業対象者割合は全体では26.2%で、男性より女性が高く、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

高齢者の生活機能の評価項目のリスクの該当者割合をみると、全体では、「うつ傾向」(42.5%)、「認知機能低下」(40.0%)が上位であり、総合事業対象者では、「口腔機能の低下」(78.7%)、「認知機能低下」(59.8%)、「うつ傾向」(58.2%)、一般高齢者では、「うつ傾向」(36.1%)、「認知機能低下」(33.0%)、「転倒リスク」(20.6%)が高くなっている。「うつ傾向」、「認知機能低下」は総合事業対象者、一般高齢者でともに上位となっている。

うつ傾向のリスク該当者割合は、全体では42.5%、一般高齢者では36.1%、総合事業対象者では58.2%となっており、男性より女性が高く、年齢は90～94歳が高くなっており、女性の75歳以上では47.7%と同年代の男性を9.3ポイント上回っている。

認知機能低下のリスク該当者割合は、全体では40.0%、一般高齢者では33.0%、総合事業対象者では59.8%となっており、性別には大きな違いはみられず、概ね年齢が上がるにしたがって増加しており、女性の75歳以上では48.1%と同年代の男性を8.8ポイント上回っている。

うつ傾向や認知機能低下の方へのケアなど、認知症施策推進大綱に基づく施策の推進が重要となる。

高齢者の現在の幸福度は平均6.98点である。元気な一般高齢者は7.18点であるが、総合事業対象者は6.41点と低く、生活機能の状態による影響がみられる。

3. 日常生活の支援について

【介護予防・日常生活支援総合事業等について】

介護予防・日常生活支援総合事業において現在供給が不足していると感じるサービスについてケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「介護予防訪問介護相当サービス」(34.9%)が最も多く、「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」(ともに17.5%)、「介護予防通所介護相当サービス」(14.3%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「介護予防訪問介護相当サービス」(27.7%)が最も多く、「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」(19.1%)、「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「介護予防通所介護相当サービス」(ともに8.5%)などとなっており、順位は異なるが上位の4サービスは共通となっている。

今後需要の増加が考えられるサービスについて、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「介護予防訪問介護相当サービス」(31.7%)が最も多く、「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」(27.0%)、「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」(22.2%)、「介護予防通所介護相当サービス」「健康ストレッチ教室」「地域リハビリテーション活動支援事業」(ともに17.5%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「健康ストレッチ教室」(ともに29.8%)が最も多く、「筋運アップ教室」(27.7%)、「介護予防訪問介護相当サービス」「地域リハビリテーション活動支援事業」(ともに21.3%)などとなっている。

現在供給が不足していると感じるサービスでも上位だったサービスに加え、リハビリテーションや筋肉トレーニングが多くなっている。

ケアマネジャーの多賀城市が行っている高齢者福祉サービスのケアプランへの取り入れ状況は、『配食サービス事業』、『在宅介護者等紙おむつ支給事業』で「取り入れたことがある」が50.0%以上となっているが、『緊急通報システム事業』、『家族介護支援レスパイト事業』、『高齢者はいかいSOSネットワークシステム事業』は「知っているが取り入れたことはない」が60.0%以上となっており、特に『家族介護支援レスパイト事業』は74.6%と多くなっている。

【地域活動等への参加について】

高齢者の地域活動等への参加は、すべての項目で「参加していない」が最も多く、「週4回以上」参加している活動は、『収入のある仕事』(12.6%)となっている。

「週1回以上」の参加率をみると、『収入のある仕事』(17.4%)、『スポーツ関係のグループやクラブ』(13.3%)、『趣味関係のグループ』(8.8%)などとなっており、『市が主催する健康教室・介護予防教室』(通いの場)は1.0%にとどまっている。

高齢者の健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向は、「参加したい」は49.8%となっている一方、「参加したくない」は38.7%となっている。

一方、企画・運営側としての参加意向は、「参加したい」は29.9%にとどまり、「参加したくない」は56.3%と、主体的に関わることにに対しては消極的な人が半数以上を占めている。

【在宅の要介護認定者に必要な支援について】

在宅の要介護認定者の主な介護者が行っている介護等は、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(79.4%)が最も多く、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備(調理等)」(ともに72.2%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(71.5%)、「服薬」(48.9%)などとなっている。

在宅の要介護認定者が「介護保険サービス以外」で利用している支援・サービスは、「外出同行(通院、買い物など)」(8.8%)が最も多く、「ゴミ出し」(7.9%)、「掃除・洗濯」(7.4%)、「買い物(宅配は含まない)」(6.6%)などとなっている一方、「利用していない」は60.7%となっている。

在宅の要介護認定者が在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービスは、「外出同行（通院、買い物など）」（29.4%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（28.3%）がともに多く、「見守り、声かけ」（22.9%）、「掃除・洗濯」（20.4%）、「買い物（宅配は含まない）」（19.2%）、「ゴミ出し」（18.4%）、「配食」（17.9%）、「サロンなどの定期的な通いの場」（14.5%）、「調理」（13.4%）となっており、現在利用しているサービスの上位1位である「外出同行（通院、買い物など）」の他、様々な支援にニーズがある。

【地域でできる支援について】

高齢者自身が地域でできると思う支援活動は、「見守り、声かけ」（32.5%）が最も多く、「話し相手」（27.4%）、「ゴミ出し」（25.0%）、「買い物代行」（15.2%）、「掃除・洗濯」（11.7%）、「外出時の送迎」（11.5%）などとなっている。男性が女性を大きく上回っている項目は「ゴミ出し」、「外出時の送迎」などであり、女性が男性を上回っている項目は「話し相手」、「掃除・洗濯」、「調理」、「食事の介助」などとなっている。

高齢者が将来からだの自由が利かなくなった際に、地域でもらいたい支えあいは、「買い物代行」（43.1%）が最も多く、「掃除・洗濯」（40.9%）、「外出時の送迎」（39.3%）、「ゴミ出し」（39.1%）、「見守り、声かけ」（36.8%）、「外出同行（通院、散歩など）」（34.0%）、「食事の介助」（30.5%）などとなっており、「見守り、声かけ」は自身ができる支援と近い回答割合となっている。

ケアマネジャーが地域にあったら良いと思う生活支援サービスは、「外出同行（通院、散歩など）」「ゴミ出し」（ともに71.4%）が最も多く、「外出時の送迎」（63.5%）、「見守り、声かけ」（58.7%）、「買い物代行」（50.8%）、「話し相手」（41.3%）などとなっており、いずれも高齢者本人に比べて多くなっている。

4. 地域包括ケアシステム（地域共生社会）の推進について

【家族や友人・知人以外で相談する相手について】

高齢者が家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」（23.9%）が最も多く、「地域包括支援センター・役所」（17.8%）、「社会福祉協議会・民生委員」（10.5%）、「自治会・町内会・老人クラブ」（8.0%）、「ケアマネジャー」（4.1%）となっている一方、「そのような人はいない」が44.5%となっている。

【ひとりである時間に助けを呼ぶ相手について】

高齢者が家にひとりである時間に助けを呼ぶ相手は、「子」（73.0%）が最も多く、「配偶者」（62.6%）、「兄弟姉妹」（22.3%）などとなっており、男性は「配偶者」が73.4%、女性は「子」が76.7%でそれぞれ最も多く、概ね年齢が上がるにしたがって「子」が増加している。

【地域包括支援センターの認知状況について】

高齢者の地域包括支援センターの認知状況は、「知らない」（37.5%）が「自分の地域の包括支

援センターを知っている」(33.4%)をわずかに上回り、「名前は知っている」は24.7%となっている。女性は「自分の地域の包括支援センターを知っている」(39.5%)が最も多く、男性を13.6ポイント上回っており、概ね年齢が上がるにしたがって認知度が上がっている。

【関係機関との連携状況について】

関係機関との連携状況について、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「連携はとれている」が『利用者・家族』(96.8%)、『他の介護保険サービス事業者』(95.2%)で90.0%以上となっている一方、「連携はとれていない」は『ボランティア・NPO』(77.8%)、『地域の住民や団体など』(61.9%)で多くなっている。

介護サービス事業所では、「連携はとれている」が『ボランティア・NPO』(14.9%)、『地域の住民や団体など』(25.5%)を除くその他の関係者・関係機関で60.0%以上となっており、『利用者・家族』(100.0%)、『地域包括支援センター』(80.9%)では80.0%以上となっている。

ケアマネジャー、介護サービス事業所ともに『ボランティア・NPO』、『地域の住民や団体など』との連携強化が課題となっている。

介護サービス事業所の他法人との連携内容は、「勉強会、ケース検討会の共同開催」(36.2%)が最も多く、「利用者の定員超過が見込まれる場合や空きがある場合の連携」(31.9%)、「困難事例等の相談」(27.7%)、「NPO・ボランティア等活動団体との連携」(12.8%)となっている。

【利用者にとっての望ましい人生の最期の場所について】

利用者にとっての望ましい人生の最期の場所について、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

「ご本人(要介護者)の自宅」(ケアマネジャー：44.4%、介護サービス事業所：46.8%)が最も多くなっている。

【自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うことについて】

自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うことについて、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「かかりつけ医等による訪問診療」(61.9%)が最も多く、「買い物や見守りなどの日常生活を支える生活支援サービス」(55.6%)、「低所得者の高齢者が暮らせる住宅」(49.2%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護や夜間対応型訪問介護」(38.1%)、「認知症高齢者に特化した在宅サービス」(36.5%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「買い物や見守りなどの日常生活を支える生活支援サービス」(66.0%)が最も多く、「かかりつけ医等による訪問診療」(55.3%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護や夜間対応型訪問介護」(53.2%)、「低所得者の高齢者が暮らせる住宅」(44.7%)、「ケアマネジャーなどの専門職によるマネジメント」(40.4%)、「地域の元気な高齢者による見守りや声かけなどを行うボランティア」(38.3%)、「救急医療体制」(36.2%)、「地域包括支援センターなどの介護について相談できる機関」(31.9%)などとなっており、順位は異なるが上位の4項目は共通となっている。

5. 認知症対策の推進について

【認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の有無について】

高齢者自身又は家族に認知症の症状がある人は、全体では9.3%となっており、65～69歳と80～89歳で10.0%以上となっている。在宅の要介護認定者全体では、34.5%となっている。

【認知症に関する相談窓口の認知度について】

高齢者の認知症に関する相談窓口の認知度は、全体では24.3%となっており、概ね年齢が上がるにしたがって減少している。

【在宅の要介護認定者の傷病について】

在宅の要介護認定者の傷病は、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（26.6%）、「認知症」（26.1%）、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（26.0%）がともに多く、「心疾患（心臓病）」（22.3%）、「糖尿病」（18.7%）、「変形性関節疾患」（14.2%）、「脳血管疾患（脳卒中）」（11.3%）などとなっており、「なし」は4.3%と少数となっている。

【認知症関連の取り組みの認知度について】

認知症関連の取り組みのうち、認知度が高い取り組みは、高齢者においては『認知症サポーター養成講座』（11.7%）、『多賀城市認知症ガイドブック（ケアパス）』（10.4%）であり、在宅の要介護認定者においては、『認知症サポーター養成講座』（16.2%）、『認知症カフェ』（15.1%）となっている。『認知症初期集中支援チーム』、『多賀城市認知症ガイドブック（ケアパス）』では高齢者が在宅の要介護認定者を上回っており、『認知症サポーター養成講座』、『認知症カフェ』では在宅の要介護認定者が高齢者を上回っている。

認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の『認知症カフェ』の認知度は21.4%と、Ⅱ以下に比べて高くなっている。いずれも認知度向上のために今後一層の広報や啓発が必要である。

【認知症になっても自宅で暮らし続けるために必要なものについて】

高齢者自身や家族や主な介護者が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なものについて、高齢者と在宅の要介護認定者にたずねた。

「通所介護（デイサービス）や短期入所（ショートステイ）などの介護サービスの充実」（高齢者：56.8%、在宅の要介護認定者：47.1%）が最も多く、「専門的な相談窓口の充実」（高齢者：45.1%、在宅の要介護認定者：28.1%）、「見守りや、入浴や排せつなどの介護サービスの充実」（高齢者：44.9%、在宅の要介護認定者：32.5%）、「認知症の専門医療機関の充実」（高齢者：38.7%、在宅の要介護認定者：29.2%）、「同居していない家族も含めた介護への協力」（高齢者：34.4%、在宅の要介護認定者：30.1%）など、一部順位は異なるが上位5項目は共通となっている。

【主な介護者が不安に感じる介護や困ることや不安に感じることについて】

在宅の要介護認定者の主な介護者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」（26.0%）、「外出の付き添い、送迎等」（25.2%）、「入浴・洗身」（25.0%）がともに多く、「夜間の排泄」（20.4%）、「日中の排泄」（14.8%）、「食事の準備（調理等）」（10.2%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買

い物等)」(10.0%)などとなっている。

さらに、困ることや不安に感じることは、「将来の介護に不安がある」(48.7%)が最も多く、「自分が病気等のとき、介護を替わってくれる人がいない」(42.2%)、「介護には休みがないのでストレスを解消できない」(24.3%)、「気軽に利用できる一時預かりサービスがあると助かる」(22.9%)、「心にゆとりがなく、要介護者に辛くあたることがある」(16.8%)、「介護の仕方に不安がある」(15.8%)など介護者の負担の重さがうかがえる項目が上位となっている。

【18歳未満で介護をしている方の有無について】

家族の中に18歳未満で介護をしている方をたずねたところ、「いる」は1.4%とヤングケアラーの存在をうかがわせる。

【認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対し悩んでいることについて】

認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対し、悩んでいることについて、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「家族が認知症の方への対応方法が分からない」(44.4%)が最も多く、「本人や家族からの要求に対し対応に困ることがある」(39.7%)、「本人とコミュニケーションがとりにくいことがある」(33.3%)、「介護保険サービス以外に身近に通える場所が分からない」(31.7%)、「家族がなかなか認知症と認めない」(30.2%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「本人や家族からの要求に対し対応に困ることがある」(44.7%)が最も多く、「家族が認知症の方への対応方法が分からない」(38.3%)、「家族がなかなか認知症と認めない」(31.9%)、「本人とコミュニケーションがとりにくいことがある」(29.8%)、「専門医まで結びつけられない」(25.5%)、「自分自身の知識不足を感じ自信がないときがある」(21.3%)、「知識や技術習得のための時間が確保できない」(14.9%)などとなっている。

「介護保険サービス以外に身近に通える場所が分からない」(ケアマネジャー：31.7%、介護サービス事業所：8.5%)では23.2ポイントの差が生じており、介護保険サービス以外に身近に通える場所の充実、ケアマネジャーを含む広い対象への周知が求められる。

6. 介護保険サービスの適切な利用について

【介護保険サービスの利用状況について】

在宅の要介護認定者の介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況は、「利用している」が48.4%、「利用していない」が45.0%となっている。要介護度が重くなるにしたがって「利用している」が増加している。

在宅の要介護認定者が介護保険サービスを利用していない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(51.5%)が最も多く、「本人（要介護者）にサービス利用の希望がない」(20.6%)、「家族が介護をするため必要ない」(13.4%)、「利用料を支払うのが難しい」(9.6%)などとなっている。概ね要介護度が軽くなるにしたがって「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が増加し、「家族が介護をするため必要ない」は要介護1以上で約2割となっている。

在宅の要介護認定者の認定データと突合した主要介護保険サービスの利用状況は、「通所介護（デイサービス）」（要介護1～5：37.7%、要支援1・2：18.2%）が最も多くなっている。

要介護1～5では「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（14.0%）、「訪問看護」（10.1%）、「通所リハビリテーション」（9.9%）、「短期入所生活介護（ショートステイ）」（4.9%）、要支援1・2では「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（8.5%）、「介護予防通所リハビリテーション」（6.2%）などとなっている。

【施設等への入所・入居の検討状況について】

在宅の要介護認定者の施設等への入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」（64.6%）が最も多く、「入所・入居を検討している」（16.5%）、「すでに入所・入居の申し込みをしている」（8.2%）となっている。

【介護保険サービスの需給見込みについて】

ケアマネジャーが現在供給が不足していると感じるサービスは、「訪問介護」（39.7%）、「短期入所生活介護」（38.1%）がともに多く、「介護老人福祉施設」（33.3%）、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）」（ともに27.0%）、「短期入所療養介護」（23.8%）などとなっている。

さらに、今後需要が増加すると考えられるサービスは、「訪問介護」（44.4%）が最も多く、「訪問看護」「居宅療養管理指導」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（ともに38.1%）、「介護老人福祉施設」（30.2%）、「訪問リハビリテーション」「夜間対応型訪問介護」「複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）」（ともに27.0%）、「短期入所生活介護」「介護老人保健施設」（ともに23.8%）などとなっている。

介護サービス事業所が新規に参入したいサービスは、「訪問看護」「小規模多機能型居宅介護」「指定介護予防支援（地域包括支援センター）」がともに4.3%で最も多くなっている。

【経営上の課題と人材の定着・育成（離職の防止）について】

介護サービス事業所の経営上の問題は、「従事者の確保が難しい」（76.6%）が最も多く、「事務作業量が多い」（63.8%）、「利用者の確保が難しい」（38.3%）、「採算がとれない」（29.8%）、「施設・設備の改善が難しい」（21.3%）などとなっている。

人材の定着・育成（離職の防止）についての取り組みは、「労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」（78.7%）が最も多く、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくらせている」（66.0%）、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」（46.8%）、「能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている」「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」（ともに34.0%）、「上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている」（31.9%）などとなっており、柔軟な働き方を可能にする取り組みを行っている介護サービス事業所が多くなっている。

【人材不足を補う取り組みについて】

介護サービス事業所が人材不足により新規利用者の受け入れを断ったことの有無については、「ある」が46.9%、「ない」が51.0%となっている。

外国人人材の活用状況は、「活用の予定はない」(27.7%)が最も多く、「関心はあるが、具体的な検討はしていない」(23.4%)、「既に活用している」(12.8%)、「受け入れ対象のサービス(施設)ではない」(10.6%)などとなっている。

ICT機器の導入状況は、「既に導入済みである(記録作成・情報共有・介護報酬請求業務など)」(44.7%)が最も多く、「関心はあるが、具体的な検討はしていない」(19.1%)、「導入の予定はない」(10.6%)、「今後、導入予定である」(6.4%)、「導入に向けて検討中である」(4.3%)となっている。

【サービスの質の向上のために今後必要な取り組み・行っていることについて】

ケアマネジャーがサービスの質の向上のために今後必要と考える取り組みは、「サービスや地域資源の把握」(68.3%)が最も多く、「処遇困難者への対処能力の向上」(58.7%)、「アセスメントなどのケアマネジメント技術の向上」「制度に関する最新情報の入手」(ともに55.6%)、「関係機関との連携体制構築」(50.8%)などとなっている。

介護サービス事業所がサービスの質の向上のために行っていることは、「相談窓口の設置」(63.8%)が最も多く、「事業者間の情報交換・交流への参加」(51.1%)、「従事者(サービス提供者)の継続的な研修・OJTの実施」(48.9%)、「ケアカンファレンスの定期的な開催」(44.7%)、「情報開示、第三者評価の実施」(34.0%)などとなっている。

ケアマネジャーは個人の能力向上を今後必要な取り組みとして考えており、介護サービス事業所は組織の体制や連携強化を行っている。

【行政の支援等が必要だと思われることについて】

行政の支援等が必要だと思われることについて、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「処遇困難者への対応支援」(68.3%)が最も多く、「市の高齢者保健福祉事業に関する最新情報の提供」(47.6%)、「介護保険制度に関する最新情報の提供」(46.0%)、「関係者間の連携強化のための支援」(39.7%)、「人材確保の支援」(36.5%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「人材確保の支援」(53.2%)が最も多く、「介護保険制度に関する最新情報の提供」「処遇困難者への対応支援」(ともに48.9%)、「関係者間の連携強化のための支援」(38.3%)、「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)の技術向上の支援(研修や講習等の実施)」(34.0%)、「介護サービス提供事業者に関する最新情報の提供」(31.9%)、「市の高齢者保健福祉事業に関する最新情報の提供」(29.8%)などとなっている。

【地域包括支援センターの支援等が必要だと思われることについて】

地域包括支援センターの支援等が必要だと思われることについて、ケアマネジャーと介護サービス事業所にたずねた。

ケアマネジャーは、「地域資源の情報提供」(74.6%)、「処遇困難者への対応支援」(71.4%)がともに多く、「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)のための相談支援」(49.2%)、「関係者間の連携強化のための支援」(41.3%)などとなっている。

介護サービス事業所は、「処遇困難者への対応支援」(53.2%)、「地域資源の情報提供」(51.1%)、「関係者間の連携強化のための支援」(48.9%)がともに多く、「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)の技術向上の支援(研修や講習等の実施)」「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)のための相談支援」(ともに25.5%)、「ケアプラン作成に対する助言、情報提供」(19.1%)となっており、順位は異なるが上位2項目は共通となっている。

【充実してほしい高齢者施策について】

今後、より充実してほしい高齢者施策について、高齢者と在宅の要介護認定者にたずねた。

「在宅医療や介護サービスの充実」(高齢者：48.8%、在宅の要介護認定者：43.0%)が最も多く、2位は「家族介護者への支援」(高齢者：43.7%、在宅の要介護認定者：38.2%)、3位は「低所得者への経済的支援」(高齢者：37.2%、在宅の要介護認定者：31.5%)となっている。

4位以下は立場により異なり、高齢者は、「一人暮らし高齢者への安否確認」「身近に相談できる窓口の充実」(ともに36.6%)、「配食や家事支援など生活支援」(31.1%)、「健康づくりや介護予防の支援」(30.6%)、「災害時に備えた支援の充実」(30.2%)などとなっている。

在宅の要介護認定者は、「認知症施策(予防、家族への支援)の充実」(30.3%)、「災害時に備えた支援の充実」(29.7%)などとなっている。

【今後の介護意向について】

今後の介護意向について、高齢者と在宅の要介護認定者にたずねた。

「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい(させたい)」(高齢者：47.4%、在宅の要介護認定者：40.5%)が最も多く、「介護が受けられる施設やサービス付きの住宅で生活したい(させたい)」(高齢者：22.5%、在宅の要介護認定者：20.7%)、「主に家族だけの介護を受けながら、自宅で生活したい(させたい)」(高齢者：14.8%、在宅の要介護認定者：7.6%)となっており、在宅でのサービス利用は高齢者が要介護認定者を上回っている。

【サービスと負担について】

必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担について、高齢者と在宅の要介護認定者の主な介護者にたずねた。

「必要な介護保険サービスが維持できるよう、保険料などの負担が増えてもやむを得ない」(高齢者：47.3%、在宅の要介護認定者：43.3%)が最も多く、「保険料などの負担が増えるなら、介護保険サービスを充実しなくてもよい」(高齢者：12.2%、在宅の要介護認定者：10.2%)、「保険料などの負担を増やして、介護保険サービスをもっと充実してほしい」(高齢者：5.2%、在宅の要介護認定者：3.6%)となっており、介護保険サービスの維持のための負担増についての賛意は高齢者が要介護認定者を上回っている。

【介護者の勤務形態と辞職・転職経験について】

在宅の要介護認定者の主な介護者の現在の勤務形態は、「働いていない」が47.6%を占めており、「フルタイムで働いている」(17.3%)、「パートタイムで働いている」(12.7%)を合わせた「働いている」(30.0%)を上回っている。

在宅の要介護認定者の介護のために、仕事を辞めた・転職した家族や親族については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(62.0%)が最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(7.9%)、「主な介護者が転職した」(2.2%)、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)」(1.5%)、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」(0.2%)となっている。

【介護者が行っている働き方についての調整等について】

在宅の要介護認定者の介護者が行っている働き方についての調整等は、「介護のために「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(26.3%)が最も多く、「介護のために「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(18.6%)、「介護のために「労働時間を調整」、「休暇の取得」、「在宅勤務」以外の調整をしながら、働いている」(14.9%)、「介護のために「在宅勤務」を利用しながら、働いている」(1.5%)となっている。一方、「特に調整していない」が43.8%となっている。

【介護者が今後も働きながら介護を継続できる可能性について】

在宅の要介護認定者の主な介護者が今後も働きながら介護を継続できる可能性は、「問題はあがるが、何とか続けていける」(44.3%)が最も多く、「問題なく、続けていける」(23.2%)を合わせた「続けていける」が67.5%となっている一方、「続けていくのは難しい」は18.0%となっている。

7. 新型コロナウイルス感染症の影響について

【新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化について】

新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化について、高齢者と在宅の要介護認定者とケアマネジャーにたずねた。

何らかの変化が「あった」(高齢者：71.2%、在宅の要介護認定者：56.5%、ケアマネジャー：99.9%)場合が多く、ケアマネジャーの大半が変化を認めている。

具体的な変化については、「外出する回数そのものが減った」(高齢者：75.8%、在宅の要介護認定者：79.2%、ケアマネジャー：82.5%)が最も多く、2位は「友人や知人に会う回数減った」(高齢者：71.0%、在宅の要介護認定者：63.9%、ケアマネジャー：66.7%)となっている。

3位以下は立場により異なり、高齢者は、「他の人と会話する機会が減った」(48.5%)、「足腰などの筋力が低下した」(34.7%)、「明らかに体力が低下した」(27.6%)などとなっている。

在宅の要介護認定者は、「足腰などの筋力が低下した」(60.1%)、「他人と会話する機会が減った」(54.9%)、「明らかに体力が低下した」(45.6%)などとなっている。

ケアマネジャーは、「地域活動や社会活動に参加する機会が減った」(54.0%)、「他の人と会話する機会が減った」(52.4%)、「足腰などの筋力が低下した」(44.4%) などとなっている。

在宅の要介護認定者とケアマネジャーでは「足腰などの筋力が低下した」、「明らかに体力が低下した」など体力低下に関する項目が多くなっている他、ケアマネジャーの観点では「地域活動や社会活動に参加する機会が減った」ことも見過ごせない点であることがうかがえる。

【新型コロナウイルスの影響による介護保険（介護予防）サービスの利用控えについて】

新型コロナウイルスの影響により、介護保険（介護予防）サービスの利用を控えることがあったかについて、在宅の要介護認定者とケアマネジャーにたずねた。

利用を控えることが「あった」（在宅の要介護認定者：30.9%、ケアマネジャー：85.7%）とケアマネジャーの多くが実感していることがうかがえる。

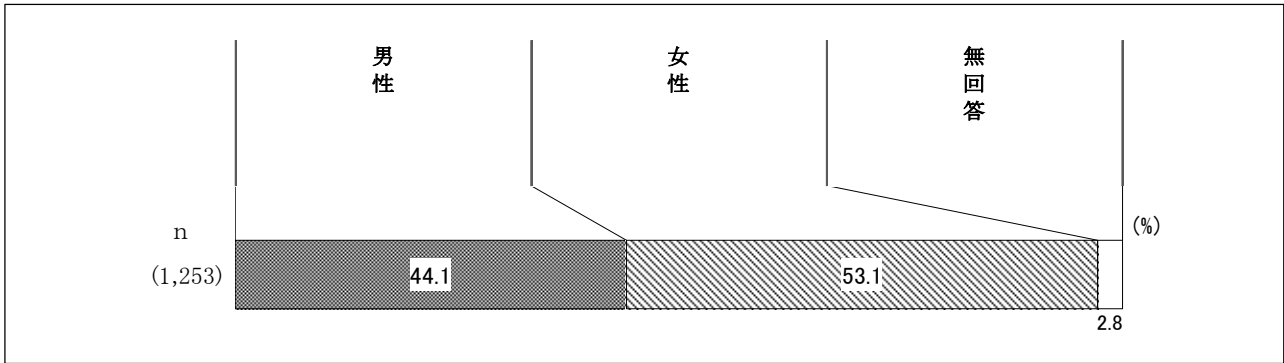
第2部 調査結果の分析

第1章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第1章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

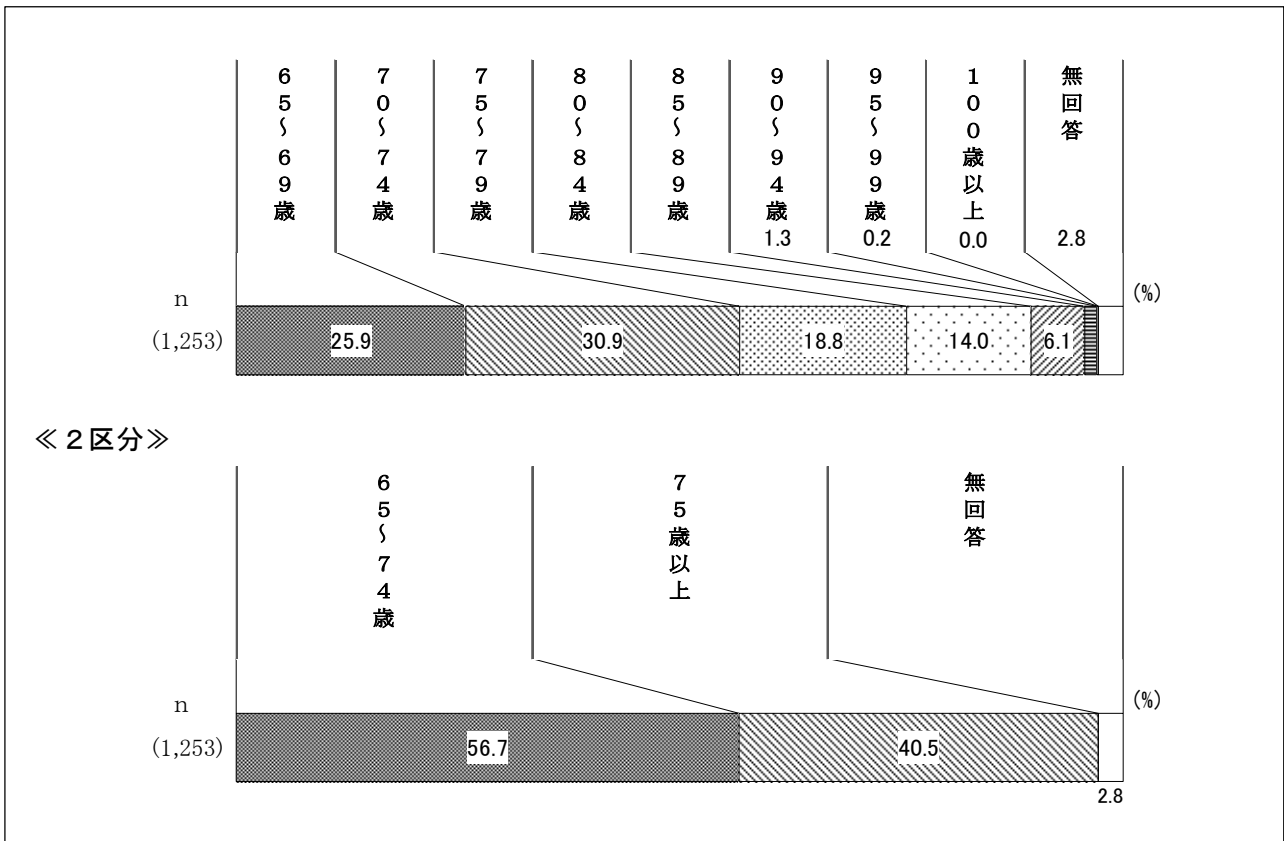
1. 回答者の属性について

(1) 回答者の性別



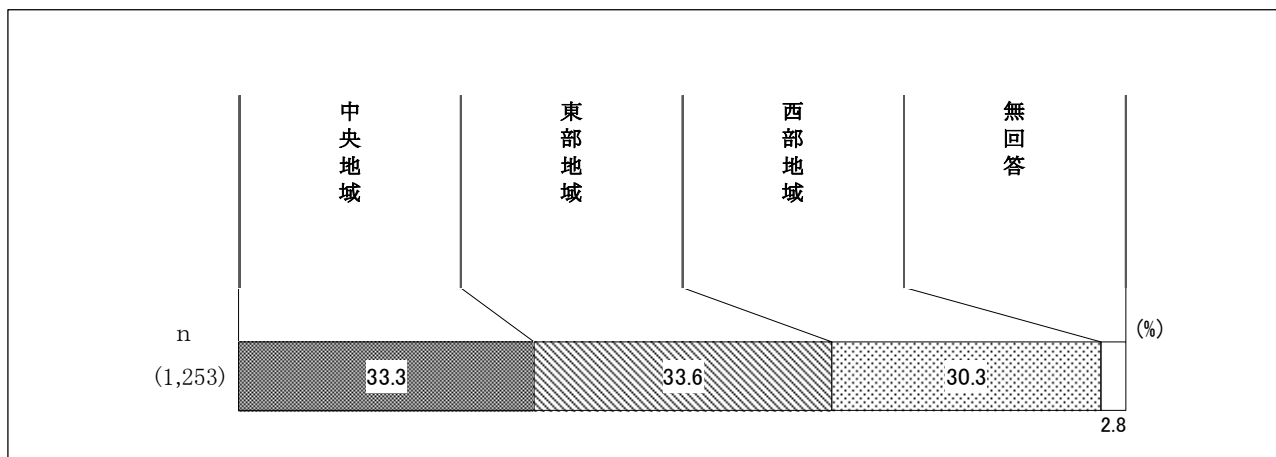
性別は、「女性」が53.1%となっており、「男性」(44.1%)を上回っている。

(2) 回答者の年齢



年齢は、「70～74歳」が30.9%と最も多く、以下「65～69歳」(25.9%)、「75～79歳」(18.8%)、「80～84歳」(14.0%)、「85～89歳」(6.1%) などとなっている。
 年齢<<2区分>>は、「65～74歳」(56.7%)が「75歳以上」(40.5%)を上回っている。

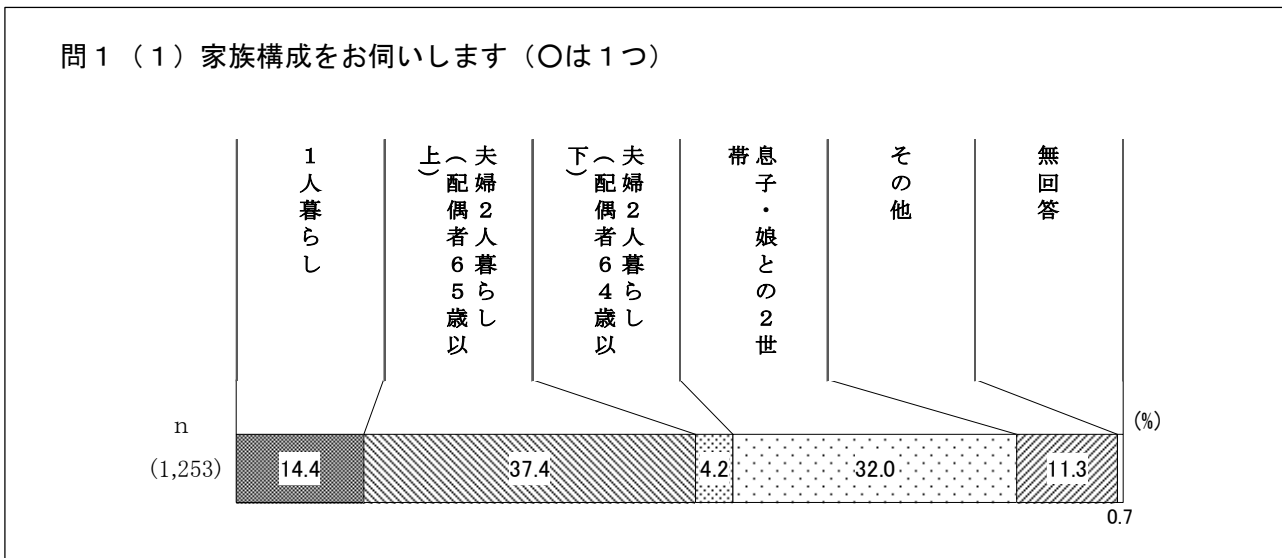
(3) 回答者の居住地域



居住地域は、「中央地域」が 33.3%、「東部地域」が 33.6%、「西部地域」が 30.3%となっている。

2. 家族や生活状況について

(1) 家族構成



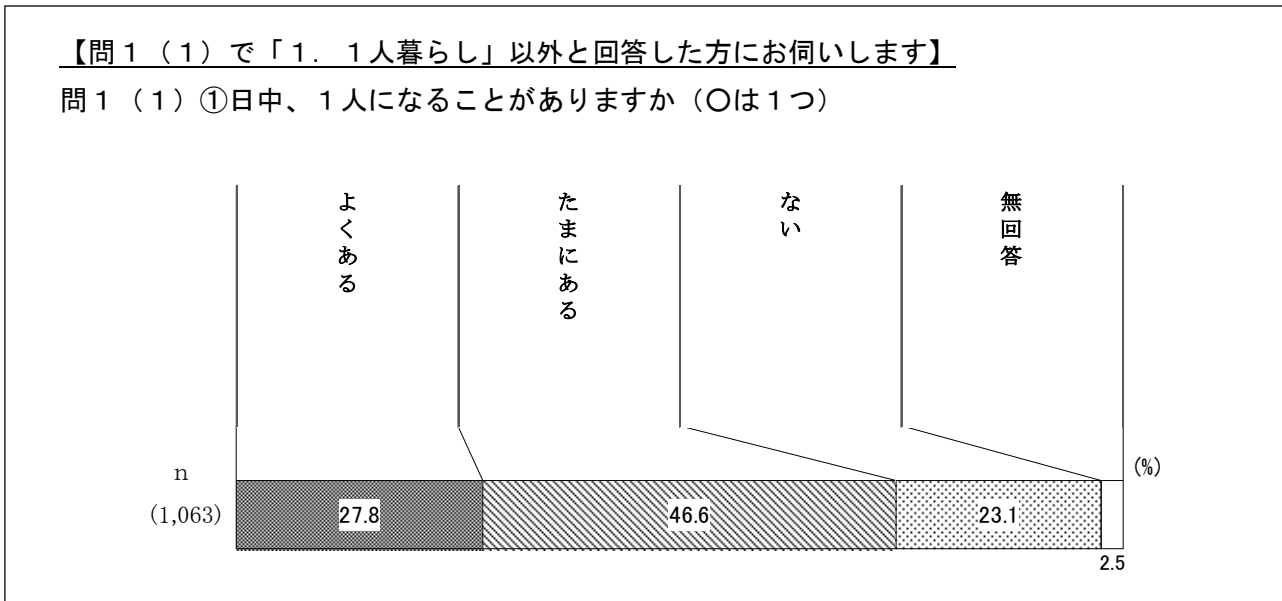
家族構成をたずねたところ、「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」が37.4%と最も多く、以下「息子・娘との2世帯」(32.0%)、「1人暮らし」(14.4%)、「夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)」(4.2%)、多世代世帯を内包する「その他」は11.3%となっている。

性別にみると、「1人暮らし」は女性が17.3%と男性を上回り、年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
	上段: 件数 下段: %						
全体	1,253 100.0	181 14.4	468 37.4	52 4.2	401 32.0	142 11.3	9 0.7
性別							
男性	553 100.0	63 11.4	240 43.4	40 7.2	152 27.5	54 9.8	4 0.7
女性	665 100.0	115 17.3	215 32.3	10 1.5	237 35.6	83 12.5	5 0.8
年齢							
65～69歳	324 100.0	40 12.3	118 36.4	35 10.8	84 25.9	46 14.2	1 0.3
70～74歳	387 100.0	50 12.9	165 42.6	6 1.6	127 32.8	36 9.3	3 0.8
75～79歳	235 100.0	31 13.2	92 39.1	7 3.0	74 31.5	30 12.8	1 0.4
80～84歳	176 100.0	41 23.3	57 32.4	-	59 33.5	19 10.8	-
85～89歳	77 100.0	12 15.6	20 26.0	2 2.6	34 44.2	6 7.8	3 3.9
90～94歳	16 100.0	3 18.8	2 12.5	-	10 62.5	-	1 6.3
95～99歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-
年齢							
65～74歳	711 100.0	90 12.7	283 39.8	41 5.8	211 29.7	82 11.5	4 0.6
75歳以上	507 100.0	88 17.4	172 33.9	9 1.8	178 35.1	55 10.8	5 1.0

(2) 日中、一人になる頻度



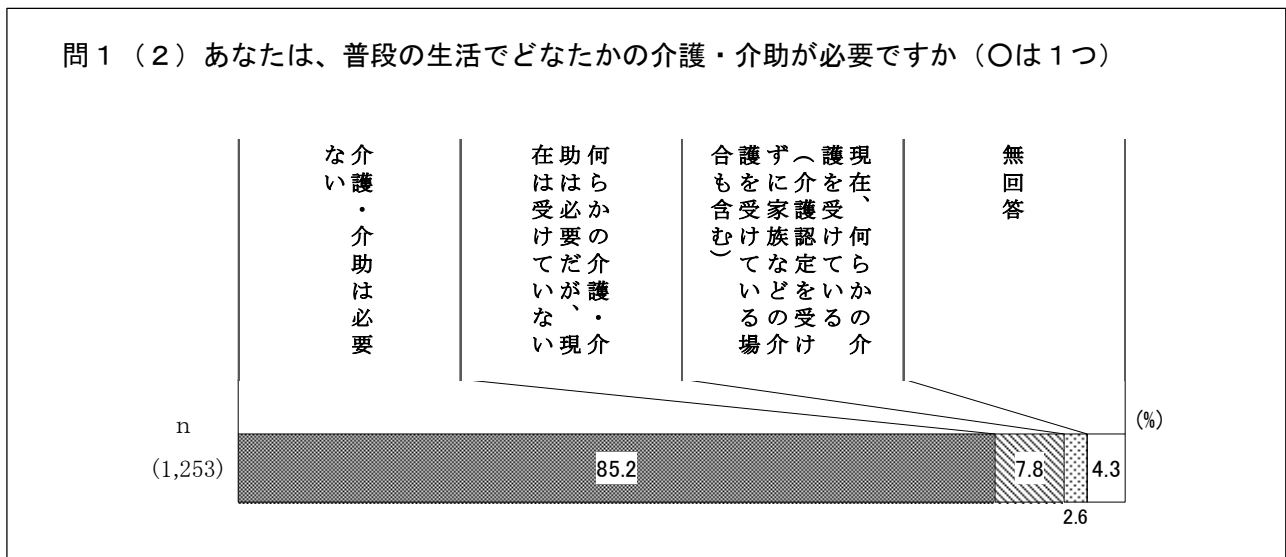
日中、一人になる頻度をたずねたところ、「たまにある」が46.6%と最も多く、以下「よくある」(27.8%)、「ない」(23.1%)となっている。

性別にみると、女性は「よくある」が33.0%と男性を10.6ポイント上回り、年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	よくある	たまにある	ない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	1,063 100.0	295 27.8	495 46.6	246 23.1	27 2.5
性別					
男性	486 100.0	109 22.4	257 52.9	108 22.2	12 2.5
女性	545 100.0	180 33.0	221 40.6	129 23.7	15 2.8
年齢					
65～69歳	283 100.0	72 25.4	134 47.3	72 25.4	5 1.8
70～74歳	334 100.0	89 26.6	150 44.9	82 24.6	13 3.9
75～79歳	203 100.0	60 29.6	91 44.8	47 23.2	5 2.5
80～84歳	135 100.0	42 31.1	65 48.1	26 19.3	2 1.5
85～89歳	62 100.0	22 35.5	29 46.8	9 14.5	2 3.2
90～94歳	12 100.0	3 25.0	8 66.7	1 8.3	-
95～99歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-
年齢					
65～74歳	617 100.0	161 26.1	284 46.0	154 25.0	18 2.9
75歳以上	414 100.0	128 30.9	194 46.9	83 20.0	9 2.2

(3) 普段の生活における介護・介助の必要性



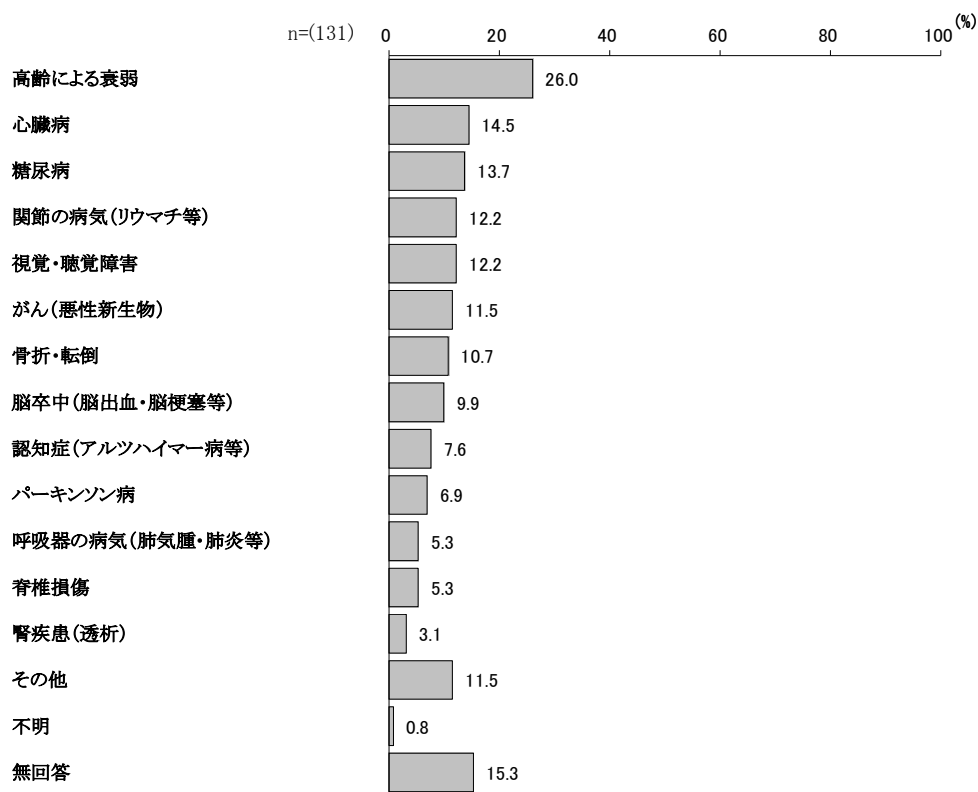
普段の生活における介護・介助の必要性をたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が85.2%を占めている。

一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(7.8%)、「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(2.6%)を合わせた“介護が必要”は10.4%となっている。

(4) 介護・介助が必要になった主な原因

【問1(2)で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします】

問1(2)①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(○はいくつでも)

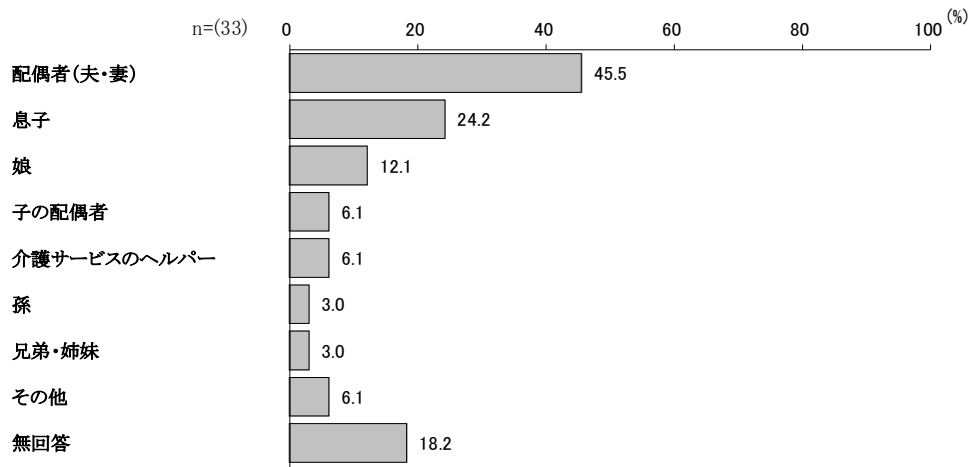


介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が26.0%と最も多く、以下「心臓病」(14.5%)、「糖尿病」(13.7%)、「関節の病気(リウマチ等)」「視覚・聴覚障害」(ともに12.2%)、「がん(悪性新生物)」(11.5%)、などとなっている。

(5) 主な介護・介助者

【問1(2)で「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします】

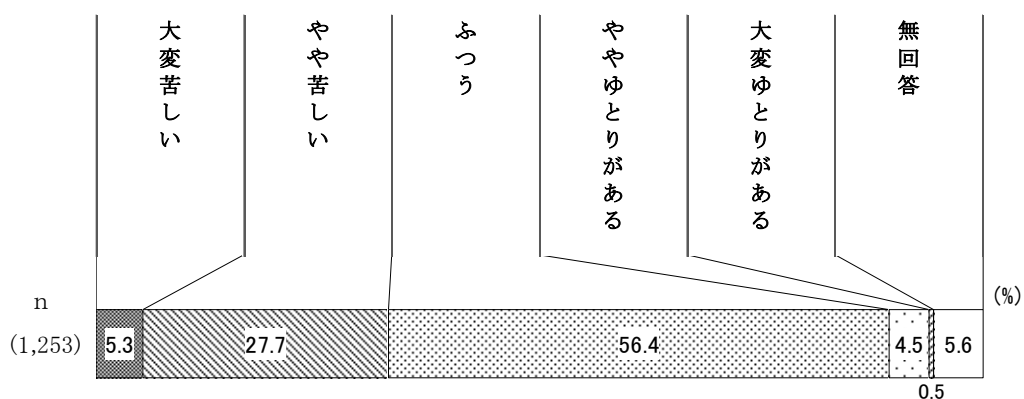
問1(2)②主にどなたの介護、介助を受けていますか(〇はいくつでも)



主な介護・介助者をたずねたところ、「配偶者(夫・妻)」が45.5%と最も多く、以下「息子」(24.2%)、「娘」(12.1%)、「子の配偶者」「介護サービスのヘルパー」(ともに6.1%)、「孫」「兄弟・姉妹」(ともに3.0%)となっている。

(6) 経済的にみた現在の暮らしの状況

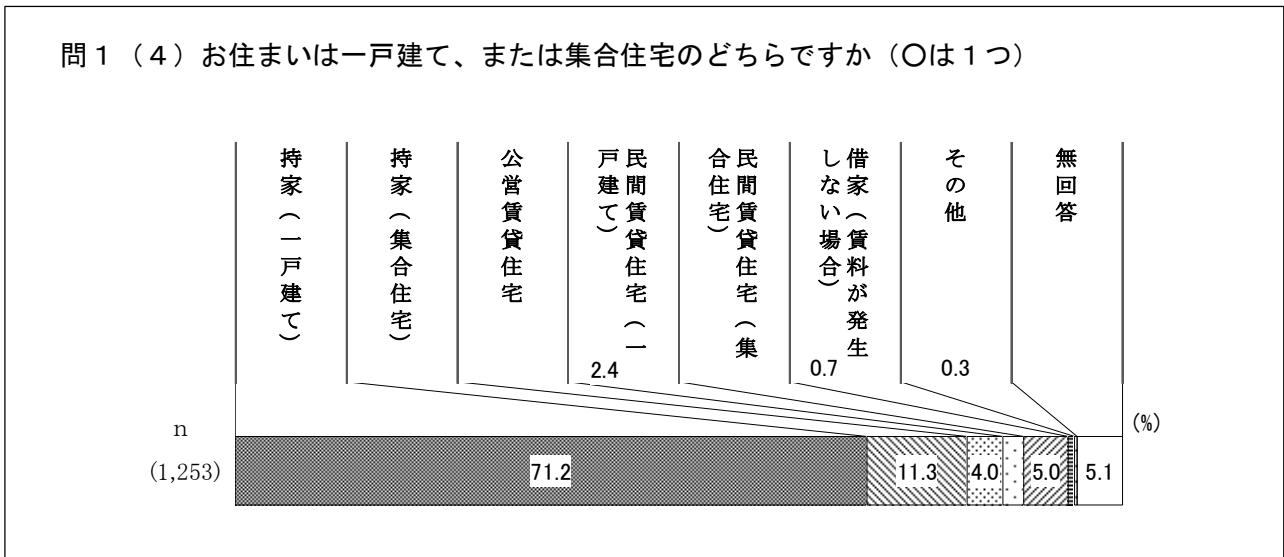
問1(3)現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(〇は1つ)



経済的にみた現在の暮らしの状況をたずねたところ、「ふつう」が56.4%と最も多く、以下「やや苦しい」(27.7%)となっており、「大変苦しい」(5.3%)を合わせた“苦しい”は33.0%となっている。

一方、「ややゆとりがある」(4.5%)、「大変ゆとりがある」(0.5%)を合わせた“ゆとりがある”は5.0%となっている。

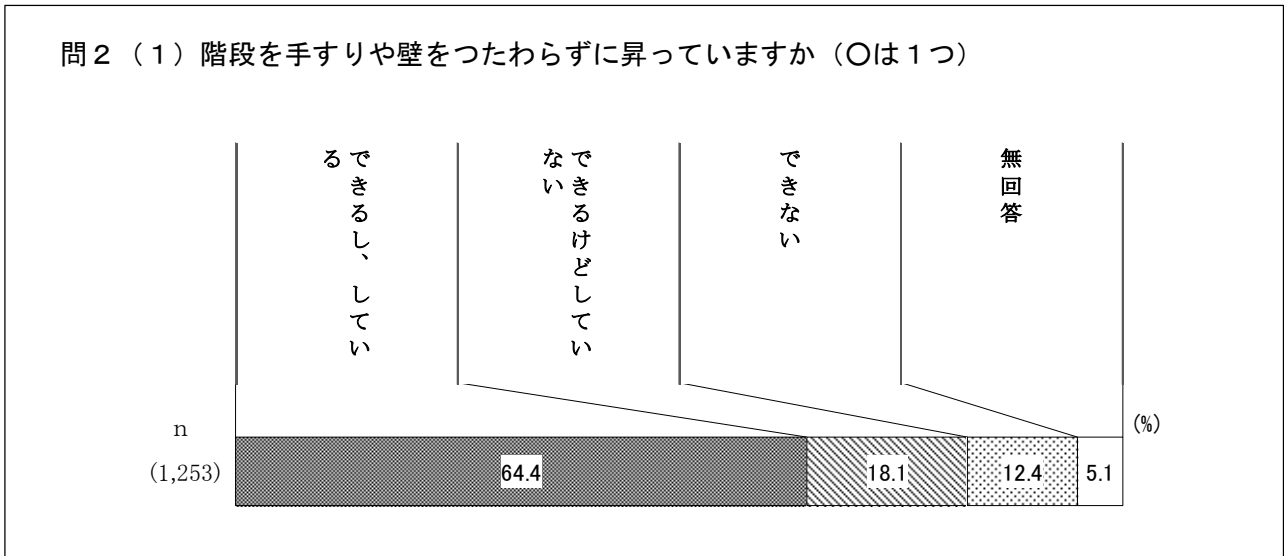
(7) 居住形態



居住形態をたずねたところ、「持家（一戸建て）」が71.2%と最も多く、以下「持家（集合住宅）」（11.3%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（5.0%）、「公営賃貸住宅」（4.0%）、「民間賃貸住宅（一戸建て）」（2.4%）などとなっている。

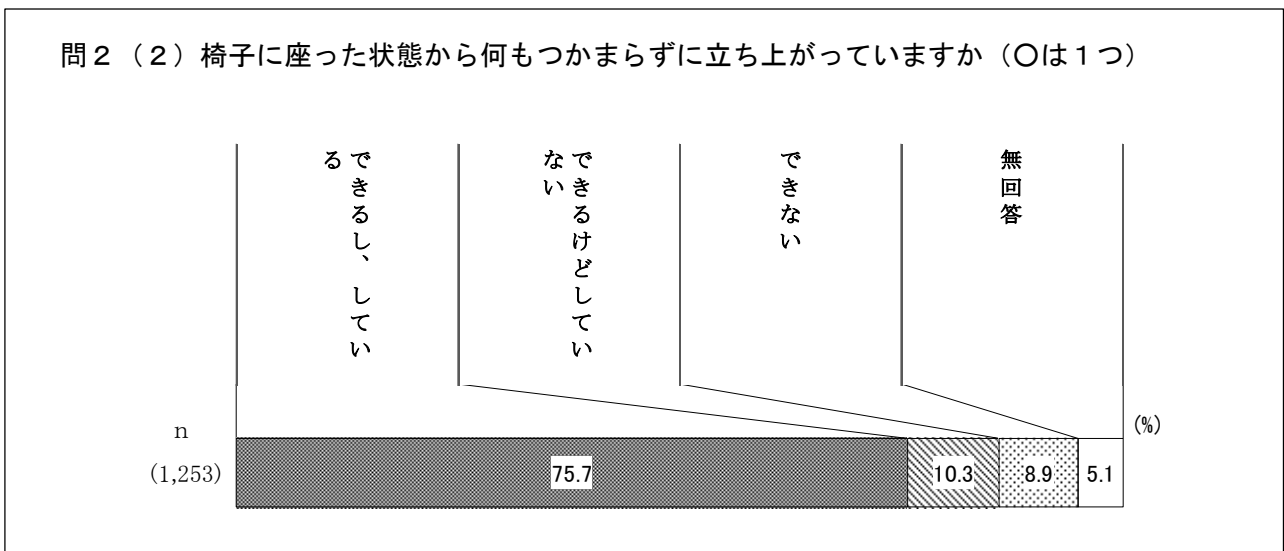
3. からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁を使わずに昇ることの可否



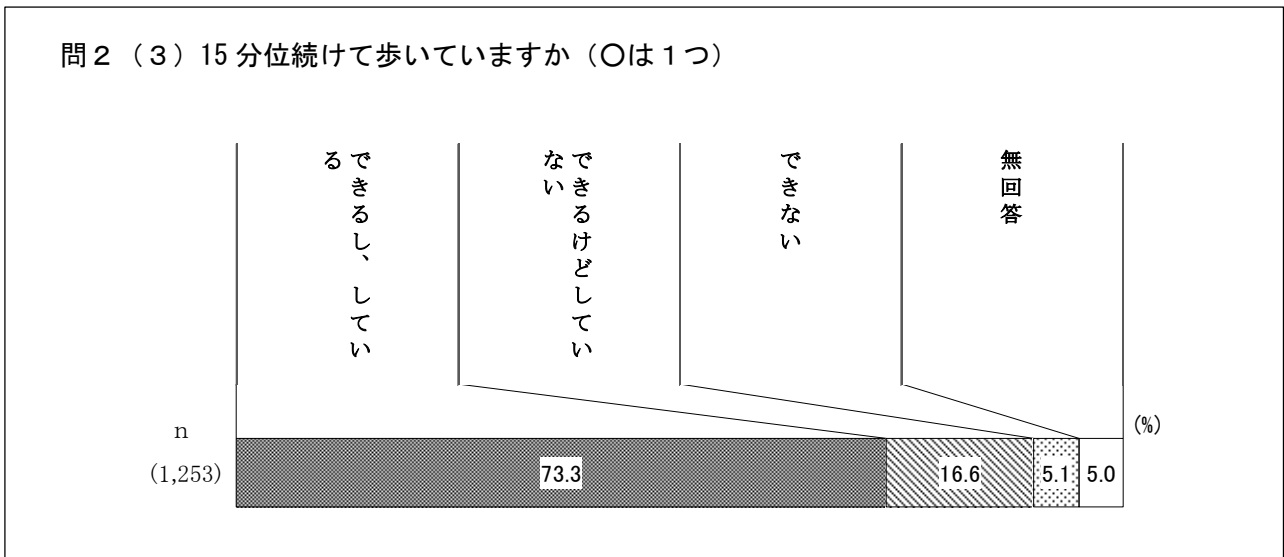
階段を手すりや壁を使わずに昇ることの可否をたずねたところ、「できるし、している」が64.4%を占めており、「できない」は12.4%となっている。

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることの可否



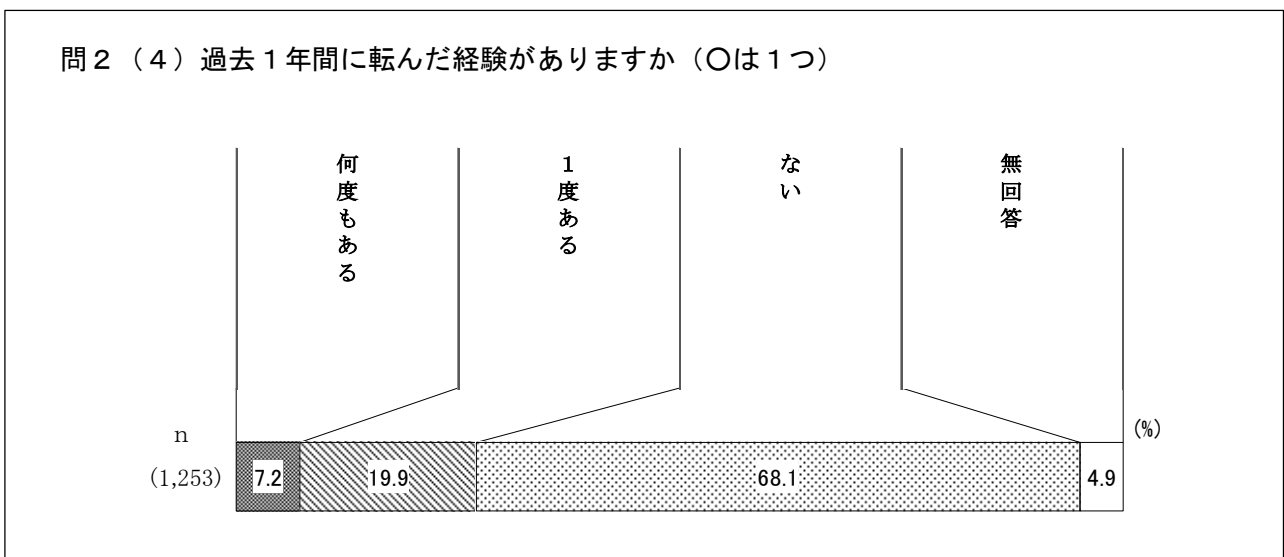
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることの可否をたずねたところ、「できるし、している」が75.7%を占めており、「できない」は8.9%となっている。

(3) 15分位続けて歩くことの可否



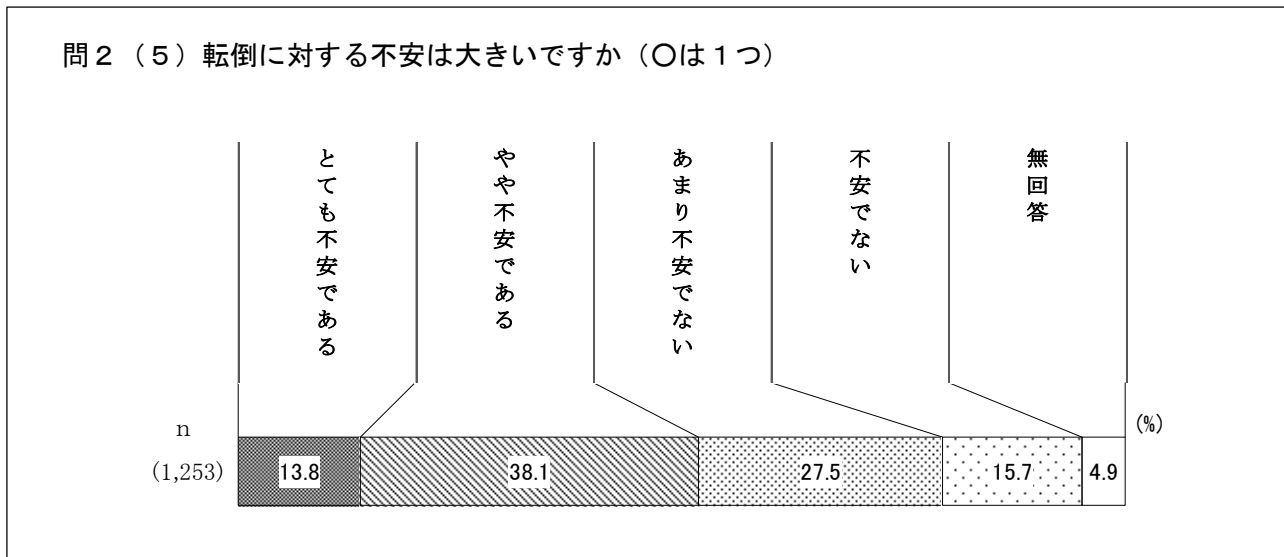
15分位続けて歩くことの可否をたずねたところ、「できるし、している」が73.3%を占めており、「できない」は5.1%となっている。

(4) 過去1年間に転んだ経験



過去1年間に転んだ経験をたずねたところ、「ない」が68.1%を占めており、「何度もある」(7.2%)、「1度ある」(19.9%)を合わせた“ある”は27.1%となっている。

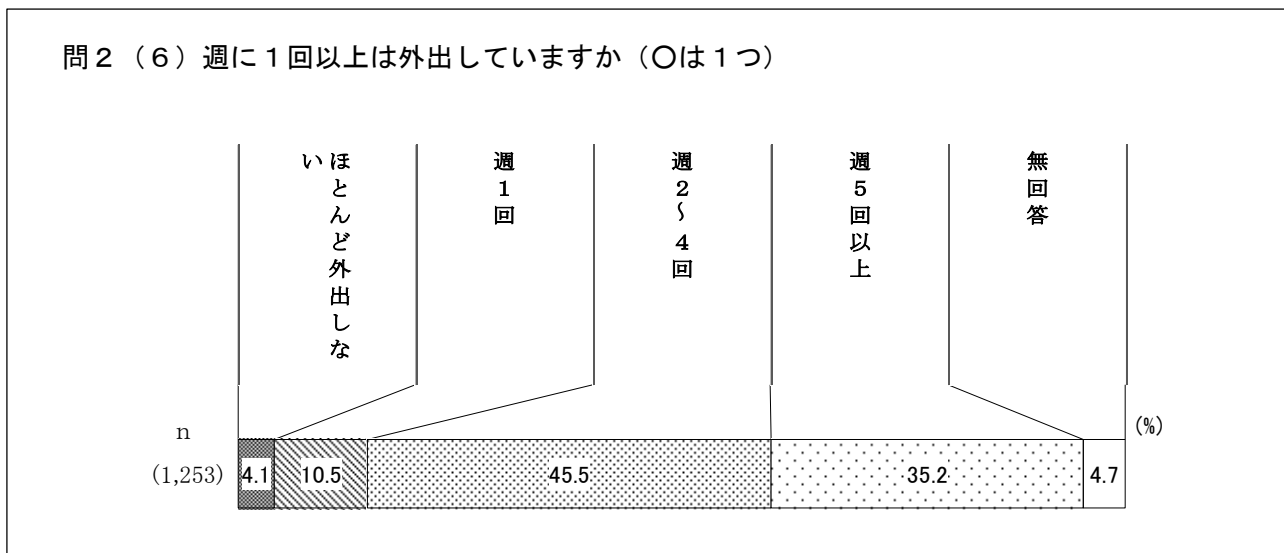
(5) 転倒に対する不安



転倒に対する不安をたずねたところ、「やや不安である」が38.1%と最も多く、「とても不安である」(13.8%)を合わせた“不安である”は51.9%となっている。

一方、「あまり不安でない」(27.5%)、「不安でない」(15.7%)を合わせた“不安でない”は43.2%となっており、“不安である”が多い。

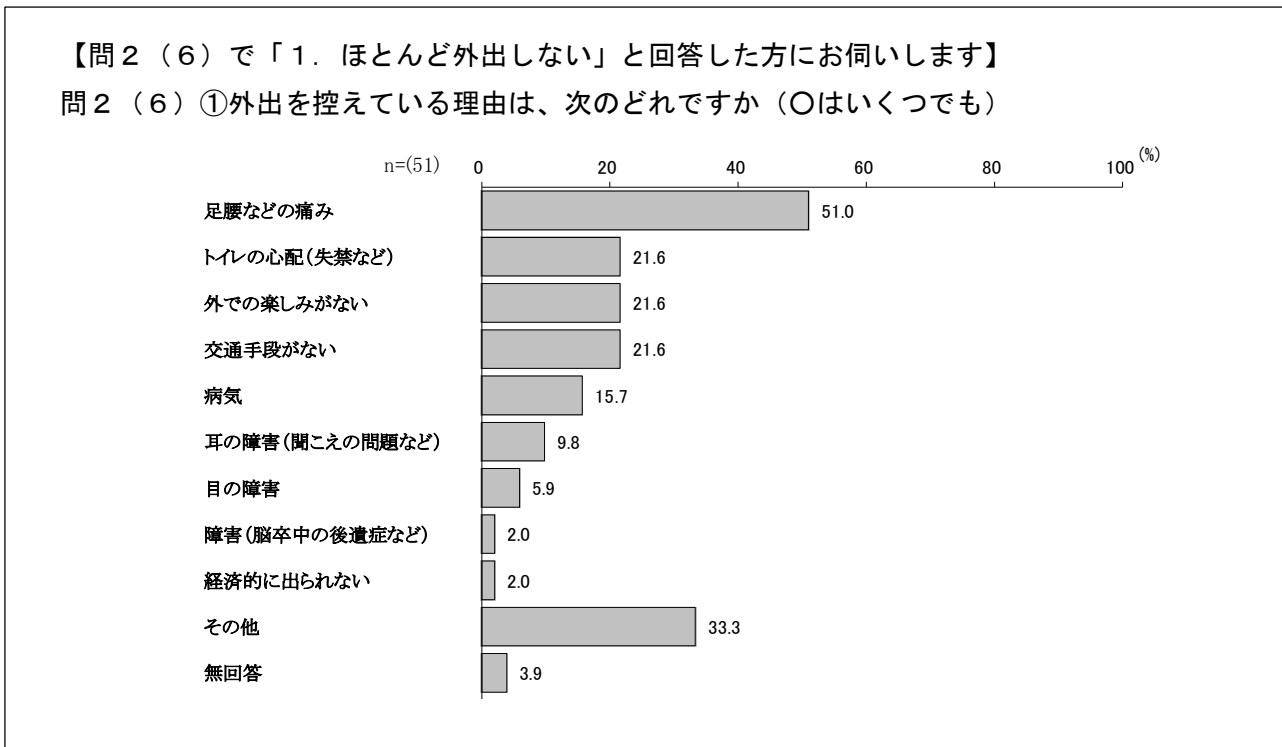
(6) 週の外出頻度



週の外出頻度をたずねたところ、「週2〜4回」が45.5%と最も多く、以下「週5回以上」(35.2%)、「週1回」(10.5%)となっており、“週1回以上”は91.2%となっている。

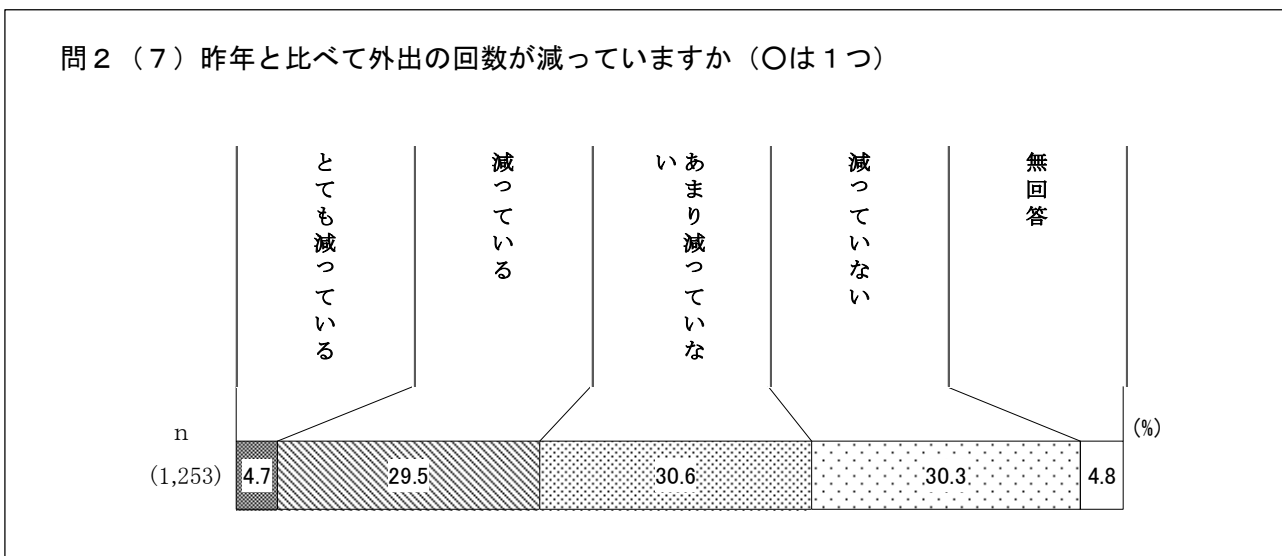
一方、「ほとんど外出しない」は4.1%となっている。

(7) 外出を控えている理由



外出を控えている理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が51.0%と最も多く、以下「トイレの心配(失禁など)」「外での楽しみがない」「交通手段がない」(ともに21.6%)、「病気」(15.7%) などとなっている。

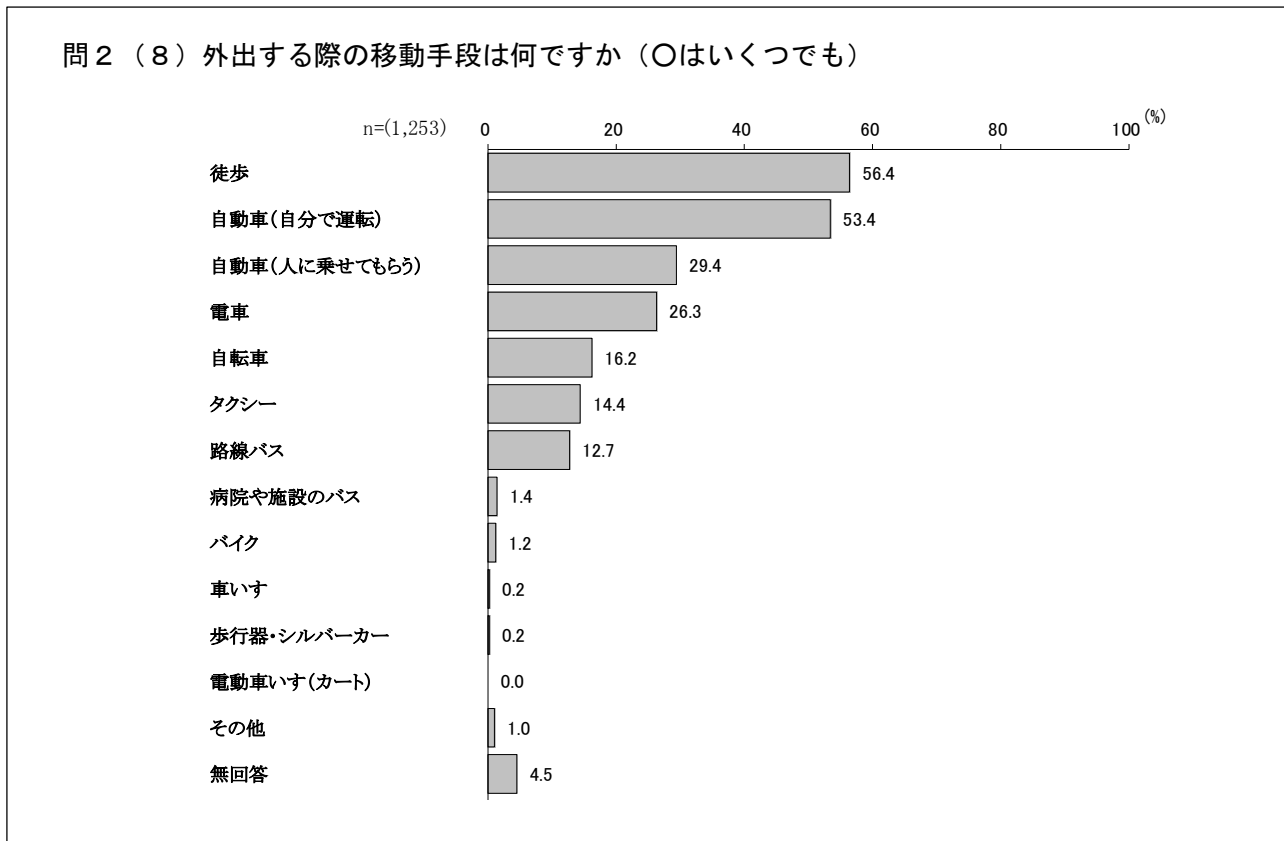
(8) 昨年と比べての外出回数の減少状況



昨年と比べての外出回数の減少状況をたずねたところ、「あまり減っていない」が30.6%と最も多く、「減っていない」(30.3%)を合わせた「減っていない」は60.9%となっている。

一方、「とても減っている」(4.7%)、「減っている」(29.5%)を合わせた「減っている」は34.2%となっている。

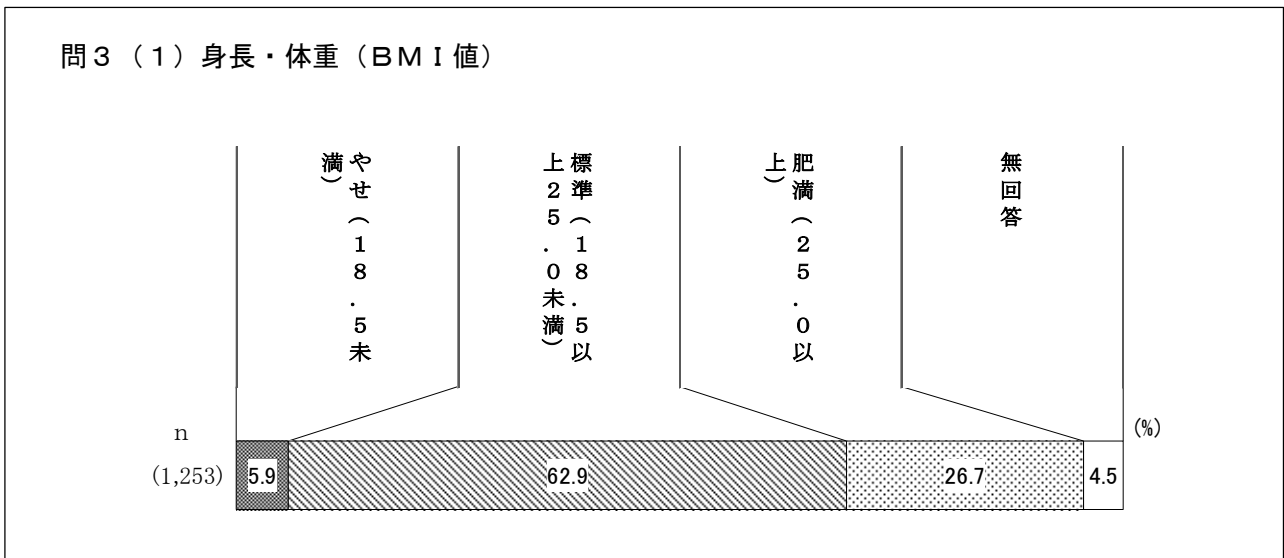
(9) 外出する際の移動手段



外出する際の移動手段をたずねたところ、「徒歩」が 56.4%と最も多く、以下「自動車（自分で運転）」(53.4%)、「自動車（人に乗せてもらう）」(29.4%)、「電車」(26.3%)、「自転車」(16.2%) などとなっている。

4. 食べることについて

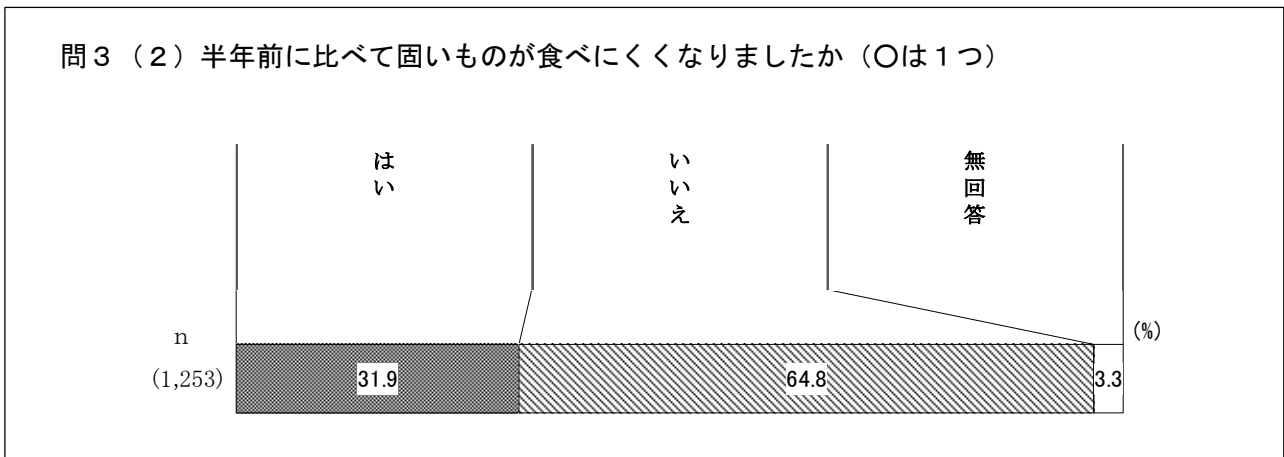
(1) 身長・体重 (BMI値)



身長・体重からBMI値を算出したところ、「標準 (18.5以上25.0未満)」が62.9%を占めている。

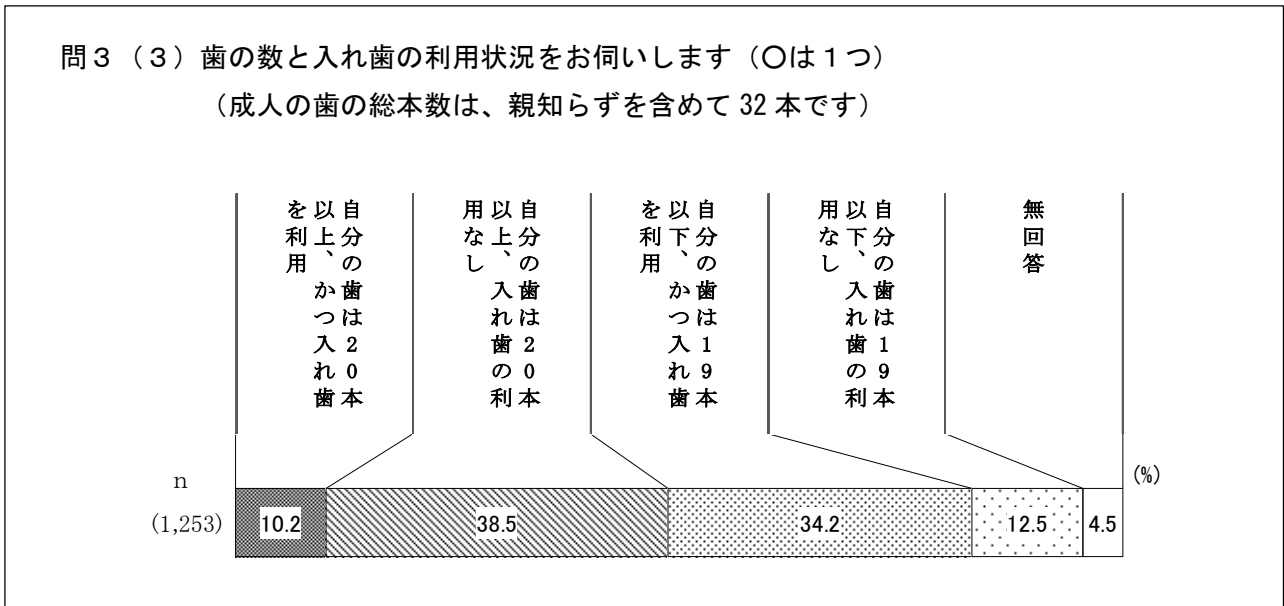
一方、「肥満 (25.0以上)」は26.7%、「やせ (18.5未満)」は5.9%となっている。

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



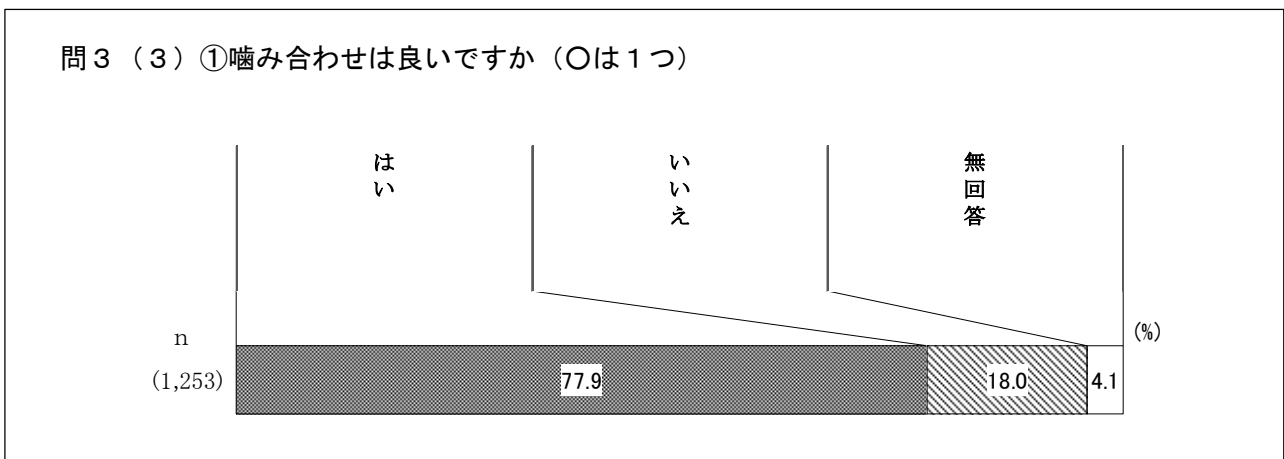
半年前に比べて固いものが食べにくくなったかをたずねたところ、「いいえ」が64.8%を占めており、「はい」は31.9%となっている。

(3) 歯の数と入れ歯の利用状況



歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が38.5%と最も多く、以下「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(34.2%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(12.5%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(10.2%)となっている。

(4) 噛み合わせは良いか

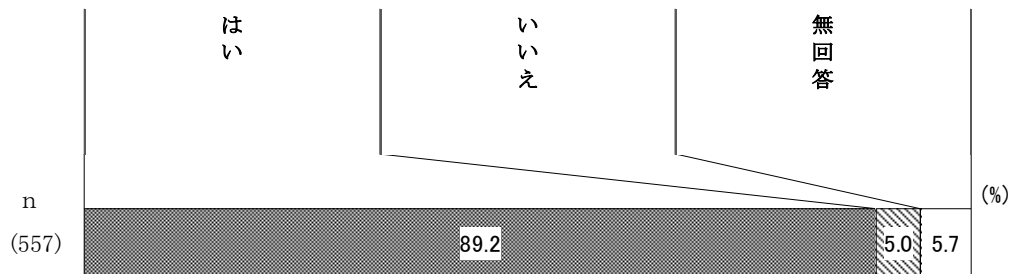


噛み合わせは良いかをたずねたところ、「はい」が77.9%を占めており、「いいえ」は18.0%となっている。

(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか

【問3(3)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお伺いします】

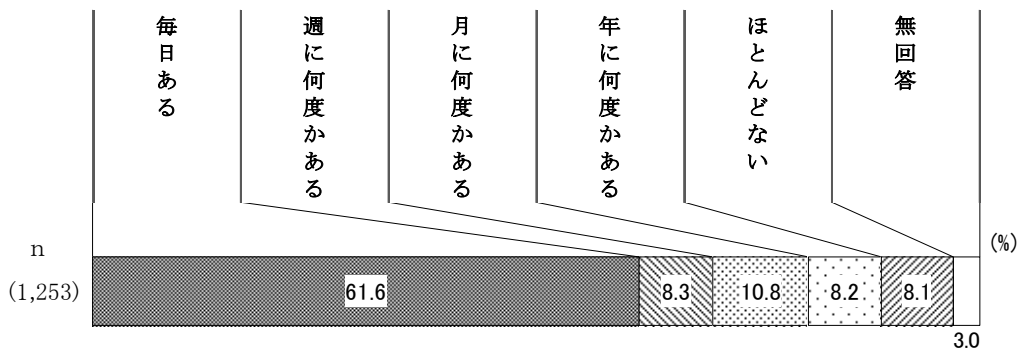
問3(3)②毎日入れ歯の手入れをしていますか(○は1つ)



毎日入れ歯の手入れをしているかをたずねたところ、「はい」が89.2%を占めており、「いいえ」は5.0%となっている。

(6) 誰かと食事をとにもする機会の有無

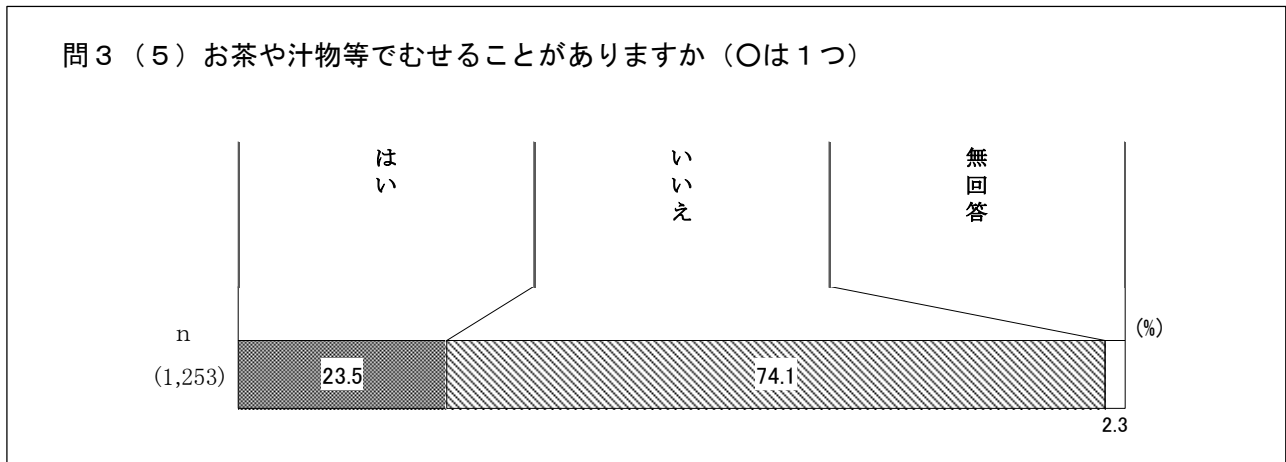
問3(4) どなたかと食事をとにもする機会がありますか(○は1つ)



誰かと食事をとにもする機会の有無をたずねたところ、「毎日ある」が61.6%と最も多く、以下「月に何度かある」(10.8%)、「週に何度かある」(8.3%)、「年に何度かある」(8.2%)となっている。

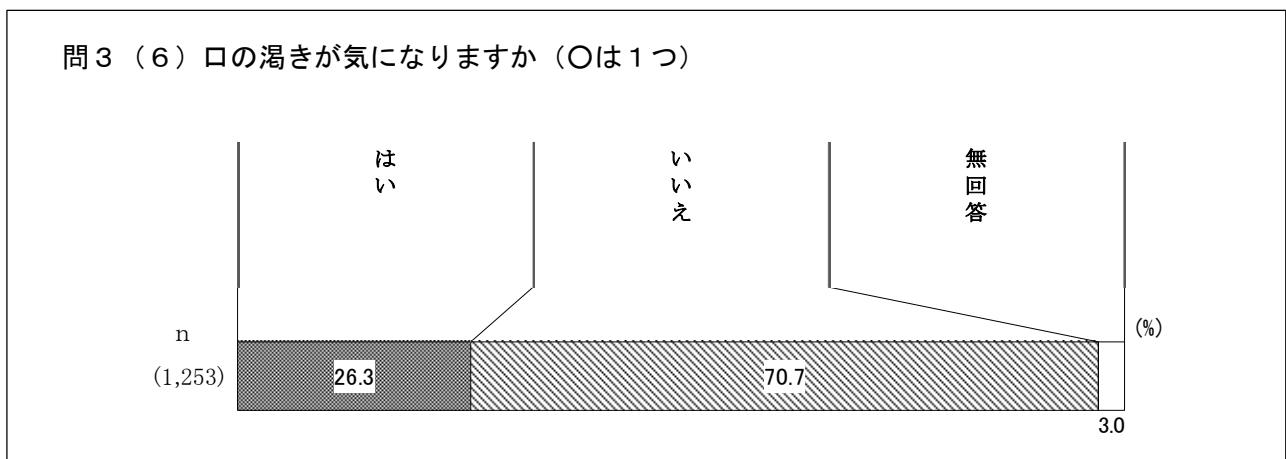
一方、「ほとんどない」は8.1%となっている。

(7) お茶や汁物等でむせることがあるか



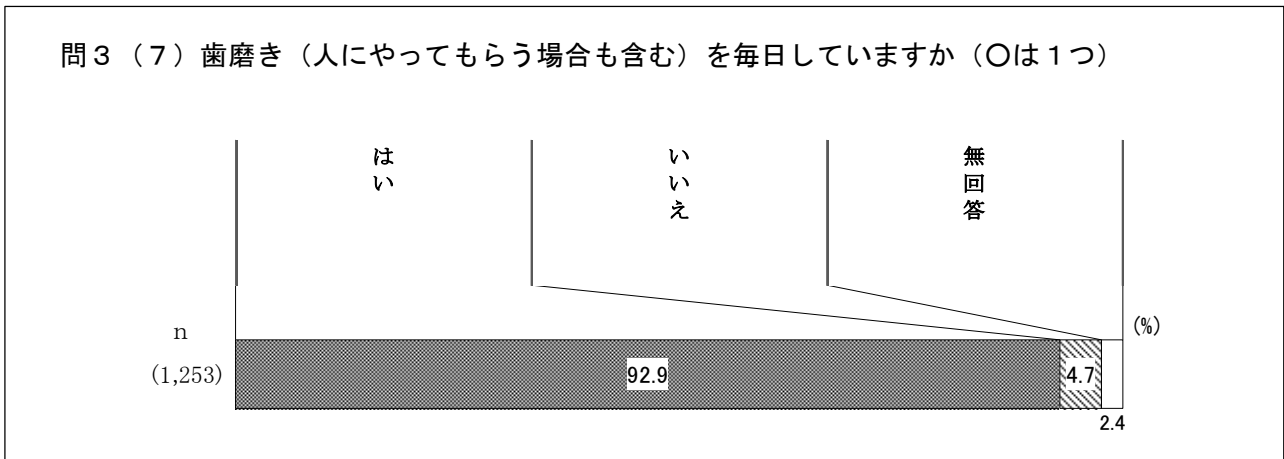
お茶や汁物等でむせることがあるかをたずねたところ、「いいえ」が74.1%を占めており、「はい」は23.5%となっている。

(8) 口の渇きが気になるか



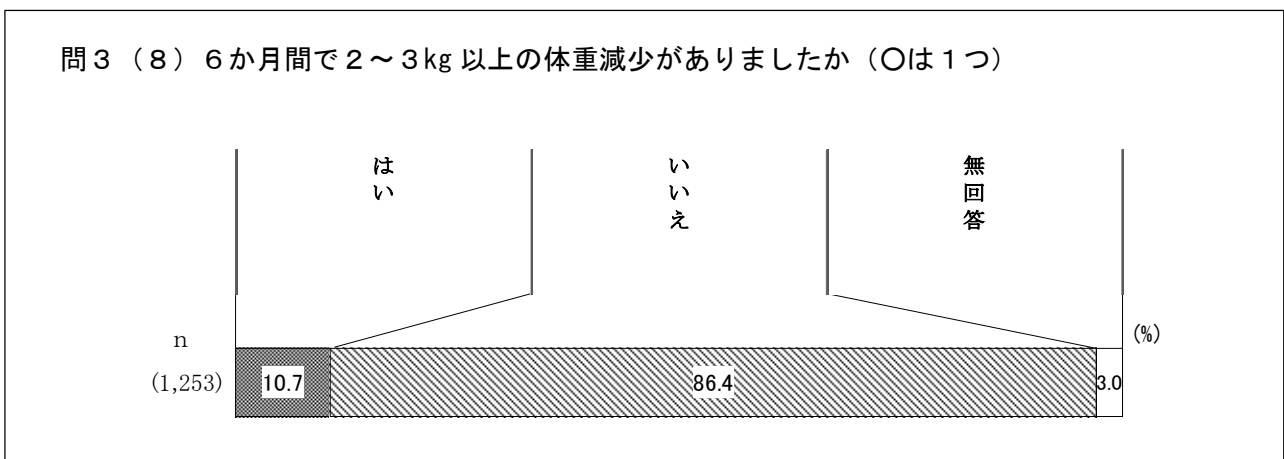
口の渇きが気になるかをたずねたところ、「いいえ」が70.7%を占めており、「はい」は26.3%となっている。

(9) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか



歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているかをたずねたところ、「はい」が92.9%を占めており、「いいえ」は4.7%となっている。

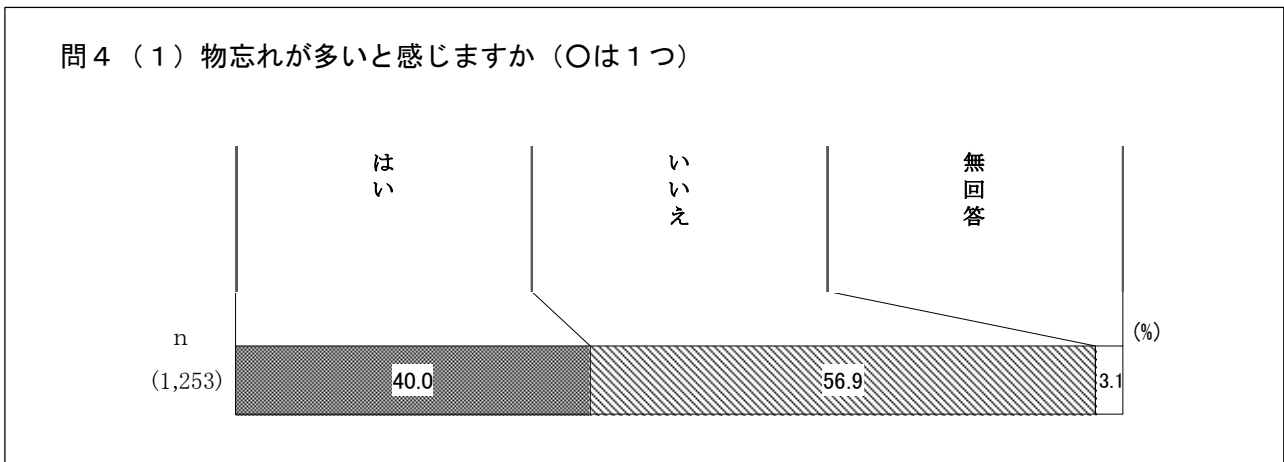
(10) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかをたずねたところ、「いいえ」が86.4%を占めており、「はい」は10.7%となっている。

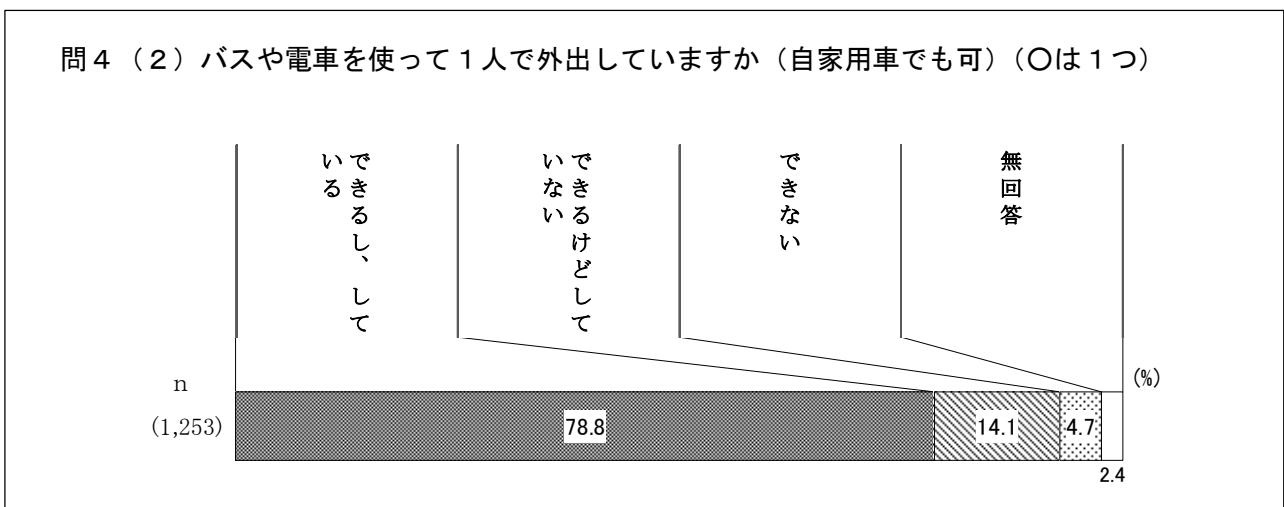
5. 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか



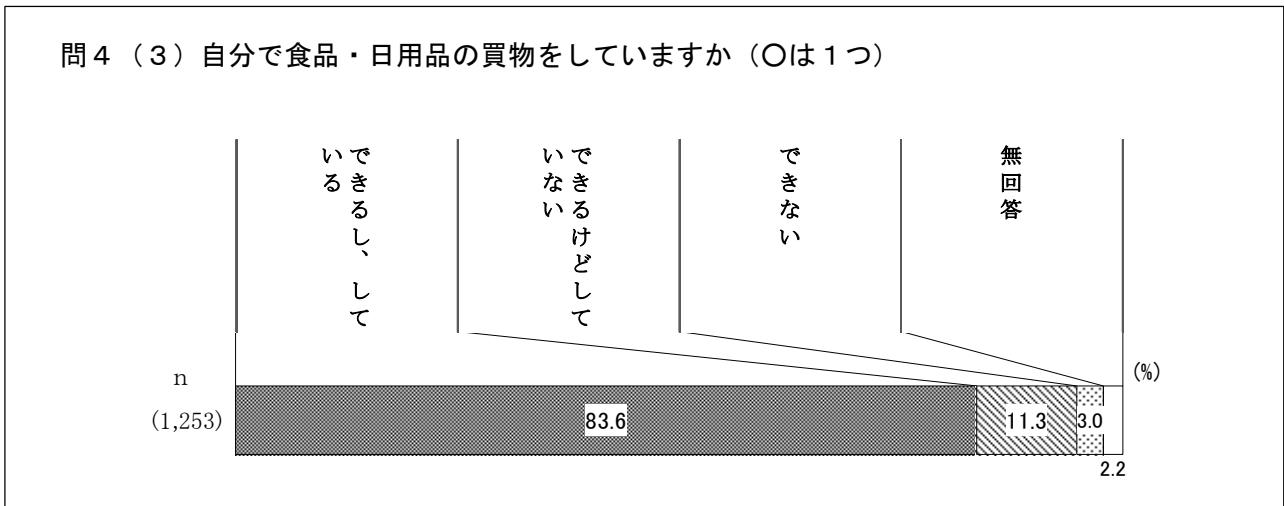
物忘れが多いと感じるかをたずねたところ、「いいえ」が 56.9%を占めており、「はい」は 40.0%となっている。

(2) バスや電車を使って1人での外出の可否 (自家用車でも可)



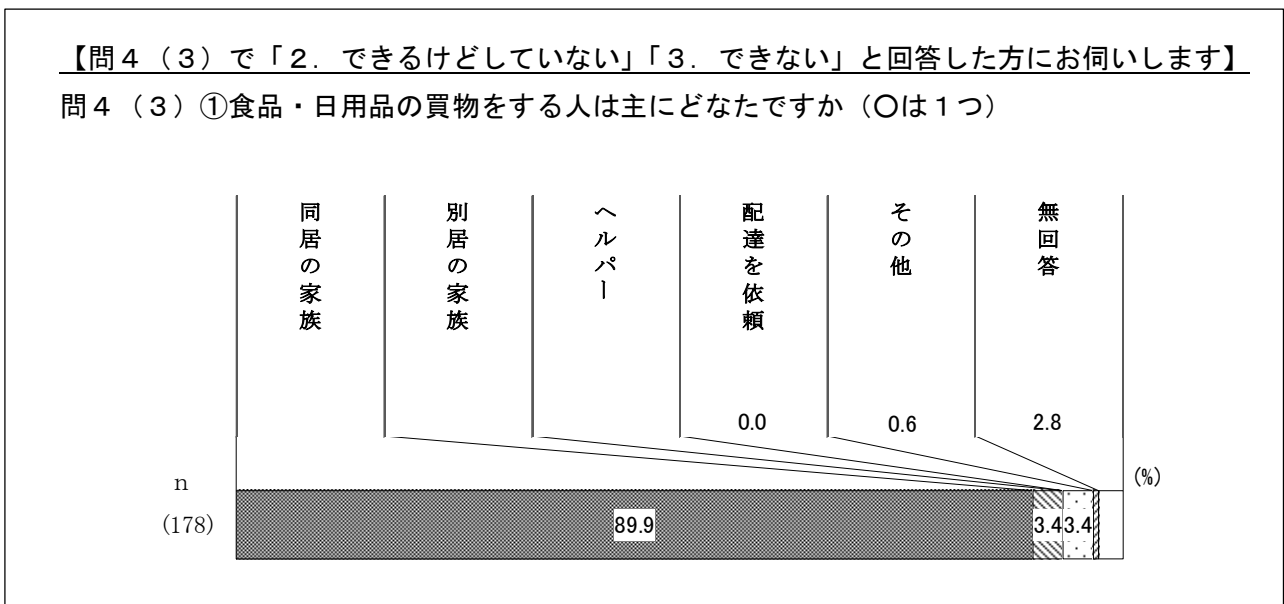
バスや電車を使って1人での外出の可否 (自家用車でも可) をたずねたところ、「できるし、している」が 78.8%を占めており、「できない」は 4.7%となっている。

(3) 自分での食品・日用品の買物の可否



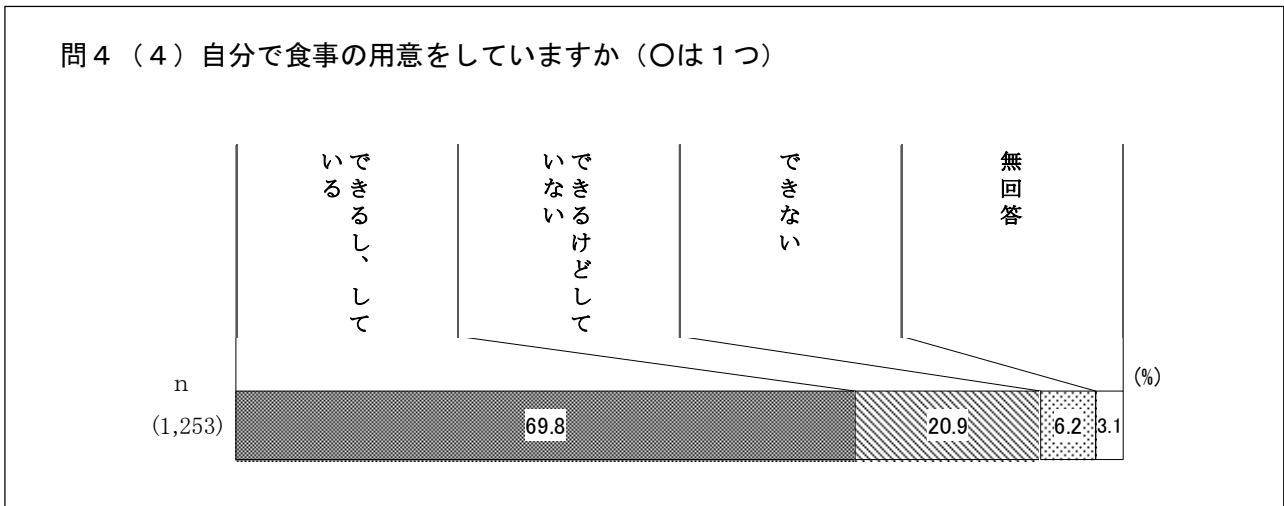
自分での食品・日用品の買物の可否をたずねたところ、「できるし、している」が 83.6%を占めており、「できない」は 3.0%となっている。

(4) 食品・日用品の買物をする人



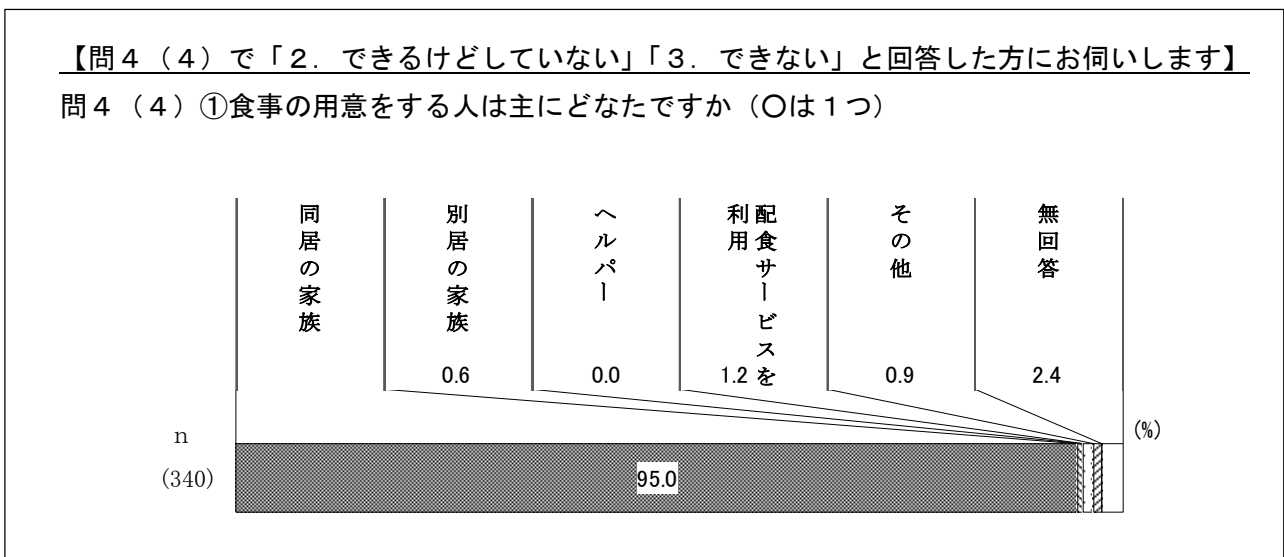
食品・日用品の買物をする人をたずねたところ、「同居の家族」が 89.9%と最も多く、以下「別居の家族」「ヘルパー」(ともに 3.4%) となっている。

(5) 自分での食事の用意の可否



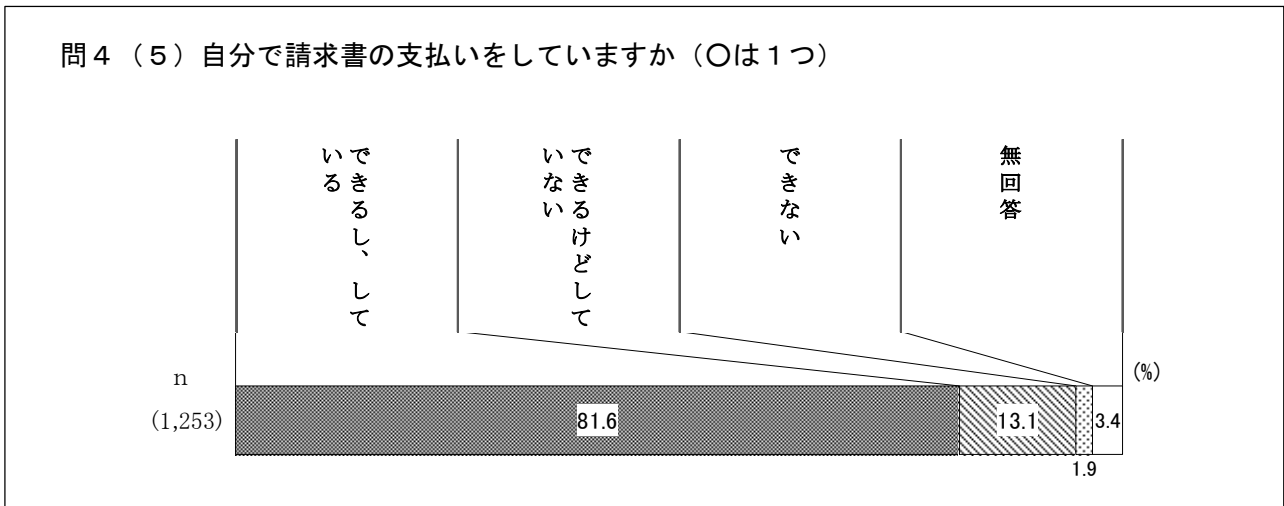
自分での食事の用意の可否をたずねたところ、「できるし、している」が 69.8%を占めており、「できない」は 6.2%となっている。

(6) 食事の用意をする人



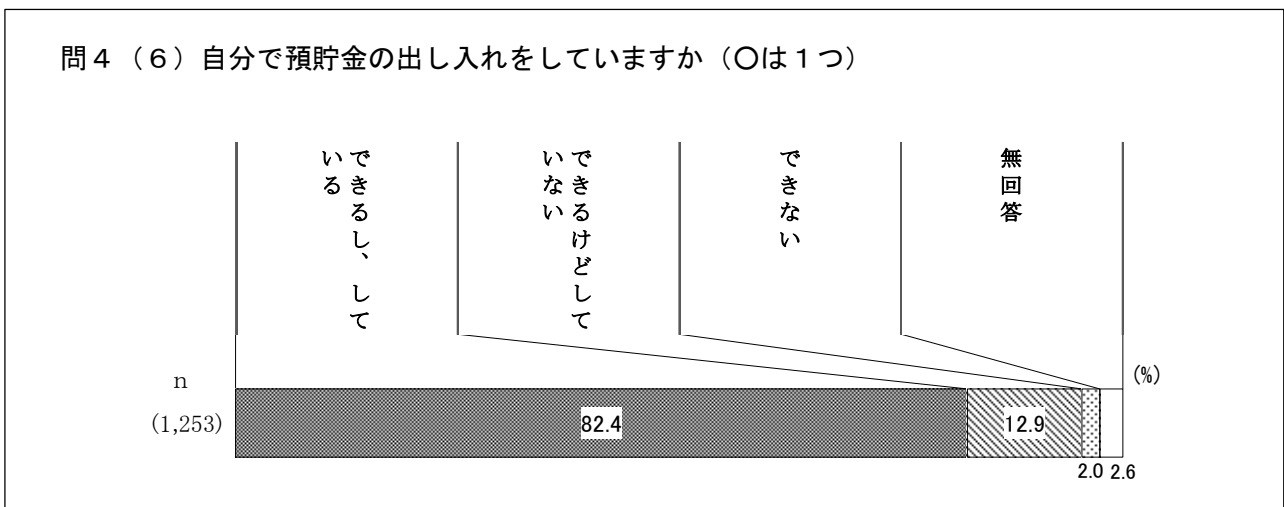
食事の用意をする人をたずねたところ、「同居の家族」が 95.0%を占めている。

(7) 自分での請求書の支払いの可否



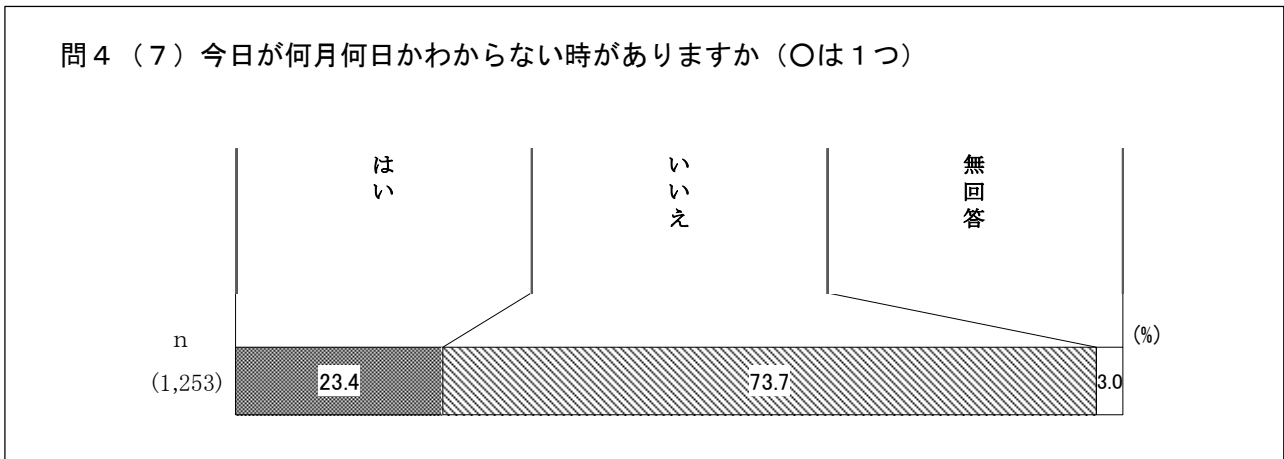
自分での請求書の支払いの可否をたずねたところ、「できるし、している」が81.6%を占めており、「できない」は1.9%となっている。

(8) 自分での預貯金の出し入れの可否



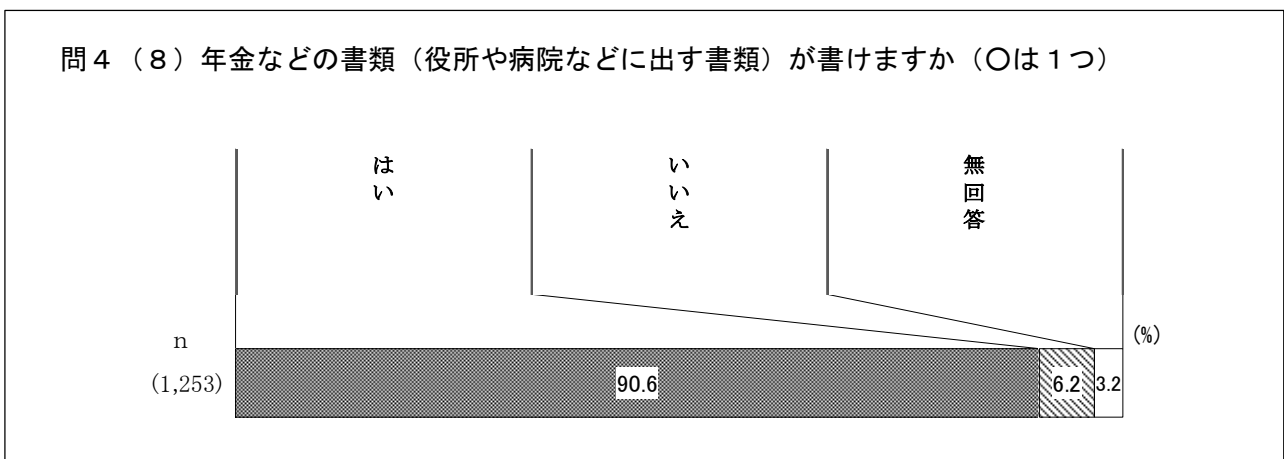
自分での預貯金の出し入れの可否をたずねたところ、「できるし、している」が82.4%を占めており、「できない」は2.0%となっている。

(9) 今日が何月何日かわからない時があるか



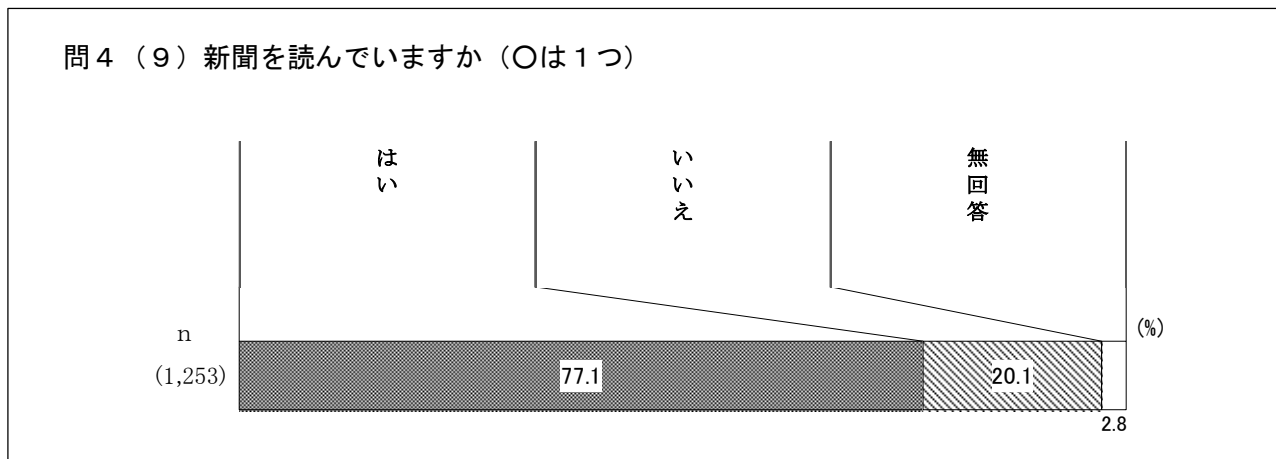
今日が何月何日かわからない時があるかをたずねたところ、「いいえ」が73.7%を占めており、「はい」は23.4%となっている。

(10) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けるか



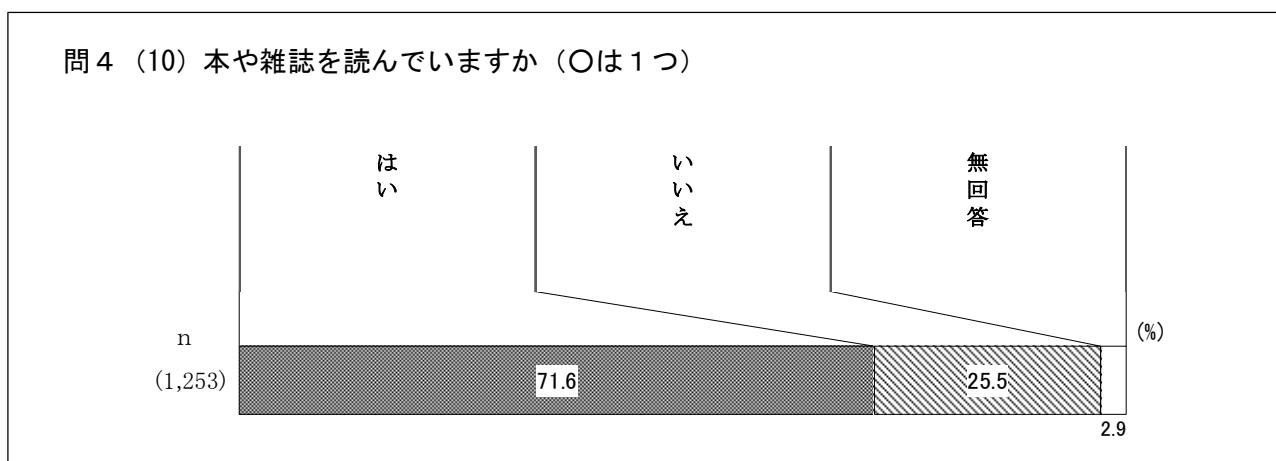
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けるかをたずねたところ、「はい」が90.6%を占めており、「いいえ」は6.2%となっている。

(11) 新聞を読んでいるか



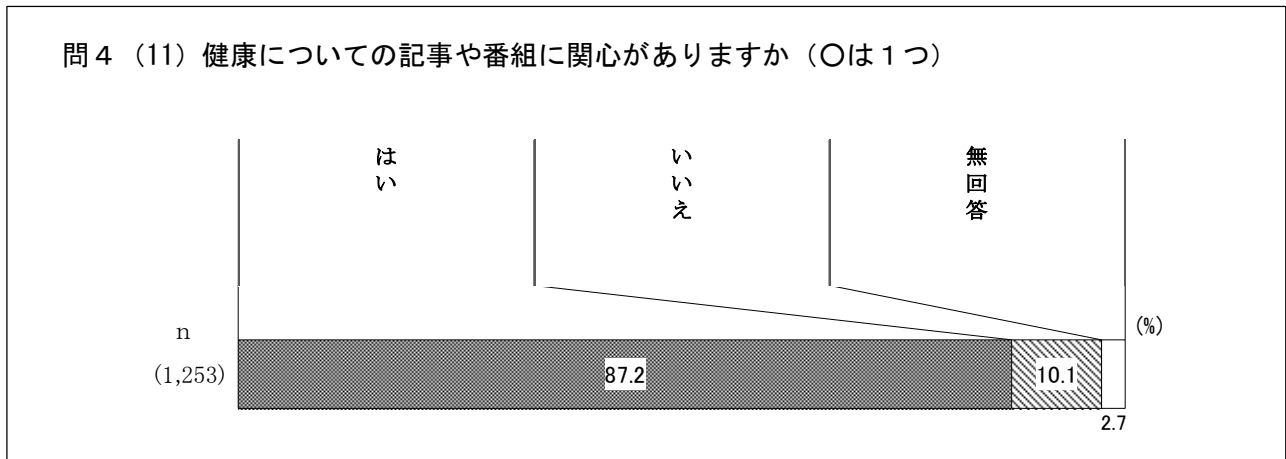
新聞を読んでいるかをたずねたところ、「はい」が77.1%を占めており、「いいえ」は20.1%となっている。

(12) 本や雑誌を読んでいるか



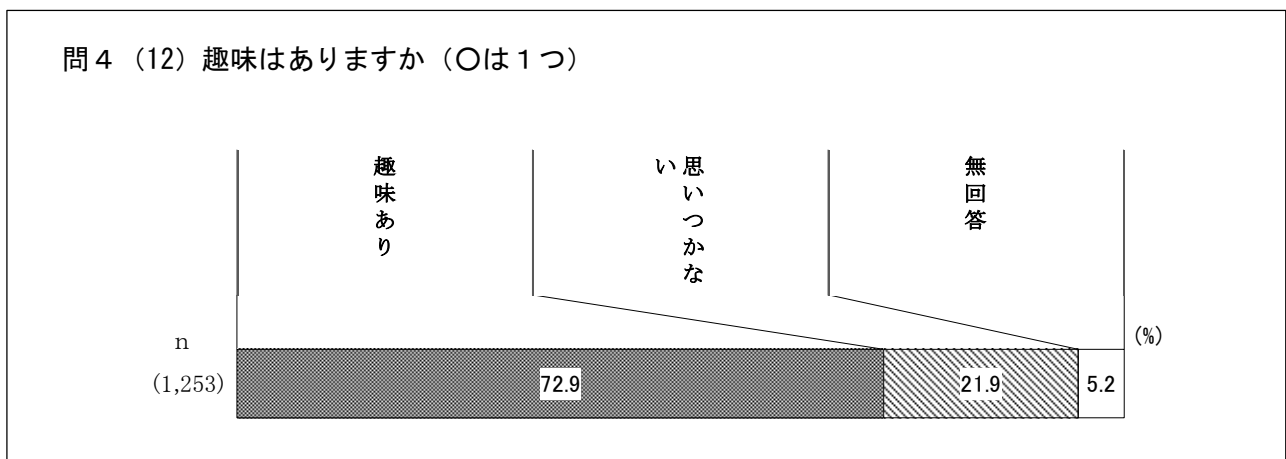
本や雑誌を読んでいるかをたずねたところ、「はい」が71.6%を占めており、「いいえ」は25.5%となっている。

(13) 健康についての記事や番組に関心があるか



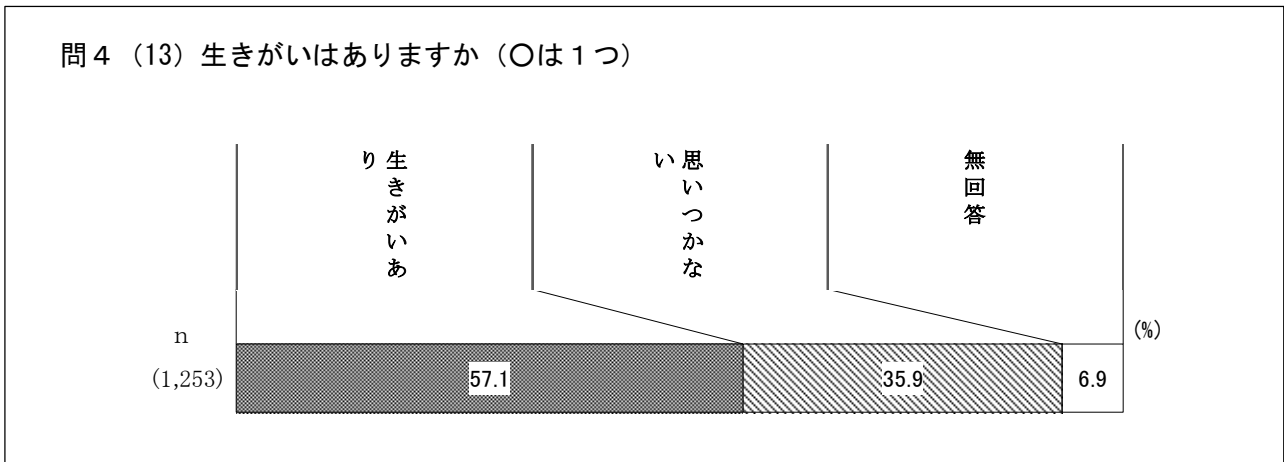
健康についての記事や番組に関心があるかをたずねたところ、「はい」が87.2%を占めており、「いいえ」は10.1%となっている。

(14) 趣味はあるか



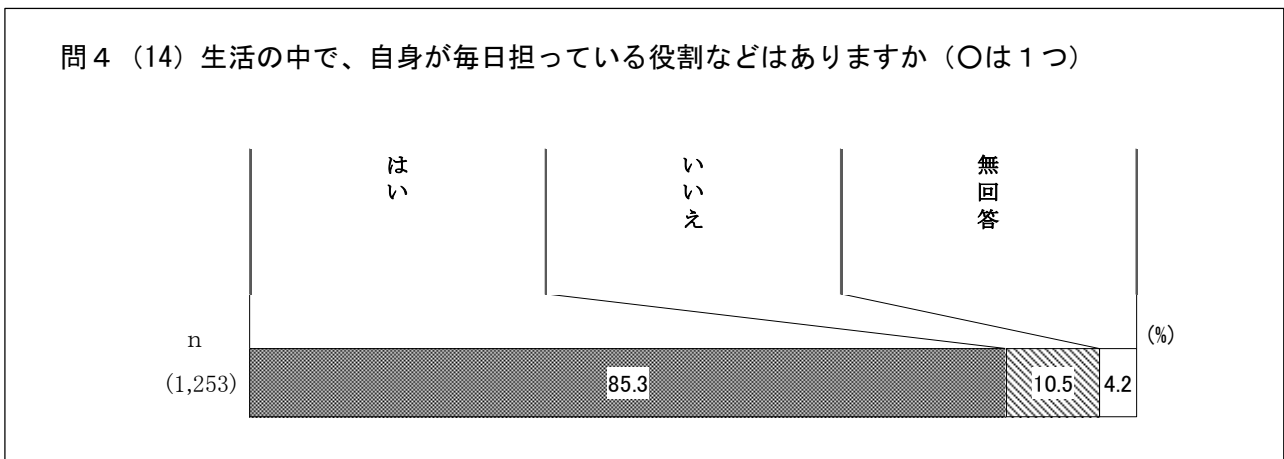
趣味はあるかをたずねたところ、「趣味あり」が72.9%を占めており、「思いっかない」は21.9%となっている。

(15) 生きがいはあるか



生きがいがあるかをたずねたところ、「生きがいあり」が57.1%を占めており、「思いつかない」は35.9%となっている。

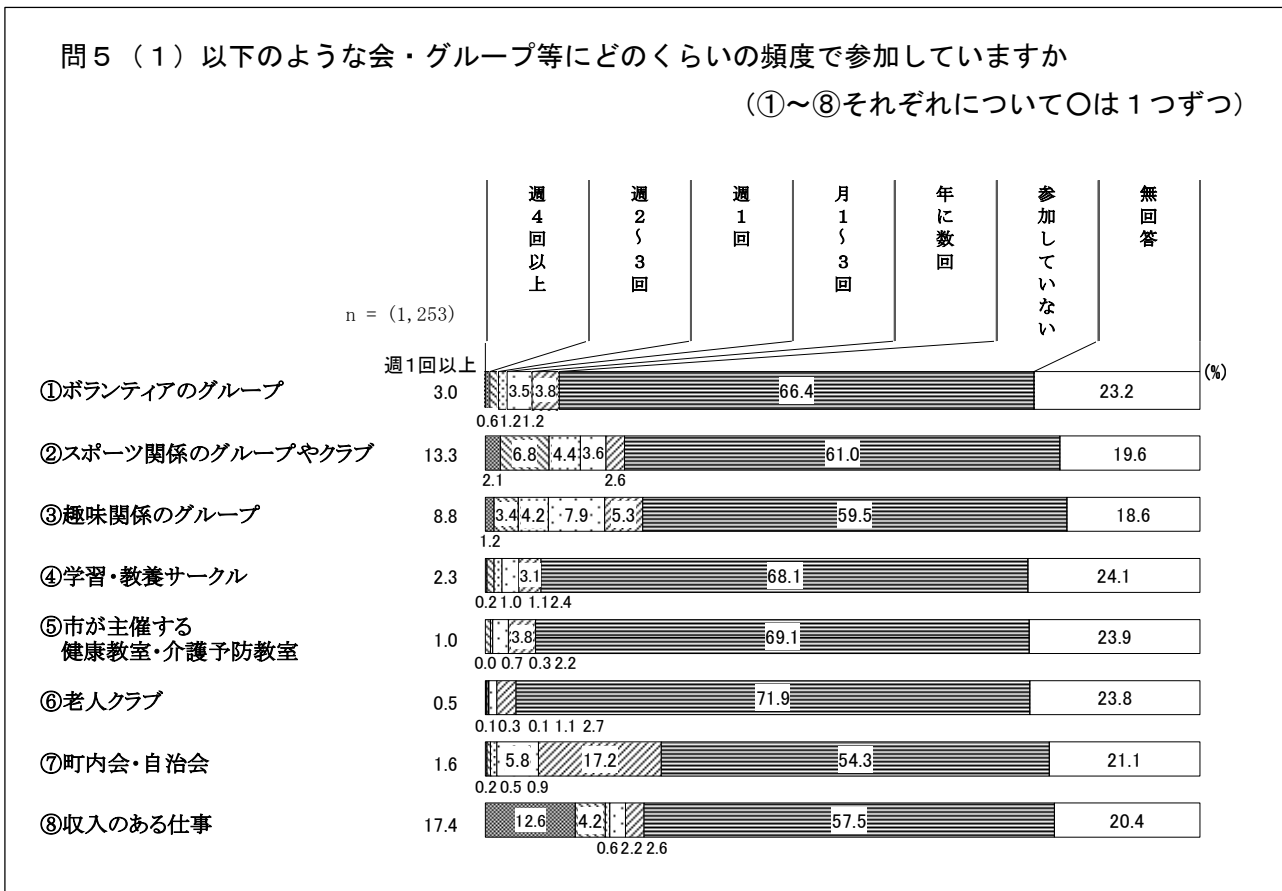
(16) 生活の中で、自身が毎日担っている役割などはあるか



生活の中で、自身が毎日担っている役割などがあるかをたずねたところ、「はい」が85.3%を占めており、「いいえ」は10.5%となっている。

6. 地域での活動について

(1) 地域活動への参加頻度



地域活動への参加頻度をたずねたところ、すべての項目で「参加していない」が最も多く、特に『⑥老人クラブ』では71.9%となっている。

一方、「週4回以上」参加している活動は、『⑧収入のある仕事』で12.6%となっている。

“週1回以上”の参加率をみると、『⑧収入のある仕事』(17.4%)、『②スポーツ関係のグループやクラブ』(13.3%)、『③趣味関係のグループ』(8.8%)などとなっており、『⑤市が主催する健康教室・介護予防教室』(通いの場)は1.0%にとどまっている。

<参考>

令和2年(2020年)時点 週1回以上の通いの場の参加率(%)

全国	宮城県	仙台市	多賀城市	塩竈市
2.1	2.0	1.5	0.0	1.7

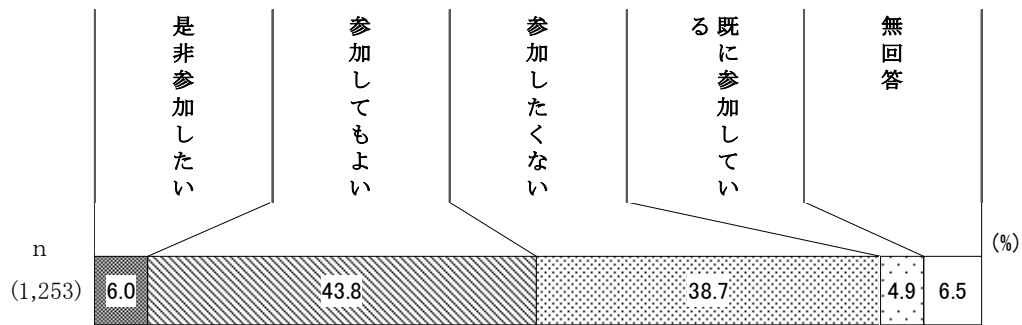
出典：地域包括ケア「見える化」システム(現状分析より)

厚生労働省「介護予防事業及び介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況に関する調査」

および総務省「住民基本台帳」

(2) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (○は1つ)



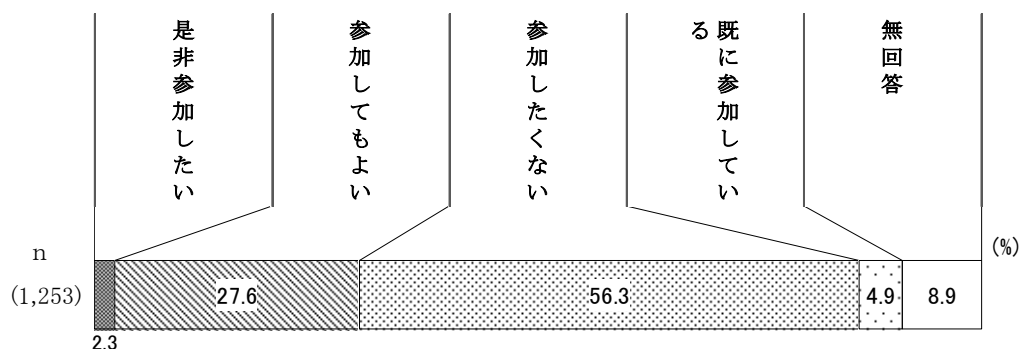
健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加者としての参加意向をたずねたところ、「参加してもよい」が43.8%と最も多く、「是非参加したい」(6.0%)を合わせた“参加したい”は49.8%となっている。

また、「既に参加している」は4.9%となっている。

一方、「参加したくない」は38.7%となっている。

(3) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営側としての参加意向

問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか (○は1つ)

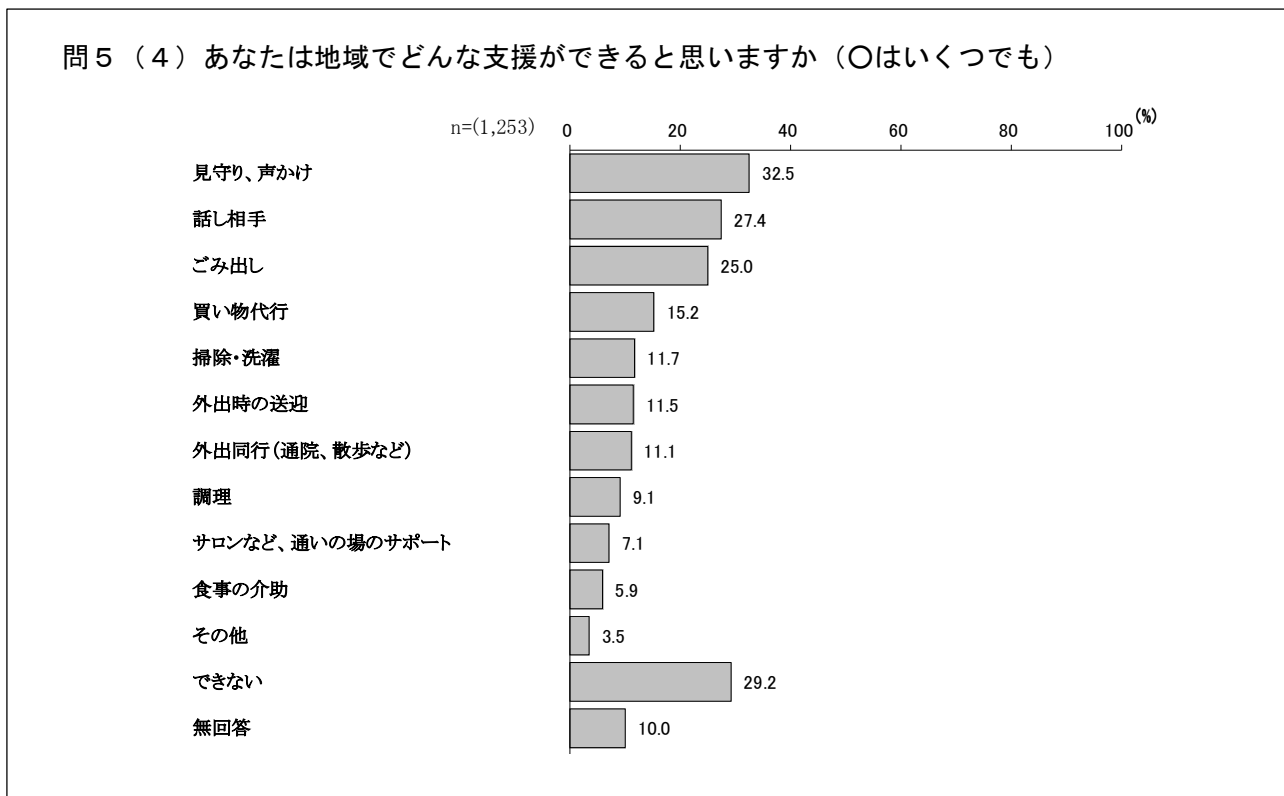


健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営側としての参加意向をたずねたところ、「是非参加したい」(2.3%)、「参加してもよい」(27.6%)を合わせた“参加したい”は29.9%となっている。

また、「既に参加している」は4.9%となっている。

一方、「参加したくない」は56.3%となっている。

(4) 自分が地域でできると思う支援活動



自分が地域でできると思う支援活動をたずねたところ、「見守り、声かけ」が 32.5%と最も多く、以下「話し相手」(27.4%)、「ごみ出し」(25.0%)、「買い物代行」(15.2%)、「掃除・洗濯」(11.7%)、「外出時の送迎」(11.5%) などとなっている。

一方、「できない」は 29.2%となっている。

性別にみると、男性が女性を大きく上回っている項目は「ごみ出し」、「外出時の送迎」などであり、一方、女性が男性を上回っている項目は「話し相手」、「掃除・洗濯」、「調理」、「食事の介助」などとなっている。

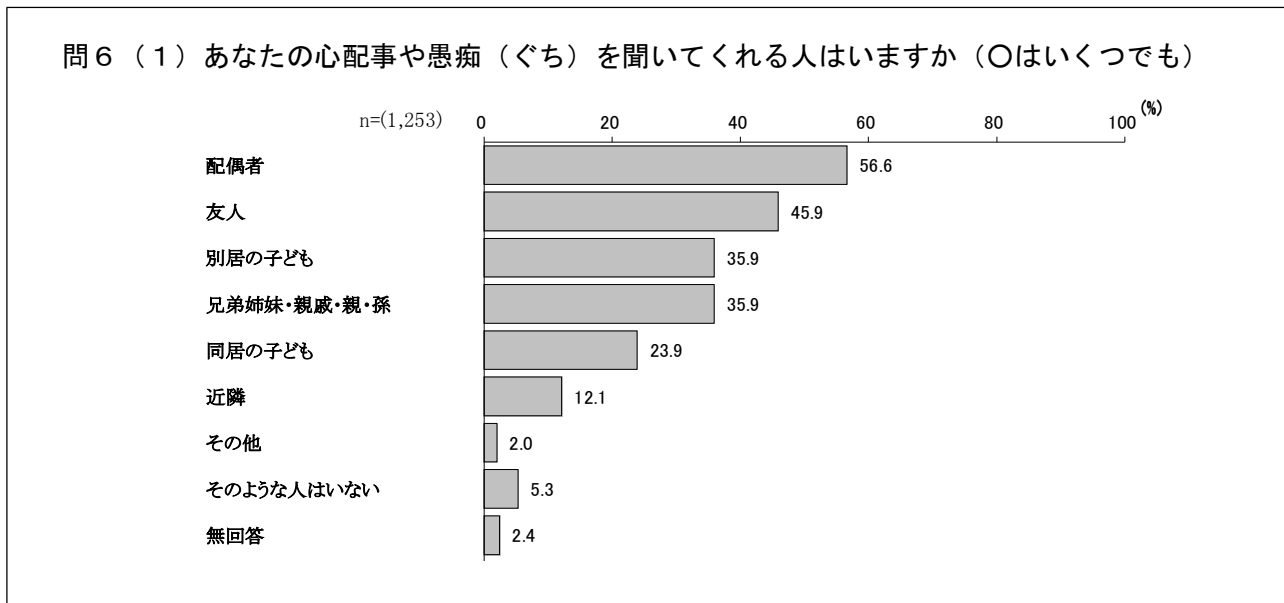
年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがってできると思う支援活動は減少し、「できない」が増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	見守り、声かけ	話し相手	ごみ出し	買い物代行	掃除・洗濯	外出時の送迎	外出同行（通院、散歩など）	調理	のサロンなど、通いの場	食事の介助	その他	できない	無回答
上段：件数 下段：%														
全体	1,253 100.0	407 32.5	343 27.4	313 25.0	191 15.2	147 11.7	144 11.5	139 11.1	114 9.1	89 7.1	74 5.9	44 3.5	366 29.2	125 10.0
性別														
男性	553 100.0	190 34.4	108 19.5	168 30.4	93 16.8	47 8.5	112 20.3	74 13.4	18 3.3	32 5.8	8 1.4	22 4.0	176 31.8	41 7.4
女性	665 100.0	205 30.8	224 33.7	139 20.9	94 14.1	97 14.6	31 4.7	63 9.5	92 13.8	57 8.6	63 9.5	22 3.3	178 26.8	82 12.3
年齢														
65～69歳	324 100.0	132 40.7	92 28.4	90 27.8	79 24.4	55 17.0	62 19.1	54 16.7	39 12.0	32 9.9	20 6.2	10 3.1	75 23.1	21 6.5
70～74歳	387 100.0	121 31.3	91 23.5	97 25.1	56 14.5	41 10.6	48 12.4	39 10.1	31 8.0	30 7.8	25 6.5	18 4.7	116 30.0	47 12.1
75～79歳	235 100.0	79 33.6	67 28.5	59 25.1	33 14.0	24 10.2	22 9.4	28 11.9	17 7.2	17 7.2	10 4.3	4 1.7	68 28.9	25 10.6
80～84歳	176 100.0	51 29.0	55 31.3	43 24.4	10 5.7	19 10.8	5 2.8	11 6.3	17 9.7	8 4.5	13 7.4	10 5.7	56 31.8	17 9.7
85～89歳	77 100.0	10 13.0	23 29.9	15 19.5	7 9.1	3 3.9	6 7.8	3 3.9	6 7.8	2 2.6	1 1.3	2 2.6	30 39.0	10 13.0
90～94歳	16 100.0	1 6.3	3 18.8	2 12.5	2 12.5	2 12.5	-	2 12.5	-	-	2 12.5	-	8 50.0	3 18.8
95～99歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1 33.3	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢														
65～74歳	711 100.0	253 35.6	183 25.7	187 26.3	135 19.0	96 13.5	110 15.5	93 13.1	70 9.8	62 8.7	45 6.3	28 3.9	191 26.9	68 9.6
75歳以上	507 100.0	142 28.0	149 29.4	120 23.7	52 10.3	48 9.5	33 6.5	44 8.7	40 7.9	27 5.3	26 5.1	16 3.2	163 32.1	55 10.8

7. たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人



あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人をたずねたところ、「配偶者」が56.6%と最も多く、以下「友人」(45.9%)、「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(ともに35.9%)、「同居の子ども」(23.9%)、「近隣」(12.1%)となっている。

一方、「そのような人はいない」は5.3%となっている。

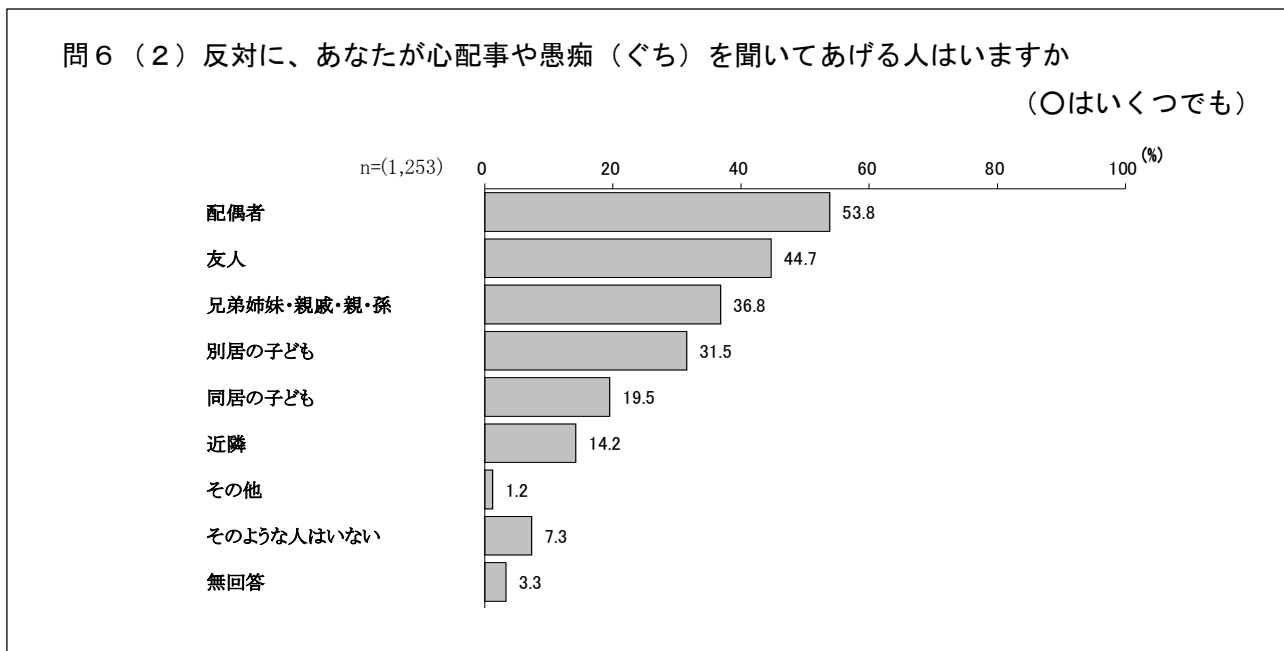
性別にみると、男性は「配偶者」が69.3%と最も多くなっているが、女性は「友人」が57.1%で最も多く、次いで「配偶者」(45.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(45.4%)となっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「配偶者」、「別居の子ども」、「友人」、が減少し、「同居の子ども」、「近隣」が増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	孫兄弟姉妹・親戚・親	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
上段：件数 下段：%										
全 体	1,253 100.0	709 56.6	300 23.9	450 35.9	450 35.9	152 12.1	575 45.9	25 2.0	67 5.3	30 2.4
性別										
男性	553 100.0	383 69.3	100 18.1	155 28.0	137 24.8	44 8.0	182 32.9	9 1.6	48 8.7	9 1.6
女性	665 100.0	303 45.6	192 28.9	285 42.9	302 45.4	106 15.9	380 57.1	16 2.4	17 2.6	20 3.0
年齢										
65～69歳	324 100.0	205 63.3	66 20.4	122 37.7	119 36.7	24 7.4	163 50.3	6 1.9	16 4.9	6 1.9
70～74歳	387 100.0	247 63.8	85 22.0	137 35.4	128 33.1	47 12.1	189 48.8	10 2.6	15 3.9	9 2.3
75～79歳	235 100.0	118 50.2	54 23.0	82 34.9	90 38.3	38 16.2	111 47.2	4 1.7	12 5.1	5 2.1
80～84歳	176 100.0	77 43.8	50 28.4	72 40.9	63 35.8	28 15.9	67 38.1	4 2.3	13 7.4	7 4.0
85～89歳	77 100.0	30 39.0	30 39.0	22 28.6	33 42.9	12 15.6	28 36.4	1 1.3	6 7.8	2 2.6
90～94歳	16 100.0	7 43.8	6 37.5	3 18.8	5 31.3	1 6.3	4 25.0	-	3 18.8	-
95～99歳	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢										
65～74歳	711 100.0	452 63.6	151 21.2	259 36.4	247 34.7	71 10.0	352 49.5	16 2.3	31 4.4	15 2.1
75歳以上	507 100.0	234 46.2	141 27.8	181 35.7	192 37.9	79 15.6	210 41.4	9 1.8	34 6.7	14 2.8

(2) あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人



あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人をたずねたところ、「配偶者」が 53.8%と最も多く、以下「友人」(44.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(36.8%)、「別居の子ども」(31.5%)、「同居の子ども」(19.5%)、「近隣」(14.2%) となっている。

一方、「そのような人はいない」は 7.3%となっている。

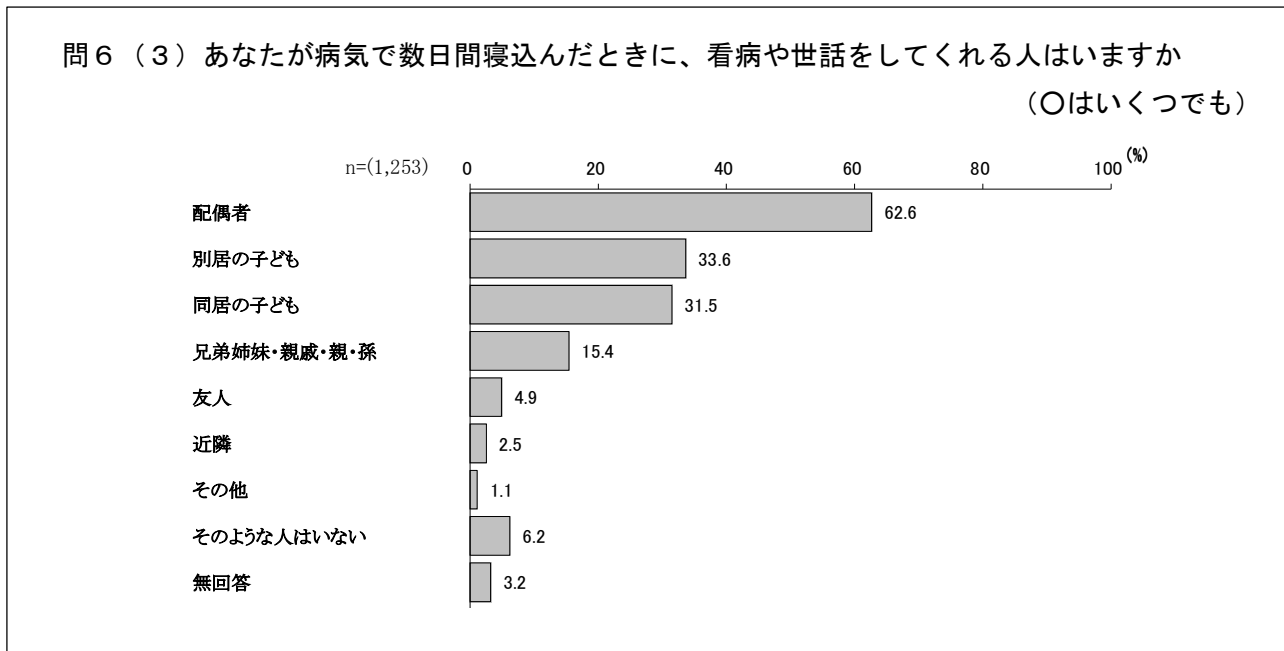
性別にみると、男性は「配偶者」が68.2%と最も多くなっているが、女性は「友人」が56.7%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(45.1%)、「配偶者」(41.7%)となっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって「配偶者」、「別居の子ども」、「友人」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	孫兄弟姉妹・親戚・親	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
上段：件数 下段：%										
全 体	1,253 100.0	674 53.8	244 19.5	395 31.5	461 36.8	178 14.2	560 44.7	15 1.2	91 7.3	41 3.3
性別										
男性	553 100.0	377 68.2	88 15.9	139 25.1	151 27.3	49 8.9	171 30.9	6 1.1	54 9.8	15 2.7
女性	665 100.0	277 41.7	150 22.6	246 37.0	300 45.1	128 19.2	377 56.7	8 1.2	32 4.8	25 3.8
年齢										
65～69歳	324 100.0	204 63.0	61 18.8	122 37.7	129 39.8	36 11.1	158 48.8	6 1.9	14 4.3	6 1.9
70～74歳	387 100.0	229 59.2	81 20.9	125 32.3	137 35.4	51 13.2	186 48.1	4 1.0	16 4.1	14 3.6
75～79歳	235 100.0	113 48.1	38 16.2	68 28.9	94 40.0	47 20.0	104 44.3	3 1.3	16 6.8	11 4.7
80～84歳	176 100.0	75 42.6	36 20.5	48 27.3	57 32.4	28 15.9	72 40.9	-	24 13.6	8 4.5
85～89歳	77 100.0	25 32.5	16 20.8	19 24.7	30 39.0	14 18.2	24 31.2	1 1.3	11 14.3	1 1.3
90～94歳	16 100.0	7 43.8	5 31.3	2 12.5	4 25.0	1 6.3	4 25.0	-	4 25.0	-
95～99歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢										
65～74歳	711 100.0	433 60.9	142 20.0	247 34.7	266 37.4	87 12.2	344 48.4	10 1.4	30 4.2	20 2.8
75歳以上	507 100.0	221 43.6	96 18.9	138 27.2	185 36.5	90 17.8	204 40.2	4 0.8	56 11.0	20 3.9

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人をたずねたところ、「配偶者」が62.6%と最も多く、以下「別居の子ども」(33.6%)、「同居の子ども」(31.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(15.4%)、「友人」(4.9%)、「近隣」(2.5%)となっている。

一方、「そのような人はいない」は6.2%となっている。

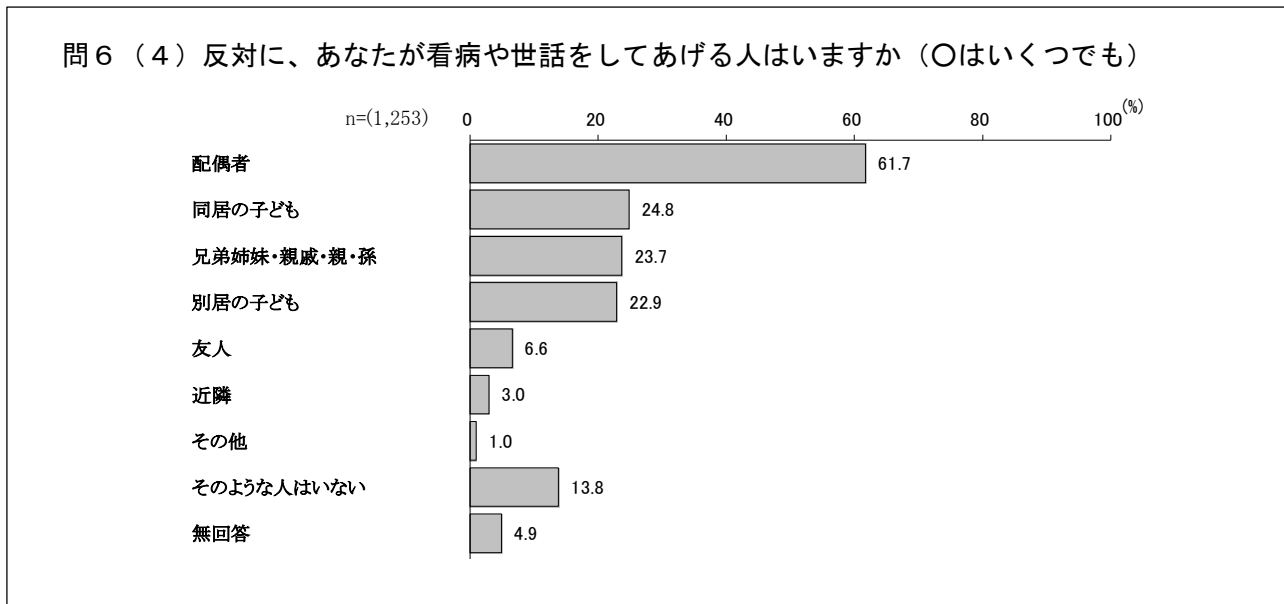
性別にみると、「配偶者」（男性：77.0%、女性：50.5%）が最も多く、女性は次いで「別居の子ども」（38.8%）、「同居の子ども」（37.6%）となっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「配偶者」が減少し、「同居の子ども」が増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	孫兄弟姉妹・親戚・親・	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
上段：件数 下段：%										
全 体	1,253 100.0	785 62.6	395 31.5	421 33.6	193 15.4	31 2.5	62 4.9	14 1.1	78 6.2	40 3.2
性別										
男性	553 100.0	426 77.0	132 23.9	154 27.8	69 12.5	7 1.3	10 1.8	6 1.1	44 8.0	10 1.8
女性	665 100.0	336 50.5	250 37.6	258 38.8	119 17.9	24 3.6	52 7.8	8 1.2	31 4.7	29 4.4
年齢										
65～69歳	324 100.0	231 71.3	87 26.9	104 32.1	45 13.9	3 0.9	19 5.9	2 0.6	16 4.9	8 2.5
70～74歳	387 100.0	272 70.3	113 29.2	121 31.3	53 13.7	11 2.8	23 5.9	5 1.3	27 7.0	11 2.8
75～79歳	235 100.0	134 57.0	75 31.9	84 35.7	42 17.9	7 3.0	9 3.8	4 1.7	19 8.1	8 3.4
80～84歳	176 100.0	87 49.4	60 34.1	69 39.2	27 15.3	6 3.4	7 4.0	2 1.1	9 5.1	8 4.5
85～89歳	77 100.0	30 39.0	38 49.4	28 36.4	16 20.8	3 3.9	3 3.9	1 1.3	3 3.9	2 2.6
90～94歳	16 100.0	6 37.5	7 43.8	4 25.0	3 18.8	1 6.3	1 6.3	-	1 6.3	2 12.5
95～99歳	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	-	-	-	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢										
65～74歳	711 100.0	503 70.7	200 28.1	225 31.6	98 13.8	14 2.0	42 5.9	7 1.0	43 6.0	19 2.7
75歳以上	507 100.0	259 51.1	182 35.9	187 36.9	90 17.8	17 3.4	20 3.9	7 1.4	32 6.3	20 3.9

(4) あなたが看病や世話をしあける人



あなたが看病や世話をしあける人をたずねたところ、「配偶者」が 61.7%と最も多く、以下「同居の子ども」(24.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.7%)、「別居の子ども」(22.9%)、「友人」(6.6%)、「近隣」(3.0%) となっている。

一方、「そのような人はいない」は 13.8%となっている。

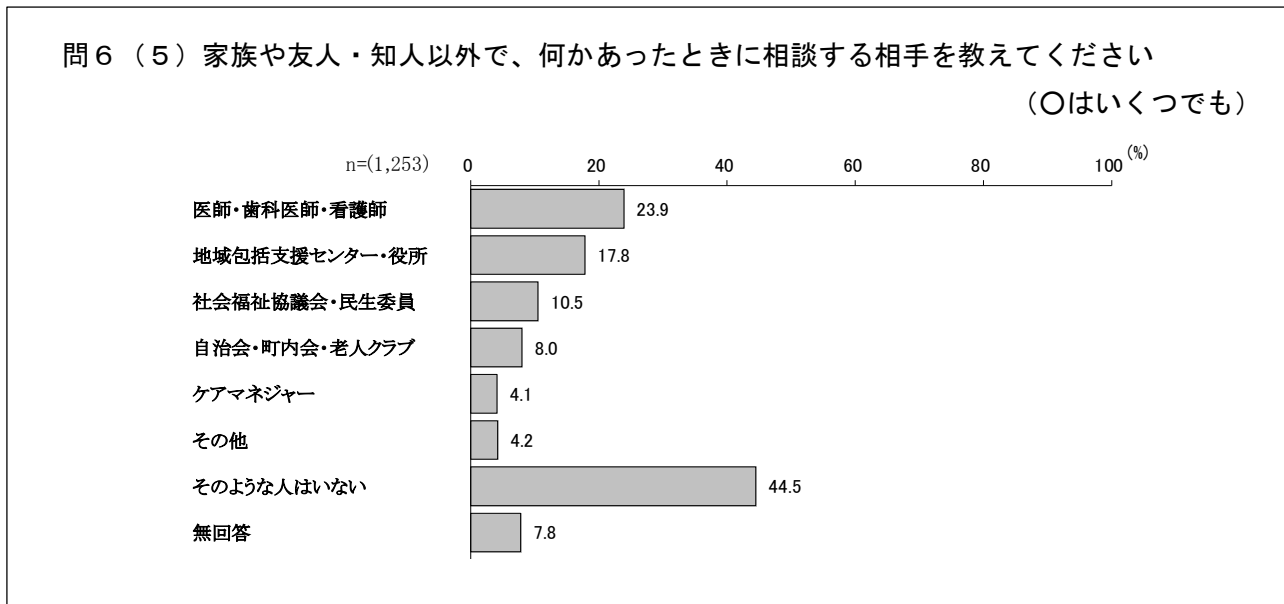
性別にみると、「配偶者」（男性：71.4%、女性：52.9%）が最も多く、女性は次いで「同居の子ども」（29.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.7%）、「別居の子ども」（26.3%）となっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「そのような人はいない」が増加している。

【性別・年齢別】

	調査数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	孫兄弟姉妹・親戚・親	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
上段：件数 下段：%										
全 体	1,253 100.0	773 61.7	311 24.8	287 22.9	297 23.7	38 3.0	83 6.6	12 1.0	173 13.8	62 4.9
性別										
男性	553 100.0	395 71.4	105 19.0	104 18.8	99 17.9	12 2.2	23 4.2	1 0.2	89 16.1	14 2.5
女性	665 100.0	352 52.9	196 29.5	175 26.3	191 28.7	26 3.9	59 8.9	11 1.7	83 12.5	47 7.1
年齢										
65～69歳	324 100.0	223 68.8	79 24.4	88 27.2	104 32.1	10 3.1	23 7.1	1 0.3	34 10.5	9 2.8
70～74歳	387 100.0	263 68.0	97 25.1	92 23.8	87 22.5	15 3.9	30 7.8	2 0.5	48 12.4	17 4.4
75～79歳	235 100.0	133 56.6	56 23.8	48 20.4	56 23.8	7 3.0	13 5.5	3 1.3	39 16.6	12 5.1
80～84歳	176 100.0	87 49.4	42 23.9	36 20.5	27 15.3	4 2.3	11 6.3	6 3.4	28 15.9	16 9.1
85～89歳	77 100.0	32 41.6	22 28.6	12 15.6	15 19.5	1 1.3	4 5.2	-	16 20.8	7 9.1
90～94歳	16 100.0	8 50.0	5 31.3	3 18.8	1 6.3	1 6.3	1 6.3	-	5 31.3	-
95～99歳	3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	-	2 66.7	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢										
65～74歳	711 100.0	486 68.4	176 24.8	180 25.3	191 26.9	25 3.5	53 7.5	3 0.4	82 11.5	26 3.7
75歳以上	507 100.0	261 51.5	125 24.7	99 19.5	99 19.5	13 2.6	29 5.7	9 1.8	90 17.8	35 6.9

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手



家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手をたずねたところ、「医師・歯科医師・看護師」が23.9%と最も多く、以下「地域包括支援センター・役所」(17.8%)、「社会福祉協議会・民生委員」(10.5%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(8.0%)、「ケアマネジャー」(4.1%)となっている。

一方、「そのような人はいない」は44.5%となっている。

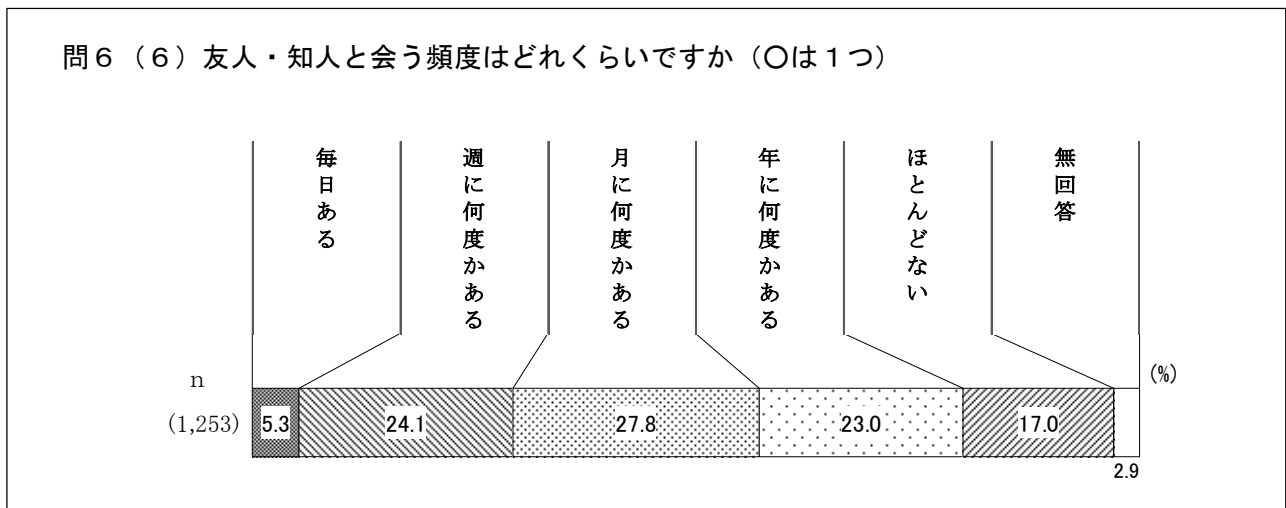
性別にみると、「医師・歯科医師・看護師」（男性：24.1%、女性：23.9%）が最も多くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「そのような人はいない」が減少している。

【性別・年齢別】

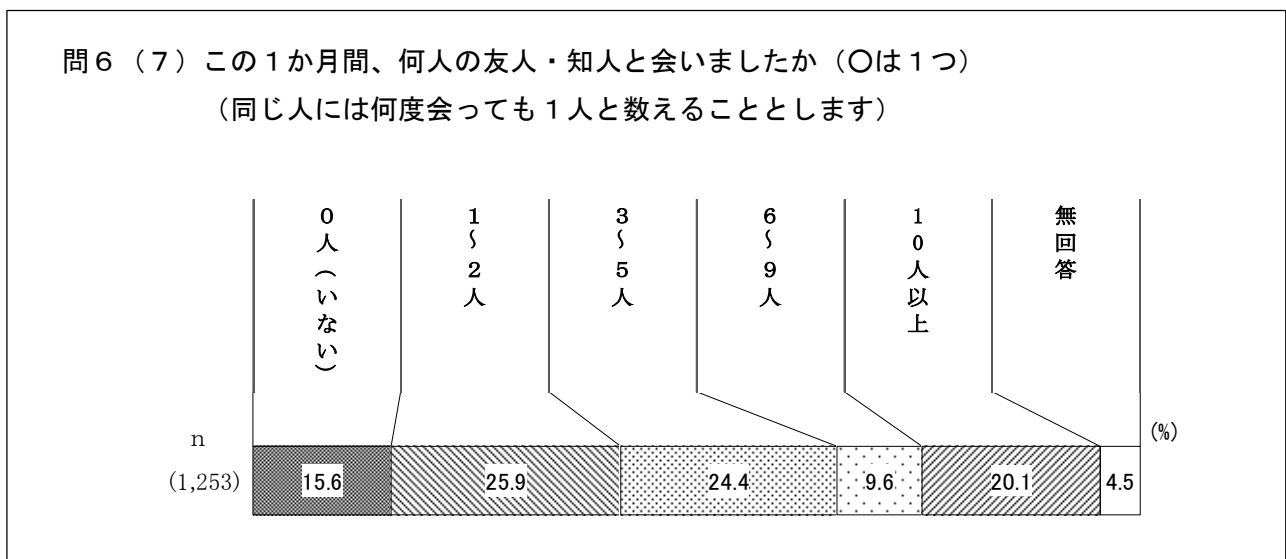
	調査数	医師・ 看護師・ 歯科医師・ 看護師	地域・ 包括 支援セン ター・ 役所	社会 福祉 協議会・ 民生 委員	自治 会・ 老人 クラブ	ケア マネ ジャー	その他	その よう な人 はい ない	無 回 答
上段：件数 下段：%									
全 体	1,253 100.0	299 23.9	223 17.8	131 10.5	100 8.0	51 4.1	53 4.2	557 44.5	98 7.8
性別									
男性	553 100.0	133 24.1	83 15.0	50 9.0	56 10.1	12 2.2	26 4.7	275 49.7	25 4.5
女性	665 100.0	159 23.9	136 20.5	80 12.0	42 6.3	39 5.9	26 3.9	264 39.7	69 10.4
年齢									
65～69歳	324 100.0	79 24.4	52 16.0	24 7.4	15 4.6	14 4.3	15 4.6	158 48.8	17 5.2
70～74歳	387 100.0	93 24.0	53 13.7	26 6.7	26 6.7	17 4.4	20 5.2	186 48.1	30 7.8
75～79歳	235 100.0	49 20.9	54 23.0	32 13.6	23 9.8	8 3.4	9 3.8	103 43.8	17 7.2
80～84歳	176 100.0	46 26.1	44 25.0	23 13.1	19 10.8	9 5.1	4 2.3	65 36.9	16 9.1
85～89歳	77 100.0	22 28.6	13 16.9	21 27.3	11 14.3	2 2.6	3 3.9	20 26.0	11 14.3
90～94歳	16 100.0	2 12.5	3 18.8	2 12.5	2 12.5	1 6.3	1 6.3	6 37.5	3 18.8
95～99歳	3 100.0	1 33.3	-	2 66.7	2 66.7	-	-	1 33.3	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢									
65～74歳	711 100.0	172 24.2	105 14.8	50 7.0	41 5.8	31 4.4	35 4.9	344 48.4	47 6.6
75歳以上	507 100.0	120 23.7	114 22.5	80 15.8	57 11.2	20 3.9	17 3.4	195 38.5	47 9.3

(6) 友人・知人と会う頻度



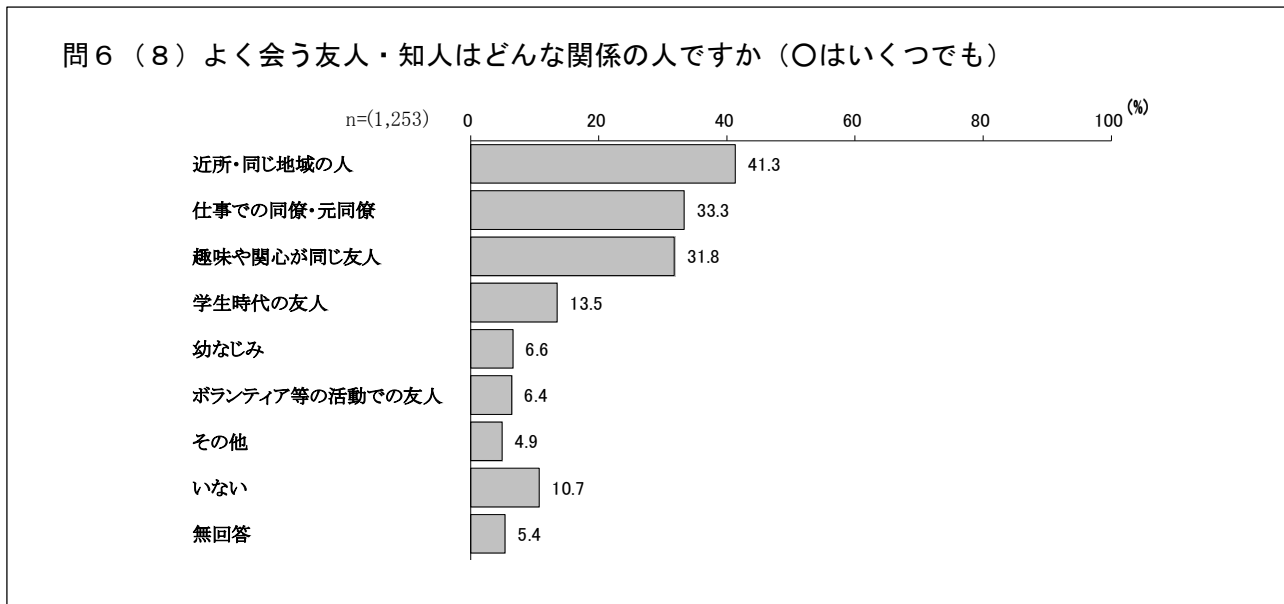
友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「月に何度かある」が27.8%と最も多く、以下「週に何度かある」(24.1%)、「年に何度かある」(23.0%)、「毎日ある」(5.3%)となっている。一方、「ほとんどない」は17.0%となっている。

(7) この1か月間に会った友人・知人の人数



この1か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「1~2人」が25.9%と最も多く、以下「3~5人」(24.4%)、「10人以上」(20.1%)、「6~9人」(9.6%)となっている。一方、「0人(いない)」は15.6%となっている。

(8) よく会う友人・知人との関係性



よく会う友人・知人との関係性についてたずねたところ、「近所・同じ地域の人」が41.3%と最も多く、以下「仕事での同僚・元同僚」(33.3%)、「趣味や関心が同じ友人」(31.8%)、「学生時代の友人」(13.5%)、「幼なじみ」(6.6%)、「ボランティア等の活動での友人」(6.4%)となっている。

一方、「いない」は10.7%となっている。

性別にみると、男性は「仕事での同僚・元同僚」が39.8%、女性は「近所・同じ地域の人」が49.3%と最も多くなっている。

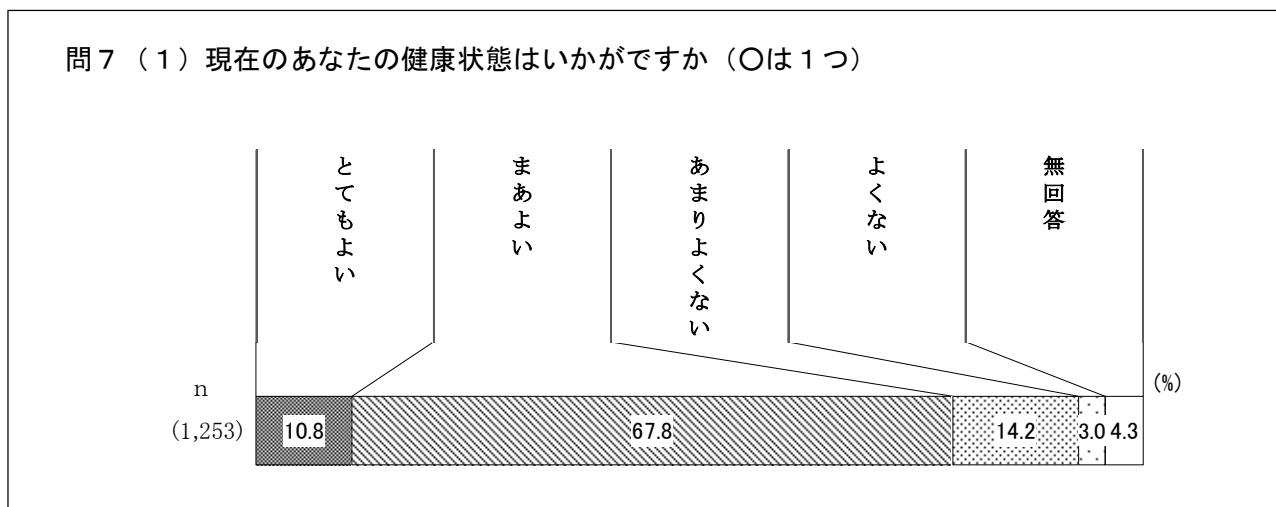
年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「近所・同じ地域の人」が増加し、「仕事での同僚・元同僚」、「学生時代の友人」が減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	近所・同じ地域の人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	学生時代の友人	幼なじみ	でボランテニア等の活動	その他	いない	無回答
上段：件数 下段：%										
全体	1,253 100.0	518 41.3	417 33.3	398 31.8	169 13.5	83 6.6	80 6.4	62 4.9	134 10.7	68 5.4
性別										
男性	553 100.0	178 32.2	220 39.8	137 24.8	73 13.2	33 6.0	33 6.0	20 3.6	67 12.1	40 7.2
女性	665 100.0	328 49.3	183 27.5	246 37.0	94 14.1	48 7.2	47 7.1	40 6.0	64 9.6	27 4.1
年齢										
65～69歳	324 100.0	110 34.0	156 48.1	83 25.6	56 17.3	24 7.4	21 6.5	19 5.9	30 9.3	14 4.3
70～74歳	387 100.0	137 35.4	129 33.3	139 35.9	54 14.0	17 4.4	24 6.2	16 4.1	40 10.3	23 5.9
75～79歳	235 100.0	113 48.1	67 28.5	77 32.8	36 15.3	20 8.5	19 8.1	15 6.4	27 11.5	13 5.5
80～84歳	176 100.0	90 51.1	35 19.9	63 35.8	15 8.5	13 7.4	10 5.7	7 4.0	20 11.4	11 6.3
85～89歳	77 100.0	45 58.4	16 20.8	20 26.0	5 6.5	5 6.5	6 7.8	1 1.3	9 11.7	4 5.2
90～94歳	16 100.0	10 62.5	-	1 6.3	1 6.3	2 12.5	-	2 12.5	3 18.8	2 12.5
95～99歳	3 100.0	1 33.3	-	-	-	-	-	-	2 66.7	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢										
65～74歳	711 100.0	247 34.7	285 40.1	222 31.2	110 15.5	41 5.8	45 6.3	35 4.9	70 9.8	37 5.2
75歳以上	507 100.0	259 51.1	118 23.3	161 31.8	57 11.2	40 7.9	35 6.9	25 4.9	61 12.0	30 5.9

8. 健康について

(1) 現在の健康状態



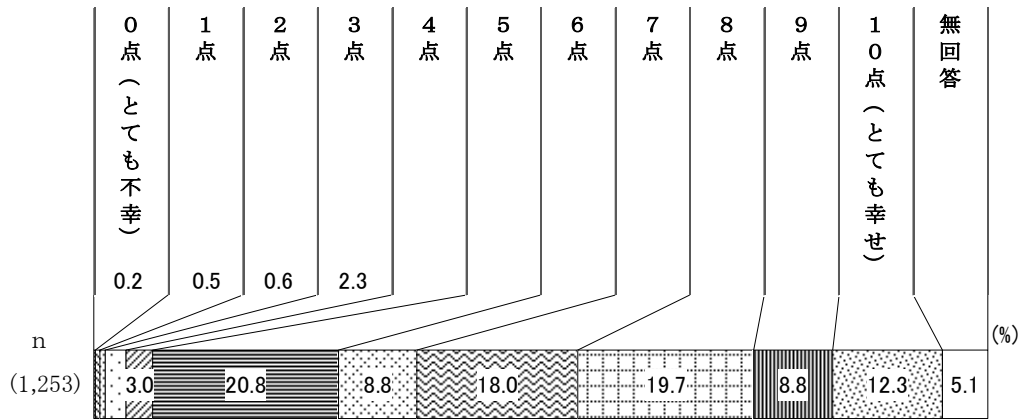
現在の健康状態をたずねたところ、「まあよい」が67.8%と最も多く、「とてもよい」(10.8%)を合わせた“よい”は78.6%となっている。

一方、「あまりよくない」(14.2%)、「よくない」(3.0%)を合わせた“よくない”は17.2%となっている。

(2) 現在の幸福度

問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか (〇は1つ)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)



平均点 : 6.98 点

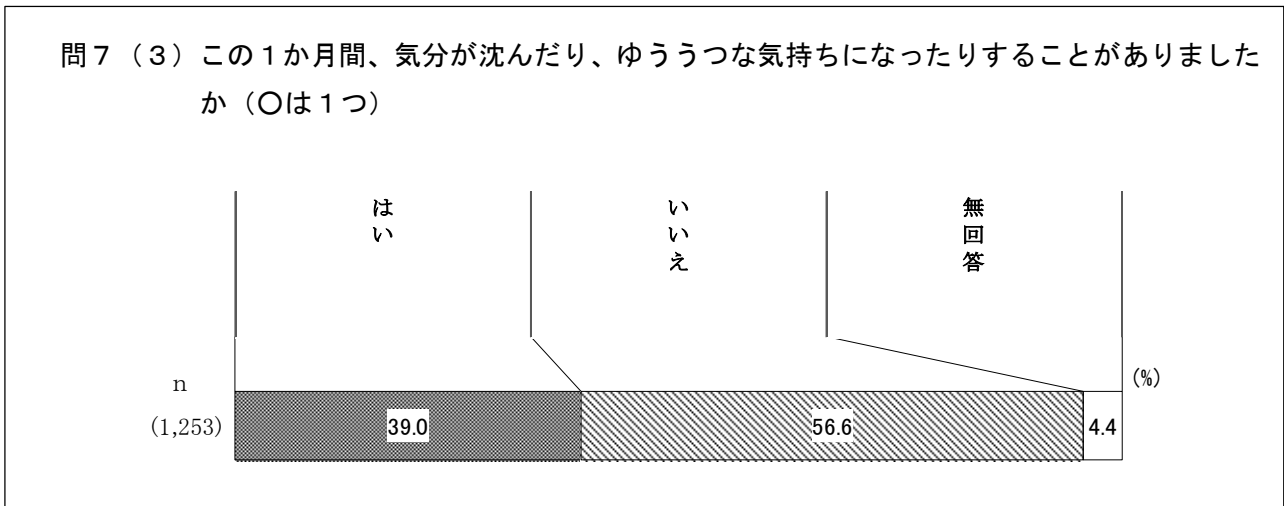
	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
上段 : 件数 下段 : %					
全体	1,189 100.0	8,305 6.98	1.95	0	10
介護予防・日常生活支援総合事業対象者区分					
一般高齢者	802 67.5	5,761 7.18	1.87	1	10
総合事業対象者	312 26.2	2,000 6.41	2.03	0	10

現在の幸福度をたずねたところ、「5点」が20.8%と最も多く、以下「8点」(19.7%)、「7点」(18.0%)、「10点」(12.3%)となっており、「7点以上」は58.8%となっている。

高齢者の現在の幸福度の平均点は、6.98点となっている。

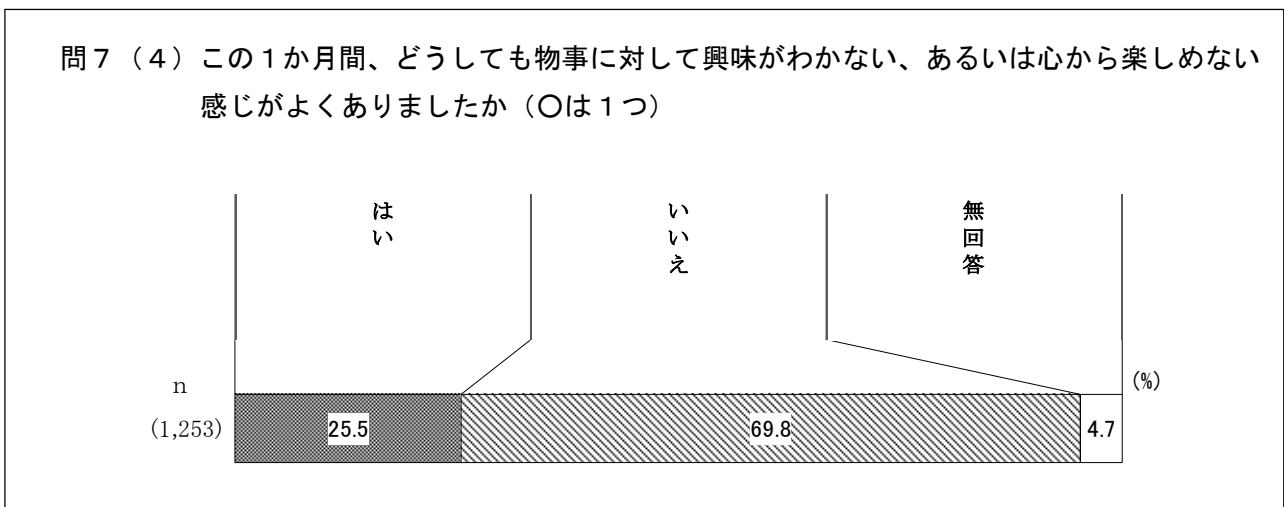
介護予防・日常生活支援総合事業対象者(後述する基本チェックリストにより生活機能の低下がみられた方)別にみると、元気な一般高齢者は7.18点であるが、総合事業対象者は6.41点と低くなっている。

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったか



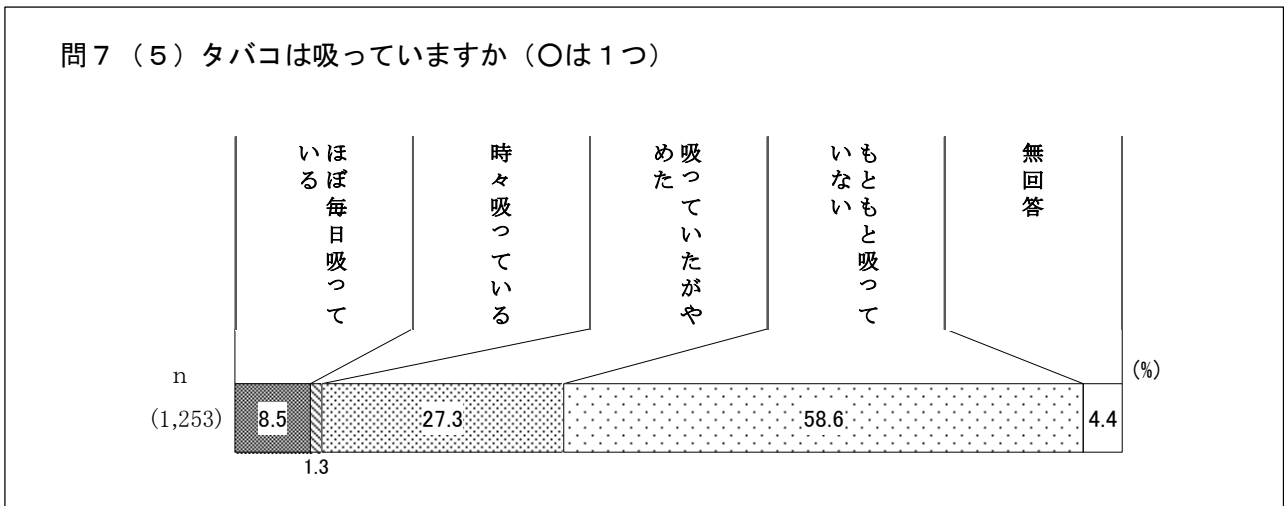
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったかをたずねたところ、「いいえ」が56.6%を占めており、「はい」は39.0%となっている。

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない等の感じがあったか



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない等の感じがあったかをたずねたところ、「いいえ」が69.8%を占めており、「はい」は25.5%となっている。

(5) 喫煙状況



喫煙状況をたずねたところ、「もともと吸っていない」が58.6%と最も多く、「吸っていたがやめた」(27.3%)を合わせた“吸っていない”は85.9%となっている。

一方、「ほぼ毎日吸っている」(8.5%)、「時々吸っている」(1.3%)を合わせた“吸っている”は9.8%となっている。

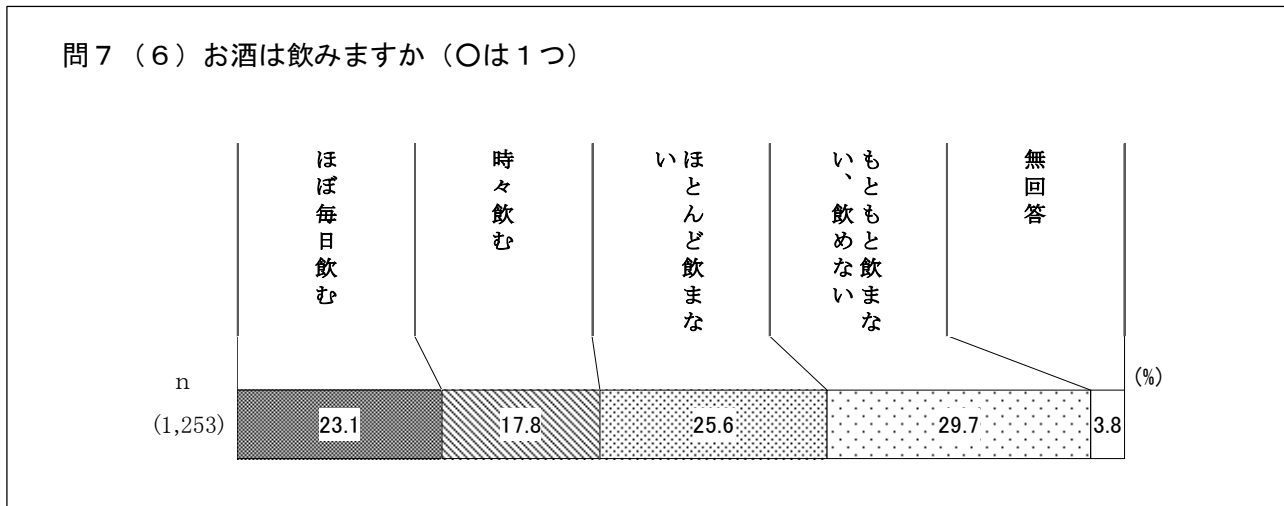
性別にみると、「吸っている」は男性が17.0%と女性を13.0ポイント上回っている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって“吸っている”が減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
	上段：件数 下段：%					
全体	1,253 100.0	106 8.5	16 1.3	342 27.3	734 58.6	55 4.4
性別						
男性	553 100.0	83 15.0	11 2.0	288 52.1	147 26.6	24 4.3
女性	665 100.0	21 3.2	5 0.8	47 7.1	564 84.8	28 4.2
年齢						
65～69歳	324 100.0	43 13.3	7 2.2	99 30.6	163 50.3	12 3.7
70～74歳	387 100.0	38 9.8	4 1.0	104 26.9	219 56.6	22 5.7
75～79歳	235 100.0	17 7.2	3 1.3	68 28.9	140 59.6	7 3.0
80～84歳	176 100.0	3 1.7	1 0.6	43 24.4	124 70.5	5 2.8
85～89歳	77 100.0	3 3.9	1 1.3	16 20.8	53 68.8	4 5.2
90～94歳	16 100.0	-	-	3 18.8	11 68.8	2 12.5
95～99歳	3 100.0	-	-	2 66.7	1 33.3	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-
年齢						
65～74歳	711 100.0	81 11.4	11 1.5	203 28.6	382 53.7	34 4.8
75歳以上	507 100.0	23 4.5	5 1.0	132 26.0	329 64.9	18 3.6

(6) 飲酒状況



飲酒状況をたずねたところ、「もともと飲まない、飲めない」が29.7%と最も多く、「ほとんど飲まない」(25.6%)を合わせた“飲まない”は55.3%となっている。

一方、「ほぼ毎日飲む」(23.1%)、「時々飲む」(17.8%)を合わせた“飲む”は40.9%となっている。

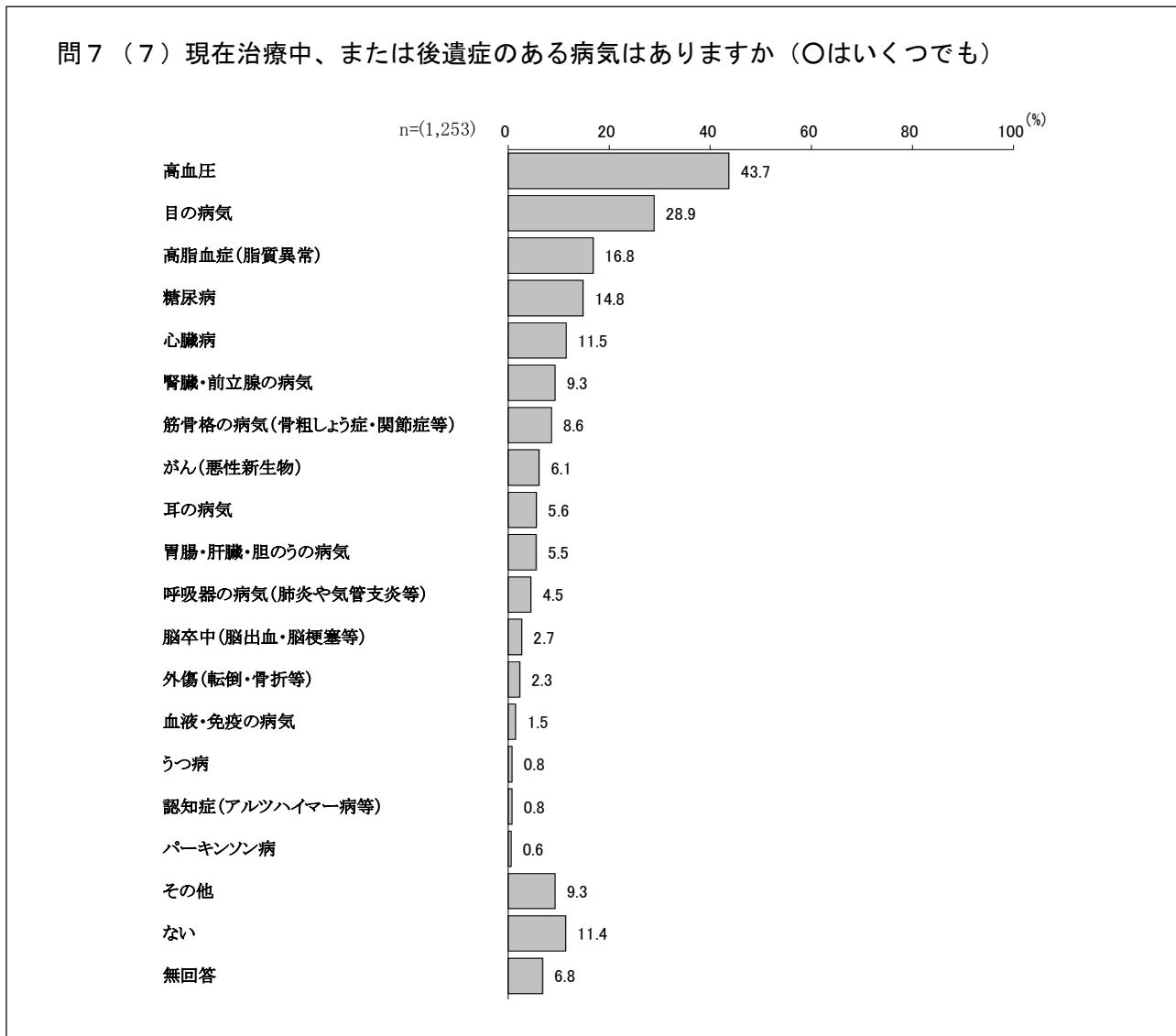
性別にみると、「ほぼ毎日飲む」は男性が42.5%と女性を35.3ポイント上回り、“飲む”になると、男性は60.4%と、女性の24.6%を大きく上回っている。

“飲む”を年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど飲まない	もともと飲まない、飲めない	無回答
全体	1,253	289	223	321	372	48
性別						
男性	553	235	99	126	69	24
女性	665	48	116	184	295	22
年齢						
65～69歳	324	92	62	76	83	11
70～74歳	387	91	68	104	106	18
75～79歳	235	55	44	62	67	7
80～84歳	176	32	24	39	76	5
85～89歳	77	11	13	21	29	3
90～94歳	16	1	3	7	3	2
95～99歳	3	1	1	1	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-
年齢						
65～74歳	711	183	130	180	189	29
75歳以上	507	100	85	130	175	17

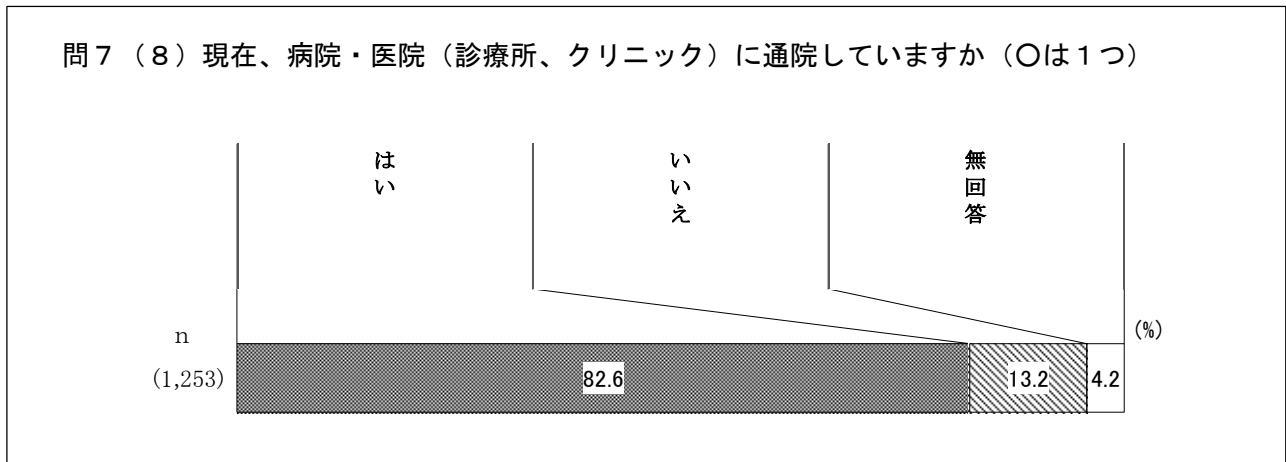
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気



現在治療中、または後遺症のある病気をたずねたところ、「高血圧」が 43.7%と最も多く、以下「目の病気」(28.9%)、「高脂血症(脂質異常)」(16.8%)、「糖尿病」(14.8%)、「心臓病」(11.5%) などとなっている。

一方、「ない」は 11.4%となっている。

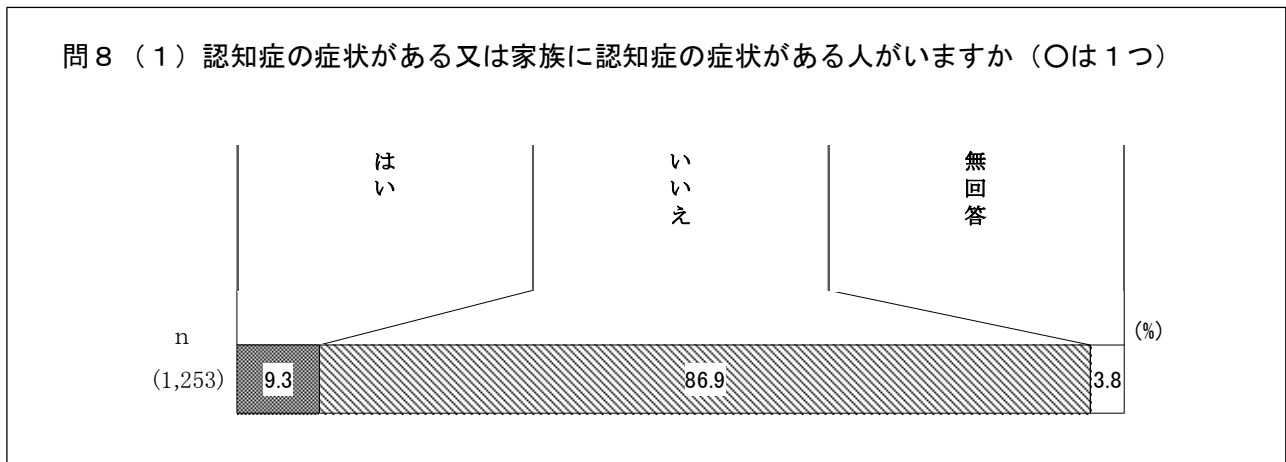
(8) 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか



現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているかをたずねたところ、「はい」が82.6%を占めており、「いいえ」は13.2%となっている。

9. 認知症等について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか



認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかをたずねたところ、「いいえ」が86.9%を占めており、「はい」は9.3%となっている。

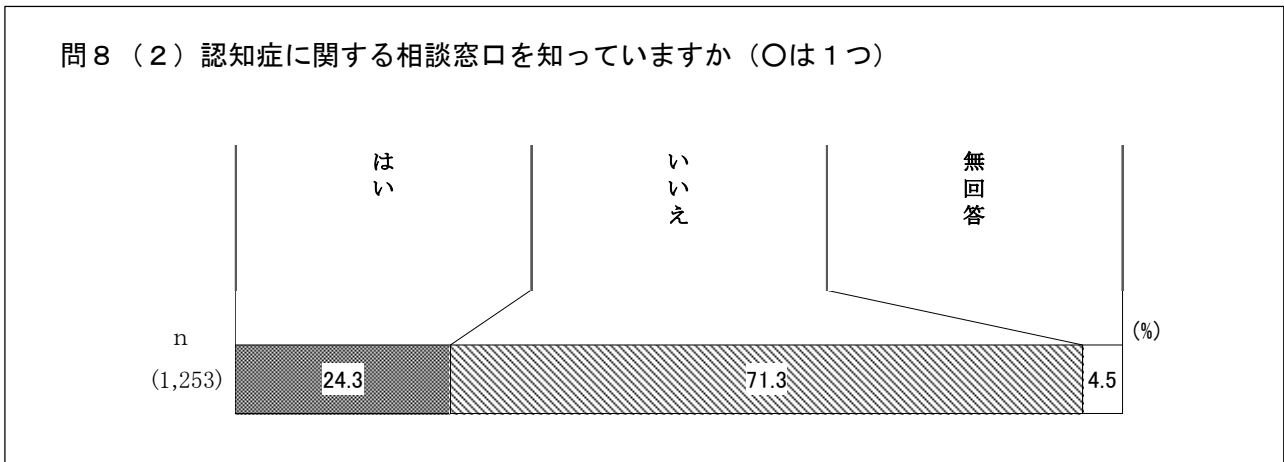
性別にみても、大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「はい」は65～69歳と80～89歳で10.0%以上となっている。

【性別・年齢別】

	調査数	はい	いいえ	無回答
全体	1,253	116	1,089	48
	100.0	9.3	86.9	3.8
性別				
男性	553	51	482	20
	100.0	9.2	87.2	3.6
女性	665	63	576	26
	100.0	9.5	86.6	3.9
年齢				
65～69歳	324	42	276	6
	100.0	13.0	85.2	1.9
70～74歳	387	25	345	17
	100.0	6.5	89.1	4.4
75～79歳	235	16	212	7
	100.0	6.8	90.2	3.0
80～84歳	176	18	148	10
	100.0	10.2	84.1	5.7
85～89歳	77	12	60	5
	100.0	15.6	77.9	6.5
90～94歳	16	1	14	1
	100.0	6.3	87.5	6.3
95～99歳	3	-	3	-
	100.0	-	100.0	-
100歳以上	-	-	-	-
	-	-	-	-
年齢				
65～74歳	711	67	621	23
	100.0	9.4	87.3	3.2
75歳以上	507	47	437	23
	100.0	9.3	86.2	4.5

(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか



認知症に関する相談窓口を知っているかをたずねたところ、「いいえ」が71.3%を占めており、「はい」は24.3%となっている。

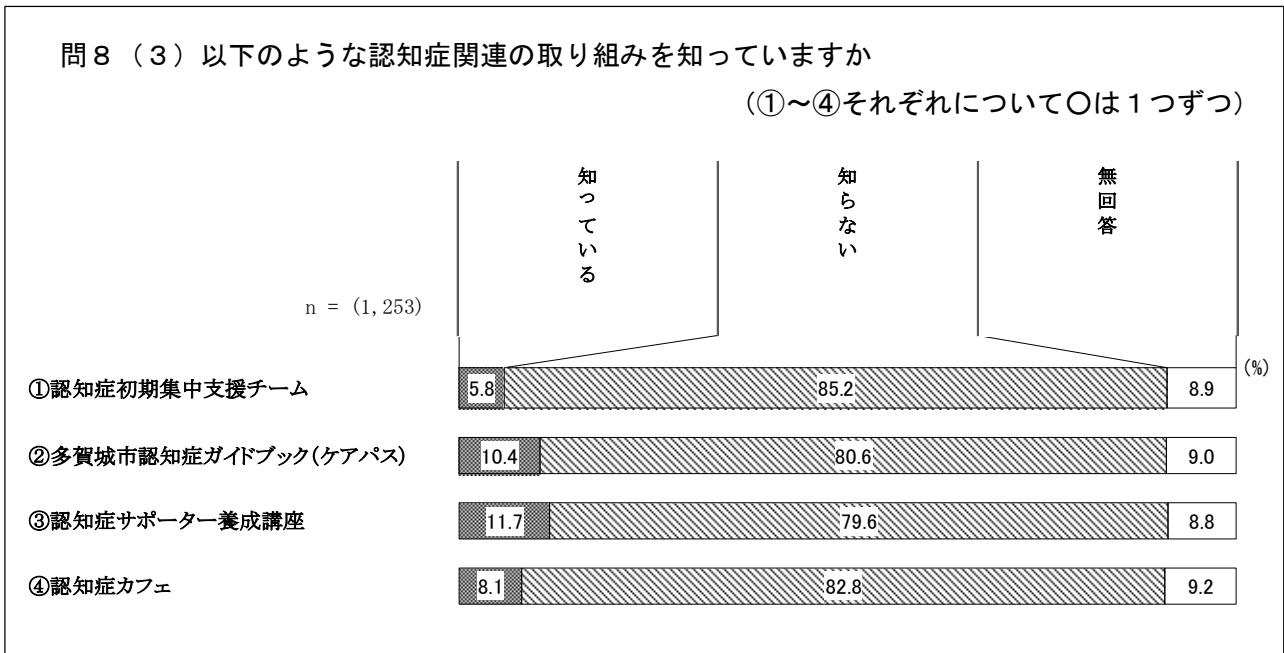
性別にみても、大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「はい」は概ね年齢が上がるにしたがって減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	はい	いいえ	無回答
上段：件数 下段：%				
全 体	1,253 100.0	304 24.3	893 71.3	56 4.5
性別				
男性	553 100.0	124 22.4	405 73.2	24 4.3
女性	665 100.0	174 26.2	462 69.5	29 4.4
年齢				
65～69歳	324 100.0	97 29.9	218 67.3	9 2.8
70～74歳	387 100.0	91 23.5	277 71.6	19 4.9
75～79歳	235 100.0	53 22.6	172 73.2	10 4.3
80～84歳	176 100.0	42 23.9	125 71.0	9 5.1
85～89歳	77 100.0	11 14.3	61 79.2	5 6.5
90～94歳	16 100.0	3 18.8	12 75.0	1 6.3
95～99歳	3 100.0	1 33.3	2 66.7	-
100歳以上	-	-	-	-
年齢				
65～74歳	711 100.0	188 26.4	495 69.6	28 3.9
75歳以上	507 100.0	110 21.7	372 73.4	25 4.9

(3) 認知症関連の取り組みの認知度



認知症関連の取り組みの認知度をたずねたところ、すべての取り組みで「知らない」が70.0%以上となっている。

認知度が高い取り組みは『③認知症サポーター養成講座』(11.7%)、『②多賀城市認知症ガイドブック(ケアパス)』(10.4%)となっており、一方、認知度が低い取り組みは『①認知症初期集中支援チーム』(5.8%)、『④認知症カフェ』(8.1%)となっている。

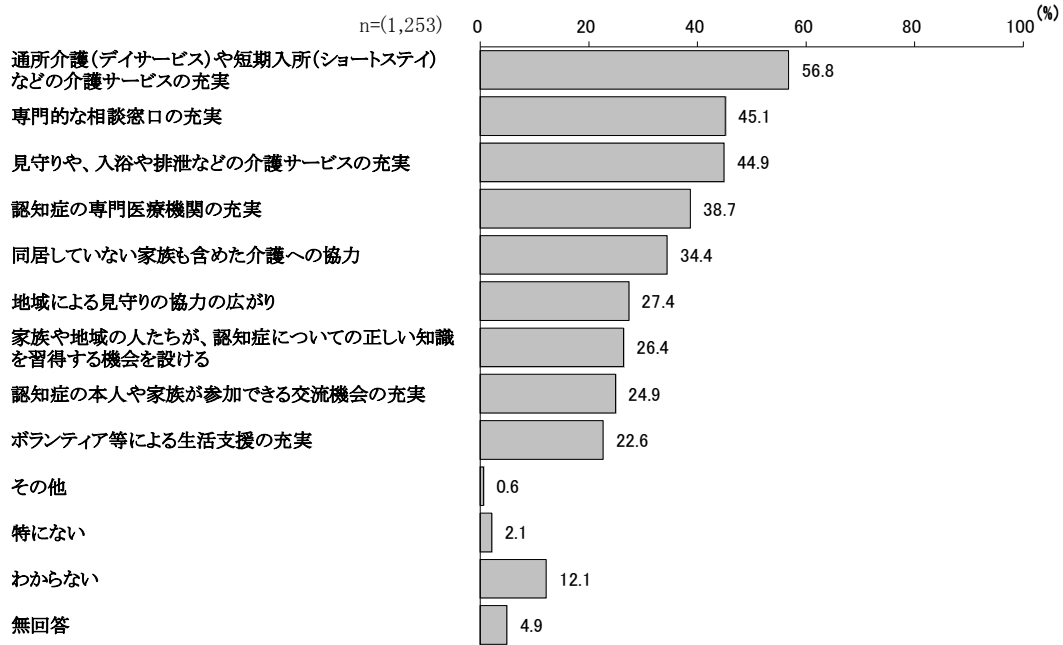
認知症関連の取り組みの認知度を性別にみると、すべての取り組みで「知っている」は女性が男性を上回っており、特に『③認知症サポーター養成講座』では7.7ポイントの違いがある。年齢別にみると、「知っている」は、概ね年齢が上がるにしたがって減少している。

【性別・年齢別】

	①認知症初期集中支援チーム				②多賀城市認知症ガイドブック (ケアパス)				③認知症サポーター養成講座				④認知症カフェ			
	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答
全体	1,253	73	1,068	112	1,253	130	1,010	113	1,253	146	997	110	1,253	101	1,037	115
	100.0	5.8	85.2	8.9	100.0	10.4	80.6	9.0	100.0	11.7	79.6	8.8	100.0	8.1	82.8	9.2
性別																
男性	553	30	482	41	553	48	462	43	553	42	469	42	553	27	480	46
	100.0	5.4	87.2	7.4	100.0	8.7	83.5	7.8	100.0	7.6	84.8	7.6	100.0	4.9	86.8	8.3
女性	665	42	554	69	665	80	517	68	665	102	497	66	665	71	527	67
	100.0	6.3	83.3	10.4	100.0	12.0	77.7	10.2	100.0	15.3	74.7	9.9	100.0	10.7	79.2	10.1
年齢																
65～69歳	324	23	287	14	324	48	260	16	324	59	250	15	324	33	275	16
	100.0	7.1	88.6	4.3	100.0	14.8	80.2	4.9	100.0	18.2	77.2	4.6	100.0	10.2	84.9	4.9
70～74歳	387	18	330	39	387	30	320	37	387	35	317	35	387	30	320	37
	100.0	4.7	85.3	10.1	100.0	7.8	82.7	9.6	100.0	9.0	81.9	9.0	100.0	7.8	82.7	9.6
75～79歳	235	14	199	22	235	25	188	22	235	24	188	23	235	17	197	21
	100.0	6.0	84.7	9.4	100.0	10.6	80.0	9.4	100.0	10.2	80.0	9.8	100.0	7.2	83.8	8.9
80～84歳	176	13	143	20	176	21	134	21	176	16	139	21	176	15	139	22
	100.0	7.4	81.3	11.4	100.0	11.9	76.1	11.9	100.0	9.1	79.0	11.9	100.0	8.5	79.0	12.5
85～89歳	77	4	62	11	77	3	62	12	77	9	57	11	77	3	61	13
	100.0	5.2	80.5	14.3	100.0	3.9	80.5	15.6	100.0	11.7	74.0	14.3	100.0	3.9	79.2	16.9
90～94歳	16	-	12	4	16	1	12	3	16	1	12	3	16	-	12	4
	100.0	-	75.0	25.0	100.0	6.3	75.0	18.8	100.0	6.3	75.0	18.8	100.0	-	75.0	25.0
95～99歳	3	-	3	-	3	-	3	-	3	-	3	-	3	-	3	-
	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢																
65～74歳	711	41	617	53	711	78	580	53	711	94	567	50	711	63	595	53
	100.0	5.8	86.8	7.5	100.0	11.0	81.6	7.5	100.0	13.2	79.7	7.0	100.0	8.9	83.7	7.5
75歳以上	507	31	419	57	507	50	399	58	507	50	399	58	507	35	412	60
	100.0	6.1	82.6	11.2	100.0	9.9	78.7	11.4	100.0	9.9	78.7	11.4	100.0	6.9	81.3	11.8

(4) あなた自身や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なもの

問8 (4) あなた自身や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なものはどれですか (〇はいくつでも)



あなた自身や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なものをたずねたところ、「通所介護(デイサービス)や短期入所(ショートステイ)などの介護サービスの充実」が56.8%と最も多く、以下「専門的な相談窓口の充実」(45.1%)、「見守りや、入浴や排泄などの介護サービスの充実」(44.9%)、「認知症の専門医療機関の充実」(38.7%)、「同居していない家族も含めた介護への協力」(34.4%)などとなっている。

性別にみると、すべての項目で女性が男性を上回っており、特に「通所介護（デイサービス）や短期入所（ショートステイ）などの介護サービスの充実」は13.3ポイントの違いがある。

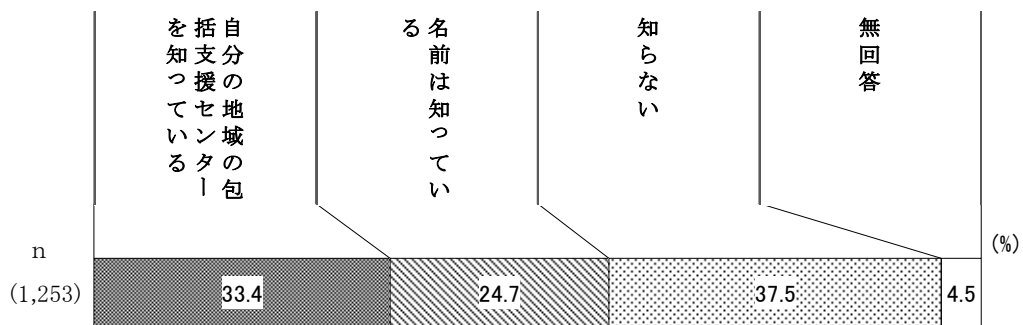
【性別・年齢別】

	調査数	な短期通所 の期入介所 の介護（（（ サ一ショイ ビストス の充実）サ ービス）や	専門的 な相 談窓 口の 充実	介見 守リ サ一 ビス の充 実	認 知 症 の 専 門 医 療 機 関 の 充 実	介 護 へ の 協 力 し て い な い 家 族 も 含 め た	広 域 に よ る 見 守 り の 協 力 の	得 る 機 会 を 設 け る	家 族 や 地 域 の 人 た ち が 、 認 知 症 に つ い て の 正 し い 知 識 を 習 知	認 知 症 の 本 人 や 家 族 が 参 加 で き る 交 流 機 会 の 充 実	ボ ラ ン テ ィ ア 等 に よ る 生 活 支 援 の 充 実	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
全 体	1,253 100.0	712 56.8	565 45.1	563 44.9	485 38.7	431 34.4	343 27.4	331 26.4	312 24.9	283 22.6	7 0.6	26 2.1	151 12.1	61 4.9		
性別																
男性	553 100.0	275 49.7	217 39.2	227 41.0	196 35.4	186 33.6	134 24.2	126 22.8	119 21.5	114 20.6	5 0.9	14 2.5	85 15.4	25 4.5		
女性	665 100.0	419 63.0	336 50.5	323 48.6	275 41.4	238 35.8	199 29.9	198 29.8	184 27.7	160 24.1	2 0.3	11 1.7	59 8.9	33 5.0		
年齢																
65～69歳	324 100.0	208 64.2	176 54.3	170 52.5	147 45.4	132 40.7	93 28.7	90 27.8	77 23.8	86 26.5	2 0.6	4 1.2	19 5.9	8 2.5		
70～74歳	387 100.0	219 56.6	159 41.1	162 41.9	149 38.5	130 33.6	121 31.3	89 23.0	95 24.5	85 22.0	2 0.5	7 1.8	47 12.1	20 5.2		
75～79歳	235 100.0	133 56.6	108 46.0	106 45.1	82 34.9	66 28.1	60 25.5	68 28.9	54 23.0	50 21.3	2 0.9	9 3.8	27 11.5	10 4.3		
80～84歳	176 100.0	91 51.7	72 40.9	72 40.9	57 32.4	65 36.9	36 20.5	52 29.5	53 30.1	35 19.9	1 0.6	2 1.1	30 17.0	14 8.0		
85～89歳	77 100.0	34 44.2	31 40.3	30 39.0	32 41.6	25 32.5	20 26.0	22 28.6	20 26.0	15 19.5	-	2 2.6	16 20.8	4 5.2		
90～94歳	16 100.0	6 37.5	4 25.0	7 43.8	2 12.5	4 25.0	2 12.5	2 12.5	1 6.3	2 12.5	-	1 6.3	5 31.3	2 12.5		
95～99歳	3 100.0	3 100.0	3 100.0	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	1 33.3	3 100.0	3 33.3	-	-	-	-		
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
年齢																
65～74歳	711 100.0	427 60.1	335 47.1	332 46.7	296 41.6	262 36.8	214 30.1	179 25.2	172 24.2	171 24.1	4 0.6	11 1.5	66 9.3	28 3.9		
75歳以上	507 100.0	267 52.7	218 43.0	218 43.0	175 34.5	162 32.0	119 23.5	145 28.6	131 25.8	103 20.3	3 0.6	14 2.8	78 15.4	30 5.9		

10. 市の高齢者福祉サービスについて

(1) 地域包括支援センターの認知状況

問9 (1) 高齢者の総合相談窓口として市内3か所に設置している地域包括支援センターを知っていますか (〇は1つ)



地域包括支援センターの認知状況をたずねたところ、「知らない」(37.5%)、「自分の地域の包括支援センターを知っている」(33.4%) がともに多く、「名前は知っている」は24.7%となっている。

性別にみると、女性は「自分の地域の包括支援センターを知っている」が39.5%で最も多く、男性を13.6ポイント上回っている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって認知度が上がっている。

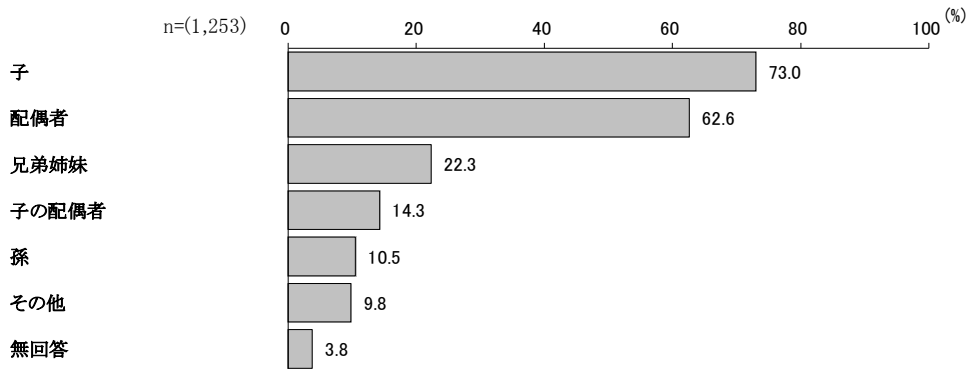
【性別・年齢別】

	調査数	自分地域の包括支援センターを知っている	名前は知っている	知らない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	1,253 100.0	418 33.4	309 24.7	470 37.5	56 4.5
性別					
男性	553 100.0	143 25.9	138 25.0	249 45.0	23 4.2
女性	665 100.0	263 39.5	162 24.4	209 31.4	31 4.7
年齢					
65～69歳	324 100.0	100 30.9	93 28.7	123 38.0	8 2.5
70～74歳	387 100.0	107 27.6	101 26.1	160 41.3	19 4.9
75～79歳	235 100.0	80 34.0	58 24.7	89 37.9	8 3.4
80～84歳	176 100.0	83 47.2	32 18.2	47 26.7	14 8.0
85～89歳	77 100.0	30 39.0	15 19.5	28 36.4	4 5.2
90～94歳	16 100.0	6 37.5	1 6.3	8 50.0	1 6.3
95～99歳	3 100.0	-	-	3 100.0	-
100歳以上	-	-	-	-	-
年齢					
65～74歳	711 100.0	207 29.1	194 27.3	283 39.8	27 3.8
75歳以上	507 100.0	199 39.3	106 20.9	175 34.5	27 5.3

(2) 家にひとりでいる時間に助けを呼ぶ場合に連絡する人

問9 (2) あなたは、家にひとりでいる時間に助けを呼ぶ場合、誰に連絡しますか

(〇はいくつでも)



家にひとりでいる時間に助けを呼ぶ場合に連絡する人をたずねたところ、「子」が73.0%と最も多く、以下「配偶者」(62.6%)、「兄弟姉妹」(22.3%)、「子の配偶者」(14.3%)、「孫」(10.5%)となっている。「その他」の回答では、友人、近所の人、親族、119番などがある。

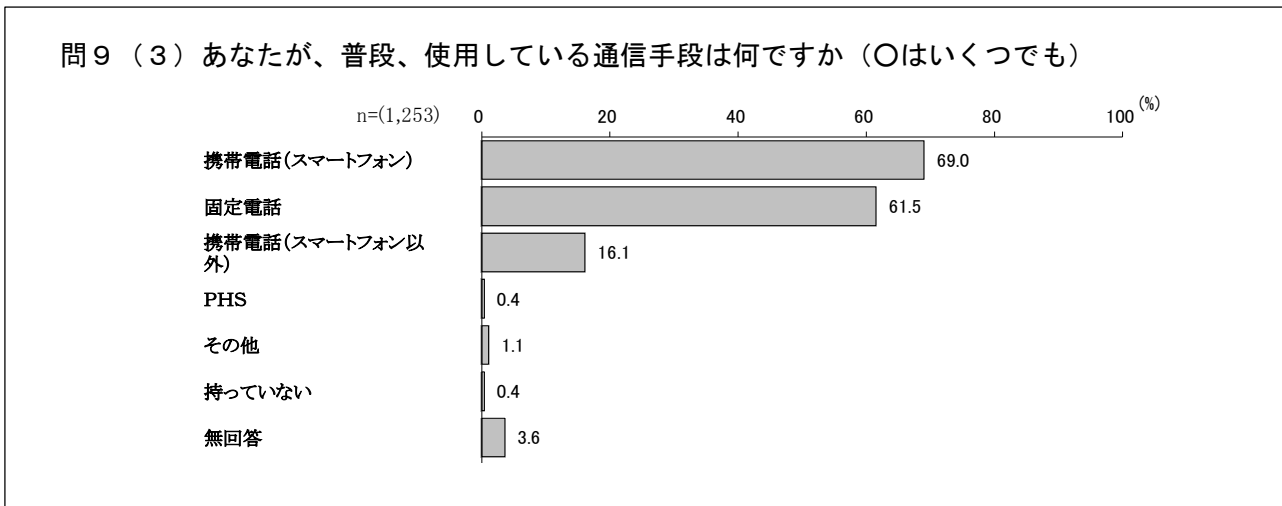
性別にみると、男性は「配偶者」が73.4%と最も多く、次いで「子」が69.3%となっているが、女性は「子」が76.7%と最も多く、次いで「配偶者」が53.1%となっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「子」が増加し、「配偶者」が減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	子	配偶者	兄弟姉妹	子の配偶者	孫	その他	無回答
全体	1,253	915	784	280	179	132	123	48
	100.0	73.0	62.6	22.3	14.3	10.5	9.8	3.8
性別								
男性	553	383	406	111	67	58	53	22
	100.0	69.3	73.4	20.1	12.1	10.5	9.6	4.0
女性	665	510	353	168	107	71	67	24
	100.0	76.7	53.1	25.3	16.1	10.7	10.1	3.6
年齢								
65～69歳	324	227	233	82	31	14	33	5
	100.0	70.1	71.9	25.3	9.6	4.3	10.2	1.5
70～74歳	387	281	272	93	50	33	43	18
	100.0	72.6	70.3	24.0	12.9	8.5	11.1	4.7
75～79歳	235	176	133	51	39	35	21	7
	100.0	74.9	56.6	21.7	16.6	14.9	8.9	3.0
80～84歳	176	135	78	34	28	26	18	10
	100.0	76.7	44.3	19.3	15.9	14.8	10.2	5.7
85～89歳	77	59	34	17	22	16	3	5
	100.0	76.6	44.2	22.1	28.6	20.8	3.9	6.5
90～94歳	16	12	7	1	2	3	2	1
	100.0	75.0	43.8	6.3	12.5	18.8	12.5	6.3
95～99歳	3	3	2	1	2	2	-	-
	100.0	100.0	66.7	33.3	66.7	66.7	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢								
65～74歳	711	508	505	175	81	47	76	23
	100.0	71.4	71.0	24.6	11.4	6.6	10.7	3.2
75歳以上	507	385	254	104	93	82	44	23
	100.0	75.9	50.1	20.5	18.3	16.2	8.7	4.5

(3) 普段、使用している通信手段



普段、使用している通信手段をたずねたところ、「携帯電話 (スマートフォン)」が 69.0%と最も多く、以下「固定電話」(61.5%)、「携帯電話 (スマートフォン以外)」(16.1%) などとなっている。

性別にみると、「固定電話」は女性が男性を上回っている。

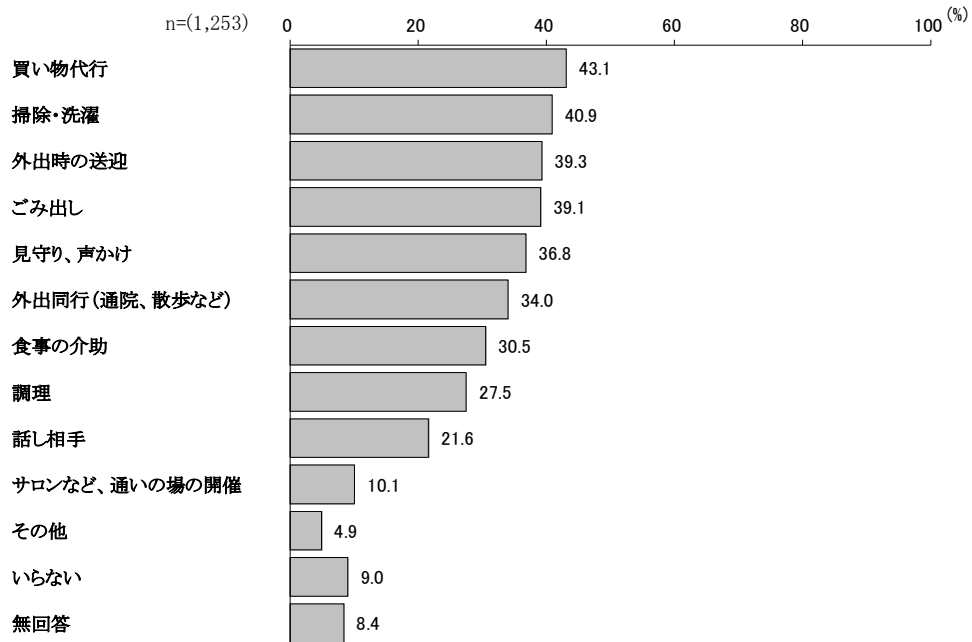
年齢別にみると、「固定電話」、「携帯電話 (スマートフォン以外)」は概ね年齢が上がるにしたがって増加しており、「携帯電話 (スマートフォン)」は 65~69 歳で 86.7%と最も多く、概ね年齢が上がるにしたがって減少している。

【性別・年齢別】

	調査数	固定電話	携帯電話(スマートフォン)	携帯電話(スマートフォン以外)	PHS	その他	持っていない	無回答
全体	1,253	770	865	202	5	14	5	45
	100.0	61.5	69.0	16.1	0.4	1.1	0.4	3.6
性別								
男性	553	321	395	92	4	10	2	21
	100.0	58.0	71.4	16.6	0.7	1.8	0.4	3.8
女性	665	428	447	106	1	4	2	22
	100.0	64.4	67.2	15.9	0.2	0.6	0.3	3.3
年齢								
65~69歳	324	166	281	33	1	2	-	5
	100.0	51.2	86.7	10.2	0.3	0.6	-	1.5
70~74歳	387	206	301	57	1	4	1	14
	100.0	53.2	77.8	14.7	0.3	1.0	0.3	3.6
75~79歳	235	162	153	39	1	2	-	8
	100.0	68.9	65.1	16.6	0.4	0.9	-	3.4
80~84歳	176	133	80	40	-	4	3	12
	100.0	75.6	45.5	22.7	-	2.3	1.7	6.8
85~89歳	77	66	24	24	1	1	-	3
	100.0	85.7	31.2	31.2	1.3	1.3	-	3.9
90~94歳	16	13	3	4	1	-	-	1
	100.0	81.3	18.8	25.0	6.3	-	-	6.3
95~99歳	3	3	-	1	-	1	-	-
	100.0	100.0	-	33.3	-	33.3	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢								
65~74歳	711	372	582	90	2	6	1	19
	100.0	52.3	81.9	12.7	0.3	0.8	0.1	2.7
75歳以上	507	377	260	108	3	8	3	24
	100.0	74.4	51.3	21.3	0.6	1.6	0.6	4.7

(4) 将来からだの自由が利かなくなった際に、地域でしてもらいたい支えあい

問9 (4) 誰もが加齢に伴い、からだは徐々におとろえますが、あなたは、ご自身が将来からだの自由が利かなくなった際に、地域でどんな支えあいをしてもらいたと思いますか
(〇はいくつでも)



将来からだの自由が利かなくなった際に、地域でしてもらいたい支えあいをたずねたところ、「買い物代行」が43.1%と最も多く、以下「掃除・洗濯」(40.9%)、「外出時の送迎」(39.3%)、「ごみ出し」(39.1%)、「見守り、声かけ」(36.8%)、「外出同行(通院、散歩など)」(34.0%)、「食事の介助」(30.5%) などとなっている。

性別にみると、「買い物代行」(男性女性ともに42.7%)と最も多く、男性は次いで「掃除・洗濯」(42.5%)、「ごみ出し」(38.0%)など家事支援の項目が上位となっているが、女性は「外出時の送迎」(40.3%)、「ごみ出し」(39.5%)などが多くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって地域でしてもらいたい支えあいは増加しているが、「買い物代行」、「サロンなど、通いの場の開催」は減少している。

家族構成別にみると、夫婦のみや息子・娘との2世帯では「外出時の送迎」、「外出同行(通院、散歩など)」が多くなっている。

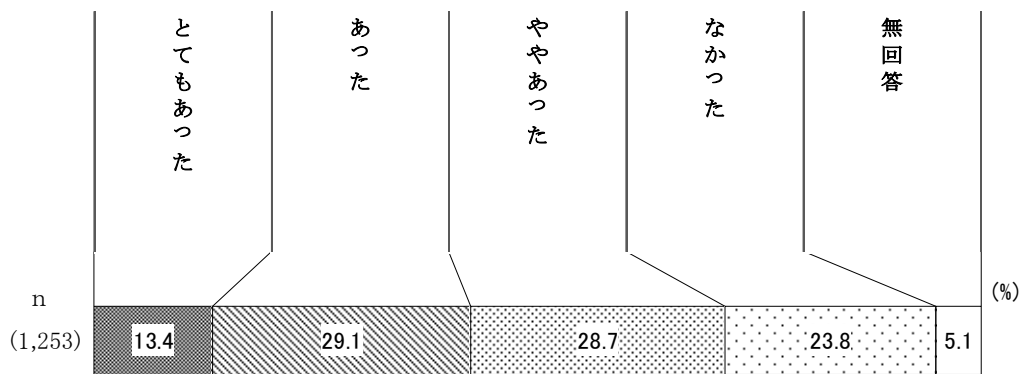
【性別・年齢別・家族構成別】

	調査数	食事の介助	調理	掃除・洗濯	買い物代行	外出同行(通院、散歩など)	ごみ出し	見守り、声かけ	のサロンなど、通いの場の開催	外出時の送迎	話し相手	その他	知らない	無回答
	上段：件数 下段：%													
全体	1,253 100.0	382 30.5	344 27.5	512 40.9	540 43.1	426 34.0	490 39.1	461 36.8	126 10.1	492 39.3	271 21.6	61 4.9	113 9.0	105 8.4
性別														
男性	553 100.0	208 37.6	155 28.0	235 42.5	236 42.7	171 30.9	210 38.0	194 35.1	40 7.2	205 37.1	117 21.2	33 6.0	61 11.0	43 7.8
女性	665 100.0	161 24.2	177 26.6	259 38.9	284 42.7	239 35.9	263 39.5	250 37.6	82 12.3	268 40.3	143 21.5	26 3.9	50 7.5	60 9.0
年齢														
65～69歳	324 100.0	91 28.1	95 29.3	138 42.6	159 49.1	103 31.8	127 39.2	113 34.9	36 11.1	120 37.0	63 19.4	17 5.2	23 7.1	20 6.2
70～74歳	387 100.0	113 29.2	93 24.0	143 37.0	159 41.1	127 32.8	138 35.7	140 36.2	42 10.9	152 39.3	74 19.1	19 4.9	44 11.4	30 7.8
75～79歳	235 100.0	69 29.4	68 28.9	95 40.4	88 37.4	80 34.0	97 41.3	100 42.6	23 9.8	89 37.9	56 23.8	12 5.1	18 7.7	18 7.7
80～84歳	176 100.0	63 35.8	50 28.4	81 46.0	80 45.5	70 39.8	78 44.3	55 31.3	17 9.7	83 47.2	41 23.3	7 4.0	14 8.0	21 11.9
85～89歳	77 100.0	26 33.8	21 27.3	29 37.7	29 37.7	24 31.2	26 33.8	29 37.7	3 3.9	24 31.2	18 23.4	3 3.9	10 13.0	10 13.0
90～94歳	16 100.0	5 31.3	3 18.8	6 37.5	3 18.8	4 25.0	5 31.3	5 31.3	1 6.3	4 25.0	6 37.5	1 6.3	2 12.5	4 25.0
95～99歳	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	-	1 33.3	2 66.7	-	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢														
65～74歳	711 100.0	204 28.7	188 26.4	281 39.5	318 44.7	230 32.3	265 37.3	253 35.6	78 11.0	272 38.3	137 19.3	36 5.1	67 9.4	50 7.0
75歳以上	507 100.0	165 32.5	144 28.4	213 42.0	202 39.8	180 35.5	208 41.0	191 37.7	44 8.7	201 39.6	123 24.3	23 4.5	44 8.7	53 10.5
問1(1) 家族構成														
1人暮らし	181 100.0	51 28.2	46 25.4	79 43.6	80 44.2	50 27.6	81 44.8	59 32.6	16 8.8	55 30.4	44 24.3	14 7.7	16 8.8	14 7.7
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	468 100.0	145 31.0	143 30.6	195 41.7	222 47.4	167 35.7	198 42.3	178 38.0	58 12.4	194 41.5	93 19.9	18 3.8	34 7.3	36 7.7
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	52 100.0	23 44.2	17 32.7	26 50.0	23 44.2	18 34.6	21 40.4	17 32.7	3 5.8	21 40.4	8 15.4	5 9.6	3 5.8	3 5.8
息子・娘との2世帯	401 100.0	114 28.4	94 23.4	146 36.4	147 36.7	131 32.7	124 30.9	144 35.9	31 7.7	160 39.9	88 21.9	17 4.2	53 13.2	37 9.2
その他	142 100.0	49 34.5	42 29.6	65 45.8	66 46.5	59 41.5	65 45.8	60 42.3	17 12.0	59 41.5	38 26.8	7 4.9	6 4.2	11 7.7

1 1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無

問 10 (1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出回数などの日常生活における変化や体力などの身体的変化、気分などの精神的変化はありましたか (○は1つ)



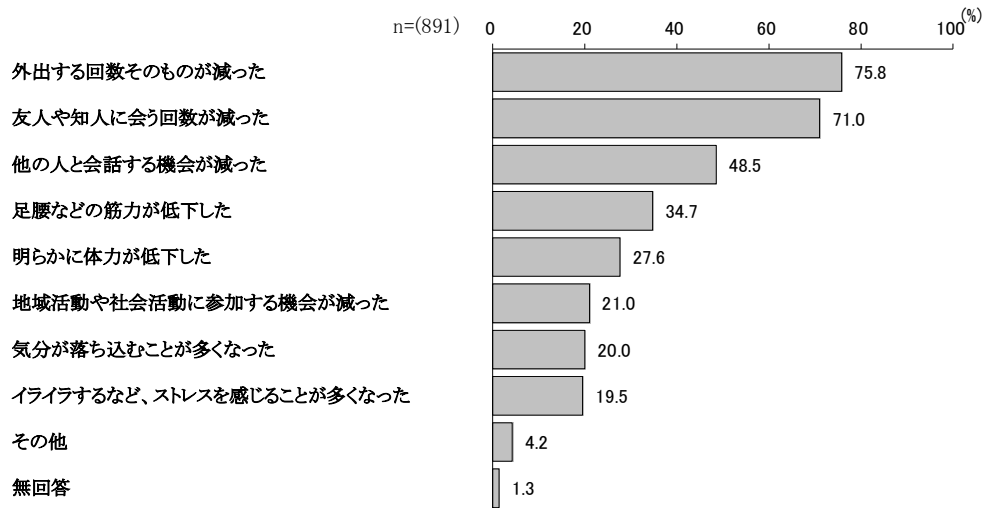
新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無をたずねたところ、「あった」(29.1%)、「ややあった」(28.7%)、「とてもあった」(13.4%)を合わせた“あった”は71.2%となっている。

一方、「なかった」は23.8%となっている。

(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容

【問10(1)で「1. とてもあった」「2. あった」「3. ややあった」と回答した方にお伺いします】

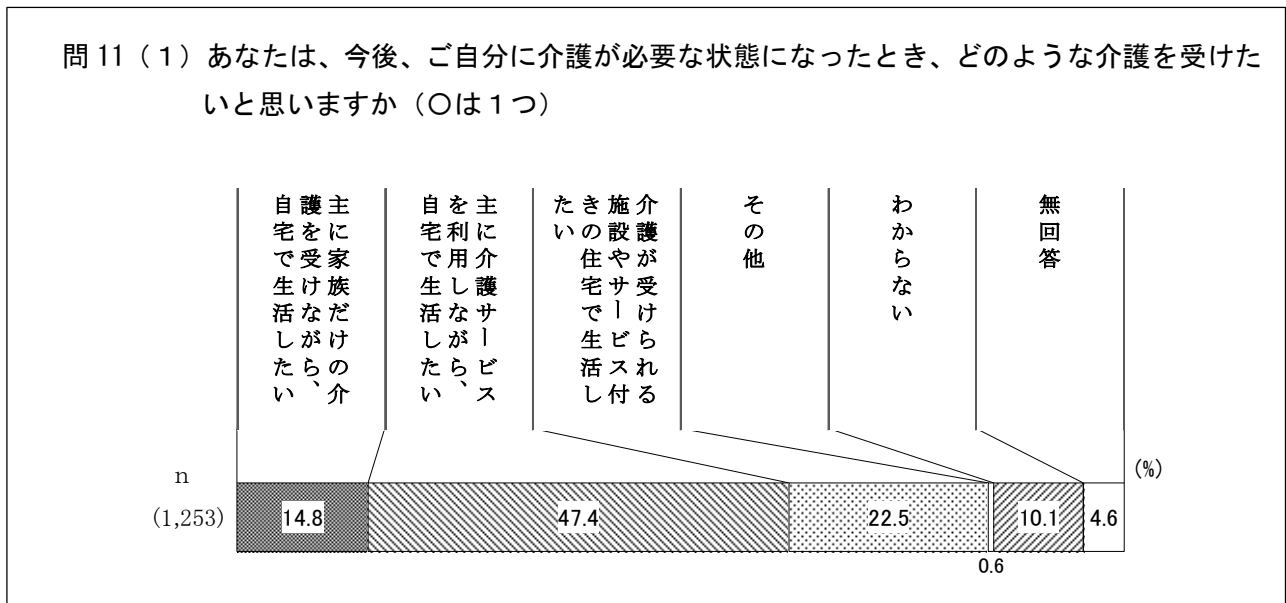
問10(2) どのような変化がありましたか (〇はいくつでも)



新型コロナウイルスの影響で起きた変化についてたずねたところ、「外出する回数そのものが減った」が75.8%と最も多く、以下「友人や知人に会う回数が減った」(71.0%)、「他の人と会話する機会が減った」(48.5%)、「足腰などの筋力が低下した」(34.7%)、「明らかに体力が低下した」(27.6%) などとなっている。

1.2. 介護保険制度について

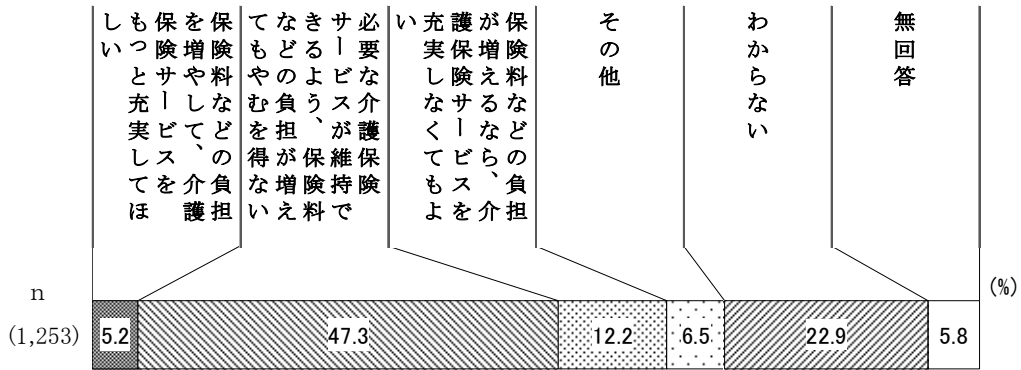
(1) 今後、自分に介護が必要な状態になったときに受けてほしい介護



今後、自分に介護が必要な状態になったときに受けてほしい介護をたずねたところ、「主に介護サービスを利用してながら、自宅で生活したい」が47.4%と最も多く、以下「介護が受けられる施設やサービス付きの住宅で生活したい」(22.5%)、「主に家族だけの介護を受けながら、自宅で生活したい」(14.8%)となっている。

(2) 必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考え

問 11 (2) 超高齢社会を迎え、本市に必要な介護保険サービスを提供できるようにするため保険料などの負担が増えることについて、あなたはどのように思いますか (〇は1つ)

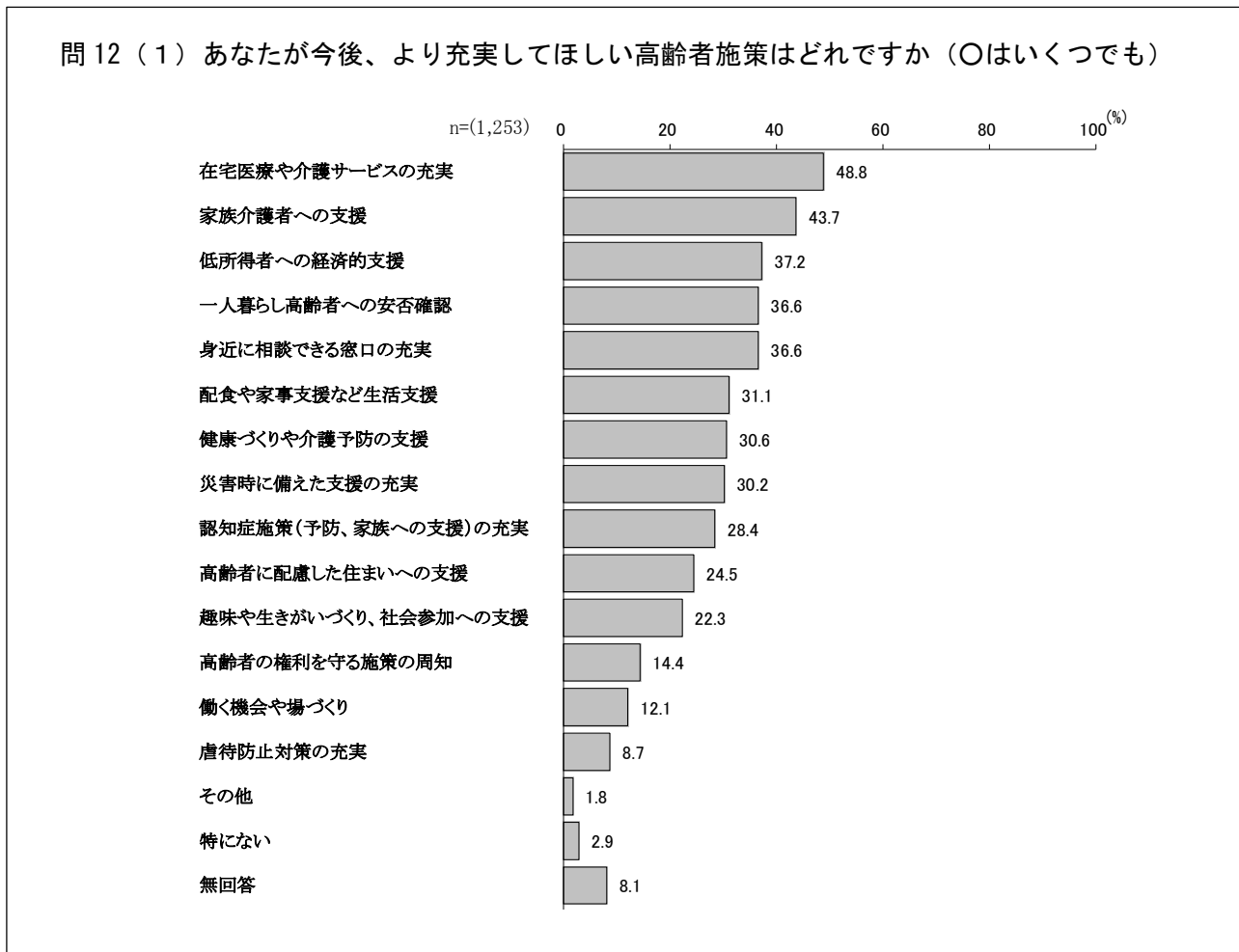


必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考えをたずねたところ、「必要な介護保険サービスが維持できるよう、保険料などの負担が増えてもやむを得ない」が47.3%と最も多く、以下「保険料などの負担が増えるなら、介護保険サービスを充実しなくてもよい」(12.2%)、「保険料などの負担を増やして、介護保険サービスをもっと充実してほしい」(5.2%)となっている。

なお、「わからない」は22.9%となっている。

1.3. 今後の施策について

(1) 今後、より充実してほしい高齢者施策



今後、より充実してほしい高齢者施策をたずねたところ、「在宅医療や介護サービスの充実」が 48.8%と最も多く、以下「家族介護者への支援」(43.7%)、「低所得者への経済的支援」(37.2%)、「一人暮らし高齢者への安否確認」「身近に相談できる窓口の充実」(ともに 36.6%)、「配食や家事支援など生活支援」(31.1%)、「健康づくりや介護予防の支援」(30.6%)、「災害時に備えた支援の充実」(30.2%) などとなっている。

性別にみると、男性は「働く機会や場づくり」、女性は「身近に相談できる窓口の充実」が多くなっている。

年齢別にみると、概ね年齢が上がるにしたがって「高齢者に配慮した住まいへの支援」、「趣味や生きがいがづくり、社会参加への支援」、「働く機会や場づくり」が減少している。

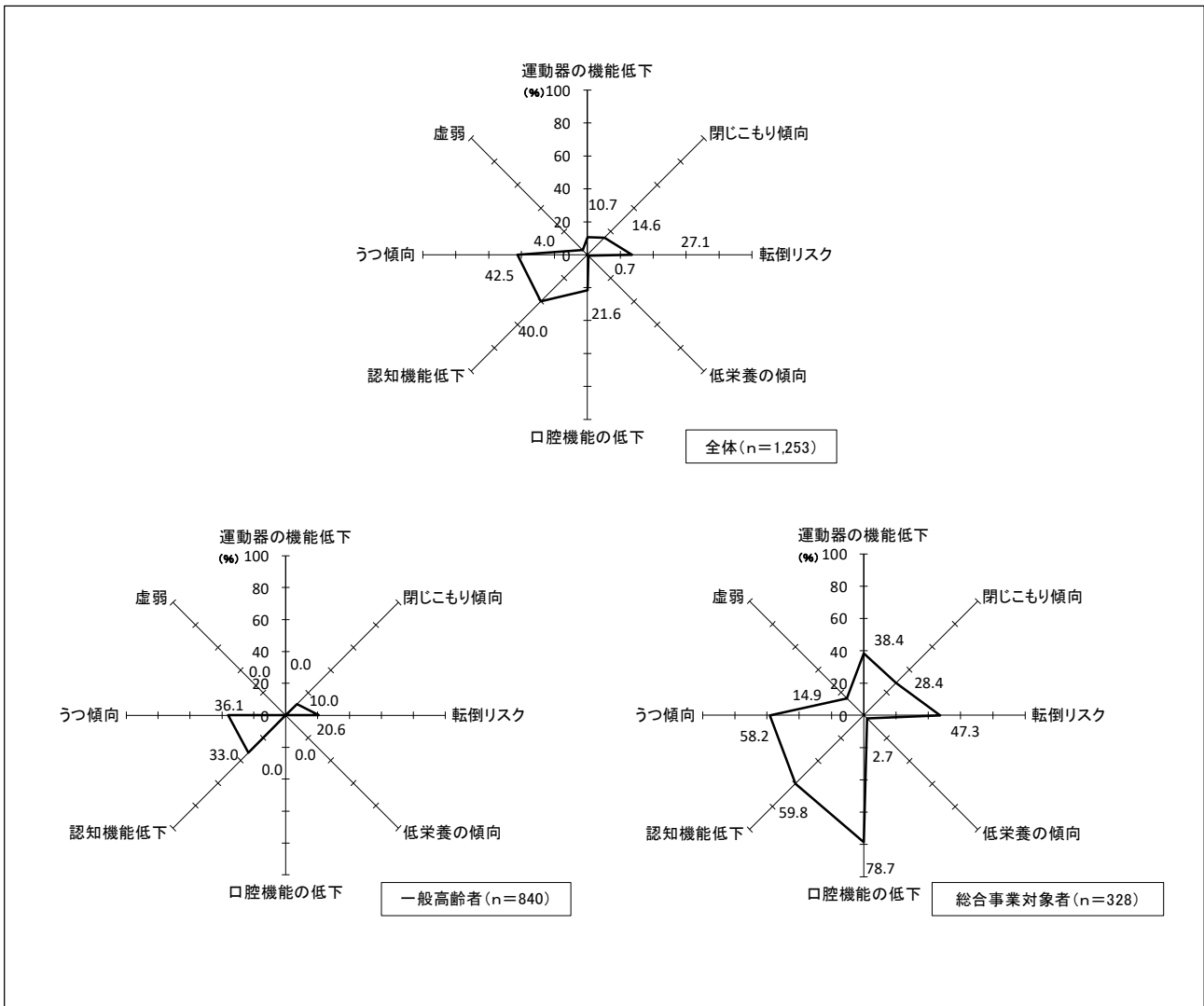
家族構成別にみると、1人暮らしでは「一人暮らし高齢者への安否確認」が最も多く、それ以外の家族と同居している世帯では「在宅医療や介護サービスの充実」、「家族介護者への支援」が多くなっている。

【性別・年齢別・家族構成別】

	調査数	在宅医療や介護サービスの充実	家族介護者への支援	低所得者への経済的支援	一人暮らし高齢者への安否確認	身近に相談できる窓口の充実	活食や家事支援など生活支援	健康づくりや介護予防の支援	災害時に備えた支援の充実	認知症施策（予防、家族への支援）の充実	高齢者に配慮した住まいへの支援	趣味や生きがいがづくり、社会参加への支援	高齢者の権利を守る施策の周知	働く機会や場づくり	虐待防止対策の充実	その他	特になし	無回答
	上段：件数 下段：%																	
全体	1,253 100.0	611 48.8	548 43.7	466 37.2	458 36.6	459 36.6	390 31.1	383 30.6	379 30.2	356 28.4	307 24.5	279 22.3	181 14.4	152 12.1	109 8.7	23 1.8	36 2.9	102 8.1
性別																		
男性	553 100.0	268 48.5	249 45.0	212 38.3	201 36.3	181 32.7	164 29.7	163 29.5	155 28.0	154 27.8	127 23.0	127 23.0	78 14.1	82 14.8	33 6.0	11 2.0	21 3.8	38 6.9
女性	665 100.0	325 48.9	285 42.9	242 36.4	245 36.8	260 39.1	215 32.3	205 30.8	209 31.4	191 28.7	174 26.2	141 21.2	95 14.3	64 9.6	71 10.7	11 1.7	14 2.1	63 9.5
年齢																		
65～69歳	324 100.0	167 51.5	150 46.3	124 38.3	107 33.0	122 37.7	103 31.8	98 30.2	98 30.2	97 29.9	107 33.0	80 24.7	46 14.2	68 21.0	30 9.3	10 3.1	7 2.2	18 5.6
70～74歳	387 100.0	181 46.8	167 43.2	137 35.4	144 37.2	134 34.6	112 28.9	110 28.4	118 30.5	93 24.0	74 19.1	92 23.8	50 12.9	50 12.9	32 8.3	4 1.0	9 2.3	36 9.3
75～79歳	235 100.0	120 51.1	106 45.1	93 39.6	96 40.9	88 37.4	74 31.5	70 29.8	72 30.6	68 28.9	53 22.6	59 25.1	38 16.2	13 5.5	19 8.1	2 0.9	6 2.6	20 8.5
80～84歳	176 100.0	84 47.7	74 42.0	74 42.0	40.3	34.1	33.5	31.8	26.7	33.0	28.4	15.3	13.1	5.7	9.1	2.3	4.0	9.1
85～89歳	77 100.0	34 44.2	30 39.0	22 28.6	20 26.0	32 41.6	25 32.5	29 37.7	22 28.6	25 32.5	14 18.2	8 10.4	13 16.9	2 2.6	5 6.5	1 1.3	5 6.5	10 13.0
90～94歳	16 100.0	5 31.3	5 31.3	2 12.5	5 31.3	3 18.8	4 25.0	3 18.8	5 31.3	3 18.8	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3
95～99歳	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	2 66.7	1 33.3	2 66.7	1 33.3	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	-	-
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢																		
65～74歳	711 100.0	348 48.9	317 44.6	261 36.7	251 35.3	256 36.0	215 30.2	208 29.3	216 30.4	190 26.7	181 25.5	172 24.2	96 13.5	118 16.6	62 8.7	14 2.0	16 2.3	54 7.6
75歳以上	507 100.0	245 48.3	217 42.8	193 38.1	195 38.5	185 36.5	164 32.3	160 31.6	148 29.2	155 30.6	120 23.7	96 18.9	77 15.2	28 5.5	42 8.3	8 1.6	19 3.7	47 9.3
問1（1）家族構成																		
1人暮らし	181 100.0	63 34.8	27 14.9	83 45.9	98 54.1	55 30.4	58 32.0	41 22.7	45 24.9	29 16.0	45 24.9	34 18.8	28 15.5	15 8.3	13 7.2	2 1.1	9 5.0	17 9.4
夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	468 100.0	246 52.6	221 47.2	168 35.9	188 40.2	187 40.2	150 32.1	135 28.8	143 30.6	134 28.6	115 24.6	119 25.4	66 14.1	62 13.2	32 6.8	12 2.6	11 2.4	30 6.4
夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	52 100.0	22 42.3	22 42.3	15 28.8	12 23.1	16 30.8	13 25.0	17 32.7	13 25.0	14 26.9	16 30.8	9 17.3	6 11.5	9 17.3	3 5.8	1 1.9	2 3.8	7 13.5
息子・娘との2世帯	401 100.0	207 51.6	200 49.9	145 36.2	107 26.7	142 35.4	117 29.2	131 32.7	127 31.7	133 33.2	88 21.9	77 19.2	63 15.7	47 11.7	42 10.5	6 1.5	11 2.7	37 9.2
その他	142 100.0	71 50.0	75 52.8	52 36.6	52 36.6	57 40.1	50 35.2	54 38.0	49 34.5	45 31.7	41 28.9	38 26.8	17 12.0	19 13.4	18 12.7	2 1.4	2 1.4	10 7.0

1.4. 生活機能判定評価について

(1) 生活機能判定評価の結果



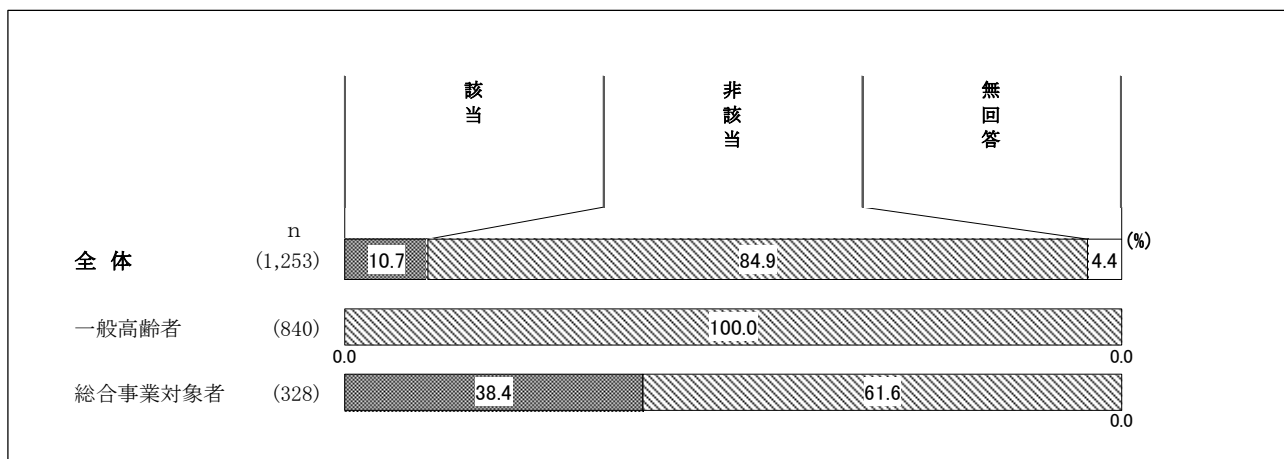
生活機能の各評価項目の該当者割合をみると、全体では、「うつ傾向」(42.5%)、「認知機能低下」(40.0%)が上位となっている。

介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は、総合事業対象者では、50%以上が該当する項目は「口腔機能の低下」(78.7%)が最も多く、以下「認知機能低下」(59.8%)、「うつ傾向」(58.2%)となっている。

一般高齢者では、「うつ傾向」(36.1%)、「認知機能低下」(33.0%)、「転倒リスク」(20.6%)の順となっており、「うつ傾向」、「認知機能低下」が総合事業対象者同様に上位となっている。

なお、一般高齢者、総合事業対象者ともに「低栄養の傾向」の該当者割合が最も低くなっている。

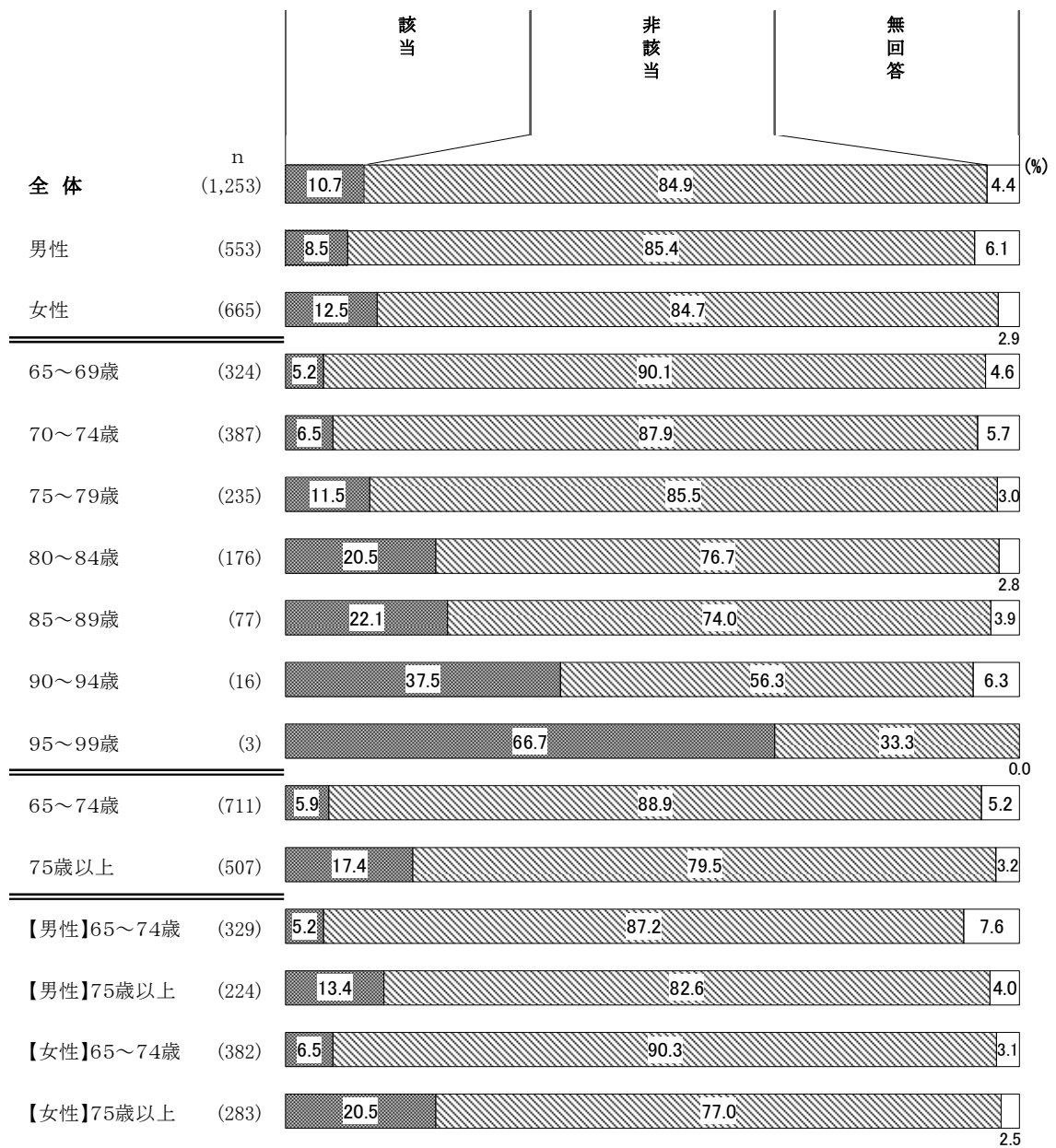
(2) 運動器の機能低下



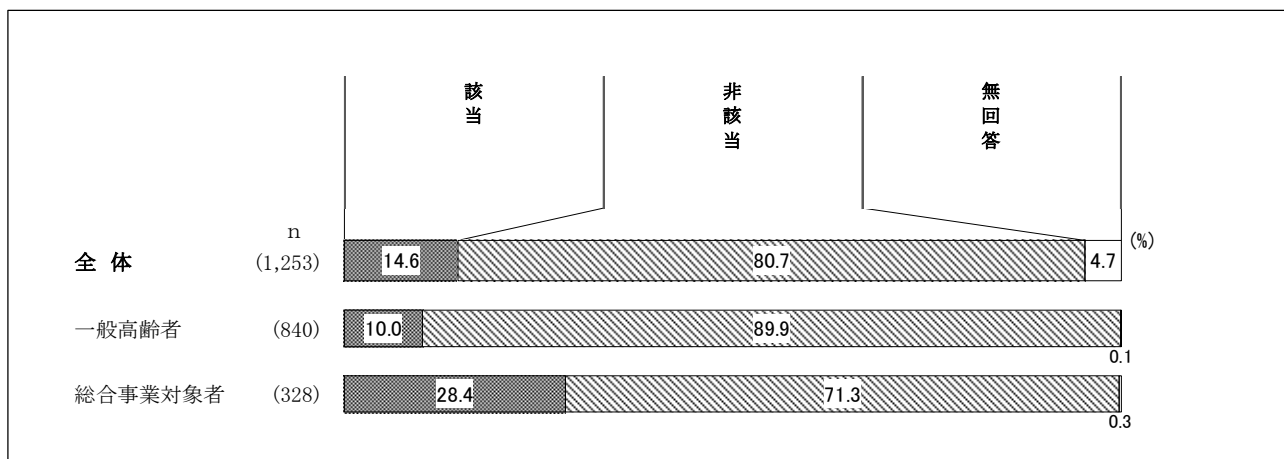
基本チェックリストに基づく運動器の機能低下の該当者割合は、全体で10.7%となっている。介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は、総合事業対象者で38.4%となっている。

該当者割合は、男性より女性が高く、年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】



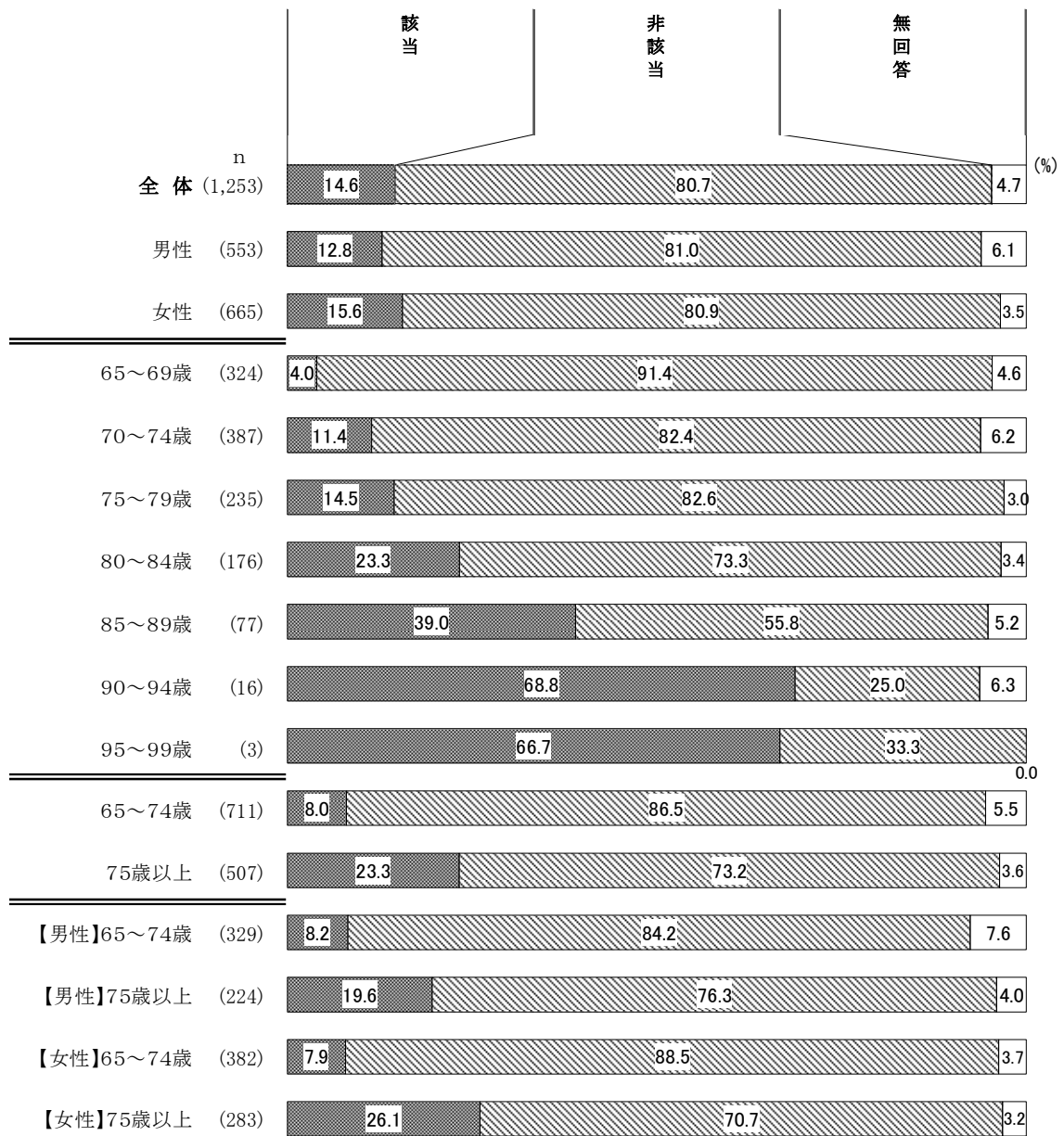
(3) 閉じこもり傾向



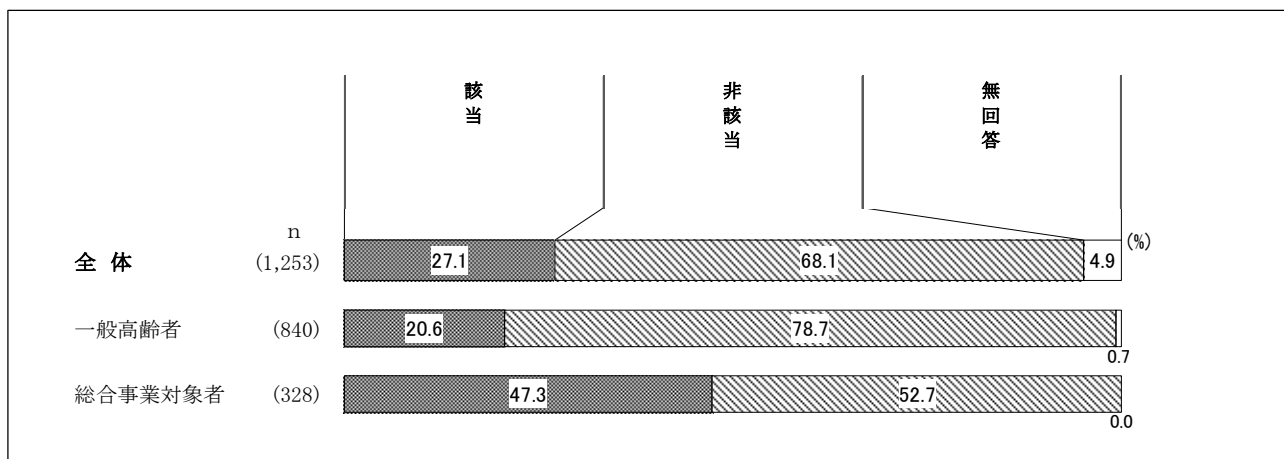
基本チェックリストに基づく閉じこもり傾向の該当者割合は、全体では14.6%となっている。介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は一般高齢者では10.0%、総合事業対象者では28.4%となっている。

該当者割合は、性別には大きな違いはみられず、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】

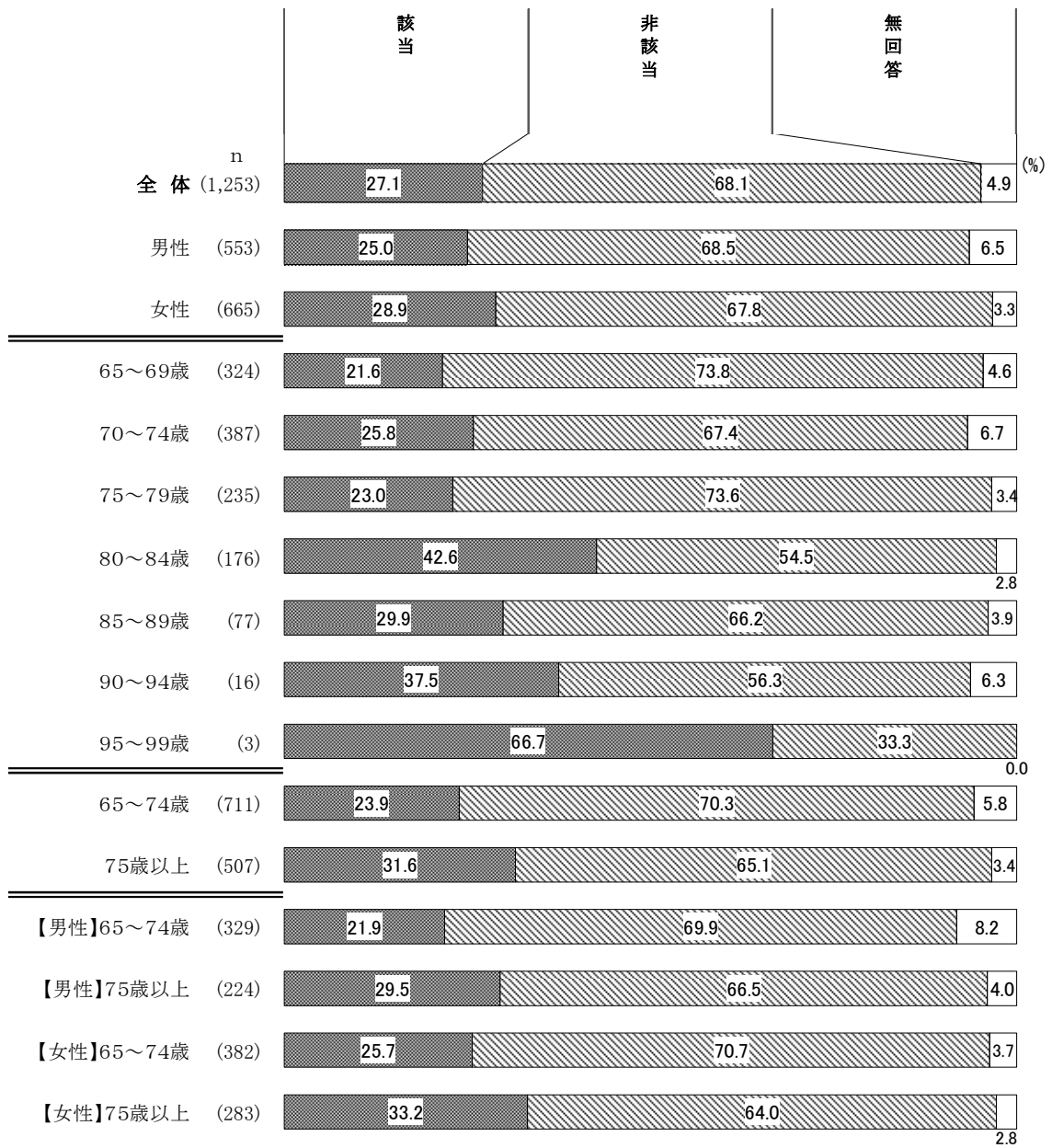


(4) 転倒リスク

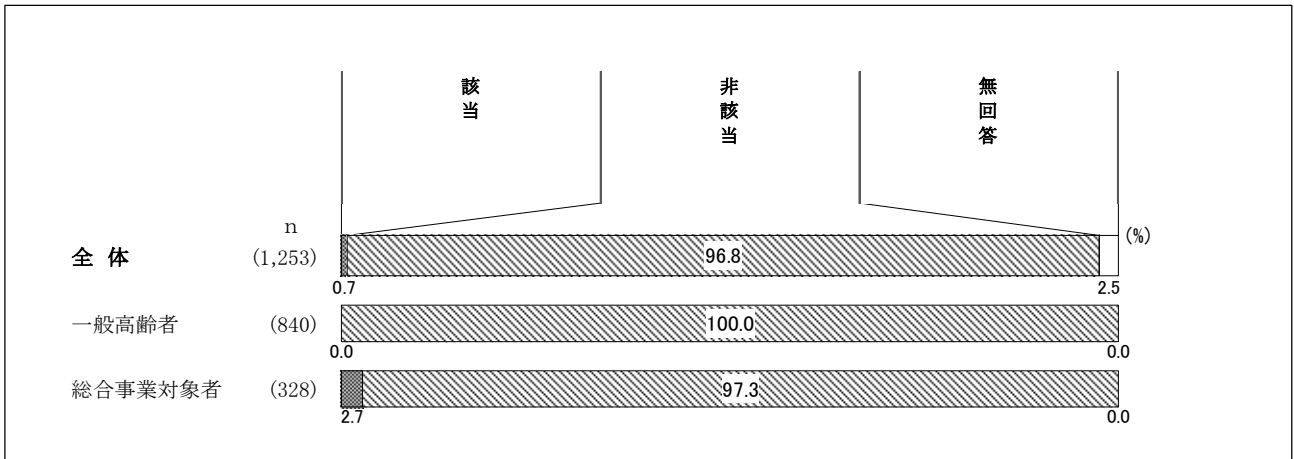


基本チェックリストに基づく転倒リスクの該当者割合は、全体では27.1%となっている。
 介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は一般高齢者では20.6%、
 総合事業対象者では47.3%となっている。
 該当者割合は、男性より女性が高く、80歳～84歳と95歳～99歳以上では40.0%以上と高
 くなっている。

【性別・年齢別・性年齢別】

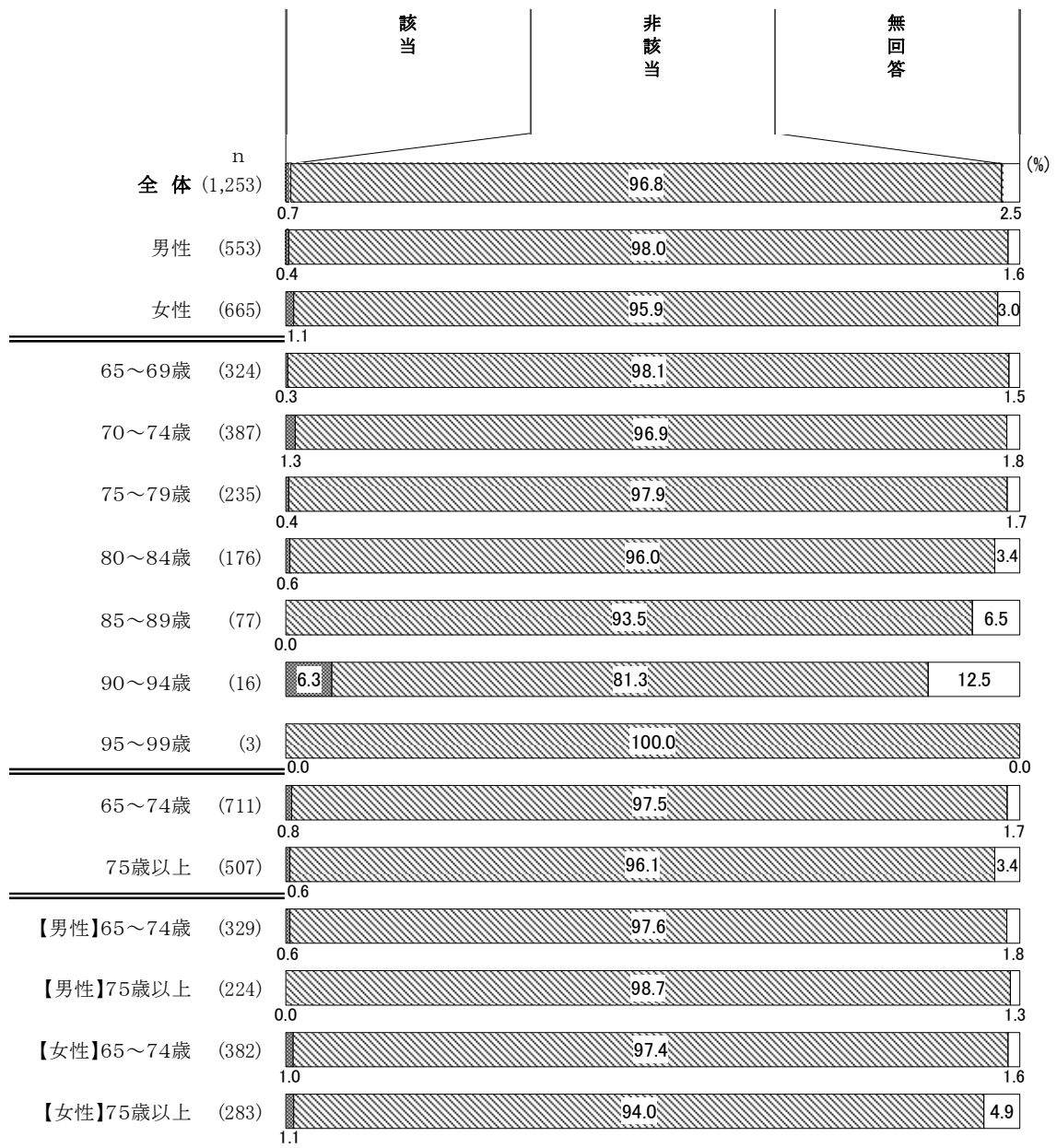


(5) 低栄養の傾向

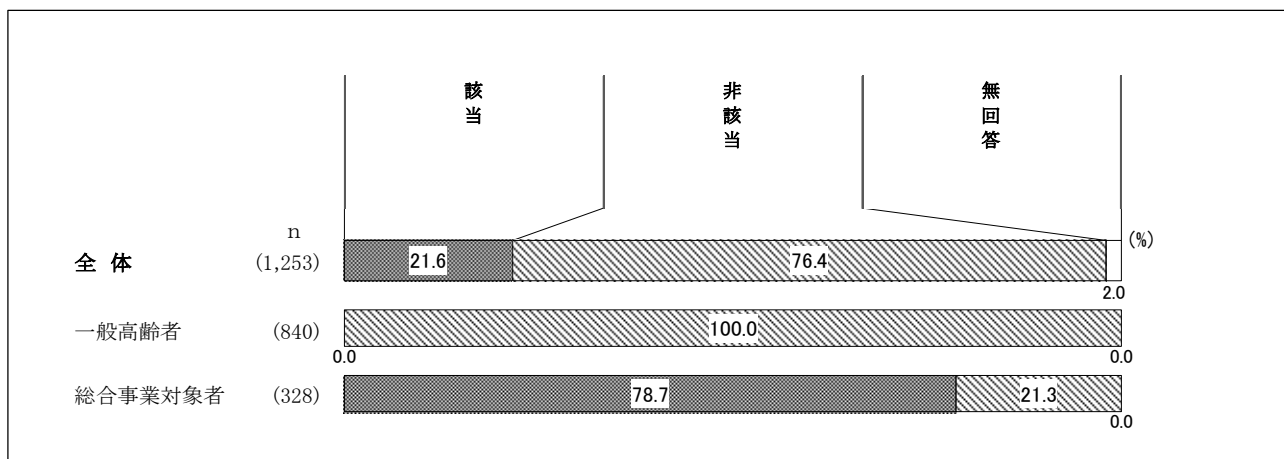


基本チェックリストに基づく低栄養の傾向の該当者割合は、全体では0.7%となっている。
 介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は総合事業対象者では2.7%となっている。
 該当者割合は、性別には大きな違いはみられず、年齢にみると90～94歳が6.3%と高くなっている。

【性別・年齢別・性年齢別】



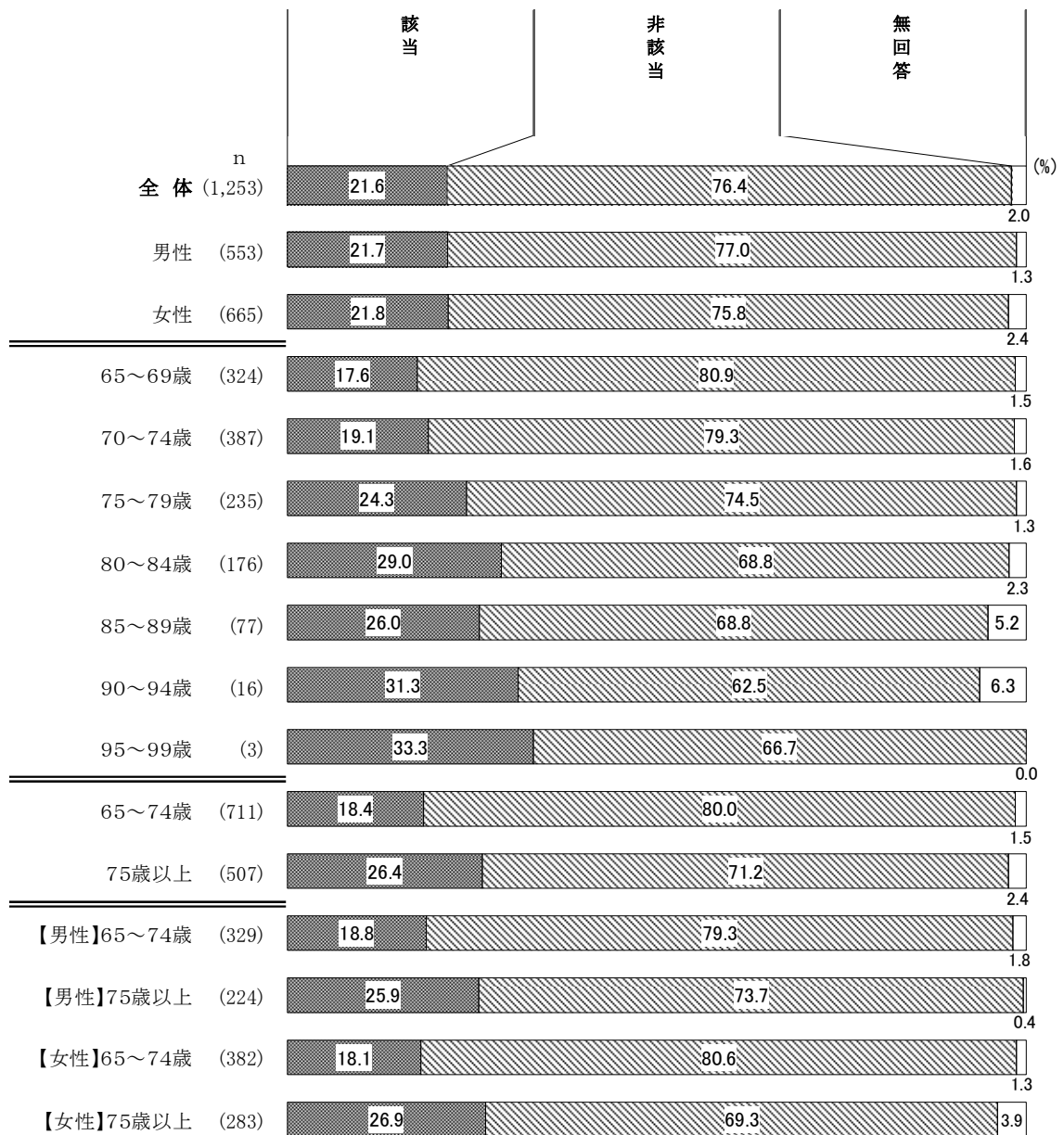
(6) 口腔機能の低下



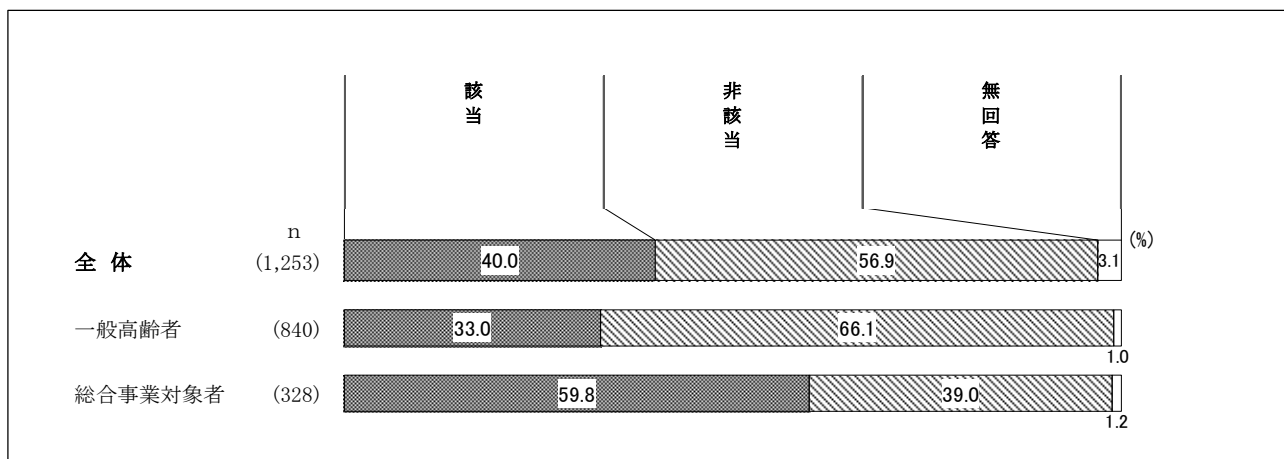
基本チェックリストに基づく口腔機能の低下の該当者割合は、全体では21.6%となっている。介護予防・日常生活支援総合事業対象別にみると、該当者割合は総合事業対象者では78.7%となっている。

該当者割合は、性別には大きな違いはみられず、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】



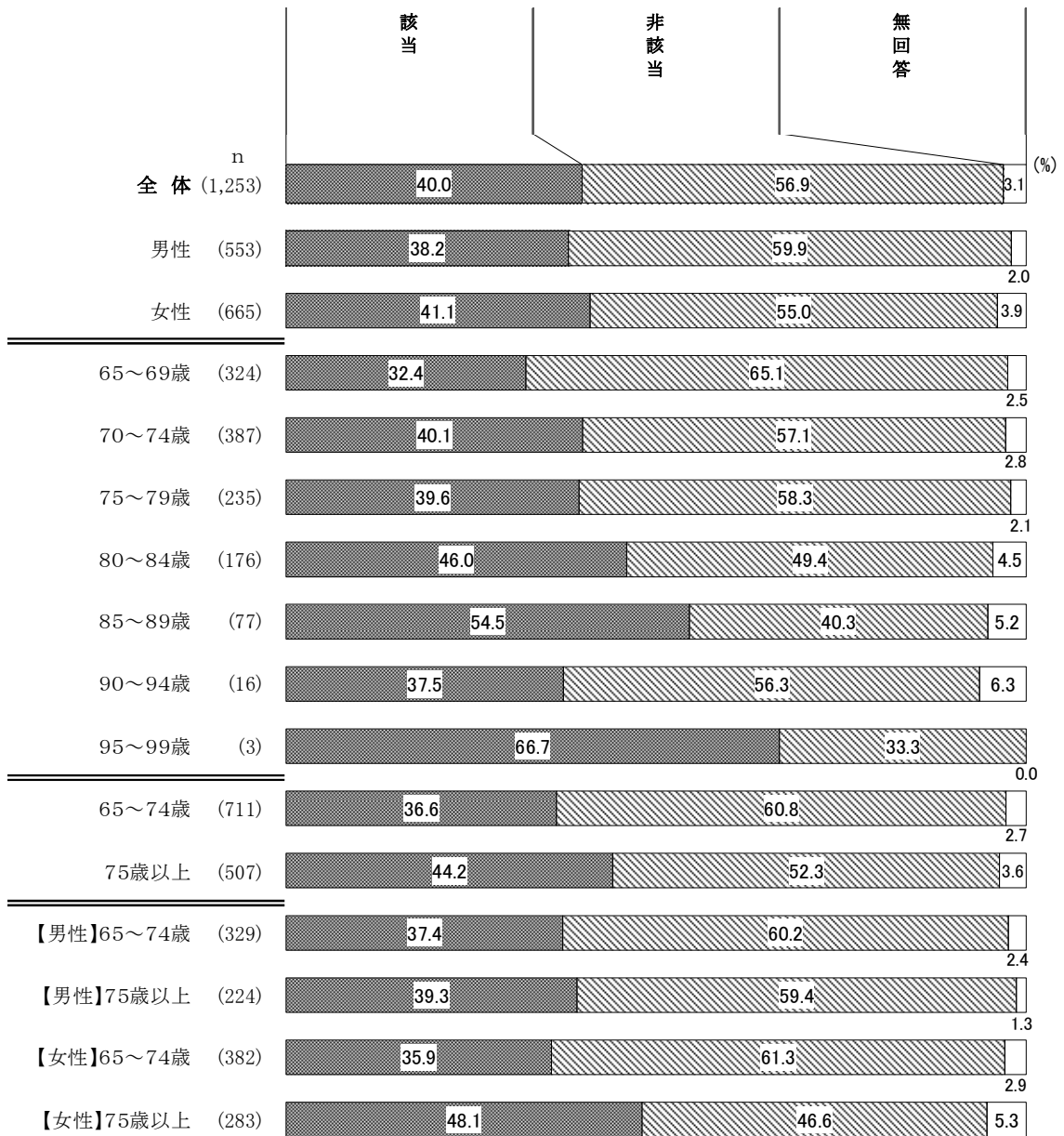
(7) 認知機能低下



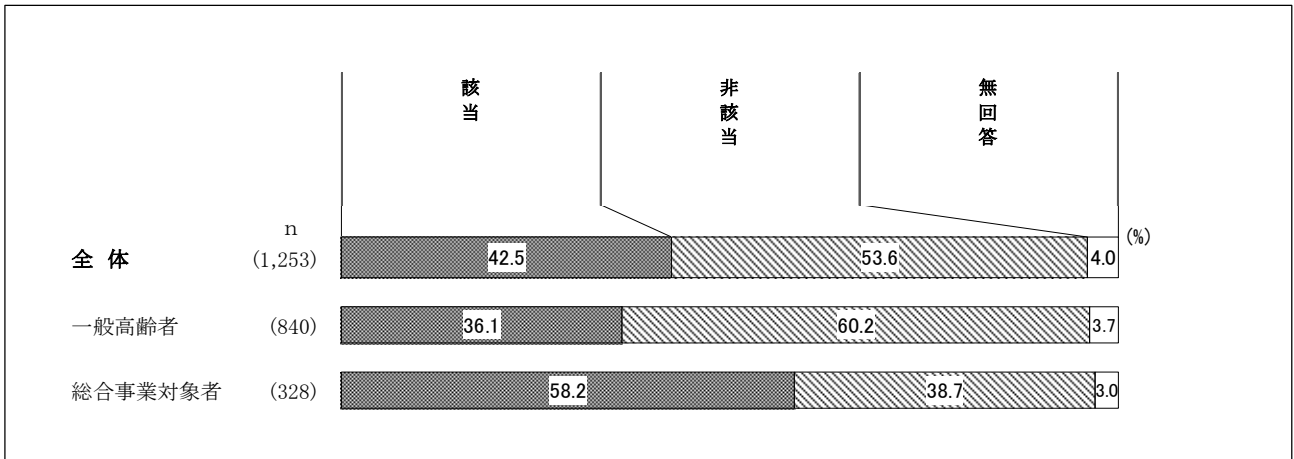
基本チェックリストに基づく認知機能低下の該当者割合は、全体では40.0%となっている。介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は一般高齢者では33.0%、総合事業対象者では59.8%となっている。

該当者割合は、性別には大きな違いはみられず、概ね年齢が上がるにしたがって増加しており、性・年齢別にみると、【女性】75歳以上では48.1%と同年代の男性を8.8ポイント上回っている。

【性別・年齢別・性年齢別】



(8) うつ傾向

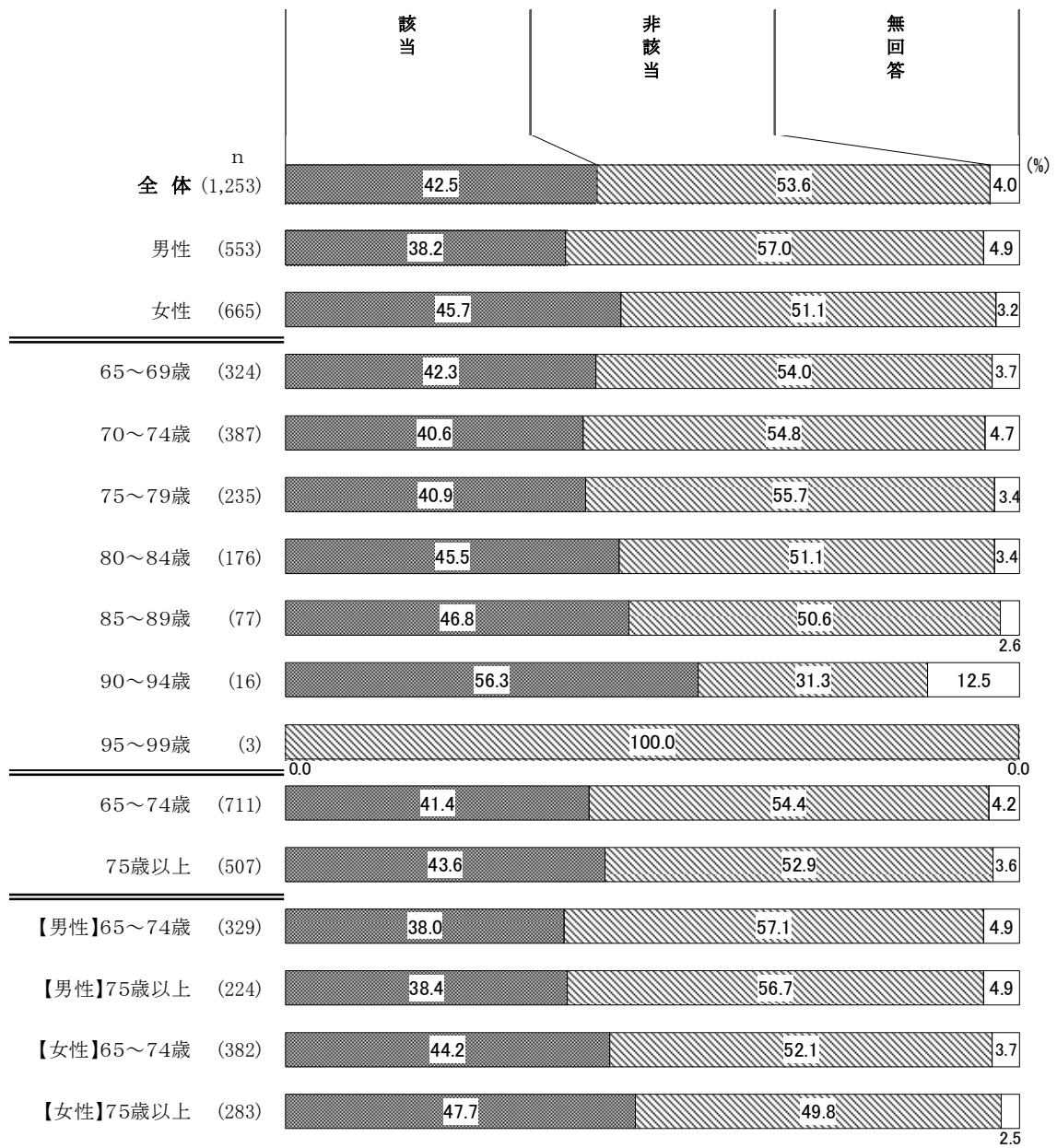


基本チェックリストに基づくうつ傾向の該当者割合は、全体では42.5%となっている。

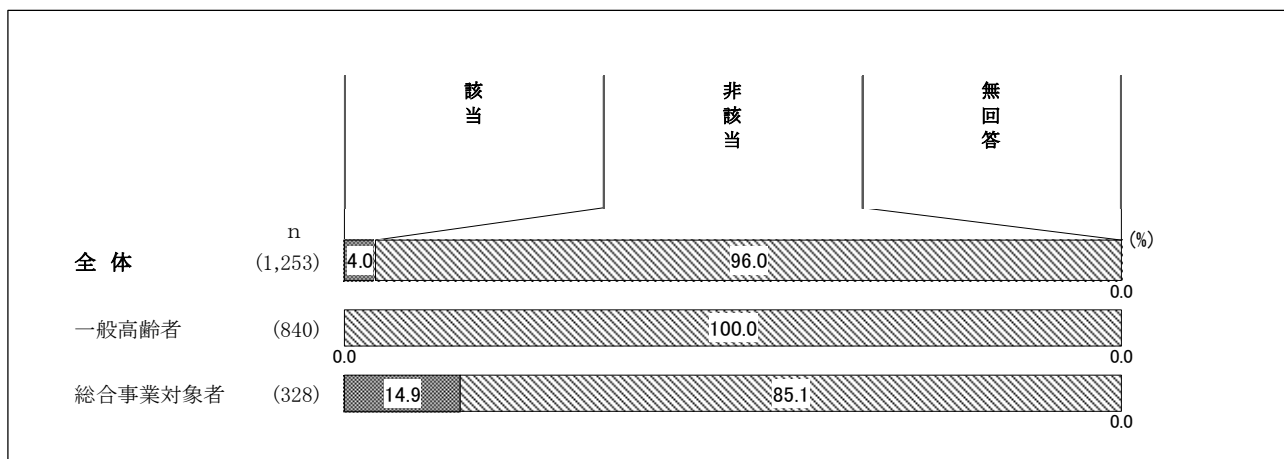
介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、該当者割合は一般高齢者では36.1%、総合事業対象者では58.2%となっている。

該当者割合は、男性より女性が高く、年齢は90～94歳が高くなっており、性・年齢別にみると【女性】75歳以上では47.7%と同年代の男性を9.3ポイント上回っている。

【性別・年齢別・性年齢別】



(9) 虚弱

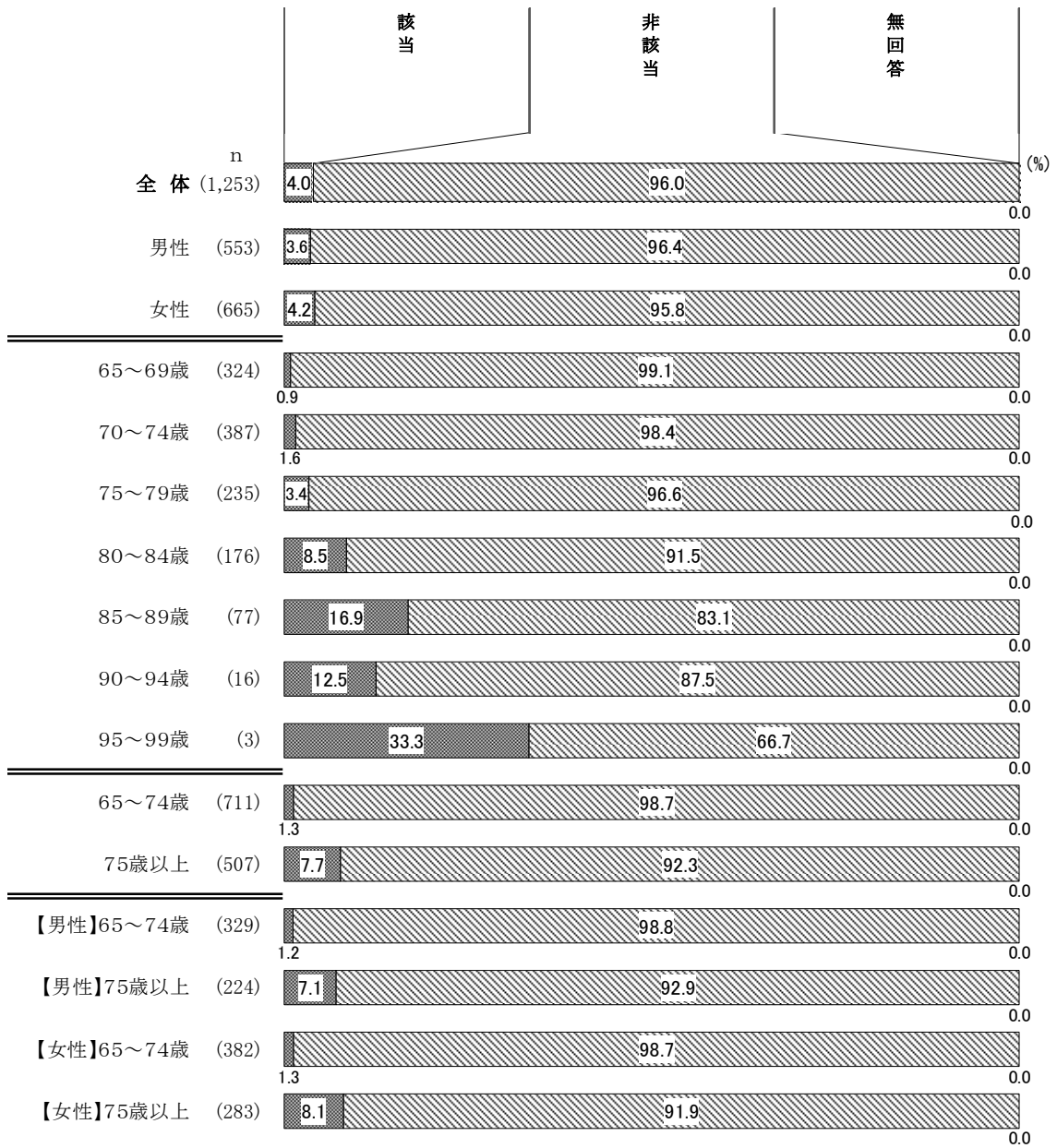


基本チェックリストに基づく虚弱の該当者割合は、全体では4.0%となっている。

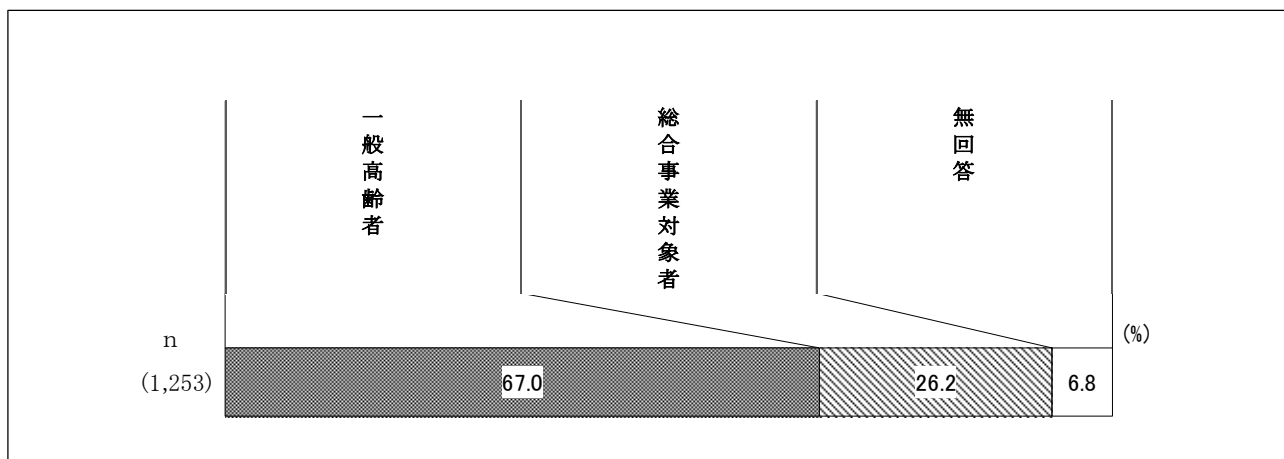
介護予防・日常生活支援総合事業対象別にみると、該当者割合は総合事業対象者で14.9%となっている。

該当者割合は、性別には大きな違いはみられず、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】



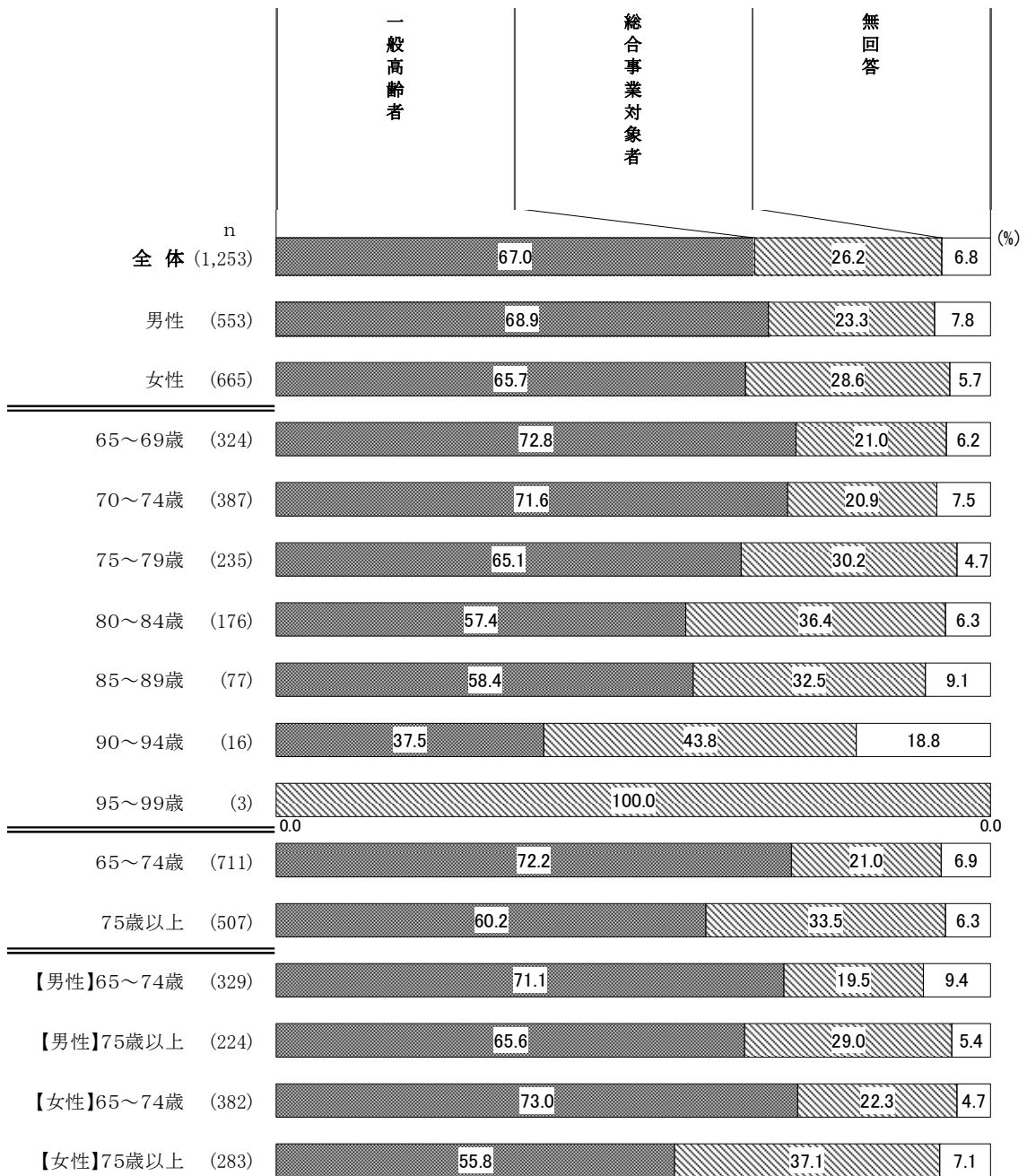
(10) 介護予防・日常生活支援総合事業対象者



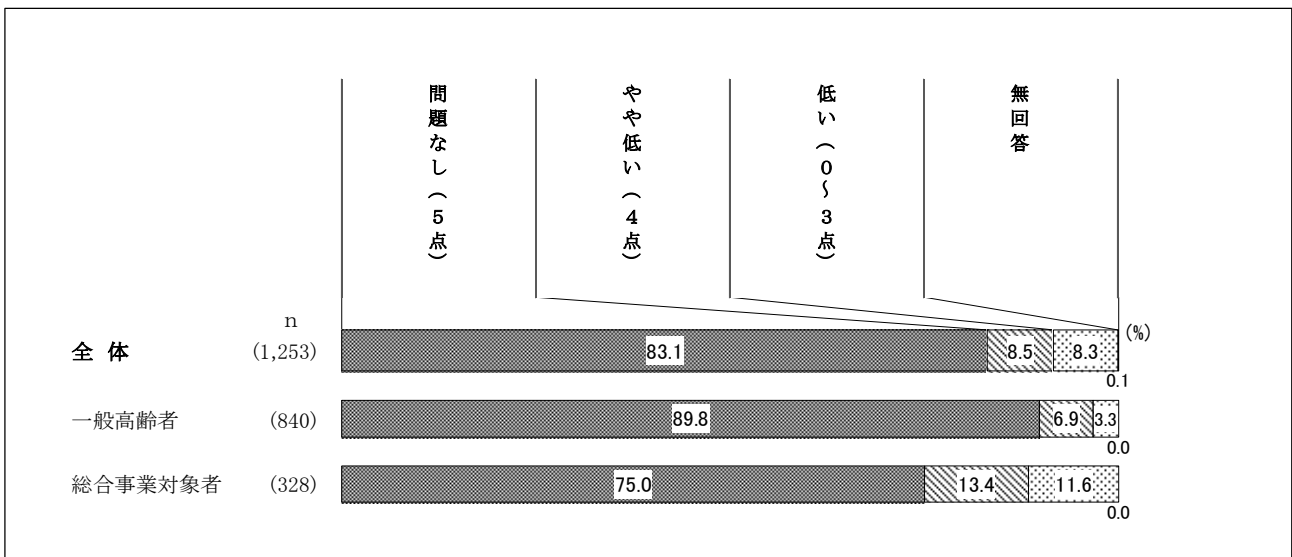
虚弱、運動器の低下、低栄養の傾向、口腔機能の低下の4つの項目すべてを判定できた回答者において、1つでも該当した場合、総合事業対象者となる。総合事業対象者割合は、全体では26.2%となっている。

該当者割合は、男性より女性が高く、概ね年齢が上がるにしたがって増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】



(11) IADL (手段的自立度)



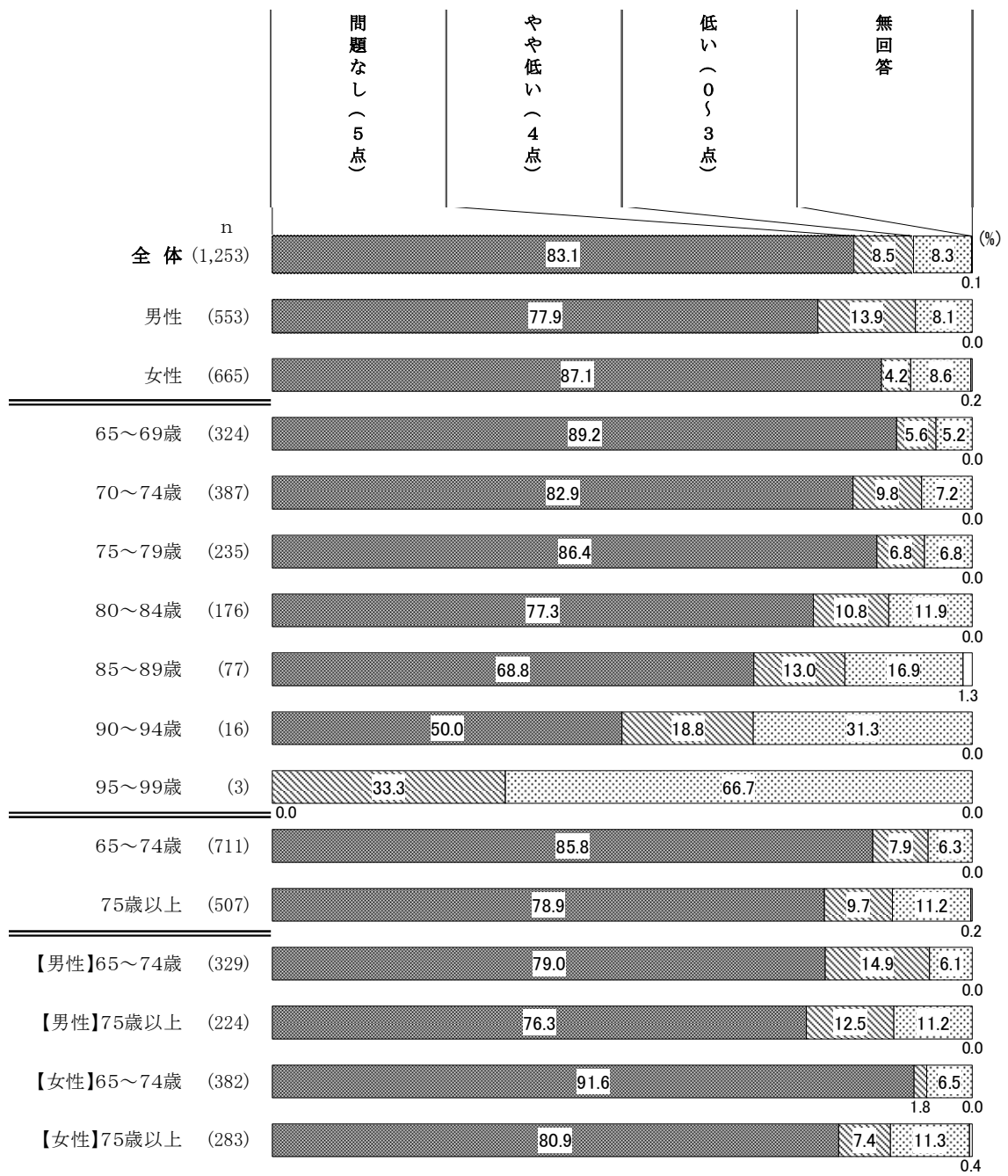
本調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられている。このうちIADL (手段的自立度) については、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で評価し、5点を「問題なし」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価している。

4点以下を低下者とした評価結果をみると、低下者割合は全体では16.8%となっている。

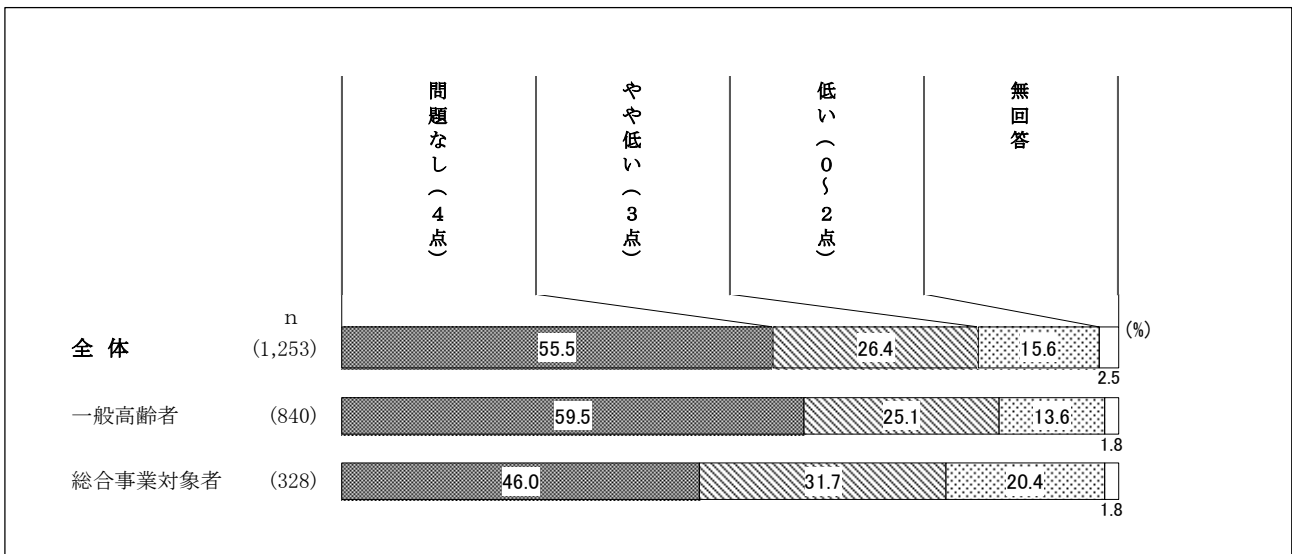
介護予防・日常生活支援総合事業対象者別にみると、低下者割合は、一般高齢者では10.2%、総合事業対象者では25.0%となっている。

低下者割合は、女性より男性が高く、概ね年齢が上がるにしたがって増加しており、性・年齢別にみると、【男性】65~74歳では21.0%と同年代の女性を12.7ポイント上回っている。

【性別・年齢別・性年齢別】



(12) 社会参加 (知的能動性)



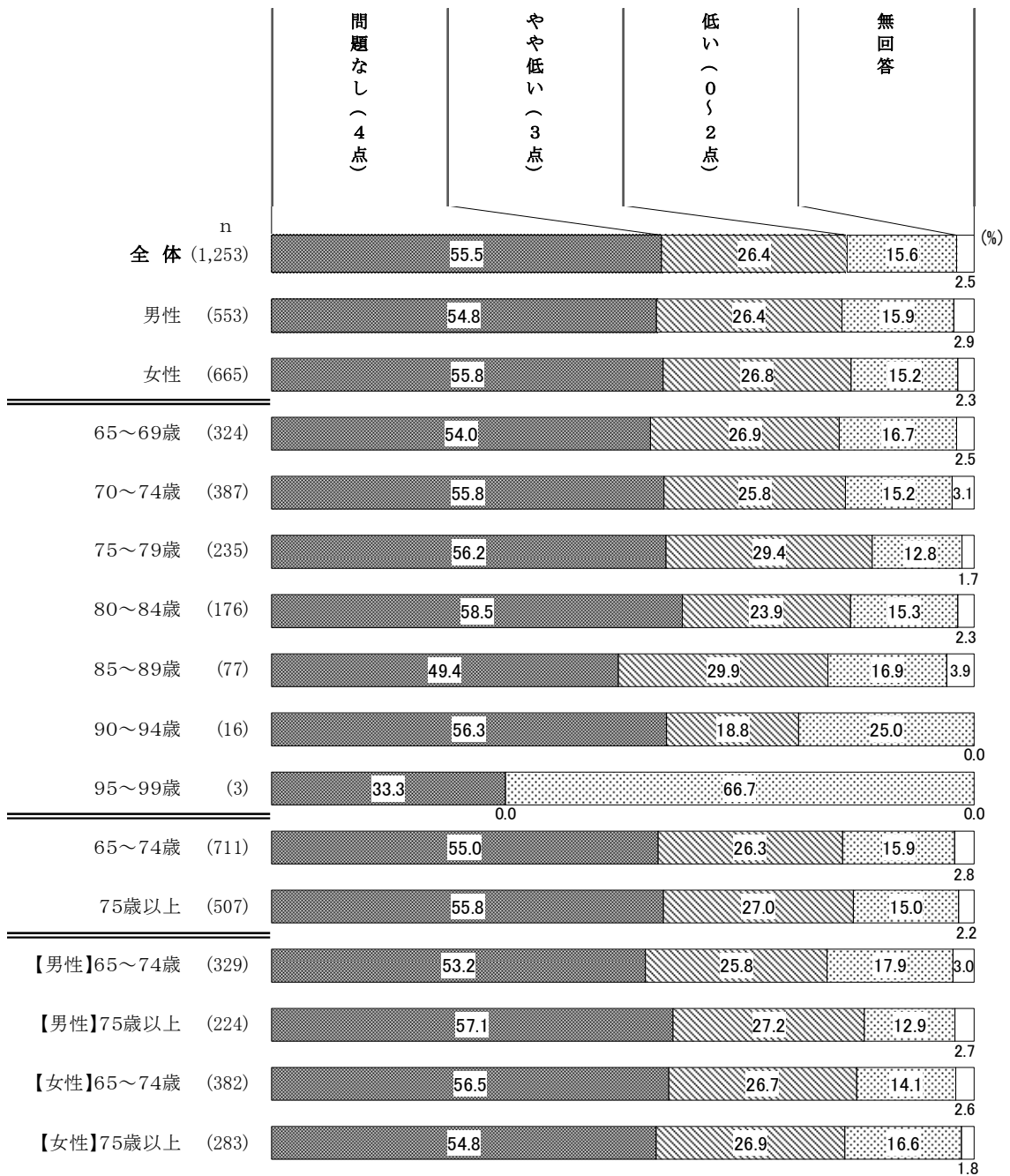
老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されている。評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「問題なし」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。

3点以下を低下者とした評価結果をみると、低下者割合は全体で42.0%となっている。

介護予防・日常生活支援総合事業対象別にみると、低下者割合は、一般高齢者では38.7%、総合事業対象者では52.1%となっている。

低下者割合は、性別では大きな違いはみられないが、85歳以上で増加している。

【性別・年齢別・性年齢別】



(13) 日常生活圏域ニーズにおける生活機能判定評価の概要

◆ 基本チェックリスト

- ・判定は「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」による。
- ・本調査における該当する設問は以下の通り。
- ・基本得点は以下の設問 19 問で該当する選択肢を回答した場合を 1 点としたときの合計点

番号	設問内容	該当する選択肢
問4 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「2. できるけどしていない」 or 「3. できない」
問4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるけどしていない」 or 「3. できない」
問4 (6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるけどしていない」 or 「3. できない」
問2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2 (3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
問2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 or 「2. やや不安である」
問3 (8)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3 (1)	身長 cm 体重 kg: BMIは18.5未満か?	「18.5未満」
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3 (5)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3 (6)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 or 「2. 週1回」
問2 (7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 or 「2. 減っている」
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4 (7)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問7 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

①虚弱 … 問2 (1) ～問2 (7)、問3 (1) (2) (5) (6) (8)、
問4 (1) (2) (3) (6) (7) の17問

②運動器の機能低下… 問2 (1) ～問2 (5)

③閉じこもり傾向 … 問2 (6)

④転倒リスク … 問2 (4)

⑤低栄養の傾向 … 問3 (1) (8)

⑥口腔機能の低下 … 問3 (2) (5) (6)

⑦認知機能低下 … 問4 (1)

⑧うつ傾向 … 問7 (3) (4)

※介護予防・日常生活支援総合事業対象者は、①虚弱、②運動器の機能低下、⑤低栄養の傾向、⑥口腔機能の低下の4つすべてを判定できた回答者を判定の対象者とし、その中でいずれかに該当した場合である。今回基本チェックリストのうち、虚弱判定の3問（友人の家を訪ねる、家族や友人の相談にのる、自分で電話番号を調べて電話をかける）は設計検討で割愛しているため17要素で判定している。

◆ その他の判定・評価

①老研指数（IADL（手段的自立度））

番号	設問内容	選択肢
問4 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか （自家用車でも可）	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」 : 1点
問4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4 (4)	自分で食事の用意をしていますか	
問4 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4 (6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

5点：問題なし 4点：やや低い 0～3点：低い

②老研指数（社会参加（知的能動性））

番号	設問内容	選択肢
問4 (8)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」：1点
問4 (9)	新聞を読んでいますか	
問4 (10)	本や雑誌を読んでいますか	
問4 (11)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

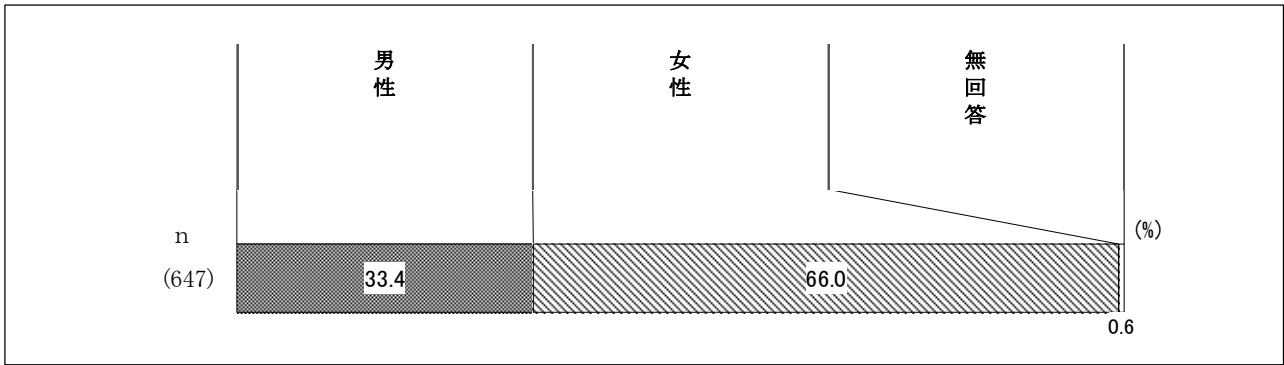
第2部 調査結果の分析

第2章 在宅介護実態調査

第2章 在宅介護実態調査

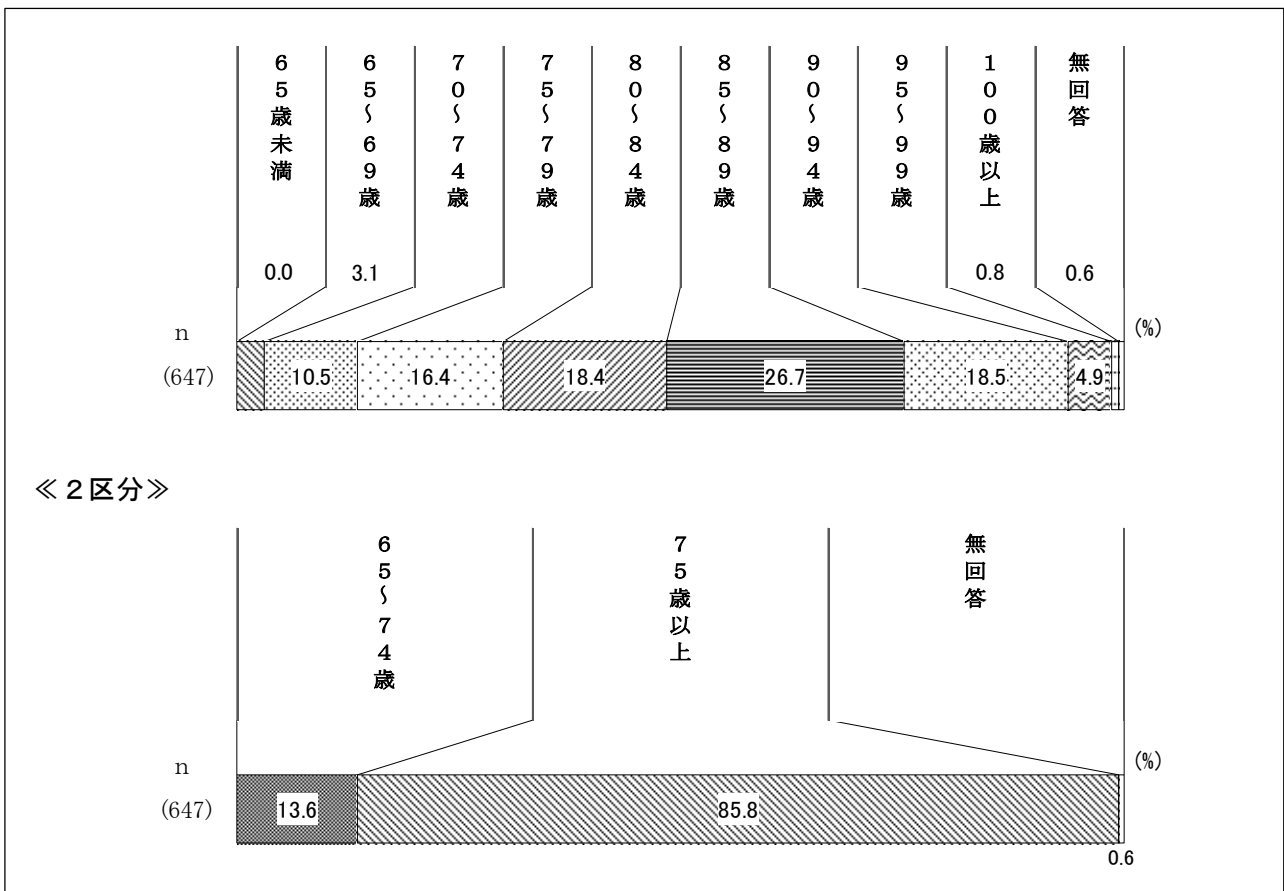
1. 回答者の属性について

(1) 回答者の性別



性別は、「女性」が66.0%となっており、「男性」(33.4%)を上回っている。

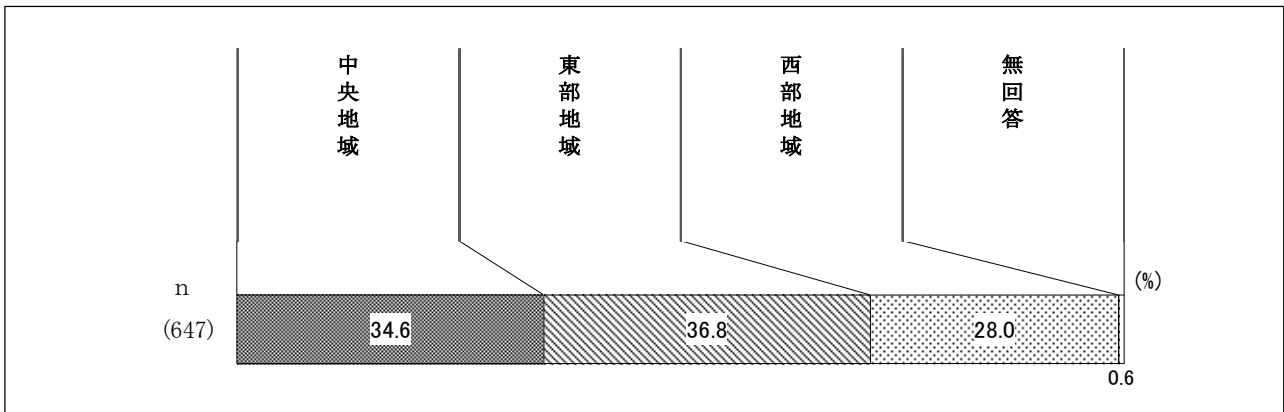
(2) 回答者の年齢



年齢は、「85～89歳」が26.7%と最も多く、以下「90～94歳」(18.5%)、「80～84歳」(18.4%)、「75～79歳」(16.4%)、「70～74歳」(10.5%) などとなっている。

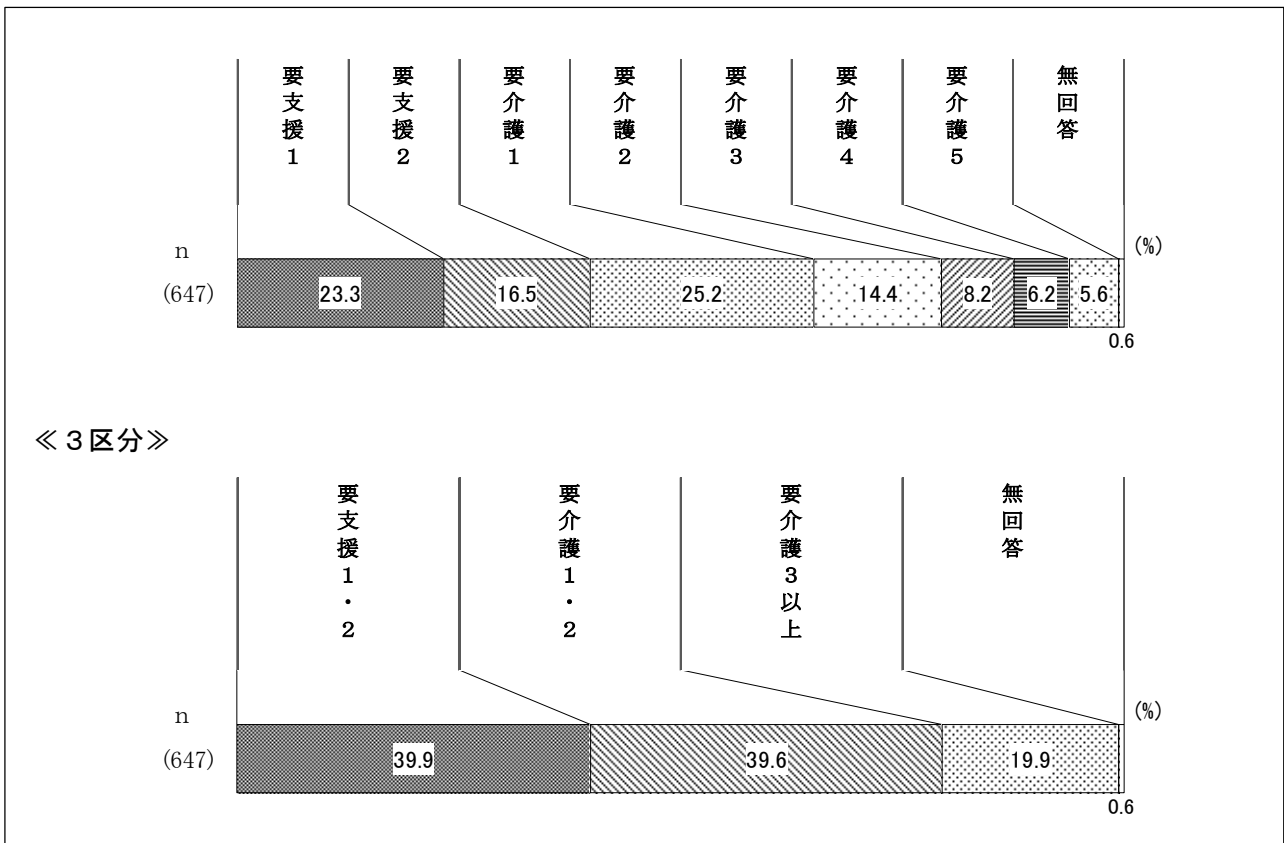
年齢<<2区分>>は、「75歳以上」が85.8%を占めており、「65～74歳」は13.6%となっている。

(3) 回答者の居住地



居住地は、「中央地域」が34.6%、「東部地域」が36.8%、「西部地域」が28.0%となっている。

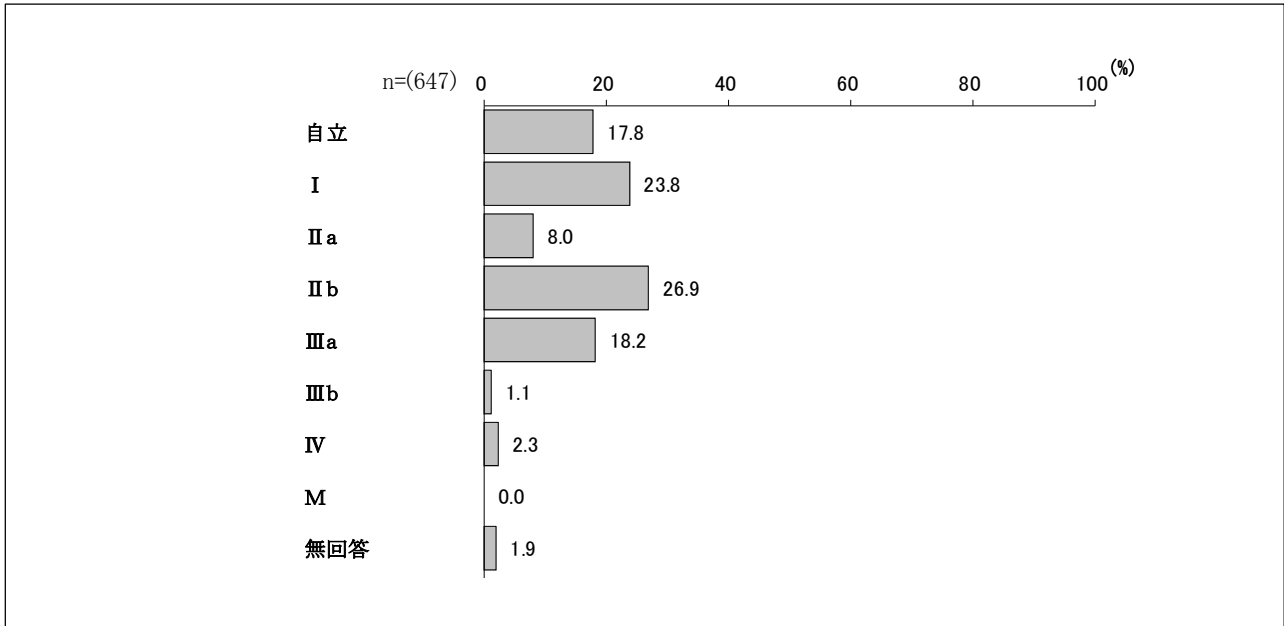
(4) 回答者の要介護度



回答者の要介護度は、「要介護 1」が25.2%と最も多く、以下「要支援 1」(23.3%)、「要支援 2」(16.5%)、「要介護 2」(14.4%)、「要介護 3」(8.2%) などとなっている。

要介護度 < 3区分 > では、「要支援 1・2」(39.9%)、「要介護 1・2」(39.6%) がともに多く、「要介護 3以上」は19.9%となっている。

(5) 回答者の認知症高齢者の日常生活自立度



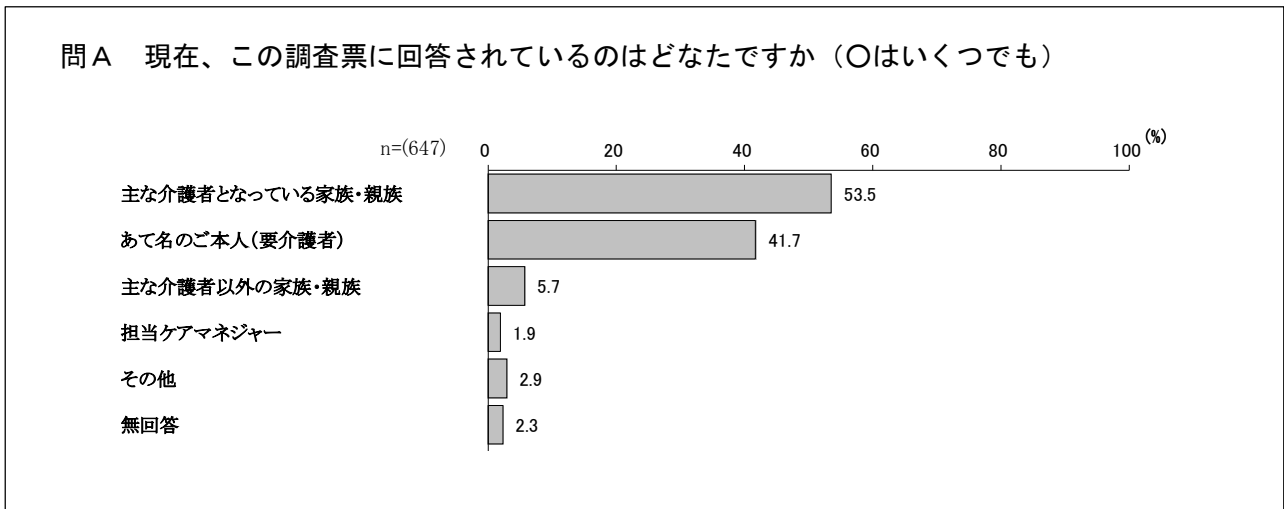
回答者の認知症高齢者の日常生活自立度は、「II b」が26.9%と最も多く、以下「I」(23.8%)、「III a」(18.2%)、「自立」(17.8%)となっている。

< 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 >

レベル	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態で基本的には在宅で自立した生活が可能なレベル
II a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態
II b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態
III a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態
III b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態

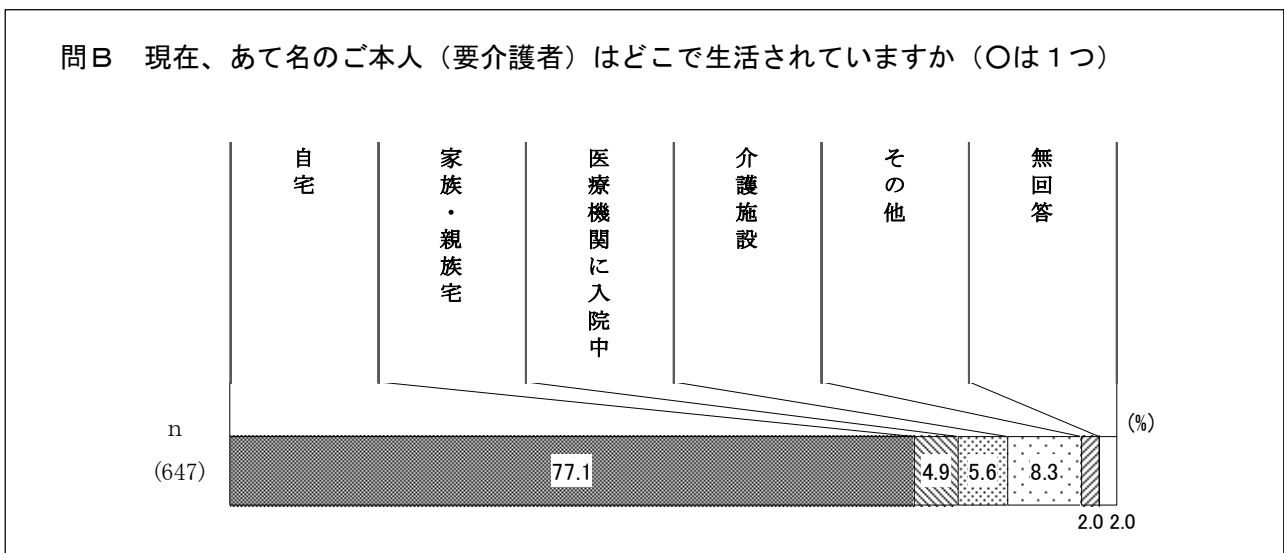
2. ご本人（要介護者）の状況について

(1) 調査票の回答者



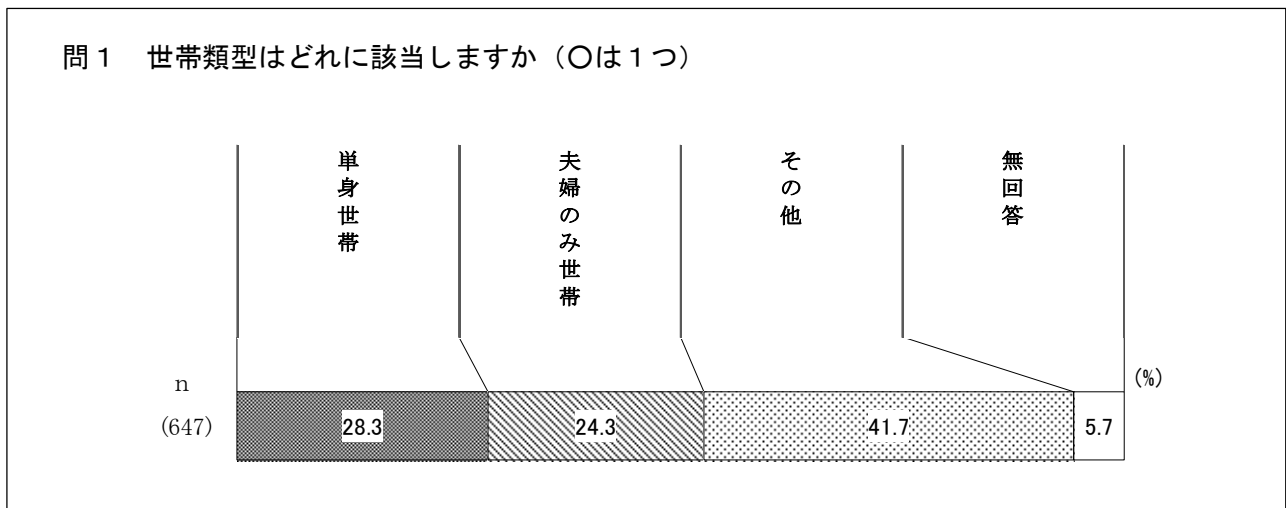
調査票の回答者をたずねたところ、「主な介護者となっている家族・親族」が 53.5%と最も多く、以下「あて名のご本人（要介護者）」(41.7%)、「主な介護者以外の家族・親族」(5.7%)、「担当ケアマネジャー」(1.9%) となっている。

(2) 本人（要介護者）の生活場所



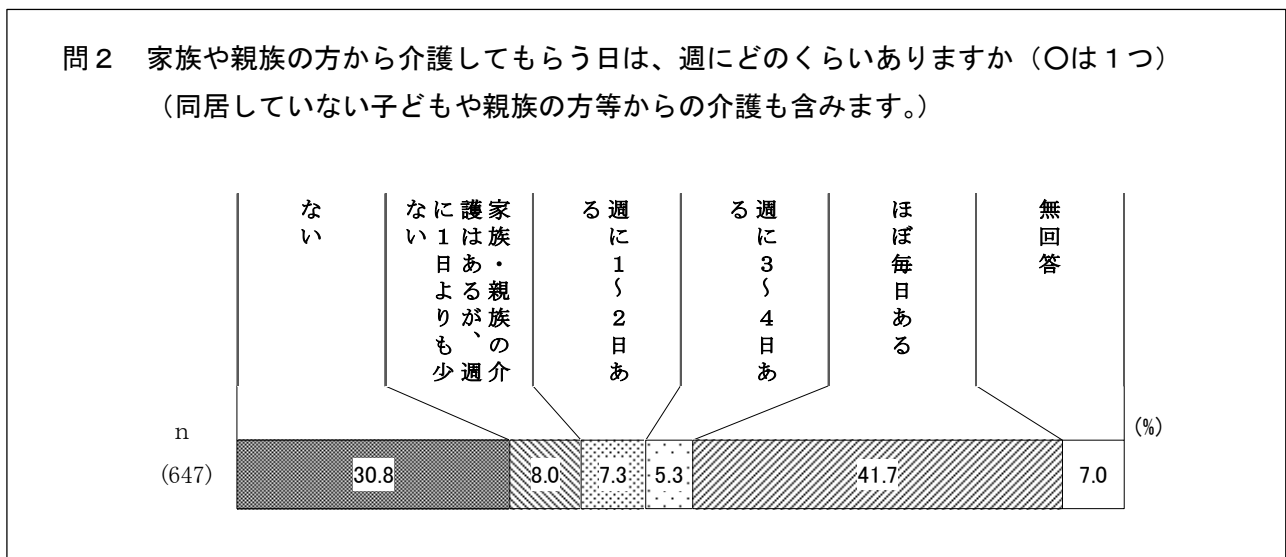
本人（要介護者）の生活場所をたずねたところ、「自宅」が 77.1%を占めている。

(3) 世帯類型



世帯類型をたずねたところ、「その他」の世帯が41.7%と最も多く、以下「単身世帯」(28.3%)、「夫婦のみ世帯」(24.3%)、となっている。

(4) 家族や親族の方から介護してもらう日数

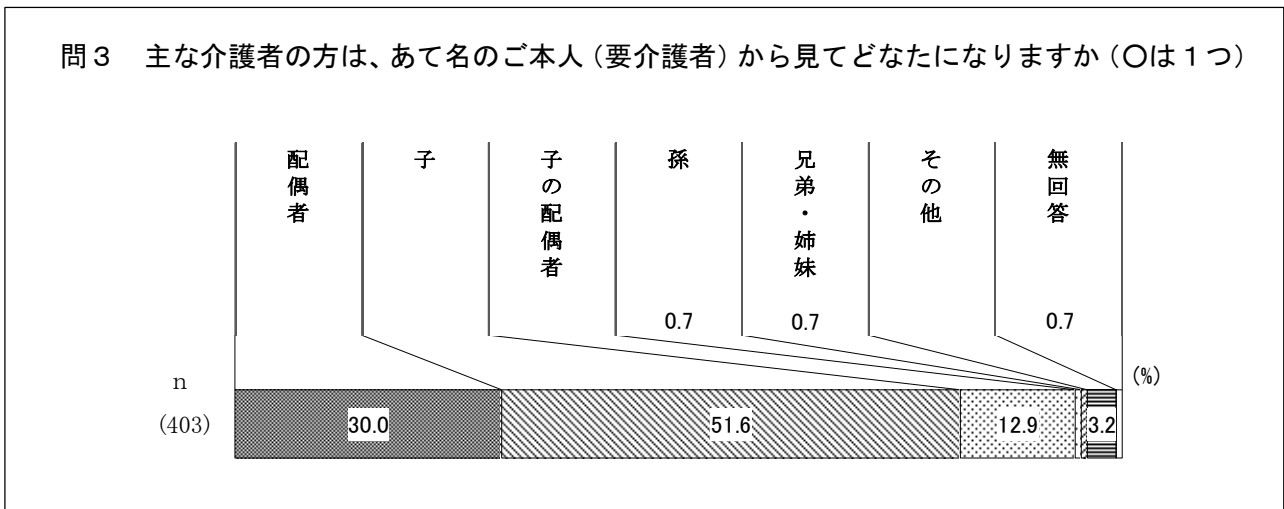


家族や親族の方から介護してもらう日数をたずねたところ、「ほぼ毎日ある」が41.7%と最も多く、以下「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」(8.0%)、「週に1~2日ある」(7.3%)、「週に3~4日ある」(5.3%) となっている。

一方、「ない」は30.8%となっている。

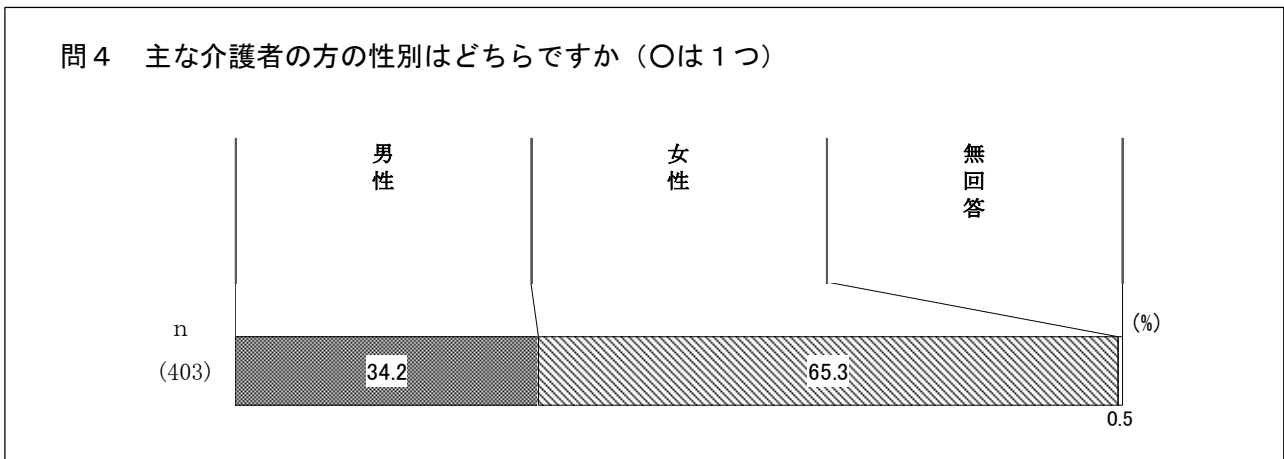
3. 主な介護者等の状況（属性等）について

(1) 主な介護者の続柄



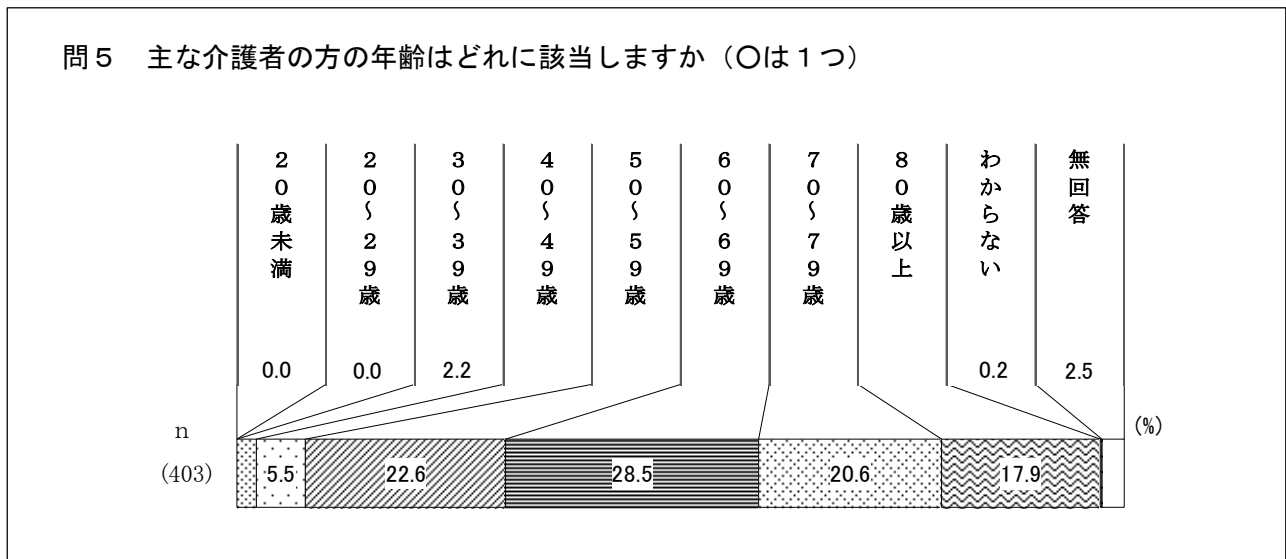
主な介護者の続柄をたずねたところ、「子」が51.6%と最も多く、以下「配偶者」(30.0%)、「子の配偶者」(12.9%) などとなっている。

(2) 主な介護者の性別



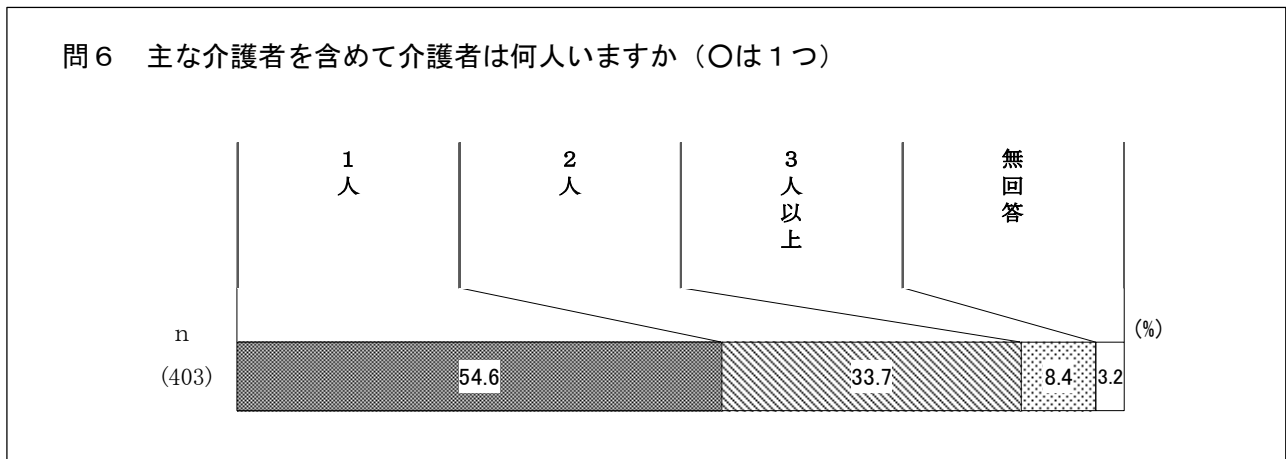
主な介護者の性別をたずねたところ、「女性」が65.3%となっており、「男性」(34.2%)を上回っている。

(3) 主な介護者の年齢



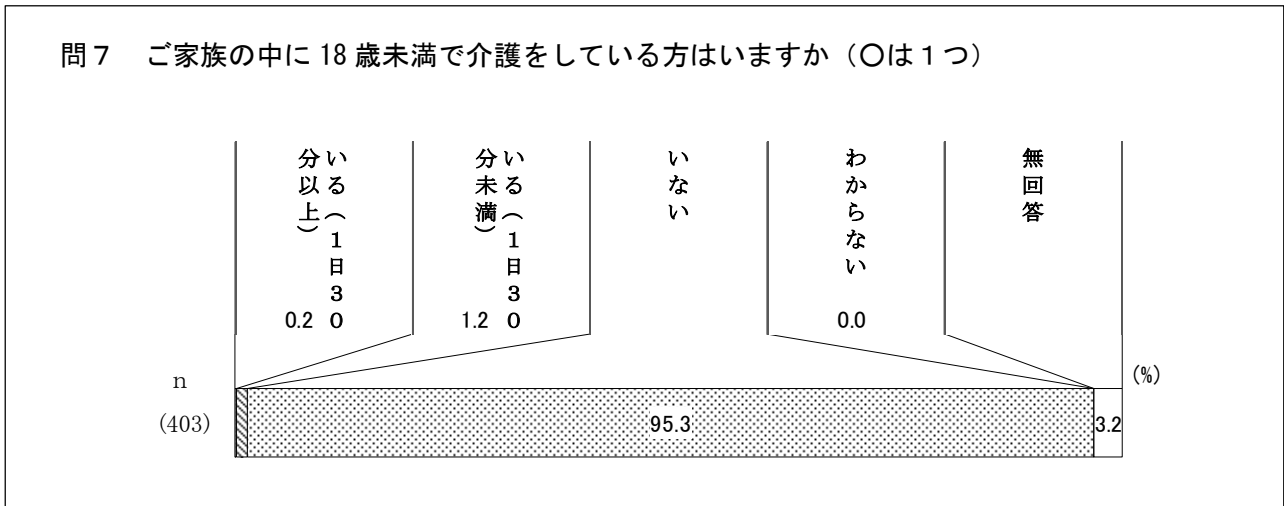
主な介護者の年齢をたずねたところ、「60～69歳」が28.5%と最も多く、以下「50～59歳」(22.6%)、「70～79歳」(20.6%)、「80歳以上」(17.9%)、「40～49歳」(5.5%) などとなっており、60歳以上の介護者は67.0%を占めている。

(4) 主な介護者を含めた介護者数



主な介護者を含めた介護者数をたずねたところ、「1人」が54.6%と最も多く、以下「2人」(33.7%)、「3人以上」(8.4%) となっている。

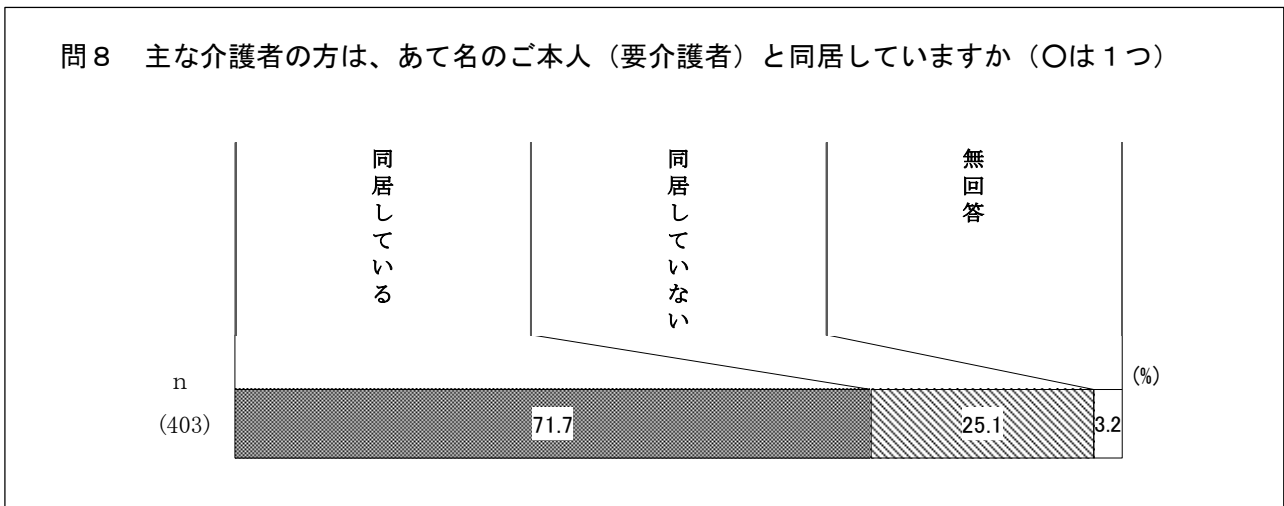
(5) 家族の中に18歳未満で介護をしている方の有無



家族の中に18歳未満で介護をしている方をたずねたところ、「いない」が95.3%を占めている。

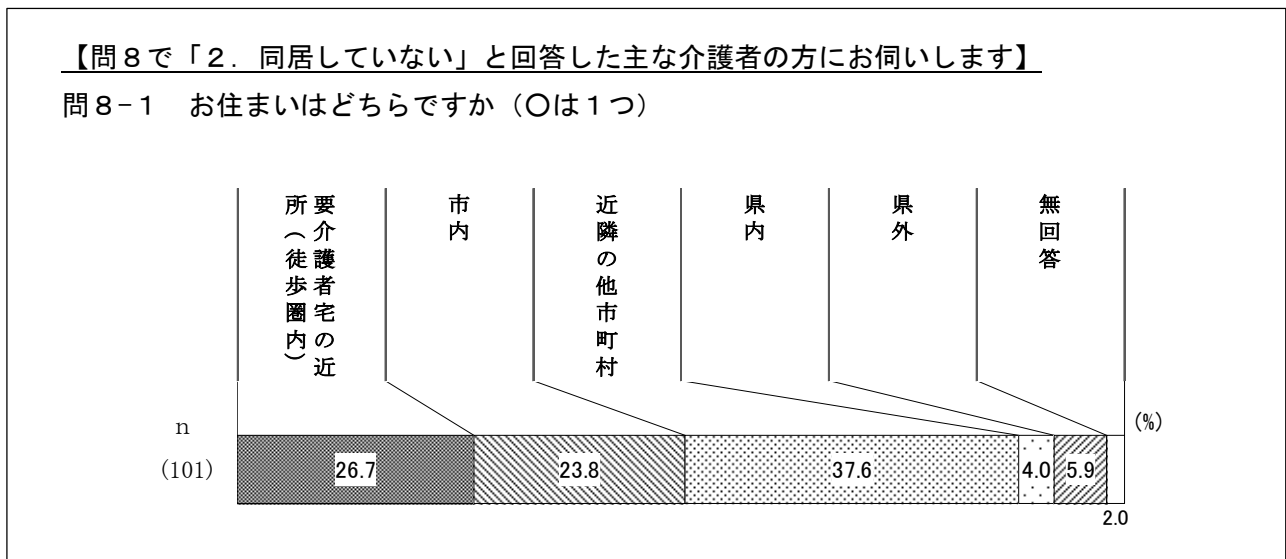
一方、「いる(1日30分以上)」(0.2%)と「いる(1日30分未満)」(1.2%)を合わせた“いる”は1.4%となっている。

(6) 主な介護者の、本人(要介護者)との同居状況



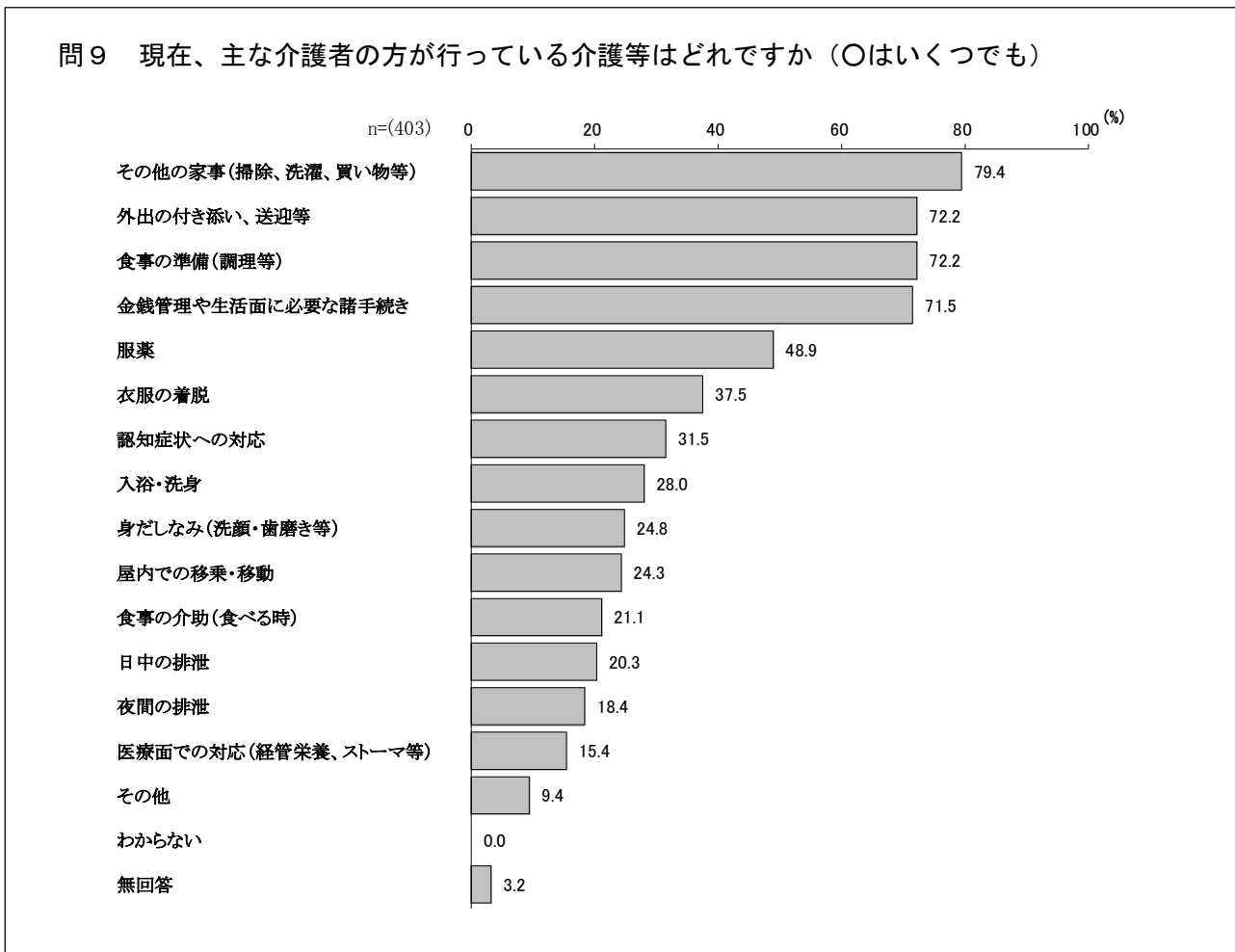
主な介護者の、本人(要介護者)との同居状況をたずねたところ、「同居している」が71.7%を占めている。

(7) 本人と同居していない場合の居住地



本人と同居していない場合の居住地をたずねたところ、「近隣の他市町村」が 37.6%と最も多く、以下「要介護者宅の近所（徒歩圏内）」(26.7%)、「市内」(23.8%)、「県外」(5.9%)、「県内」(4.0%) となっている。

(8) 主な介護者が行っている介護等



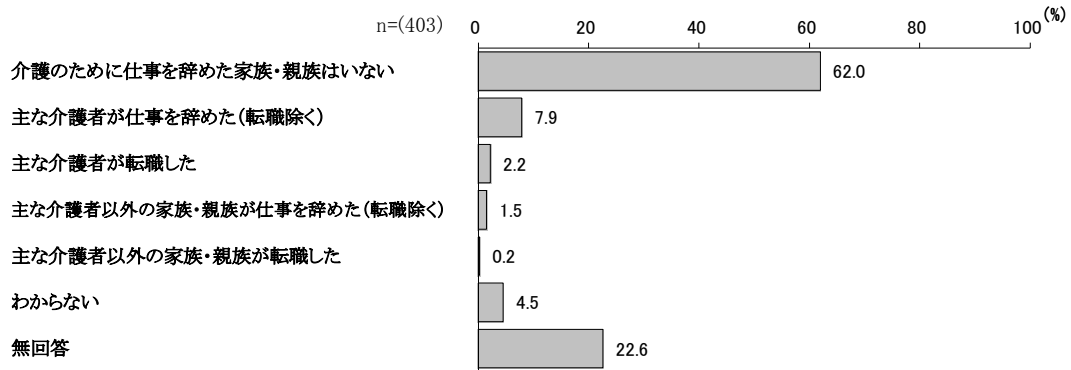
主な介護者が行っている介護等をたずねたところ、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が79.4%と最も多く、以下「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備(調理等)」(ともに72.2%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(71.5%)、「服薬」(48.9%)などとなっている。

(9) 本人（要介護者）の介護のために、仕事を辞めた・転職した家族や親族の有無

問10 ご家族や親族の方で、あて名のご本人（要介護者）の介護のために、過去1年の間に仕事※を辞めた方・転職された方はいますか（〇はいくつでも）

（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。）

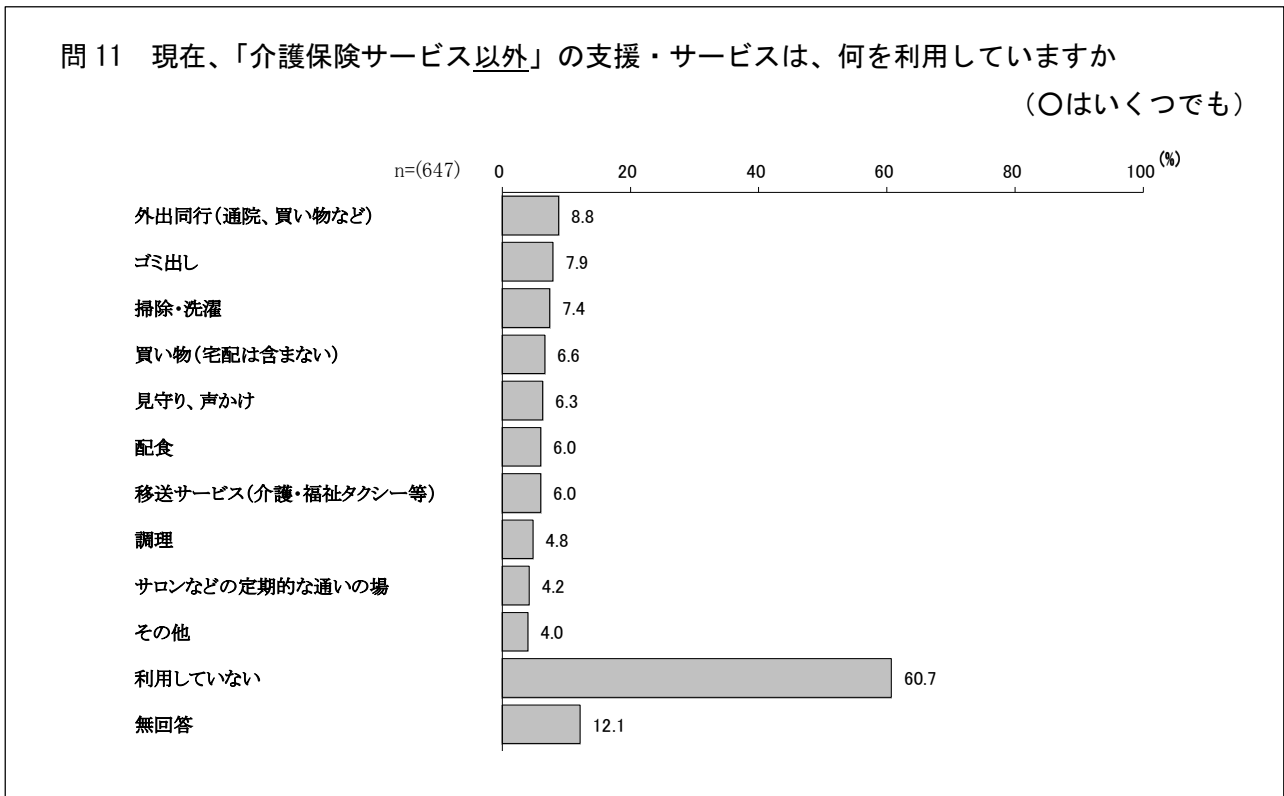
※自営業や農林水産業の仕事を辞めた・転職した場合も含まれます。



本人（要介護者）の介護のために、仕事を辞めた・転職した家族や親族の有無をたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が62.0%と最も多く、以下「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（7.9%）、「主な介護者が転職した」（2.2%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.5%）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（0.2%）となっている。

4. 支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて

(1) 「介護保険サービス以外」で利用している支援・サービス



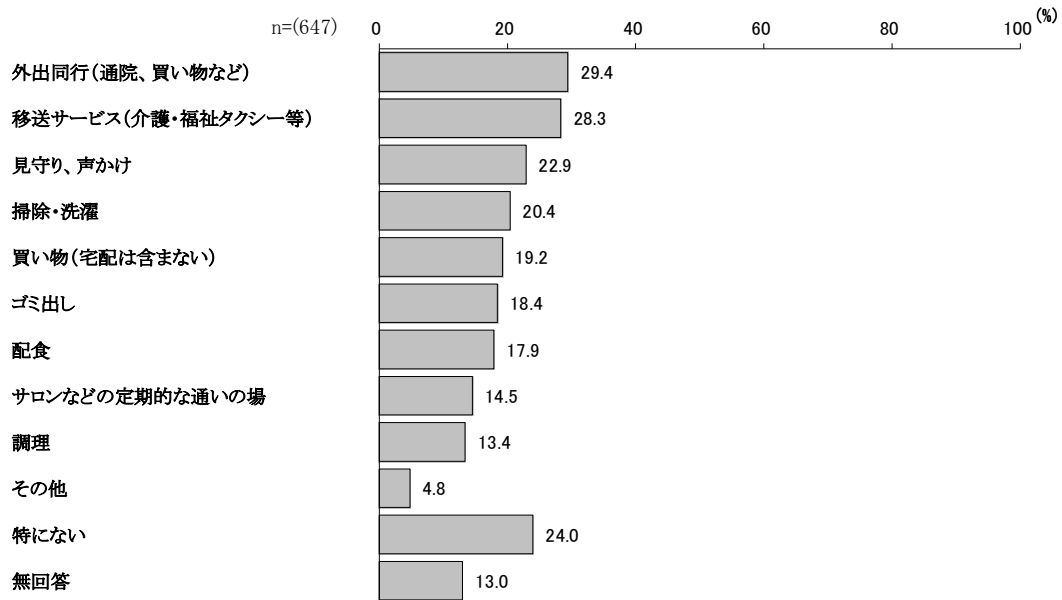
「介護保険サービス以外」で利用している支援・サービスをたずねたところ、「外出同行 (通院、買い物など)」が 8.8%と最も多く、以下「ゴミ出し」(7.9%)、「掃除・洗濯」(7.4%)、「買い物 (宅配は含まない)」(6.6%) などとなっている。

一方、「利用していない」は 60.7%となっている。

(2) 在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービス

問12 在宅生活を今後も続けていくためには、どの支援・サービス※（現在利用中を含む）が必要だと思いますか（〇はいくつでも）

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含まれます。



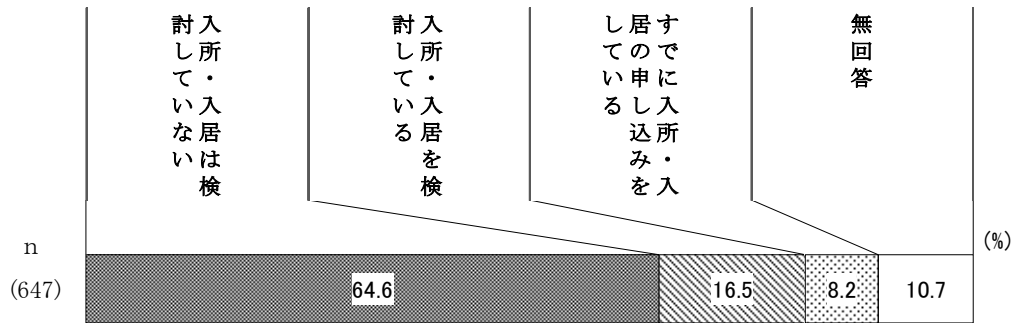
在宅生活を今後も続けていくために必要な支援・サービスをたずねたところ、「外出同行（通院、買い物など）」（29.4%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（28.3%）がともに多く、以下「見守り、声かけ」（22.9%）、「掃除・洗濯」（20.4%）、「買い物（宅配は含まない）」（19.2%）、「ゴミ出し」（18.4%）、「配食」（17.9%）、「サロンなどの定期的な通いの場」（14.5%）、「調理」（13.4%）となっている。

一方、「特にない」は24.0%となっている。

(3) 施設等への入所・入居の検討状況

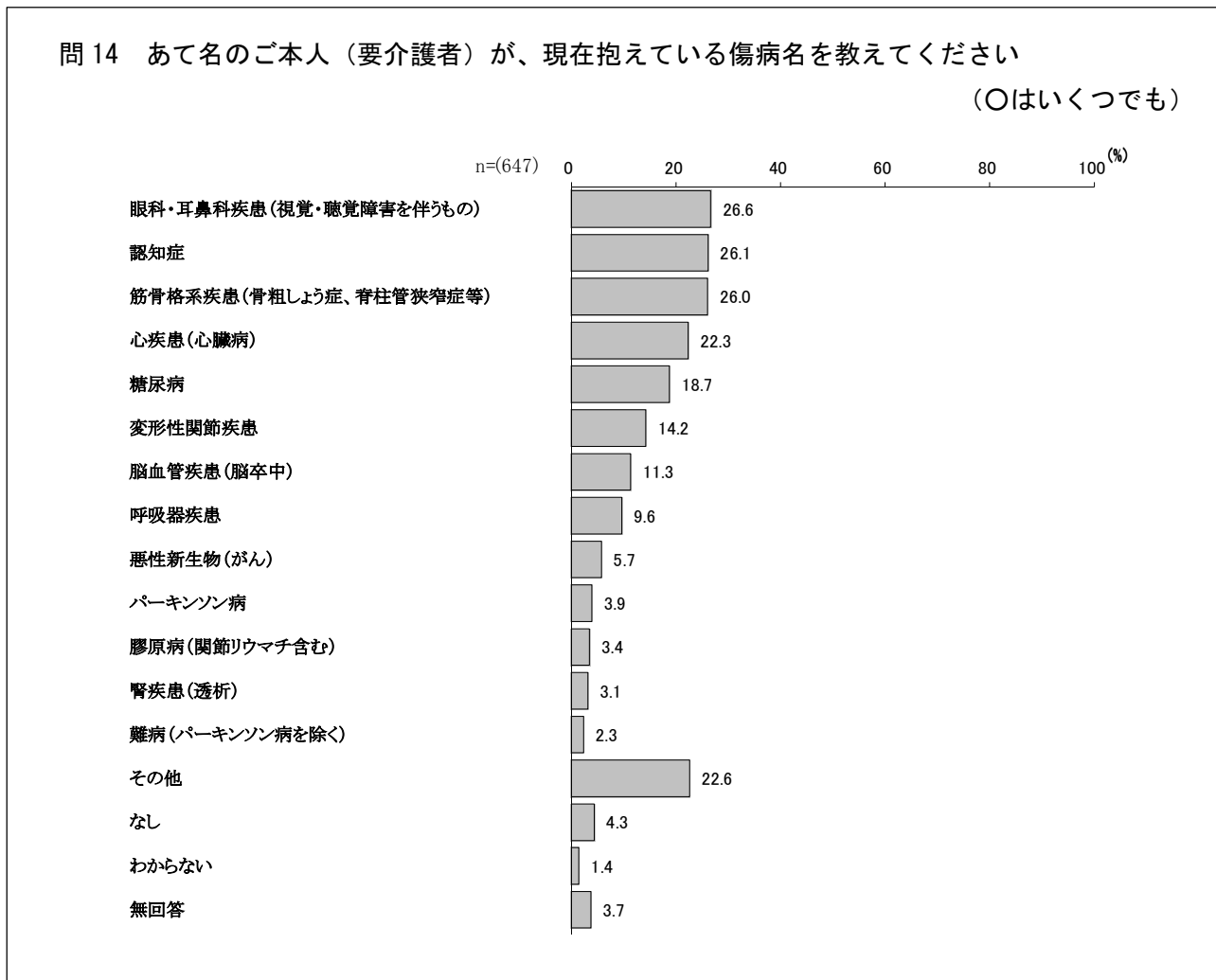
問13 現時点において、施設等[※]への入所・入居を検討されていますか（○は1つ）

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。



施設等への入所・入居の検討状況をたずねたところ、「入所・入居は検討していない」が64.6%と最も多く、以下「入所・入居を検討している」(16.5%)、「すでに入所・入居の申し込みをしている」(8.2%)となっている。

(4) 本人（要介護者）が現在抱えている傷病名



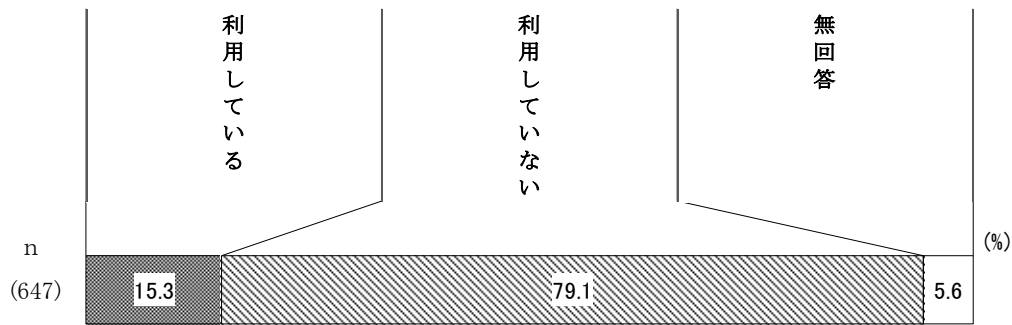
本人（要介護者）が現在抱えている傷病名をたずねたところ、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 26.6%、「認知症」（26.1%）、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」(26.0%) がともに多く、以下「心疾患（心臓病）」(22.3%)、「糖尿病」(18.7%)、「変形性関節疾患」(14.2%)、「脳血管疾患（脳卒中）」(11.3%) などとなっている。

一方、「なし」は 4.3%となっている。

(5) 訪問診療の利用状況

問 15 あて名のご本人（要介護者）は、現在、訪問診療※を利用していますか（○は1つ）

※「訪問診療」とは、計画的な医療サービスを行うことであり、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等を含みません。

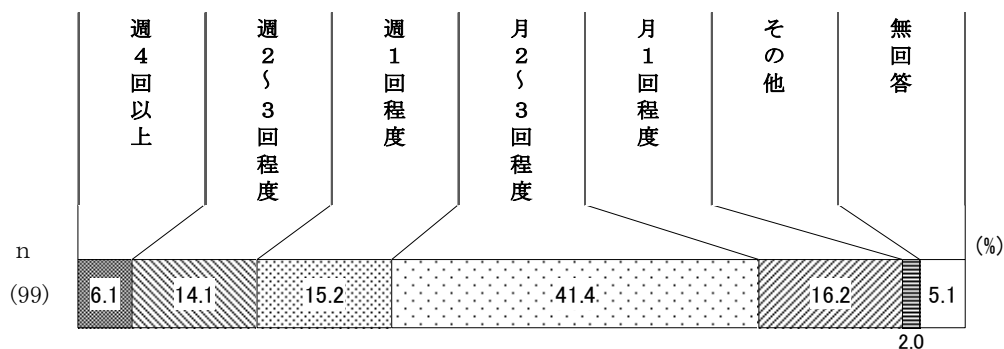


訪問診療の利用状況をたずねたところ、「利用していない」が79.1%を占めており、「利用している」は15.3%となっている。

(6) 訪問診療の利用頻度

【問 15 で「1. 利用している」と回答した方にお伺いします】

問 15-1 どの程度利用していますか（○は1つ）

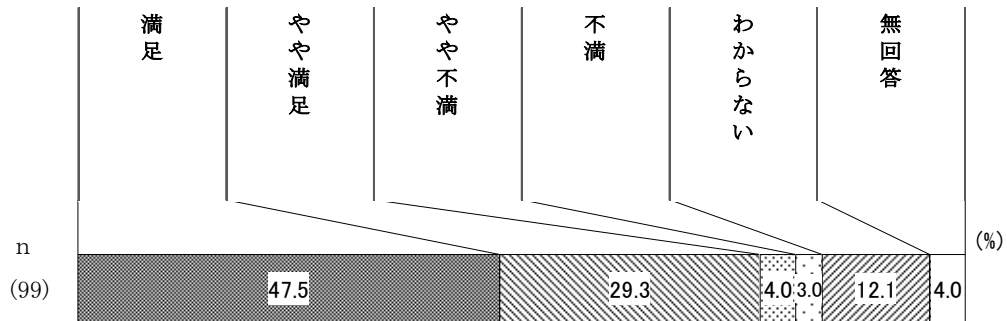


訪問診療の利用頻度をたずねたところ、「月2〜3回程度」が41.4%と最も多く、以下「月1回程度」(16.2%)、「週1回程度」(15.2%)、「週2〜3回程度」(14.1%)、「週4回以上」(6.1%)となっている。

(7) 利用している訪問診療への満足度

【問 15 で「1. 利用している」と回答した方にお伺いします】

問 15-2 利用している訪問診療に満足していますか (○は1つ)



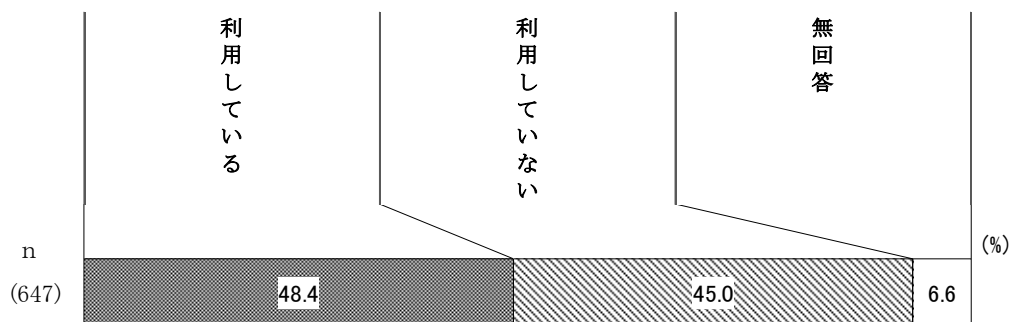
利用している訪問診療への満足度をたずねたところ、「満足」が 47.5%と最も多く、「やや満足」(29.3%) を合わせた“満足”は 76.8%となっている。

一方、「やや不満」(4.0%)、「不満」(3.0%) を合わせた“不満”は 7.0%となっている。

(8) 介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況

問 16 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)の介護保険サービスを利用していますか

(○は1つ)



介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）の利用状況をたずねたところ、「利用している」が 48.4%となっており、「利用していない」(45.0%) と大きな違いはみられない。

要介護度（3区分）別にみると、要介護度が重くなるにしたがって「利用している」が増加している。

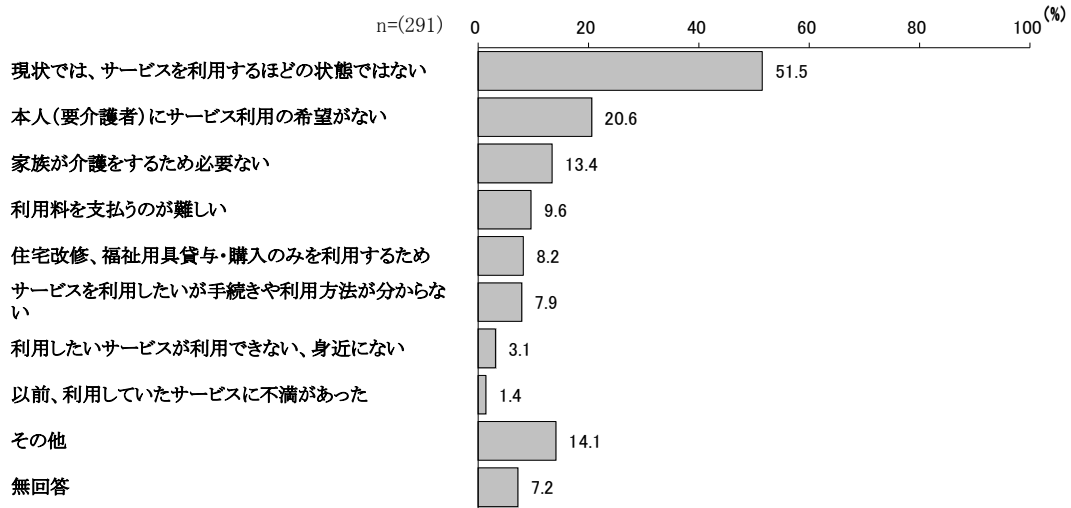
【要介護度（詳細・2区分・3区分）別】

	調査数	利用している	利用していない	無回答
上段：件数 下段：%				
全 体	647 100.0	313 48.4	291 45.0	43 6.6
要介護度				
要支援1	151 100.0	42 27.8	103 68.2	6 4.0
要支援2	107 100.0	43 40.2	51 47.7	13 12.1
要介護1	163 100.0	84 51.5	70 42.9	9 5.5
要介護2	93 100.0	66 71.0	23 24.7	4 4.3
要介護3	53 100.0	29 54.7	21 39.6	3 5.7
要介護4	40 100.0	31 77.5	6 15.0	3 7.5
要介護5	36 100.0	17 47.2	14 38.9	5 13.9
要介護度（2区分）				
要支援認定者	258 100.0	85 32.9	154 59.7	19 7.4
要介護認定者	385 100.0	227 59.0	134 34.8	24 6.2
要介護度（3区分）				
要支援1・2	258 100.0	85 32.9	154 59.7	19 7.4
要介護1・2	256 100.0	150 58.6	93 36.3	13 5.1
要介護3以上	129 100.0	77 59.7	41 31.8	11 8.5

(9) 介護保険サービスを利用していない理由

【問16で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします】

問16-1 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（〇はいくつでも）



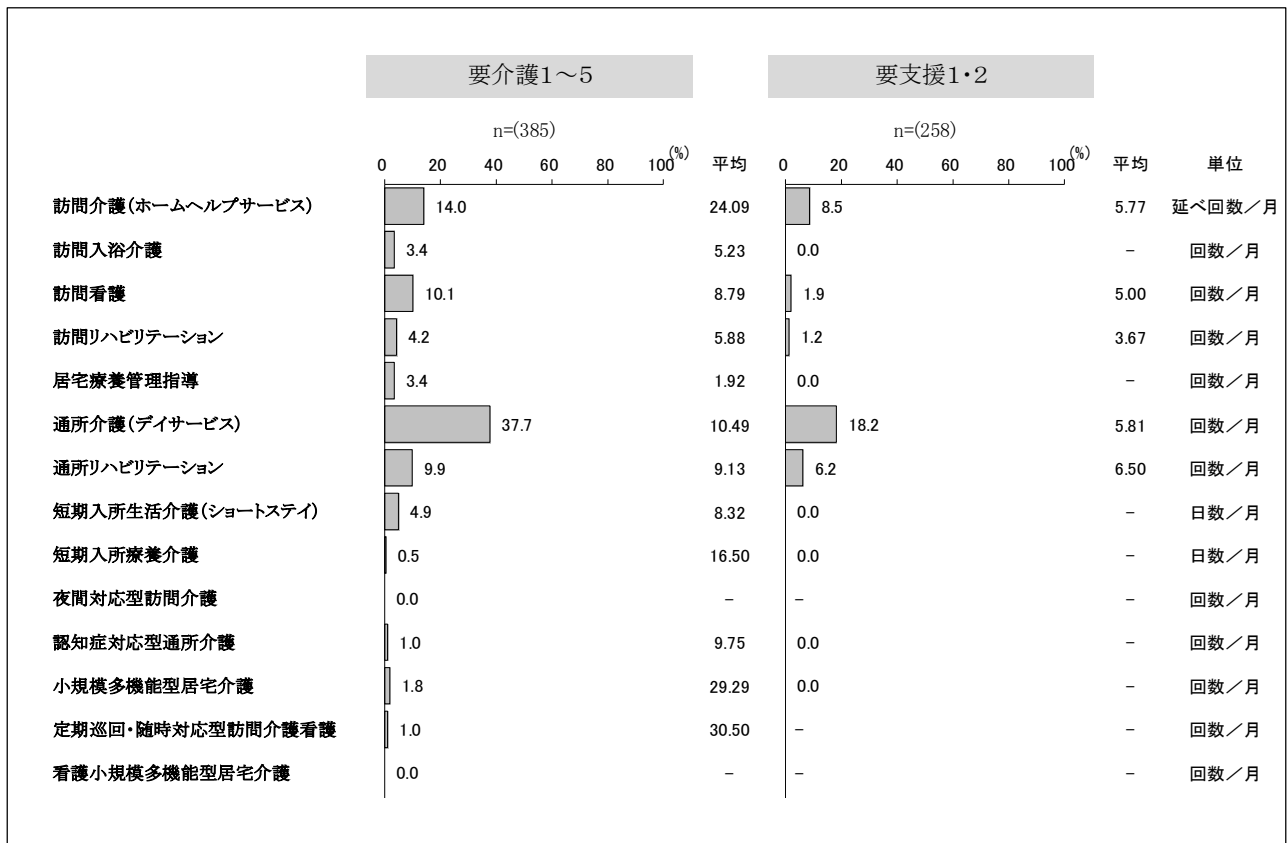
介護保険サービスを利用していない理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.5%と最も多く、以下「本人（要介護者）にサービス利用の希望がない」（20.6%）、「家族が介護をするため必要ない」（13.4%）、「利用料を支払うのが難しい」（9.6%）などとなっている。

要介護度（3区分）別にみると、概ね要介護度が軽くなるにしたがって「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が増加し、「家族が介護をするため必要ない」は要介護1以上で約2割となっている。

【要介護度（詳細・2区分・3区分）別】

	調査数	現状では利用するほどのサービス	本人（要介護希望に）	家族が介護をするため必要ない	利用料を支払うのが難しい	住宅・改修・福祉用具	サービスの手続きや利用方法	近所に利用できないサービス	以前、利用していたサービスに不満があった	その他	無回答
全体	291 100.0	150 51.5	60 20.6	39 13.4	28 9.6	24 8.2	23 7.9	9 3.1	4 1.4	41 14.1	21 7.2
要介護度											
要支援1	103 100.0	67 65.0	18 17.5	7 6.8	8 7.8	9 8.7	6 5.8	3 2.9	2 1.9	7 6.8	5 4.9
要支援2	51 100.0	29 56.9	9 17.6	2 3.9	3 5.9	3 5.9	2 3.9	2 3.9	1 2.0	6 11.8	6 11.8
要介護1	70 100.0	33 47.1	20 28.6	18 25.7	10 14.3	7 10.0	9 12.9	2 2.9	-	8 11.4	6 8.6
要介護2	23 100.0	10 43.5	6 26.1	3 13.0	1 4.3	2 8.7	2 8.7	1 4.3	-	5 21.7	1 4.3
要介護3	21 100.0	7 33.3	2 9.5	6 28.6	4 19.0	2 9.5	2 9.5	-	1 4.8	3 14.3	2 9.5
要介護4	6 100.0	3 50.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	-	-	-	-
要介護5	14 100.0	1 7.1	1 7.1	2 14.3	-	-	-	1 7.1	-	10 71.4	1 7.1
要介護度（2区分）											
要支援認定者	154 100.0	96 62.3	27 17.5	9 5.8	11 7.1	12 7.8	8 5.2	5 3.2	3 1.9	13 8.4	11 7.1
要介護認定者	134 100.0	54 40.3	32 23.9	30 22.4	17 12.7	12 9.0	15 11.2	4 3.0	1 0.7	26 19.4	10 7.5
要介護度（3区分）											
要支援1・2	154 100.0	96 62.3	27 17.5	9 5.8	11 7.1	12 7.8	8 5.2	5 3.2	3 1.9	13 8.4	11 7.1
要介護1・2	93 100.0	43 46.2	26 28.0	21 22.6	11 11.8	9 9.7	11 11.8	3 3.2	-	13 14.0	7 7.5
要介護3以上	41 100.0	11 26.8	6 14.6	9 22.0	6 14.6	3 7.3	4 9.8	1 2.4	1 2.4	13 31.7	3 7.3

(10) 利用している介護保険サービス



利用している主要介護保険サービスを認定データと突合したところ、「通所介護（デイサービス）」（要介護1～5：37.7%、要支援1・2：18.2%）が最も多くなっており、月あたりの平均回数は要介護1～5が10.49回と要支援1・2の5.81回の約2倍となっている。

2位以下のサービスについてみると、要介護1～5では「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（14.0%）、「訪問看護」（10.1%）、「通所リハビリテーション」（9.9%）、「短期入所生活介護（ショートステイ）」（4.9%）などとなっている。要支援1・2では「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（8.5%）、「介護予防通所リハビリテーション」（6.2%）などとなっている。

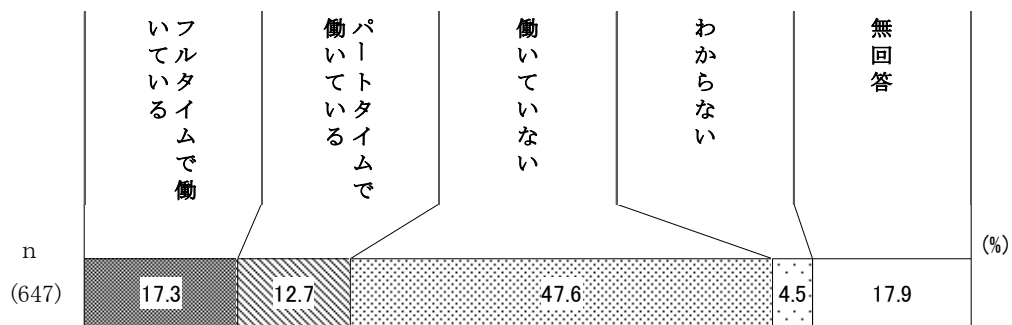
5. 主な介護者の就労状況について

(1) 主な介護者の現在の勤務形態

問 17 主な介護者の方の現在の勤務形態はどれに該当しますか（○は1つ）

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆるアルバイト、嘱託、契約社員等の方を含みます。

自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。



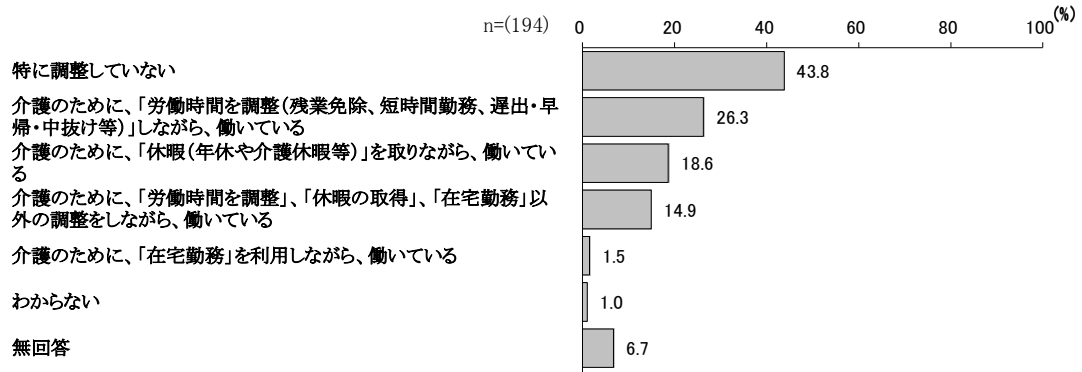
主な介護者の現在の勤務形態をたずねたところ、「働いていない」が 47.6%を占めており、「フルタイムで働いている」(17.3%)、「パートタイムで働いている」(12.7%)を合わせた“働いている”(30.0%)を上回っている。

(2) 介護をするにあたって、行っている働き方についての調整等

【問17で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします】

問17-1 介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていきますか

(〇はいくつでも)

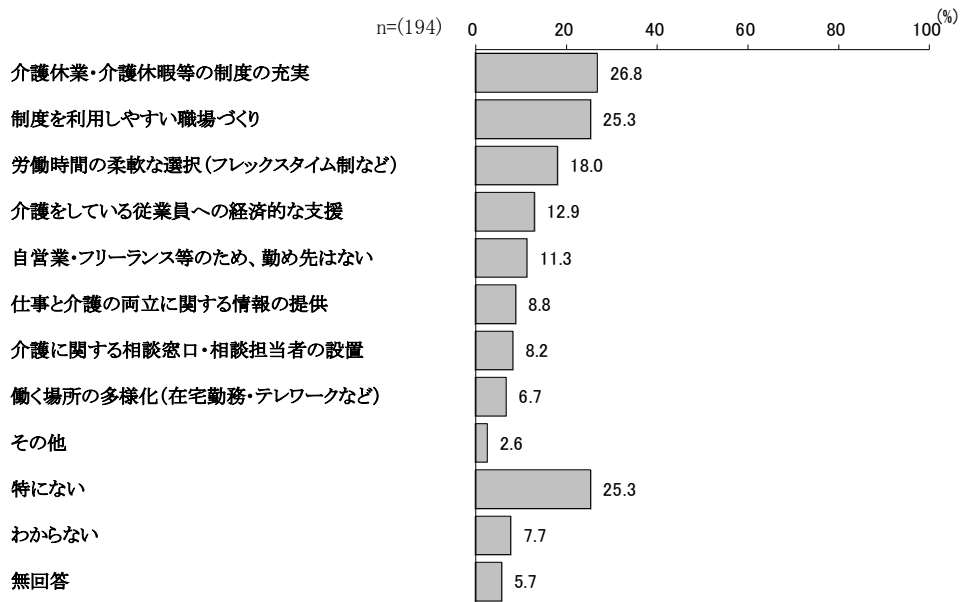


介護をするにあたって、行っている働き方についての調整等をたずねたところ、「特に調整していない」が43.8%と最も多く、以下「介護のために「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(26.3%)、「介護のために「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(18.6%)、「介護のために「労働時間を調整」、「休暇の取得」、「在宅勤務」以外の調整をしながら、働いている」(14.9%)、「介護のために「在宅勤務」を利用しながら、働いている」(1.5%)となっている。

(3) 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援

【問17で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします】

問17-2 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援はどれですか(○は3つまで)



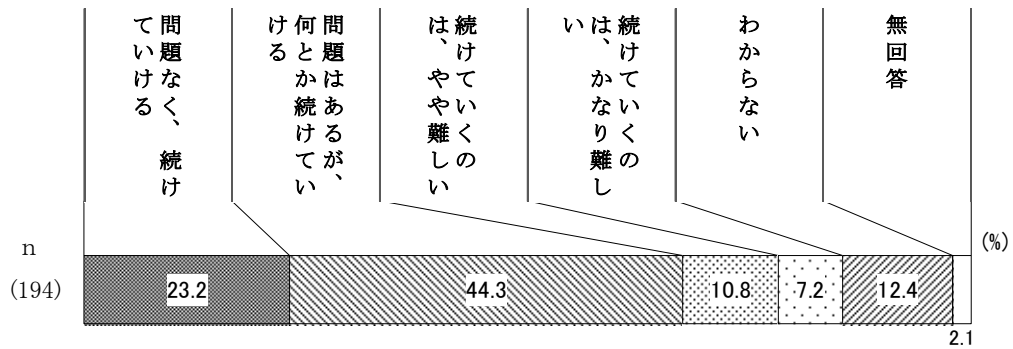
仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援をたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.8%と最も多く、以下「制度を利用しやすい職場づくり」(25.3%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(18.0%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(12.9%)、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」(11.3%)などとなっている。

一方、「特になし」は25.3%となっている。

(4) 主な介護者が今後も働きながら介護を継続できる可能性

【問17で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします】

問17-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（○は1つ）



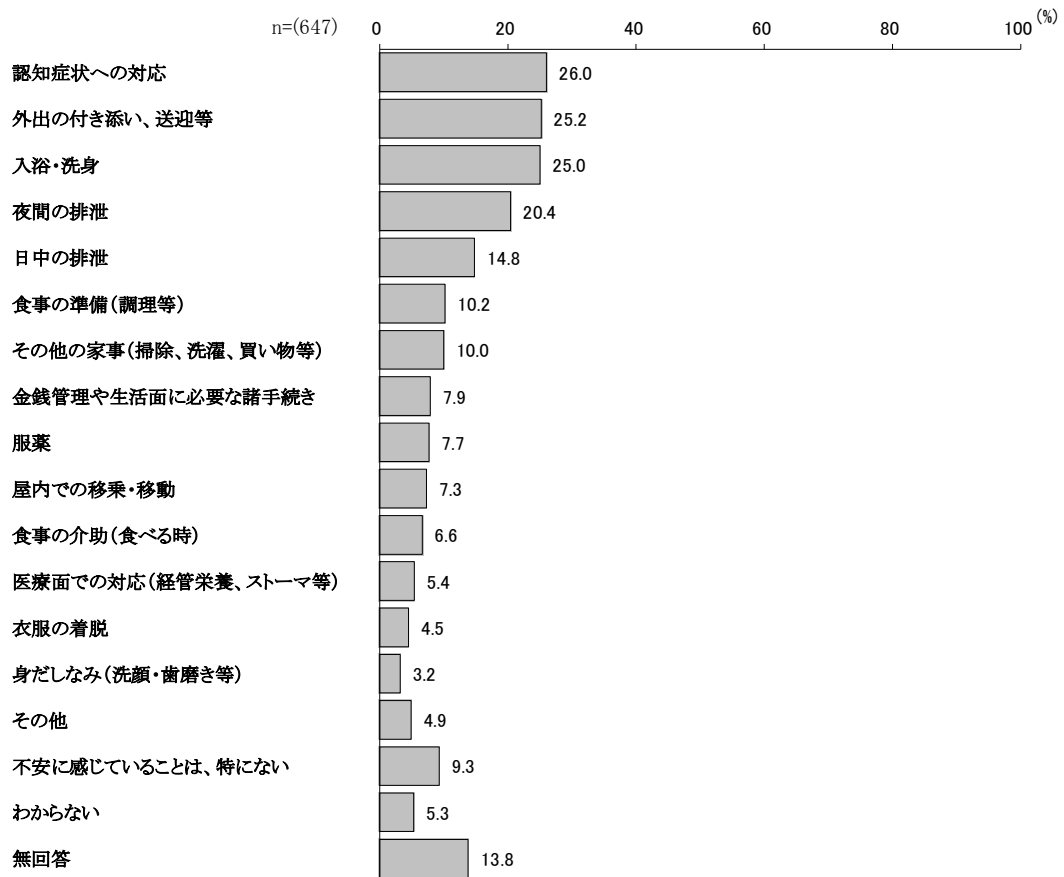
主な介護者が今後も働きながら介護を継続できる可能性をたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が44.3%と最も多く、「問題なく、続けていける」(23.2%)を合わせた“続けていける”は67.5%となっている。

一方、「続けていくのは、やや難しい」(10.8%)、「続けていくのは、かなり難しい」(7.2%)を合わせた“続けていくのは難しい”は18.0%となっている。

6. 介護生活を続ける際の不安や困りごと

(1) 現在の生活を今後も続けていくにあたり、主な介護者が不安に感じる介護等

問 18 (在宅生活を送る要介護者を介護している) 現在の生活を今後も続けていくためには、主な介護者の方が不安に感じる介護等はどれですか (〇は3つまで)
(現在行っているかどうかは問いません。)



現在の生活を今後も続けていくにあたり、主な介護者が不安に感じる介護等をたずねたところ、「認知症状への対応」(26.0%)、「外出の付き添い、送迎等」(25.2%)、「入浴・洗身」(25.0%)がともに多く、以下「夜間の排泄」(20.4%)、「日中の排泄」(14.8%)、「食事の準備(調理等)」(10.2%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(10.0%)などとなっている。

認知症高齢者の日常生活自立度別にみると、概ね重くなるにしたがって「認知症状への対応」、「入浴・洗身」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が増加している。

【認知症高齢者の日常生活自立度（詳細・3区分）別】

	調査数	認知症状への対応	外出の付き添い、送迎	入浴・洗身	夜間の排泄	日中の排泄	食事の準備（調理等）	洗濯、買物等（掃除、その他の家事）	金銭管理や生活面に必要な手続き	服薬	屋内での移乗・移動	食事の介助（食べる時）	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	衣服の着脱	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
全体	647	168	163	162	132	96	66	65	51	50	47	43	35	29	21
	100.0	26.0	25.2	25.0	20.4	14.8	10.2	10.0	7.9	7.7	7.3	6.6	5.4	4.5	3.2

認知症高齢者の日常生活自立度

自立	115	11	34	19	8	6	11	18	13	2	9	3	3	6	-
	100.0	9.6	29.6	16.5	7.0	5.2	9.6	15.7	11.3	1.7	7.8	2.6	2.6	5.2	-
I	154	19	40	34	19	9	21	20	11	7	7	4	9	8	2
	100.0	12.3	26.0	22.1	12.3	5.8	13.6	13.0	7.1	4.5	4.5	2.6	5.8	5.2	1.3
II a	52	16	19	15	11	7	7	6	5	1	6	2	4	3	1
	100.0	30.8	36.5	28.8	21.2	13.5	13.5	11.5	9.6	1.9	11.5	3.8	7.7	5.8	1.9
II b	174	66	44	53	51	35	20	15	10	24	16	15	6	5	14
	100.0	37.9	25.3	30.5	29.3	20.1	11.5	8.6	5.7	13.8	9.2	8.6	3.4	2.9	8.0
III a	118	43	19	34	33	34	4	4	9	14	8	17	12	7	4
	100.0	36.4	16.1	28.8	28.0	28.8	3.4	3.4	7.6	11.9	6.8	14.4	10.2	5.9	3.4
III b	7	5	4	2	4	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	71.4	57.1	28.6	57.1	-	14.3	-	14.3	14.3	-	-	-	-	-
IV	15	6	2	2	4	3	-	-	2	1	1	2	-	-	-
	100.0	40.0	13.3	13.3	26.7	20.0	-	-	13.3	6.7	6.7	13.3	-	-	-
M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

認知症高齢者の日常生活自立度（3区分）

自立+I	269	30	74	53	27	15	32	38	24	9	16	7	12	14	2
	100.0	11.2	27.5	19.7	10.0	5.6	11.9	14.1	8.9	3.3	5.9	2.6	4.5	5.2	0.7
II	226	82	63	68	62	42	27	21	15	25	22	17	10	8	15
	100.0	36.3	27.9	30.1	27.4	18.6	11.9	9.3	6.6	11.1	9.7	7.5	4.4	3.5	6.6
III以上	140	54	25	38	41	37	5	4	12	16	9	19	12	7	4
	100.0	38.6	17.9	27.1	29.3	26.4	3.6	2.9	8.6	11.4	6.4	13.6	8.6	5.0	2.9

	調査数	その他	は不安、特に感じていること	わからない	無回答
全体	647	32	60	34	89
	100.0	4.9	9.3	5.3	13.8

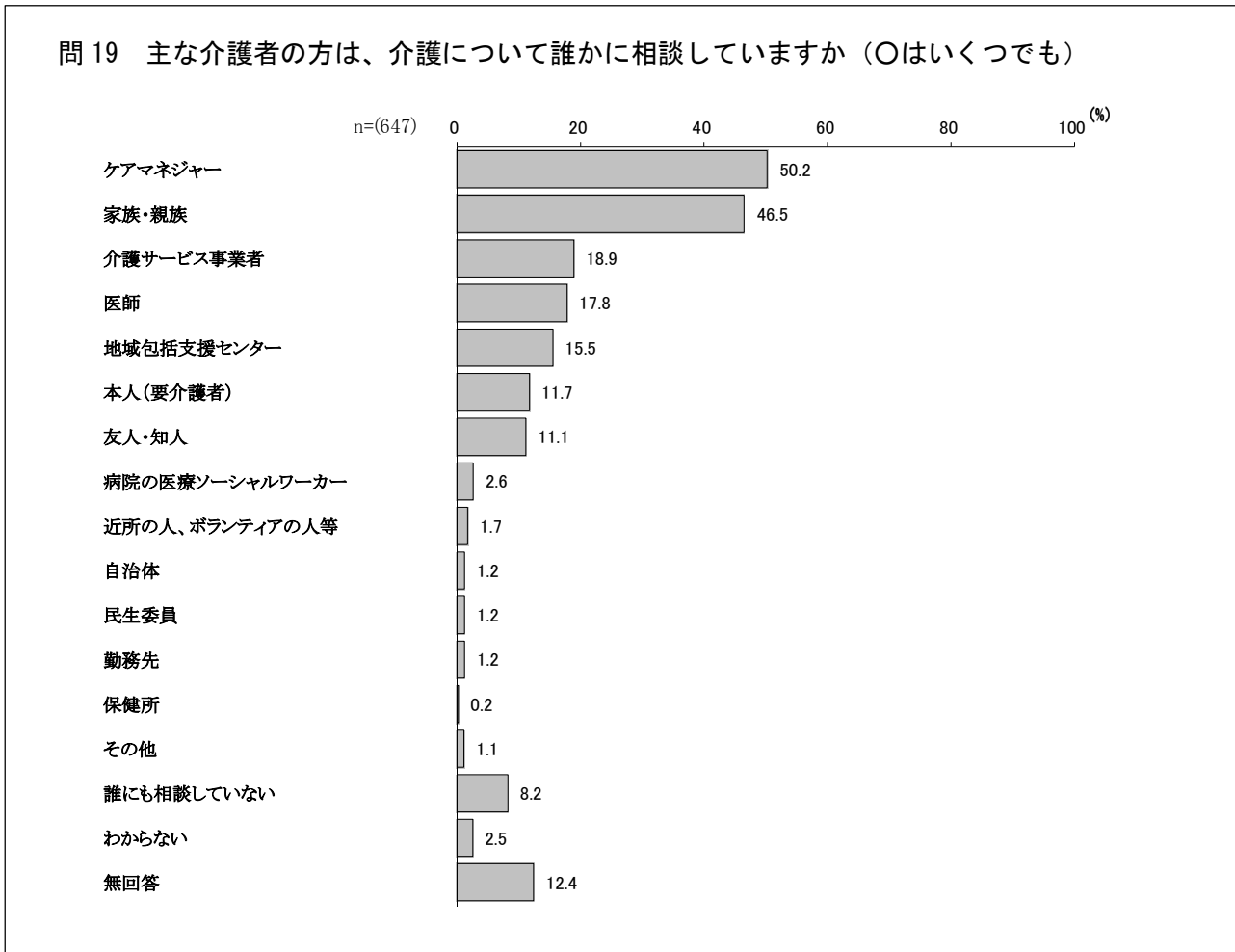
認知症高齢者の日常生活自立度

自立	115	4	14	9	27
	100.0	3.5	12.2	7.8	23.5
I	154	4	19	11	32
	100.0	2.6	12.3	7.1	20.8
II a	52	3	4	2	5
	100.0	5.8	7.7	3.8	9.6
II b	174	11	12	6	9
	100.0	6.3	6.9	3.4	5.2
III a	118	8	8	4	10
	100.0	6.8	6.8	3.4	8.5
III b	7	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	14.3
IV	15	2	3	-	1
	100.0	13.3	20.0	-	6.7
M	-	-	-	-	-

認知症高齢者の日常生活自立度（3区分）

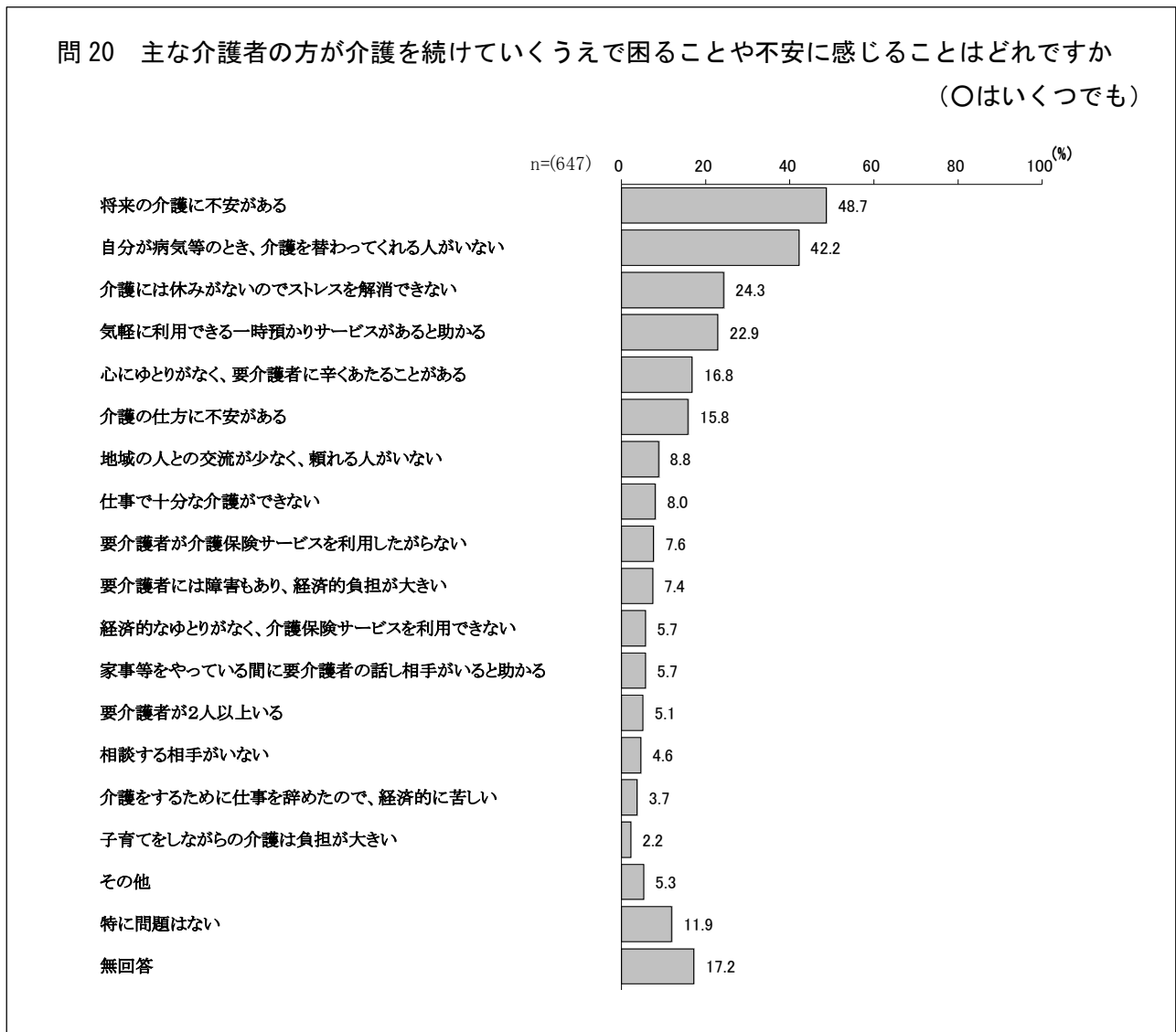
自立+I	269	8	33	20	59
	100.0	3.0	12.3	7.4	21.9
II	226	14	16	8	14
	100.0	6.2	7.1	3.5	6.2
III以上	140	10	11	4	12
	100.0	7.1	7.9	2.9	8.6

(2) 主な介護者が、介護について相談している人



主な介護者が、介護について相談している人をたずねたところ、「ケアマネジャー」が 50.2% と最も多く、以下「家族・親族」(46.5%)、「介護サービス事業者」(18.9%)、「医師」(17.8%)、「地域包括支援センター」(15.5%)、「本人(要介護者)」(11.7%)、「友人・知人」(11.1%) などとなっている。

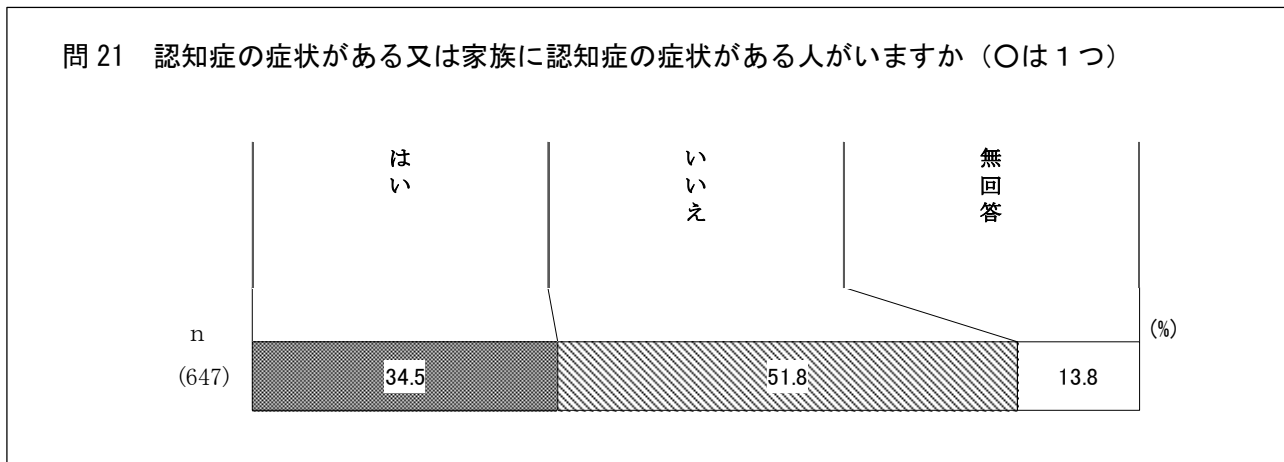
(3) 主な介護者が介護を続けていくうえで困ることや不安に感じること



主な介護者が介護を続けていくうえで困ることや不安に感じることをたずねたところ、「将来の介護に不安がある」が48.7%と最も多く、以下「自分が病気等のとき、介護を替わってくれる人がいない」(42.2%)、「介護には休みがないのでストレスを解消できない」(24.3%)、「気軽に利用できる一時預かりサービスがあると助かる」(22.9%)、「心にゆとりがなく、要介護者に辛くあたることがある」(16.8%)、「介護の仕方に不安がある」(15.8%) などとなっている。

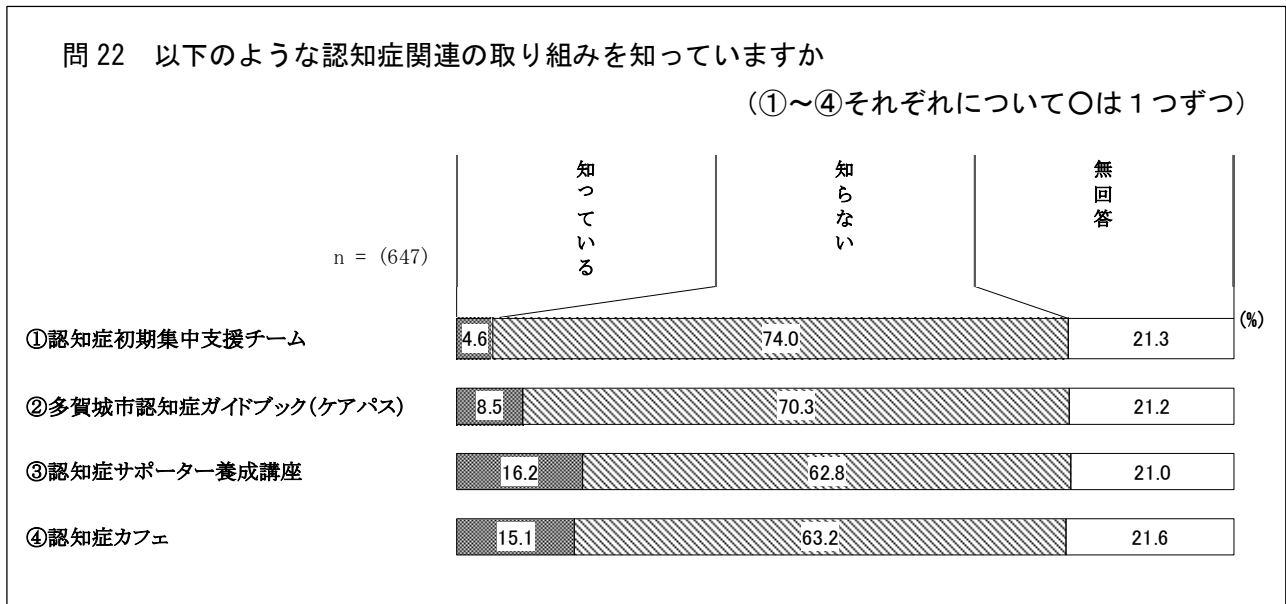
7. 認知症について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか



認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかをたずねたところ、「いいえ」が51.8%を占めており、「はい」(34.5%)を上回っている。

(2) 認知症関連の取り組みの認知度



認知症関連の取り組みの認知度をたずねたところ、すべての取り組みで「知らない」が60.0%以上となっている。

認知度が高い取り組みは、『③認知症サポーター養成講座』(16.2%)、『④認知症カフェ』(15.1%)となっており、一方、認知度が低い取り組みは『①認知症初期集中支援チーム』(4.6%)、『②多賀城市認知症ガイドブック(ケアパス)』(8.5%)となっている。

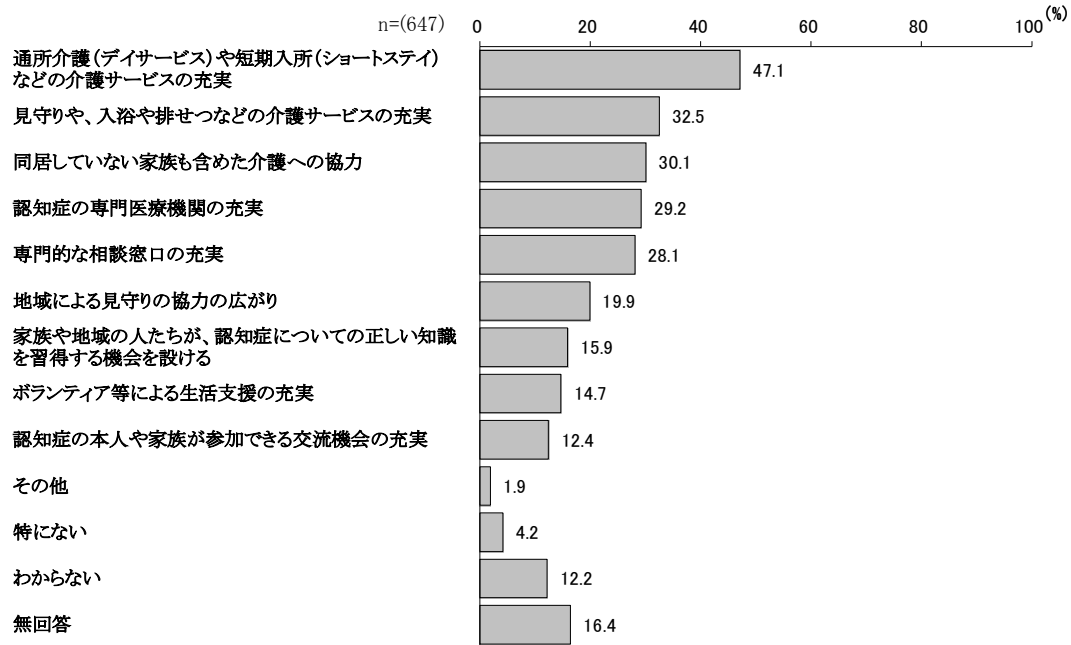
認知症高齢者の日常生活自立度別にみると、Ⅲ以上の『④認知症カフェ』の認知度は21.4%と、Ⅱ以下に比べて高くなっている。

【認知症高齢者の日常生活自立度(詳細・3区分)別】

	①認知症初期集中支援チーム				②多賀城市認知症ガイドブック(ケアパス)				③認知症サポーター養成講座				④認知症カフェ			
	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答	調査数	知っている	知らない	無回答
全体	647	30	479	138	647	55	455	137	647	105	406	136	647	98	409	140
	100.0	4.6	74.0	21.3	100.0	8.5	70.3	21.2	100.0	16.2	62.8	21.0	100.0	15.1	63.2	21.6
認知症高齢者の日常生活自立度																
自立	115	5	84	26	115	9	81	25	115	16	74	25	115	13	74	28
	100.0	4.3	73.0	22.6	100.0	7.8	70.4	21.7	100.0	13.9	64.3	21.7	100.0	11.3	64.3	24.3
I	154	8	99	47	154	14	92	48	154	23	85	46	154	19	89	46
	100.0	5.2	64.3	30.5	100.0	9.1	59.7	31.2	100.0	14.9	55.2	29.9	100.0	12.3	57.8	29.9
Ⅱ a	52	1	42	9	52	3	40	9	52	6	37	9	52	5	37	10
	100.0	1.9	80.8	17.3	100.0	5.8	76.9	17.3	100.0	11.5	71.2	17.3	100.0	9.6	71.2	19.2
Ⅱ b	174	5	140	29	174	16	129	29	174	33	112	29	174	29	116	29
	100.0	2.9	80.5	16.7	100.0	9.2	74.1	16.7	100.0	19.0	64.4	16.7	100.0	16.7	66.7	16.7
Ⅲ a	118	7	93	18	118	6	94	18	118	21	79	18	118	23	77	18
	100.0	5.9	78.8	15.3	100.0	5.1	79.7	15.3	100.0	17.8	66.9	15.3	100.0	19.5	65.3	15.3
Ⅲ b	7	1	5	1	7	2	4	1	7	2	4	1	7	3	3	1
	100.0	14.3	71.4	14.3	100.0	28.6	57.1	14.3	100.0	28.6	57.1	14.3	100.0	42.9	42.9	14.3
IV	15	1	9	5	15	3	8	4	15	1	9	5	15	4	6	5
	100.0	6.7	60.0	33.3	100.0	20.0	53.3	26.7	100.0	6.7	60.0	33.3	100.0	26.7	40.0	33.3
M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
認知症高齢者の日常生活自立度(3区分)																
自立+I	269	13	183	73	269	23	173	73	269	39	159	71	269	32	163	74
	100.0	4.8	68.0	27.1	100.0	8.6	64.3	27.1	100.0	14.5	59.1	26.4	100.0	11.9	60.6	27.5
Ⅱ	226	6	182	38	226	19	169	38	226	39	149	38	226	34	153	39
	100.0	2.7	80.5	16.8	100.0	8.4	74.8	16.8	100.0	17.3	65.9	16.8	100.0	15.0	67.7	17.3
Ⅲ以上	140	9	107	24	140	11	106	23	140	24	92	24	140	30	86	24
	100.0	6.4	76.4	17.1	100.0	7.9	75.7	16.4	100.0	17.1	65.7	17.1	100.0	21.4	61.4	17.1

(3) 主な介護者や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なもの

問 23 主な介護者の方や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なものはどれですか（〇はいくつでも）



主な介護者や家族が「認知症」になっても自宅で住み続けるために必要なものをたずねたところ、「通所介護（デイサービス）や短期入所（ショートステイ）などの介護サービスの充実」が 47.1%と最も多く、以下「見守りや、入浴や排せつなどの介護サービスの充実」（32.5%）、「同居していない家族も含めた介護への協力」（30.1%）、「認知症の専門医療機関の充実」（29.2%）、「専門的な相談窓口の充実」（28.1%）、「地域による見守りの協力の広がり」（19.9%）、「家族や地域の人たちが、認知症についての正しい知識を習得する機会を設ける」（15.9%）などとなっている。

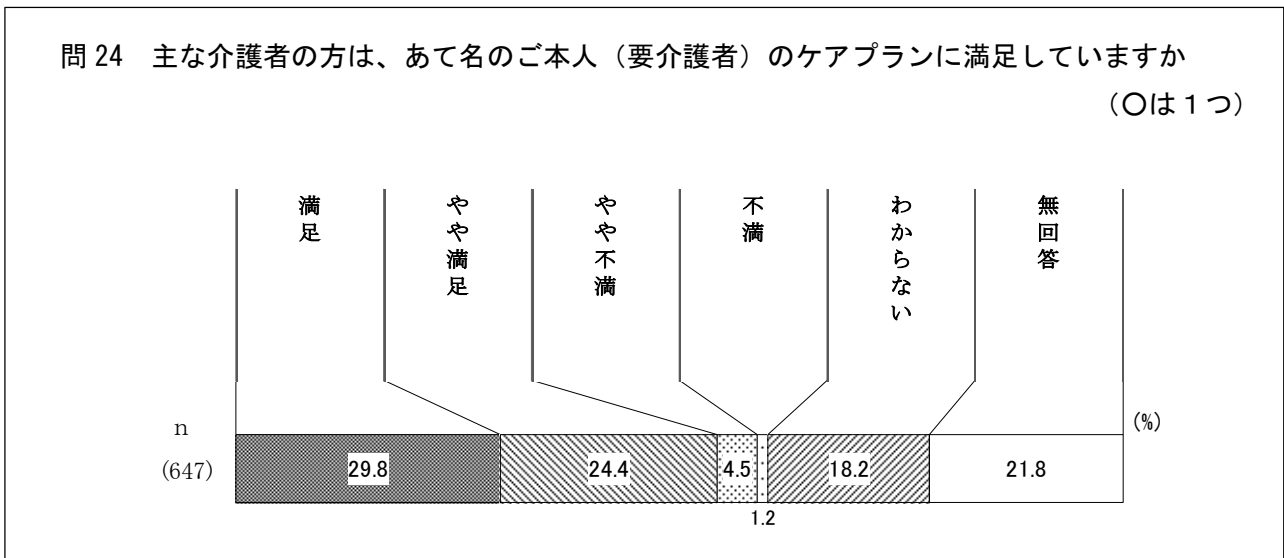
認知症高齢者の日常生活自立度別にみると、概ね重くなるにしたがって「通所介護（デイサービス）や短期入所（ショートステイ）などの介護サービスの充実」、「見守りや、入浴や排せつなどの介護サービスの充実」、「同居していない家族も含めた介護への協力」「認知症の専門医療機関の充実」が増加している。

【認知症高齢者の日常生活自立度（詳細・3区分）別】

	調査数	通所介護（デイサービス）や短期入所（ショートステイ）などの介護サービスの充実	見守りや、入浴や排せつなどの介護サービスの充実	同居していない家族も含めた介護への協力	認知症の専門医療機関の充実	専門的な相談窓口の充実	地域による見守りの協力の広がり	家族や地域の人が、認知症について正しい知識を習得する機会を設ける	ボランティア等による生活支援の充実	認知症の本人や家族が参加できる交流機会の充実	その他	特になし	わからない	無回答
全体	647 100.0	305 47.1	210 32.5	195 30.1	189 29.2	182 28.1	129 19.9	103 15.9	95 14.7	80 12.4	12 1.9	27 4.2	79 12.2	106 16.4
認知症高齢者の日常生活自立度														
自立	115 100.0	39 33.9	35 30.4	27 23.5	32 27.8	37 32.2	25 21.7	19 16.5	13 11.3	16 13.9	1 0.9	6 5.2	17 14.8	25 21.7
I	154 100.0	62 40.3	39 25.3	41 26.6	30 19.5	36 23.4	26 16.9	24 15.6	19 12.3	19 12.3	-	9 5.8	23 14.9	34 22.1
II a	52 100.0	30 57.7	16 30.8	16 30.8	17 32.7	16 30.8	12 23.1	8 15.4	13 25.0	9 17.3	1 1.9	1 1.9	5 9.6	8 15.4
II b	174 100.0	100 57.5	68 39.1	64 36.8	59 33.9	51 29.3	38 21.8	33 19.0	32 18.4	26 14.9	4 2.3	7 4.0	15 8.6	18 10.3
III a	118 100.0	62 52.5	46 39.0	39 33.1	37 31.4	34 28.8	25 21.2	15 12.7	15 12.7	8 6.8	3 2.5	3 2.5	15 12.7	14 11.9
III b	7 100.0	5 71.4	1 14.3	2 28.6	5 71.4	3 42.9	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	-	1 14.3
IV	15 100.0	4 26.7	3 20.0	4 26.7	6 40.0	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7	1 6.7	-	4 26.7
M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
認知症高齢者の日常生活自立度（3区分）														
自立+I	269 100.0	101 37.5	74 27.5	68 25.3	62 23.0	73 27.1	51 19.0	43 16.0	32 11.9	35 13.0	1 0.4	15 5.6	40 14.9	59 21.9
II	226 100.0	130 57.5	84 37.2	80 35.4	76 33.6	67 29.6	50 22.1	41 18.1	45 19.9	35 15.5	5 2.2	8 3.5	20 8.8	26 11.5
III以上	140 100.0	71 50.7	50 35.7	45 32.1	48 34.3	40 28.6	26 18.6	18 12.9	17 12.1	10 7.1	5 3.6	4 2.9	15 10.7	19 13.6

8. ケアプラン等について

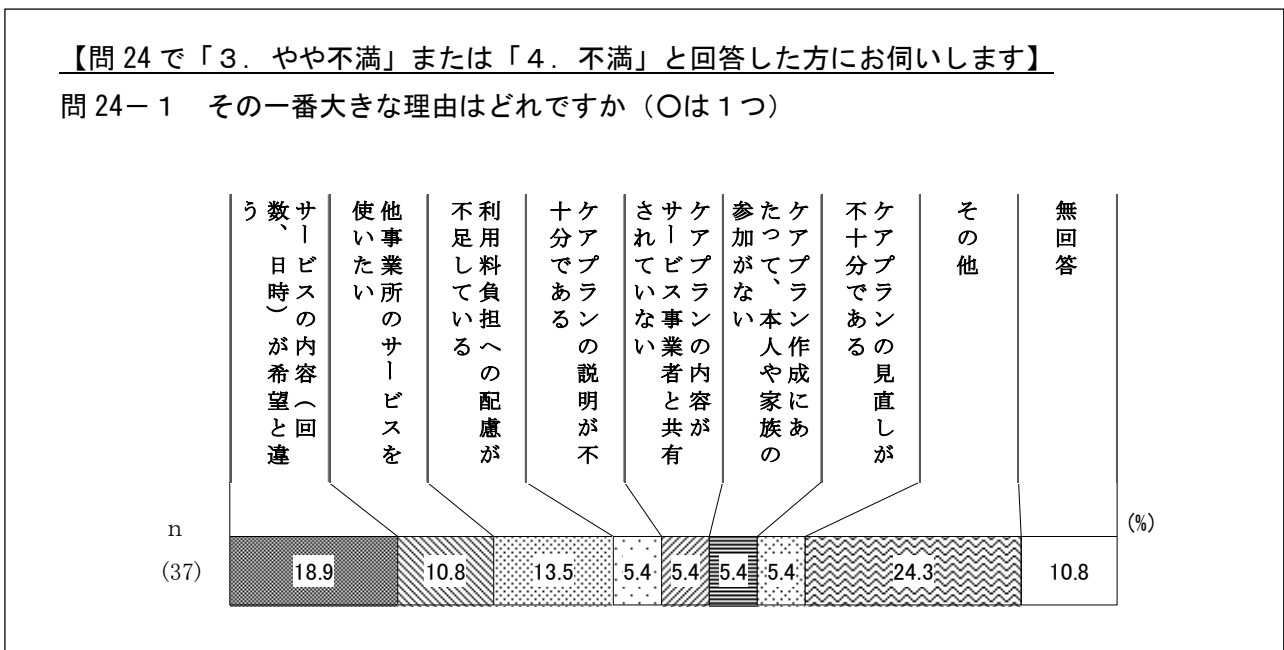
(1) 本人（要介護者）のケアプランに対する主な介護者の満足度



本人（要介護者）のケアプランに対する主な介護者の満足度をたずねたところ、「満足」が29.8%と最も多く、「やや満足」(24.4%)を合わせた“満足”は54.2%となっている。

一方、「やや不満」(4.5%)、「不満」(1.2%)を合わせた“不満”は5.7%となっている。

(2) 本人（要介護者）のケアプランに主な介護者が不満な一番の理由

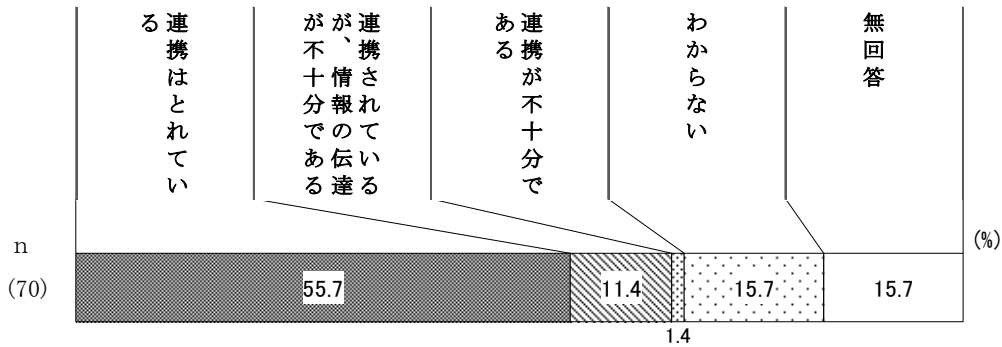


本人（要介護者）のケアプランに主な介護者が不満な一番の理由をたずねたところ、「サービスの内容(回数、日時)が希望と違う」が18.9%と最も多く、以下「利用料負担への配慮が不足している」(13.5%)、「他事業所のサービスを使いたい」(10.8%)などとなっている。

(3) 訪問診療と訪問介護などのサービス提供者間での連携状況

【あて名のご本人（要介護者）が訪問診療、介護保険サービスの両方を「利用している」方にお伺いします】

問 25 主な介護者の方から見て、訪問診療と訪問介護などのサービス提供者の間で情報共有（連携）はできていると感じますか（○は1つ）



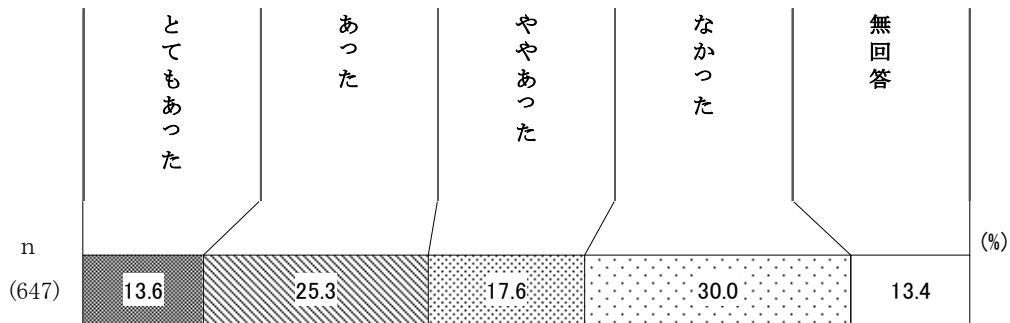
訪問診療と訪問介護などのサービス提供者間での連携状況をたずねたところ、「連携はとれている」が55.7%と最も多く、「連携されているが、情報の伝達が不十分である」(11.4%)となっている。

なお、「わからない」は15.7%となっている。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無

問 26 新型コロナウイルス感染症の影響により、外出回数などの日常生活における変化や体力などの身体的変化、気分などの精神的変化はありましたか（○は1つ）



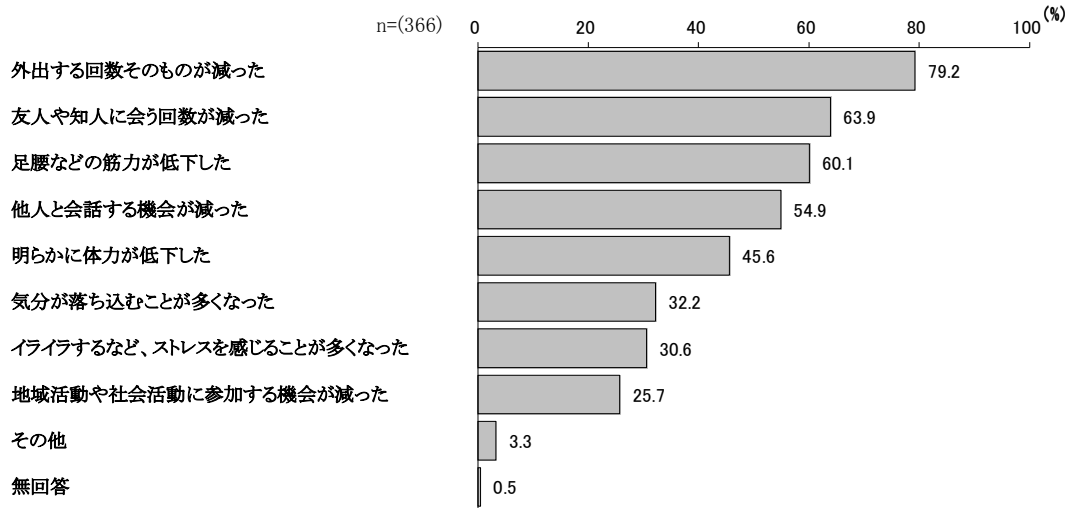
新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無をたずねたところ、「あった」（25.3%）、「ややあった」（17.6%）、「とてもあった」（13.6%）を合わせた“あった”は56.5%となっている。

一方、「なかった」は30.0%となっている。

(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容

【問26で「1. とてもあった」「2. あった」「3. ややあった」と回答した方にお伺いします】

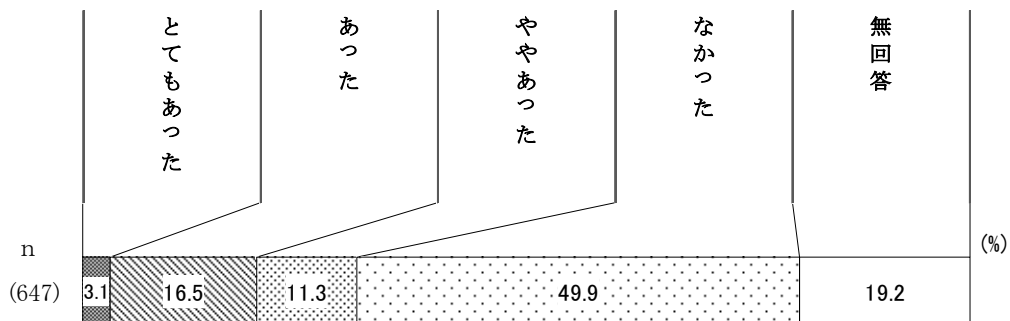
問26-1 どのような変化がありましたか (〇はいくつでも)



新型コロナウイルスの影響による変化をたずねたところ、「外出する回数そのものが減った」が79.2%と最も多く、以下「友人や知人に会う回数が減った」(63.9%)、「足腰などの筋力が低下した」(60.1%)、「他人と会話する機会が減った」(54.9%)、「明らかに体力が低下した」(45.6%) などとなっている。

(3) 新型コロナウイルスの影響により介護保険(介護予防)サービスの利用を控えたか

問27 新型コロナウイルス感染症の影響により、介護保険(介護予防)サービスの利用を控えることがありましたか (〇は1つ)

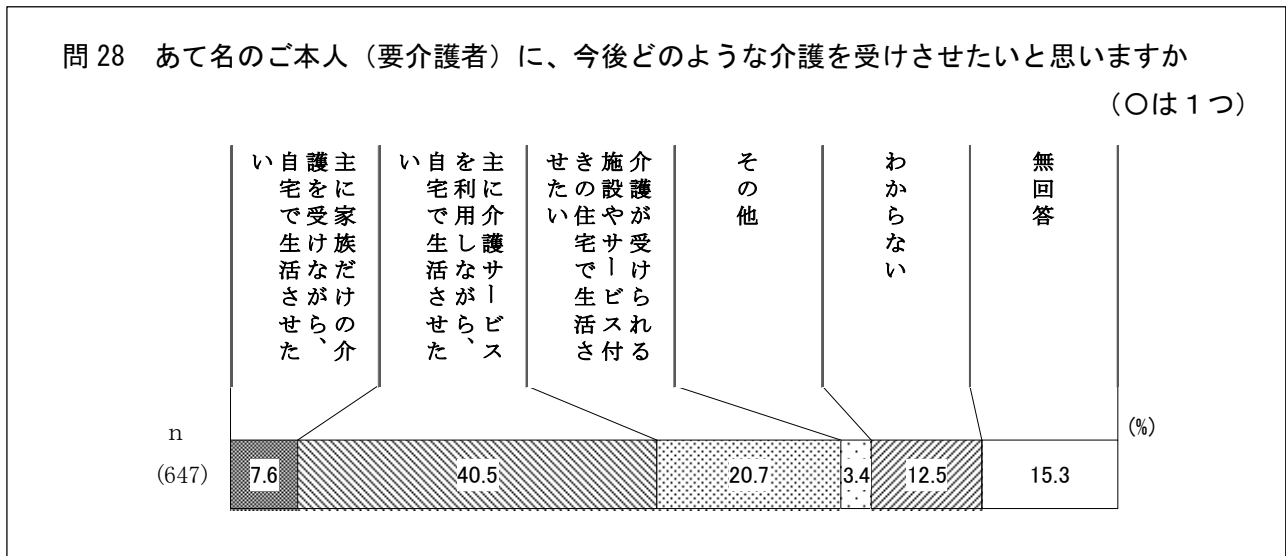


新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無をたずねたところ、「あった」(16.5%)、「ややあった」(11.3%)、「とてもあった」(3.1%)を合わせた“あった”は30.9%となっている。

一方、「なかった」は49.9%となっている。

10. 介護保険制度について

(1) 本人（要介護者）に、今後受けさせたい介護

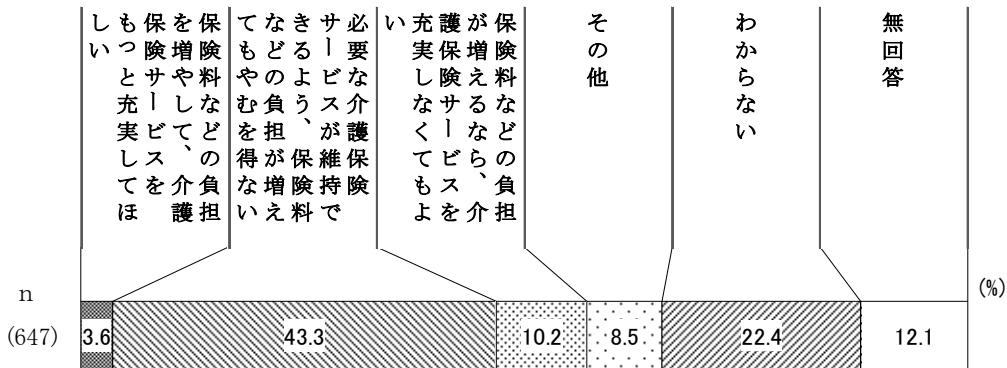


本人（要介護者）に、今後受けさせたい介護をたずねたところ、「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい」が40.5%と最も多く、以下「介護が受けられる施設やサービス付きの住宅で生活させたい」（20.7%）、「主に家族だけの介護を受けながら、自宅で生活させたい」（7.6%）となっている。

なお、「わからない」は12.5%となっている。

(2) 必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考え

問 29 超高齢社会を迎え、本市に必要な介護保険サービスを提供できるようにするため、保険料などの負担が増えることについて、あなたはどのように思いますか（○は1つ）

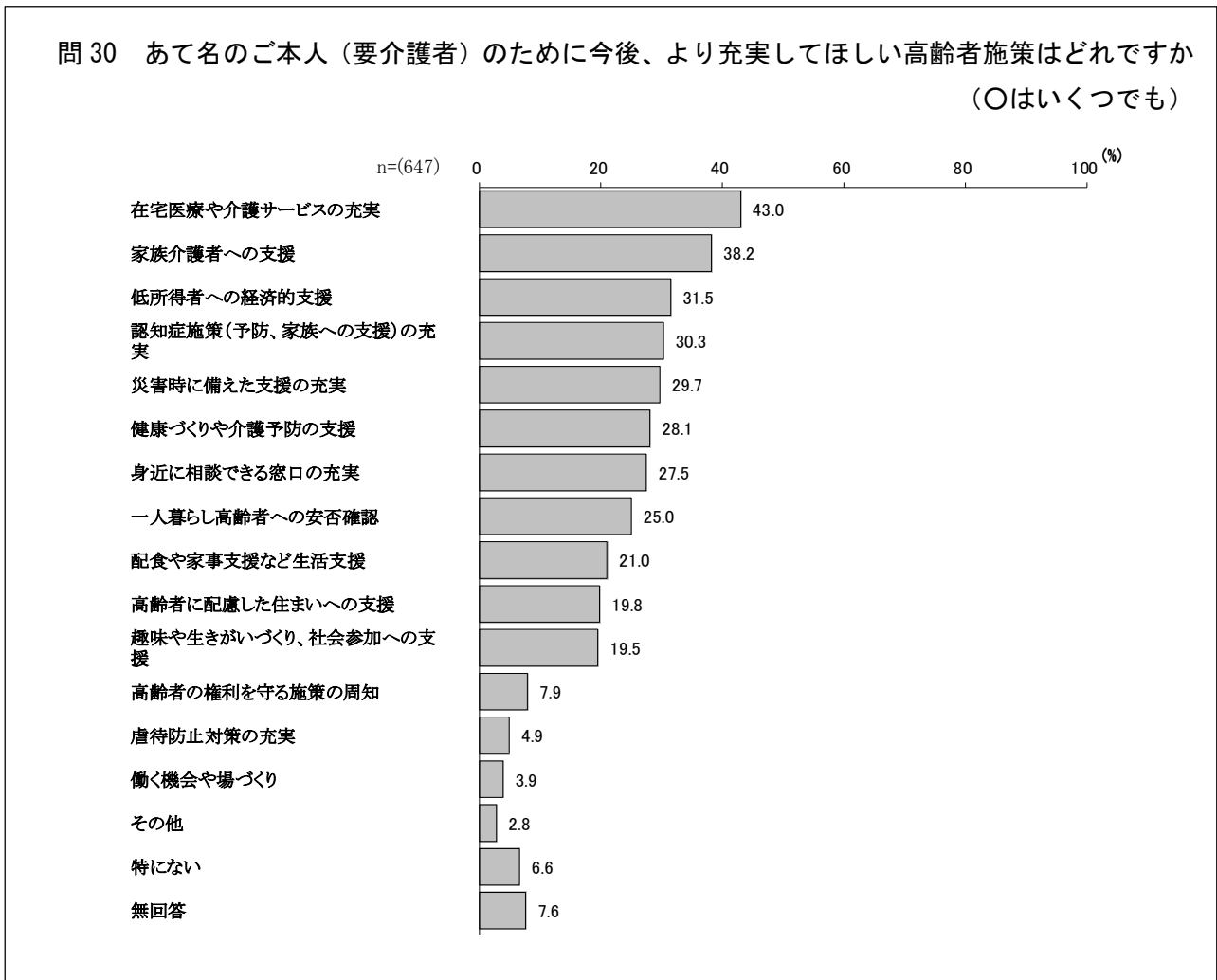


必要な介護保険サービス提供のための保険料などの負担増についての考えをたずねたところ、「必要な介護保険サービスが維持できるように、保険料などの負担が増えてもやむを得ない」が43.3%と最も多く、以下「保険料などの負担が増えるなら、介護保険サービスを充実しなくてもよい」(10.2%)、「保険料などの負担を増やして、介護保険サービスをもっと充実してほしい」(3.6%)となっている。

なお、「わからない」は22.4%となっている。

1.1. 今後の施策について

(1) 本人（要介護者）のために今後、より充実してほしい高齢者施策



本人（要介護者）のために今後、より充実してほしい高齢者施策をたずねたところ、「在宅医療や介護サービスの充実」が43.0%と最も多く、以下「家族介護者への支援」(38.2%)、「低所得者への経済的支援」(31.5%)、「認知症施策（予防、家族への支援）の充実」(30.3%)、「災害時に備えた支援の充実」(29.7%) などとなっている。

認知症高齢者の日常生活自立度別にみると、概ね重くなるにしたがって「在宅医療や介護サービスの充実」、「家族介護者への支援」、「低所得者への経済的支援」、「認知症施策（予防、家族への支援）の充実」が増加しており、特にⅢ以上で多くなっている。

【認知症高齢者の日常生活自立度（詳細・3区分）別】

	調査数	在宅医療や介護サービスの充実	家族介護者への支援	低所得者への経済的支援	認知症施策（予防、家族への支援）の充実	災害時に備えた支援の充実	健康づくりや介護予防の支援	身近に相談できる窓口の充実	一人暮らし高齢者への安否確認	配食や家事支援など生活支援	高齢者に配慮した住まいへの支援	趣味や生きがいづくりに社会参加への支援	高齢者の権利を守る施策の周知	虐待防止対策の充実	働く機会や場づくり
全体	647 100.0	278 43.0	247 38.2	204 31.5	196 30.3	192 29.7	182 28.1	178 27.5	162 25.0	136 21.0	128 19.8	126 19.5	51 7.9	32 4.9	25 3.9

認知症高齢者の日常生活自立度

自立	115 100.0	49 42.6	35 30.4	33 28.7	25 21.7	34 29.6	38 33.0	28 24.3	38 33.0	22 19.1	27 23.5	31 27.0	11 9.6	5 4.3	3 2.6
I	154 100.0	52 33.8	44 28.6	44 28.6	36 23.4	48 31.2	43 27.9	41 26.6	51 33.1	33 21.4	25 16.2	33 21.4	18 11.7	8 5.2	5 3.2
II a	52 100.0	22 42.3	25 48.1	16 30.8	18 34.6	18 34.6	15 28.8	18 34.6	9 17.3	13 25.0	16 30.8	10 19.2	4 7.7	5 9.6	2 3.8
II b	174 100.0	82 47.1	75 43.1	61 35.1	63 36.2	53 30.5	53 30.5	51 29.3	39 22.4	40 23.0	36 20.7	34 19.5	10 5.7	9 5.2	11 6.3
III a	118 100.0	60 50.8	55 46.6	41 34.7	44 37.3	34 28.8	25 21.2	36 30.5	19 16.1	24 20.3	20 16.9	16 13.6	7 5.9	5 4.2	1 0.8
III b	7 100.0	4 57.1	3 42.9	-	2 28.6	2 28.6	2 28.6	-	-	-	1 14.3	1 14.3	-	-	1 14.3
IV	15 100.0	6 40.0	6 40.0	5 33.3	6 40.0	3 20.0	2 13.3	2 13.3	2 13.3	3 20.0	1 6.7	-	1 6.7	-	1 6.7
M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

認知症高齢者の日常生活自立度（3区分）

自立+I	269 100.0	101 37.5	79 29.4	77 28.6	61 22.7	82 30.5	81 30.1	69 25.7	89 33.1	55 20.4	52 19.3	64 23.8	29 10.8	13 4.8	8 3.0
II	226 100.0	104 46.0	100 44.2	77 34.1	81 35.8	71 31.4	68 30.1	69 30.5	48 21.2	53 23.5	52 23.0	44 19.5	14 6.2	14 6.2	13 5.8
III以上	140 100.0	70 50.0	64 45.7	46 32.9	52 37.1	39 27.9	29 20.7	38 27.1	21 15.0	27 19.3	22 15.7	17 12.1	8 5.7	5 3.6	3 2.1

	調査数	その他	特にない	無回答
全体	647 100.0	18 2.8	43 6.6	49 7.6

認知症高齢者の日常生活自立度

自立	115 100.0	2 1.7	10 8.7	11 9.6
I	154 100.0	3 1.9	10 6.5	16 10.4
II a	52 100.0	1 1.9	3 5.8	4 7.7
II b	174 100.0	4 2.3	7 4.0	5 2.9
III a	118 100.0	5 4.2	11 9.3	9 7.6
III b	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3
IV	15 100.0	-	1 6.7	2 13.3
M	-	-	-	-

認知症高齢者の日常生活自立度（3区分）

自立+I	269 100.0	5 1.9	20 7.4	27 10.0
II	226 100.0	5 2.2	10 4.4	9 4.0
III以上	140 100.0	6 4.3	12 8.6	12 8.6

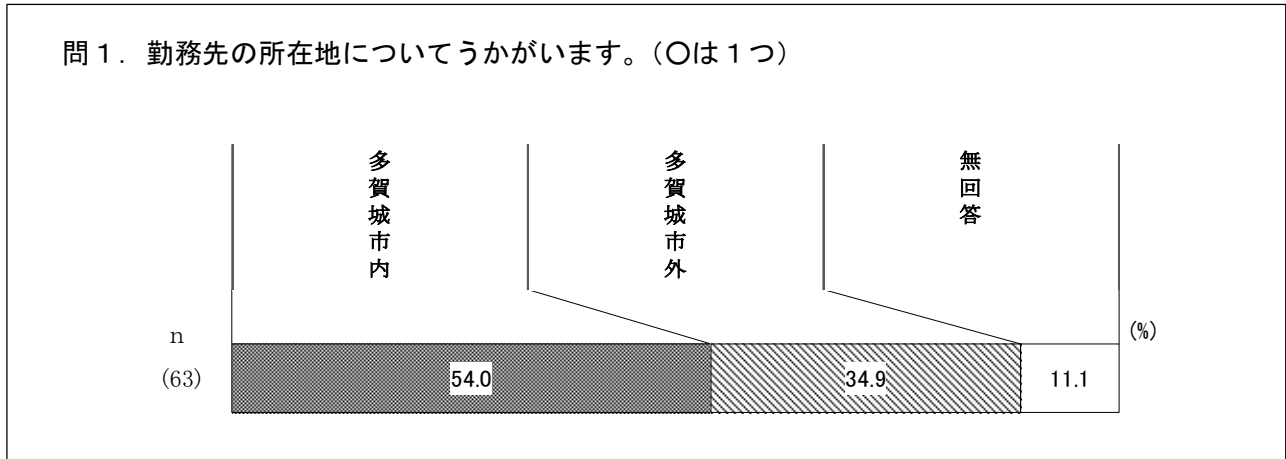
第2部 調査結果の分析

第3章 ケアマネジャーに対する調査

第3章 ケアマネジャーに対する調査

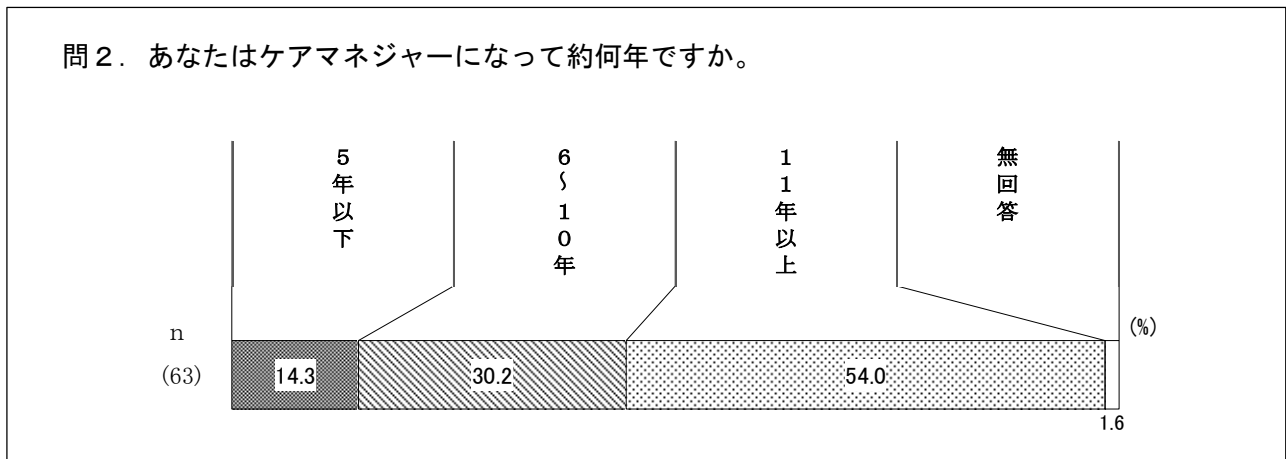
1. 回答者の属性について

(1) 勤務先の所在地



勤務先の所在地をたずねたところ、「多賀城市内」が 54.0%、「多賀城市外」が 34.9%となっている。

(2) ケアマネジャー歴



ケアマネジャー歴をたずねたところ、「11年以上」が 54.0%と最も多く、以下「6～10年」(30.2%)、「5年以下」(14.3%) となっている。

(3) ケアプラン担当人数

問3. 令和元年12月1日現在、あなたは何人のケアプランを担当していますか。

問3-1. 問3のうち、多賀城市の被保険者を何人担当していますか。

問3-2. 担当している多賀城市の被保険者のうち、介護サービスの上限を超えてサービスを利用するケアプランを立てている方がいますか。12月1日現在の担当者についてお答えください。

	要介護者		要支援者		合計	
	調査数	平均	調査数	平均	調査数	平均
担当しているケアプランの人数	63	27.11	63	5.10	63	32.21
うち、担当している被保険者の人数	63	11.02	63	2.68	63	13.70
介護サービスの上限を超えたケアプランを立てている方の人数	63	0.48	63	0.02	63	0.49

ケアプラン担当人数をたずねたところ、要介護者の平均は27.11人、要支援者の平均は5.10人、合計の平均は32.21人となっている。

担当しているうち、多賀城市の被保険者の人数をたずねたところ、要介護者の平均は11.02人、要支援者の平均は2.68人、合計の平均は13.70人となっている。

担当している多賀城市の被保険者うち、介護サービスの上限を超えたケアプランを立てている方の人数をたずねたところ、要介護者の平均は0.48人、要支援者要支援者の平均は0.02人、合計の平均は0.49人となっている。

2. サービスの過不足について

(1) 介護保険対象サービスの過不足

問4. 現時点の多賀城市における介護保険対象サービスについて、(ア) 現在、供給が不足していると感じるサービス、(イ) 今後、需要が増えたり必要となると考えられるサービスはありますか。(ア)(イ)それぞれについて○はいくつでも)

調査数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定施設入居者生活介護	福祉用具貸与	居宅介護支援	介護老人福祉施設	
上段：実数 下段：%														
(ア) 現在供給が不足していると感じるサービス	63 100.0	25 39.7	8 12.7	11 17.5	8 12.7	9 14.3	5 7.9	6 9.5	24 38.1	15 23.8	4 6.3	2 3.2	7 11.1	21 33.3
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられるサービス	63 100.0	28 44.4	7 11.1	24 38.1	17 27.0	24 38.1	9 14.3	11 17.5	15 23.8	11 17.5	4 6.3	5 7.9	11 17.5	19 30.2

調査数	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	介護医療院	定期巡回・随時対応型訪問看護	夜間対応型訪問介護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	施設入所者生活介護	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	介護予防訪問入浴介護
上段：実数 下段：%														
(ア) 現在供給が不足していると感じるサービス	63 100.0	14 22.2	9 14.3	5 7.9	17 27.0	10 15.9	2 3.2	5 7.9	8 12.7	5 7.9	3 4.8	3 4.8	17 27.0	5 7.9
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられるサービス	63 100.0	15 23.8	12 19.0	8 12.7	24 38.1	17 27.0	5 7.9	10 15.9	13 20.6	12 19.0	3 4.8	6 9.5	17 27.0	1 1.6

調査数	介護予防訪問看護	介護予防訪問リハビリテーション	介護予防居宅療養管理指導	介護予防通所リハビリテーション	介護予防短期入所生活介護	介護予防短期入所療養介護	生活介護	介護予防特定施設入居者生活介護	介護予防福祉用具貸与	介護予防支援	介護予防認知症対応型通所介護	介護予防小規模多機能型居宅介護	介護予防認知症対応型共同生活介護	無回答
上段：実数 下段：%														
(ア) 現在供給が不足していると感じるサービス	63 100.0	4 6.3	6 9.5	3 4.8	5 7.9	3 4.8	2 3.2	3 4.8	2 3.2	8 12.7	6 9.5	5 7.9	4 6.3	7 11.1
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられるサービス	63 100.0	1 1.6	3 4.8	2 3.2	3 4.8	4 6.3	2 3.2	2 3.2	3 4.8	11 17.5	5 7.9	5 7.9	3 4.8	7 11.1

介護保険対象サービスについて、現在供給が不足していると感じるサービスをたずねたところ、「訪問介護」(39.7%)、「短期入所生活介護」(38.1%)がともに多く、以下「介護老人福祉施設」(33.3%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)」(ともに27.0%)、「短期入所療養介護」(23.8%)などとなっている。

今後需要が増えたり必要となると考えられるサービスをたずねたところ、「訪問介護」が44.4%と最も多く、以下「訪問看護」「居宅療養管理指導」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(ともに38.1%)、「介護老人福祉施設」(30.2%)、「訪問リハビリテーション」「夜間対応型訪問介護」「複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)」(ともに27.0%)、「短期入所生活介護」「介護老人保健施設」(ともに23.8%)などとなっている。

(2) 最も供給が不足していると感じる介護保険対象サービスとその理由

問4-1. 多賀城市内で最も供給が不足していると感じるサービスは何ですか。また、その理由を記入してください。

最も供給が不足していると感じるサービスとその理由をたずねたところ、42件の回答があった。内容は以下の通りである。

サービス名	不足していると感じる理由
訪問介護	軽度者が利用できる訪問介護事業所が少ない。
訪問介護	要支援者を受けてくれる事業所が少ない。
訪問介護	利用者の希望される時間の提供がヘルパー不足もあり対応が困難。
訪問介護	同時間はどこもいっぱい入れず。
訪問介護	家族様がサービスを知らずに無理に家族介護を頑張っている場合がある。
訪問入浴介護	現在塩釜2ヵ所または仙台市の事業所を利用しており、競争があまりないので質向上につながらない。
訪問入浴介護	多賀城市にはサービス事業所がない。
訪問看護	多賀城市内に訪看事業所が少なく利用することができない、定員がいっぱいの為外市町村の訪看を利用している。
訪問看護	事業所数が少なく、仙台市内の事業所を利用している。
居宅療養管理指導	グループホームに入居している利用者の中には、生活保護や身寄りのない方がおり、その方に対して往診の受け皿が少ないと感じている。
通所介護（1日型デイサービス）	半日型のリハビリ特化型デイサービスが増えている。1日型のデイサービスの需要があるので増やしてほしい。鶴ヶ谷デイサービスが閉鎖になってしまったから。
短期入所生活介護	利用を予約するときは、すべて、他市町村にあるショートステイを予約しなければならない。
短期入所生活介護	急な対応の依頼時にサービス確保が難しい為。
短期入所生活介護	コロナ感染で予約していても予定通り利用できない事があり困る。
短期入所生活介護	選択できる事業所が少ない（利用者が）。
短期入所生活介護	多賀城市内に少ないため、他市町村を利用している。
短期入所生活介護	どこも前々からの予約が必要で、急に必要になった時に利用できる体制が取れていない。
短期入所生活介護	多賀城市内の事業所を利用することができず、多賀城市外の事業所を利用している。
短期入所療養介護	医療依存度の高い方（腎ろう、インスリン等）の受け皿がなく、毎回探している。
居宅介護支援	病休等での人員減、事業所閉鎖を聞く。当事業所も大変な状況であるため。

サービス名	不足していると感じる理由
介護老人福祉施設	介護力不足の家庭が増えている様に思うため。
介護老人福祉施設	待機人数が多い。
介護老人福祉施設	特養を希望する方が多いのですが、数が足りていません。
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	依頼しても、人材・人数が不足しているとの理由で、こちらの希望日時には対応困難と断られたことがあります。
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	多賀城市に1事業所しかない為。
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	認知症の方が増え、家族対応が難しくなっている。
夜間対応型訪問介護	夜間頼めるところがない。
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	医療依存度の高い高齢者が増えてくると思われる中で、多賀城市には無いサービスだから。
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	医療ニーズが高い方も、長期入院が難しくなっており、在宅で医療、介護サービスを柔軟な対応で受けられる事が難しいと感じている。
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	医療依存度の高い方の受け皿としての選択肢が少なく施設を選ばざるを得ないから。
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	現在、市内2ヶ所しかないが、定員が満員だったり、一部サービスが提供できなかったりと、需要に対して供給が不足していると感じます。看護小規模も1ヶ所でもあると、選択肢が広がると思います。
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	医療依存度が高くても在宅療養を希望する方を支援するため、複合型サービスが必要である。
介護予防小規模多機能型居宅介護	とても有効なサービスであり、受容もあるが、市内1つの事業所は自社サ高住への提供のみで外部への対応なし。もう1つの事業所も要介護認定でなければ受入しなくなった。 ※看多機もない。 ※定巡も1つは自社サ高住のみ、もう1つも介2以上のみ。
その他（配食弁当）	業者が少ないと思います。
その他（介護老人福祉施設、認知症対応型共同生活介護）	入所費用を抑えたいという家族の希望ではあるが、安価な金額で入所できる施設や生活保護対応のグループホームが限られているので枠を広げていただきたい。
その他（インフォーマルサービス）	実際に利用できるサービスが少ない。
その他（ショート、お泊まりデイ）	認知症の方が在宅で生活することを考えると、慣れた施設での宿泊が出るサービスがますます必要になると思う。
その他（訪問介護（予防・総合事業））	報酬が少なく採算が取れない。
その他（入所サービス全般）	※理由の記入なし
その他（訪問型サービス独自（ホームヘルプサービス）、通所型サービス独自（デイサービス））	※理由の記入なし
その他（訪問入浴、看多機、通常規模型のデイサービス→リハ特化ではない。）	入浴は市内に既存している事業所がない、通常規模型デイの閉鎖が相次いでおり、受け皿が少なくなっていることに危惧している。
その他（予防訪問介護）	予防訪問介護事業所の受け入れがなく限られた事業所で対応している、認知症対応としたショート施設がない。

※2つ以上のサービスを回答している場合は「その他」に分類しています。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の過不足

問5. 現時点の多賀城市内における介護予防・日常生活支援総合事業について、(ア) 現在、供給が不足していると感じるサービス、(イ) 今後、需要が増えたり必要となると考えられるサービスはありますか。(ア)(イ)それぞれについて〇はいくつでも)

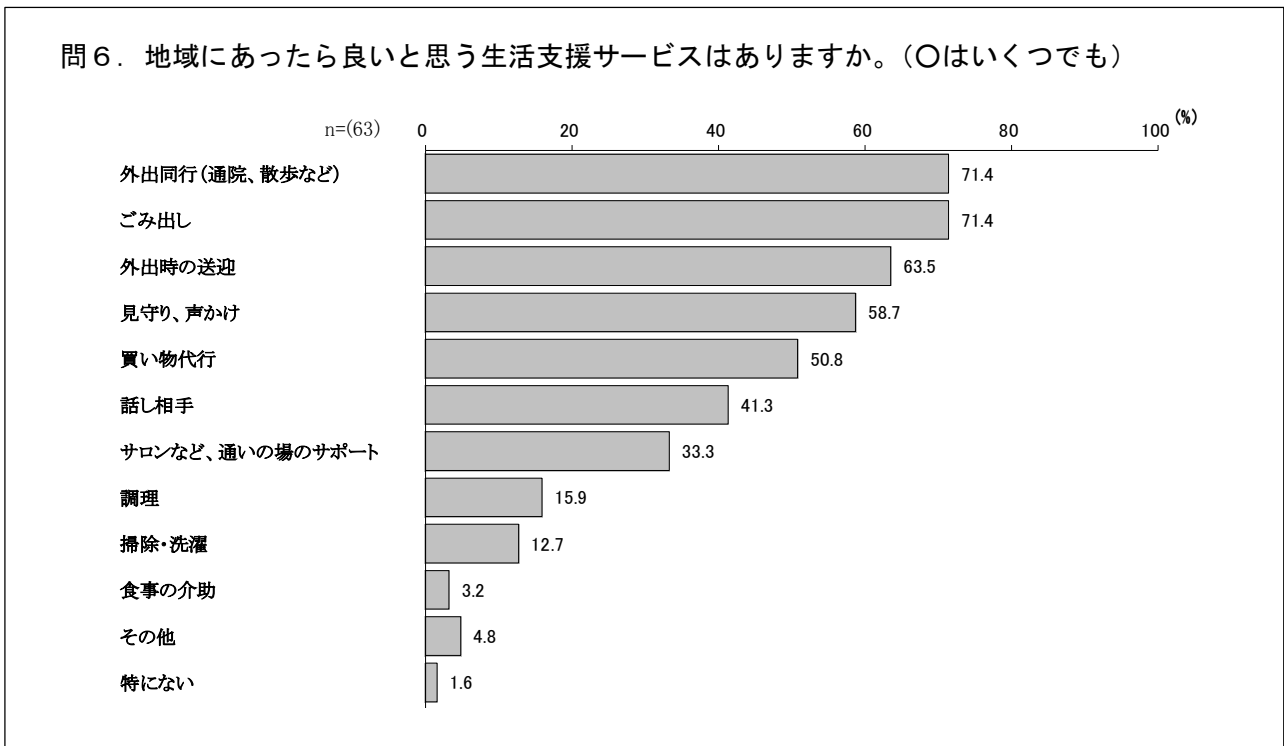
	調査数	介護予防訪問介護相当サービス	軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)	介護予防通所介護相当サービス	短期集中予防サービス事業(市の独自基準によるサービス)	認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)	健康ストレッチ教室	筋運アップ教室	地域リハビリテーション活動支援事業	無回答
上段：実数 下段：%										
(ア) 現在供給が不足していると感じるサービス	63 100.0	22 34.9	11 17.5	9 14.3	6 9.5	11 17.5	4 6.3	4 6.3	3 4.8	32 50.8
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられるサービス	63 100.0	20 31.7	14 22.2	11 17.5	7 11.1	17 27.0	11 17.5	8 12.7	11 17.5	27 42.9

介護予防・日常生活支援総合事業について、現在供給が不足していると感じるサービスをたずねたところ、「介護予防訪問介護相当サービス」(34.9%)が最も多く、以下「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「(ともに17.5%)、「介護予防通所介護相当サービス」(14.3%)などとなっている。

今後需要が増えたり必要となると考えられるサービスをたずねたところ、「介護予防訪問介護相当サービス」(31.7%)が最も多く、以下「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「(27.0%)、「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「(22.2%)、「介護予防通所介護相当サービス」「健康ストレッチ教室」「地域リハビリテーション活動支援事業」(ともに17.5%)などとなっている。

3. 必要なサービスについて

(1) 地域にあったら良いと思う生活支援サービス

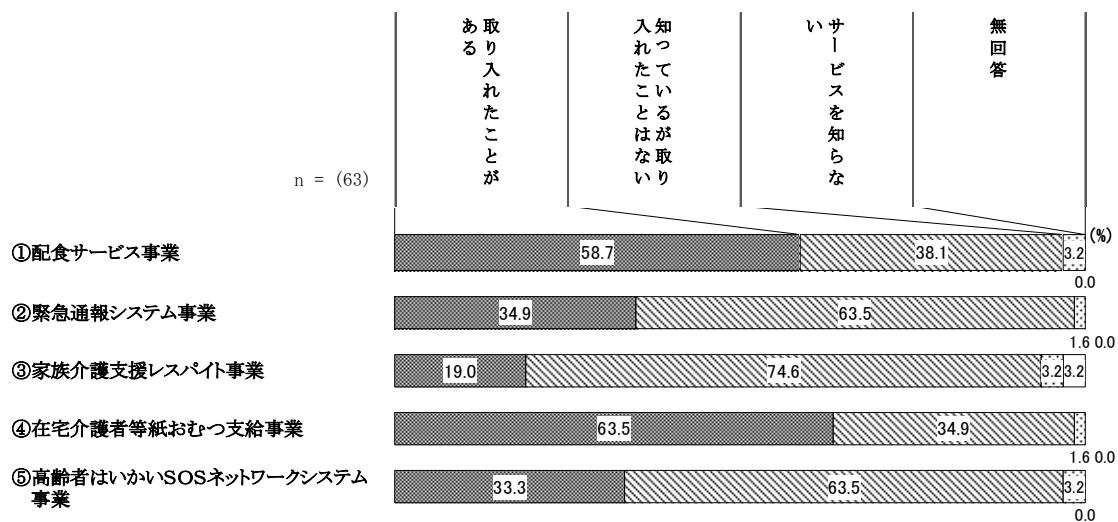


地域にあったら良いと思う生活支援サービスをたずねたところ、「外出同行（通院、散歩など）」「ごみ出し」がともに71.4%と最も多く、以下「外出時の送迎」（63.5%）、「見守り、声かけ」（58.7%）、「買い物代行」（50.8%）、「話し相手」（41.3%）などとなっている。

4. 介護保険以外のサービスについて

(1) 多賀城市が行っている高齢者福祉サービスのケアプランへの取り入れ

問7. 多賀城市が行っている高齢者福祉サービスをケアプランに取り入れていますか。または取り入れたことがありますか。(①～⑤それぞれについて○は1つずつ)



多賀城市が行っている高齢者福祉サービスのケアプランへの取り入れをたずねたところ、『①配食サービス事業』、『④在宅介護者等紙おむつ支給事業』は「取り入れたことがある」が50.0%以上となっている。

一方、『②緊急通報システム事業』、『③家族介護支援レスパイト事業』、『⑤高齢者はいかいSOSネットワークシステム事業』は「知っているが取り入れたことはない」が60.0%以上となっており、特に『③家族介護支援レスパイト事業』は74.6%と多くなっている。

なお、「サービスを知らない」はすべてのサービスで10.0%未満となっている。

(2) 高齢者向け施設（介護保険サービス以外）の過不足

問8. 現時点の高齢者向け施設（介護保険サービス以外）について、(ア) 現在、多賀城市内において供給が不足していると感じる施設、(イ) 今後、多賀城市内の需要が増えたり必要となると考えられる施設はありますか。(ア)(イ)それぞれについて○はいくつでも)

	調査数	住宅型有料老人ホーム	健康型有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	無回答
上段：実数 下段：%					
(ア) 現在供給が不足していると感じる施設	63 100.0	2 3.2	5 7.9	3 4.8	53 84.1
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられる施設	63 100.0	11 17.5	14 22.2	18 28.6	35 55.6

高齢者向け施設（介護保険サービス以外）について、現在供給が不足していると感じる施設をたずねたところ、「健康型有料老人ホーム」(7.9%)、「サービス付き高齢者向け住宅」(4.8%)、「住宅型有料老人ホーム」(3.2%)となっている。

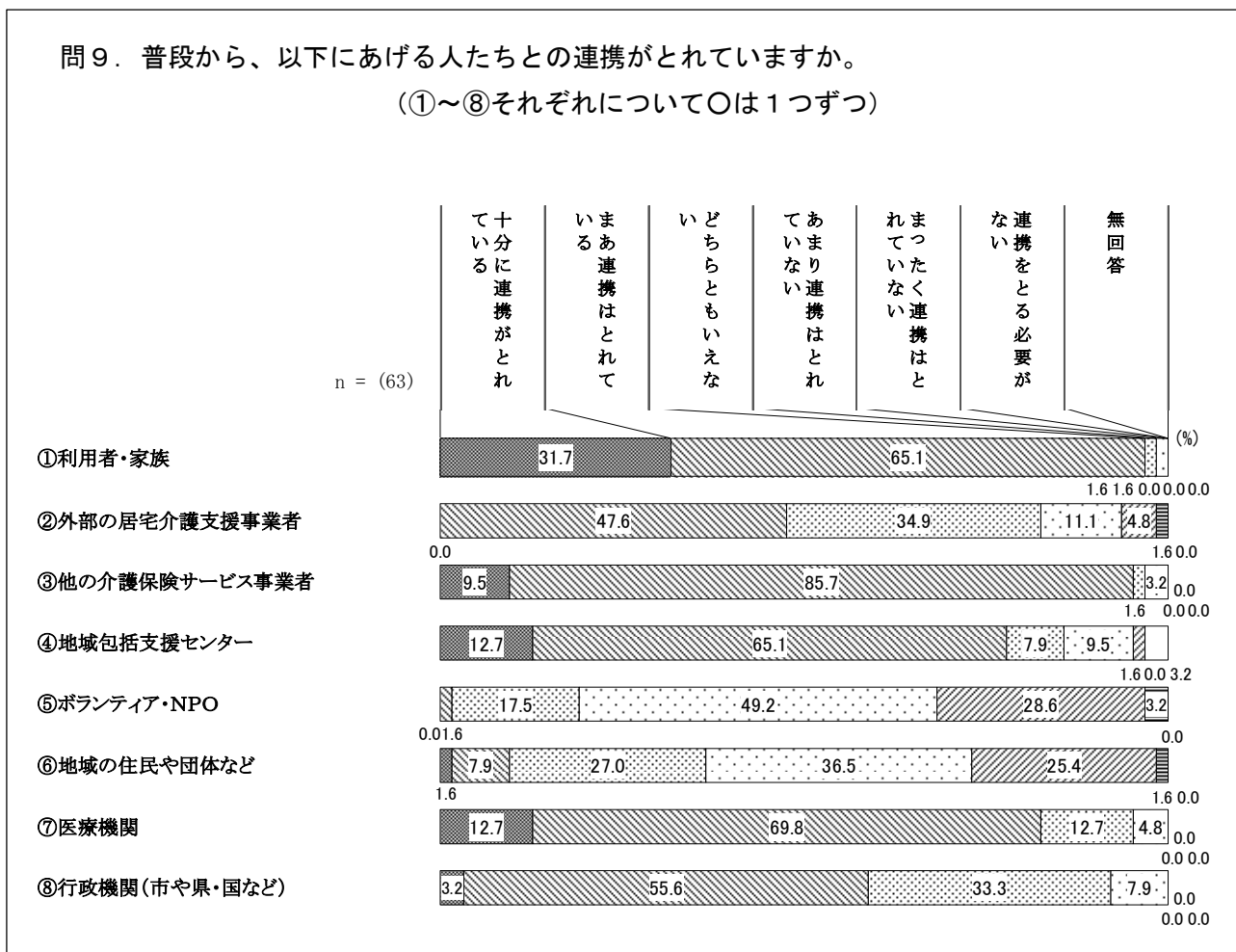
今後需要が増えたり必要となると考えられる施設をたずねたところ、「サービス付き高齢者向け住宅」(28.6%)、「健康型有料老人ホーム」(22.2%)、「住宅型有料老人ホーム」(17.5%)となっている。

5. 関係者・関係機関との連携について

(1) 関係者・関係機関との連携状況

問9. 普段から、以下にあげる人たちとの連携がとれていますか。

(①～⑧それぞれについて○は1つずつ)



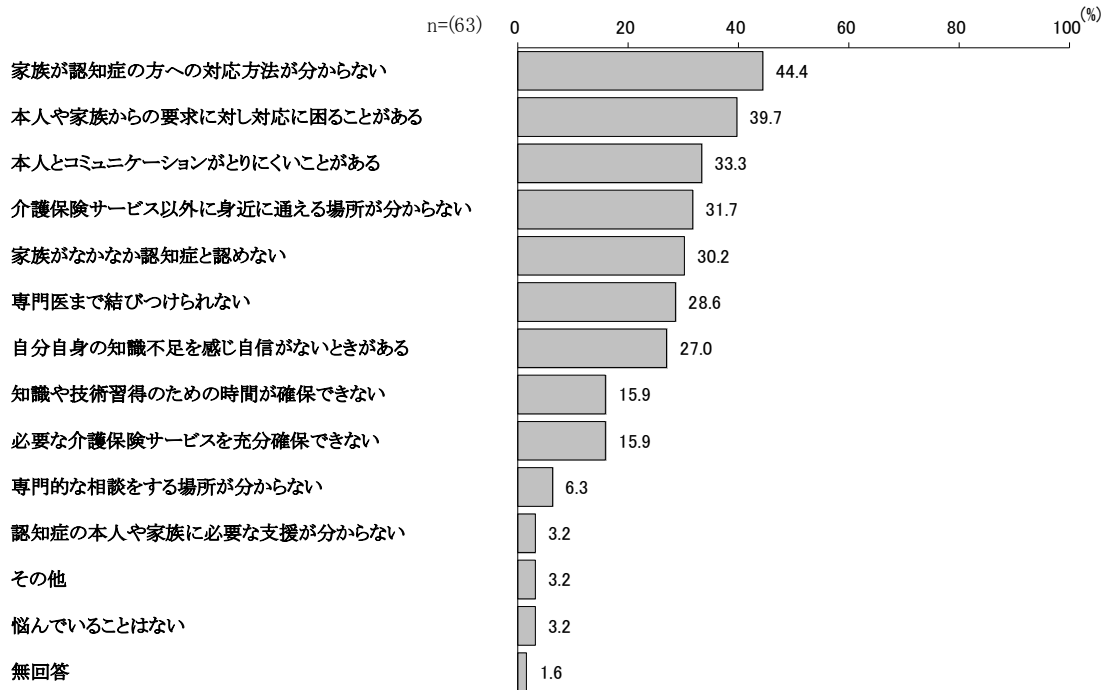
関係者・関係機関との連携をたずねたところ、『②外部の居宅介護支援事業者』、『⑤ボランティア・NPO』、『⑥地域の住民や団体など』を除くすべての関係者・関係機関で「十分に連携がとれている」、「まあ連携はとれている」を合わせた“連携はとれている”が50.0%以上となっており、特に『①利用者・家族』(96.8%)、『③他の介護保険サービス事業者』(95.2%)は90.0%以上となっている。

一方、「あまり連携はとれていない」、「まったく連携はとれていない」を合わせた“連携はとれていない”は『⑤ボランティア・NPO』(77.8%)、『⑥地域の住民や団体など』(61.9%)で多くなっている。

6. 認知症の対応について

(1) 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいること

問10. 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいることがありますか。
(〇はいくつでも)

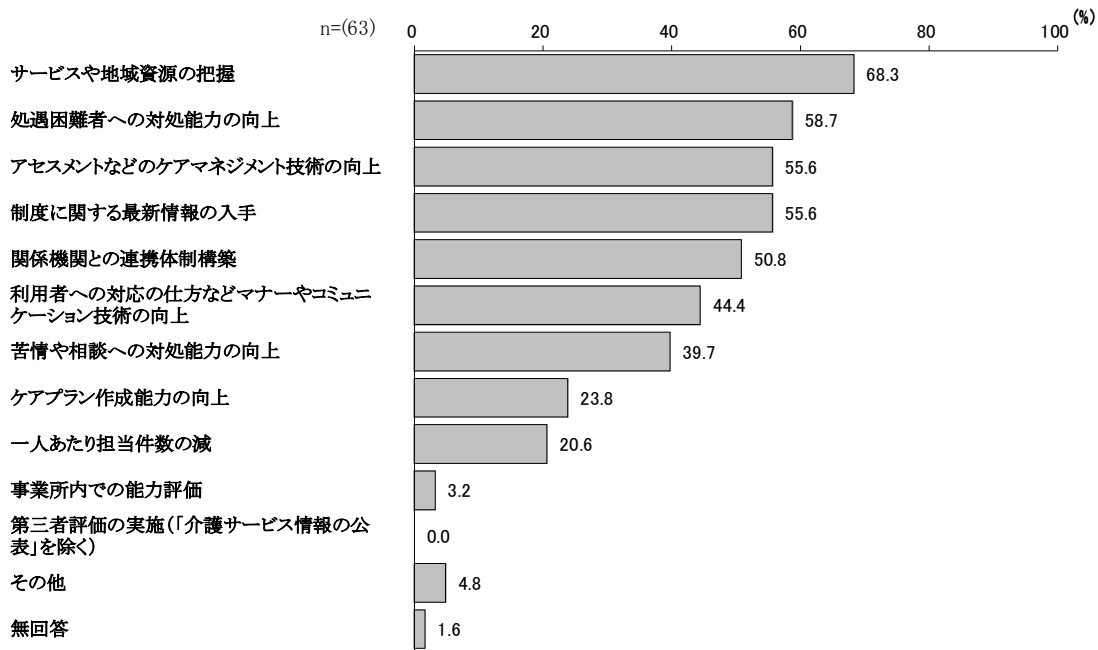


認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいることをたずねたところ、「家族が認知症の方への対応方法が分からない」が44.4%と最も多く、以下「本人や家族からの要求に対し対応に困ることがある」(39.7%)、「本人とコミュニケーションがとりにくいことがある」(33.3%)、「介護保険サービス以外に身近に通える場所が分からない」(31.7%)、「家族がなかなか認知症と認めない」(30.2%) などとなっている。

7. サービスの質の向上を図ることについて

(1) サービスの質の向上を図るために今後必要な取り組み

問11. ケアマネジャーとしてサービスの質の向上を図るために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

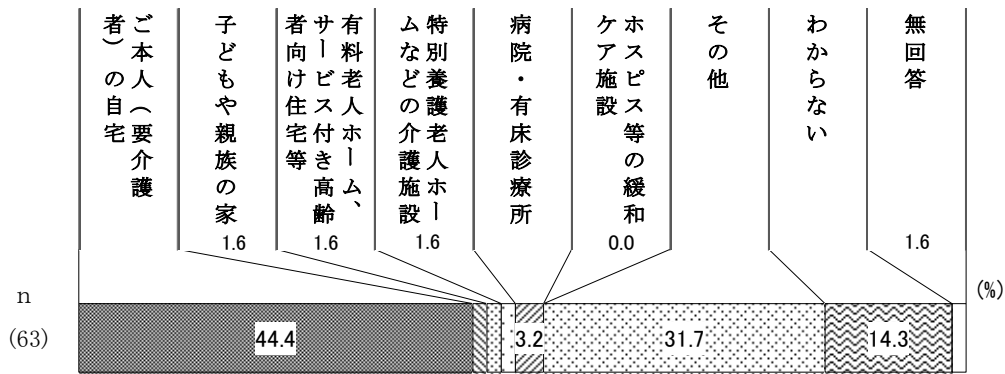


サービスの質の向上を図るために今後必要な取り組みをたずねたところ、「サービスや地域資源の把握」が68.3%と最も多く、以下「処遇困難者への対処能力の向上」(58.7%)、「アセスメントなどのケアマネジメント技術の向上」「制度に関する最新情報の入手」(ともに55.6%)、「関係機関との連携体制構築」(50.8%)などとなっている。

8. 地域包括ケアの実現に向けた取り組みについて

(1) 利用者にとっての望ましい人生の最期の場所

問12. 日々の業務を通じて、ケアマネジャーとして、利用者は人生の最期をどこで迎えるのが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

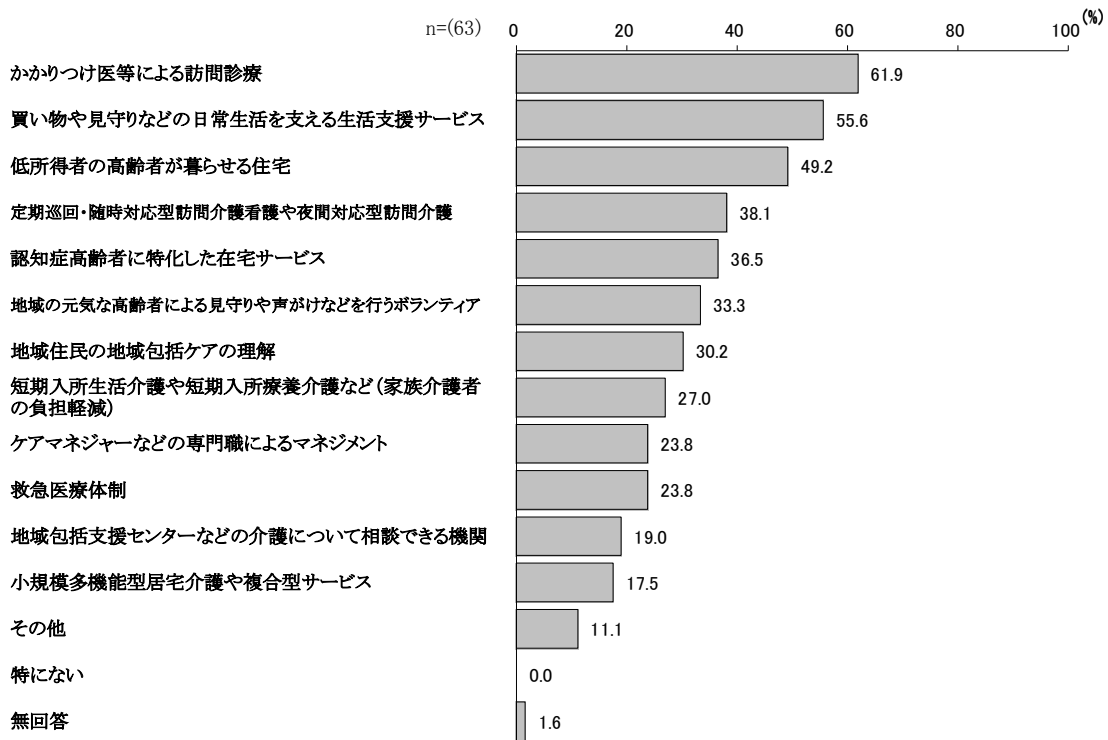


利用者にとっての望ましい人生の最期の場所をたずねたところ、「ご本人（要介護者）の自宅」が44.4%と最も多く、以下「病院・有床診療所」（3.2%）、「子どもや親族の家」「有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等」「特別養護老人ホームなどの介護施設」（ともに1.6%）となっている。

なお、「その他」は31.7%となっている。

(2) 自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うこと

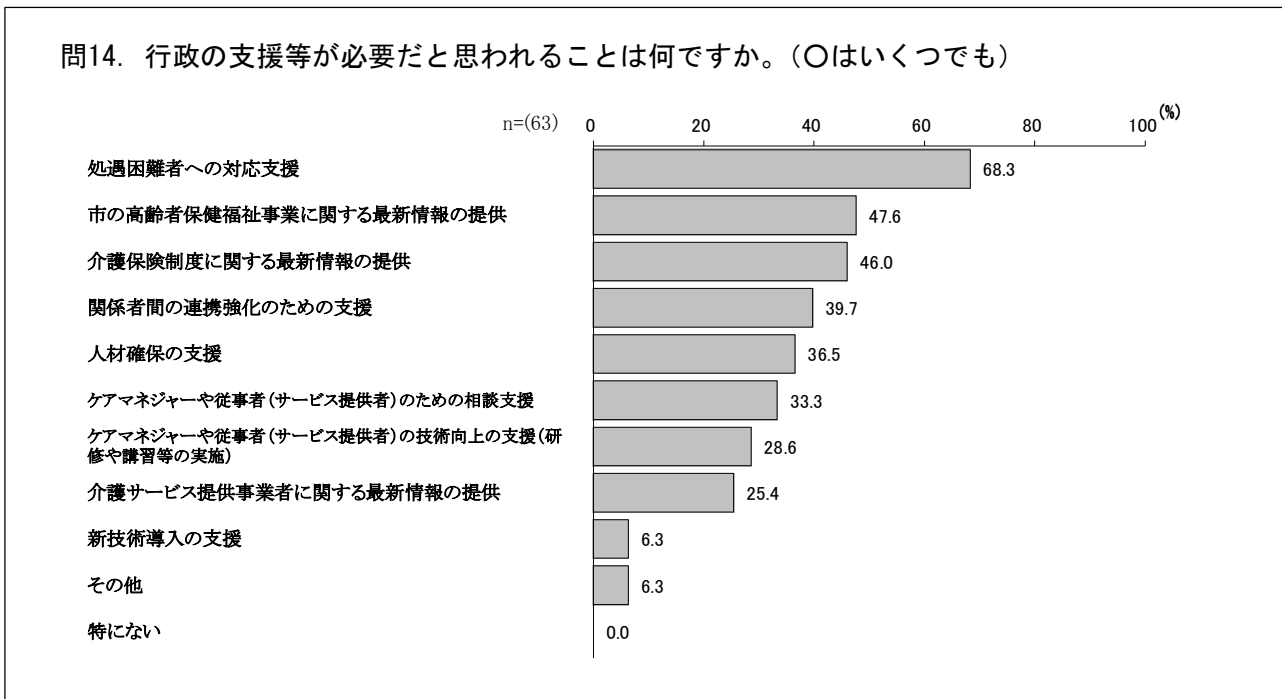
問13. 地域包括ケアシステムの推進に向け、たとえ重度の要介護者となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるようにするために、ケアマネジャーの視点からどのようなことが特に重要だと思いますか。(〇は5つまで)



自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うことをたずねたところ、「かかりつけ医等による訪問診療」が61.9%と最も多く、以下「買い物や見守りなどの日常生活を支える生活支援サービス」(55.6%)、「低所得者の高齢者が暮らせる住宅」(49.2%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護や夜間対応型訪問介護」(38.1%)、「認知症高齢者に特化した在宅サービス」(36.5%) などとなっている。

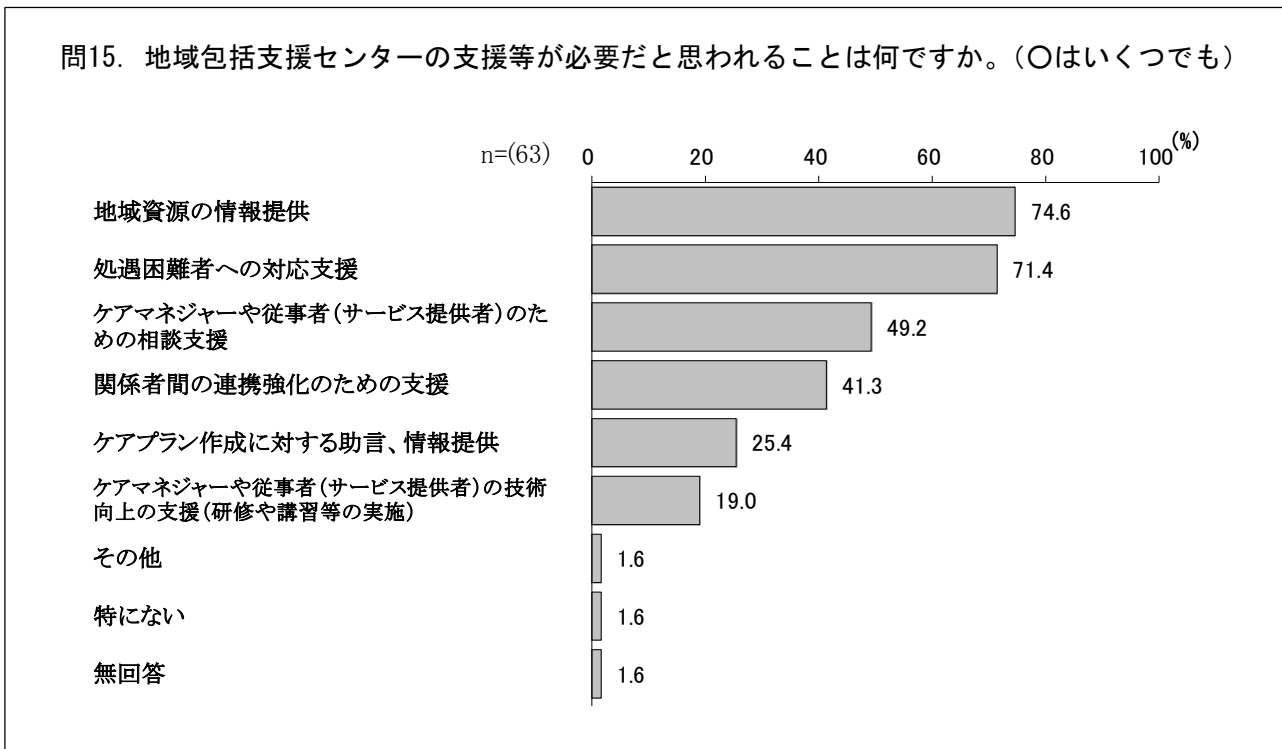
9. 行政に対する要望について

(1) 行政の支援等が必要だと思われること



行政の支援等が必要だと思われることをたずねたところ、「処遇困難者への対応支援」が68.3%と最も多く、以下「市の高齢者保健福祉事業に関する最新情報の提供」(47.6%)、「介護保険制度に関する最新情報の提供」(46.0%)、「関係者間の連携強化のための支援」(39.7%)、「人材確保の支援」(36.5%) などとなっている。

(2) 地域包括支援センターの支援等が必要だと思われること

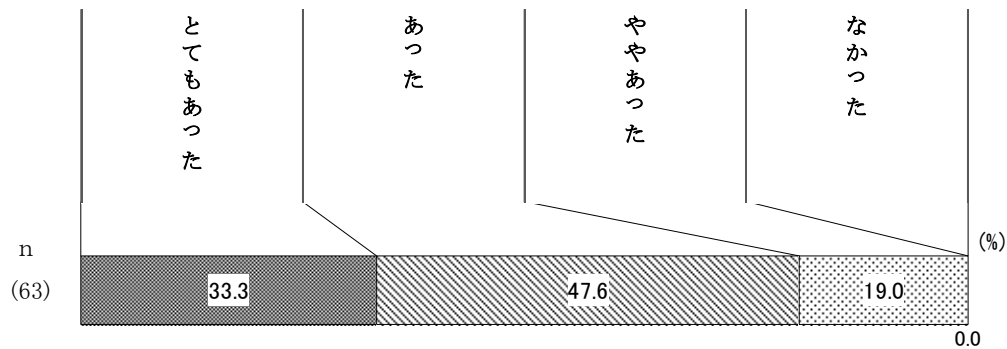


地域包括支援センターの支援等が必要だと思われることをたずねたところ、「地域資源の情報提供」(74.6%)、「処遇困難者への対応支援」(71.4%)がともに多く、以下「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)のための相談支援」(49.2%)、「関係者間の連携強化のための支援」(41.3%)などとなっている。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無

問16. 新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたが担当している利用者に外出回数などの日常生活における変化や体力などの身体的変化、気分などの精神的変化はありましたか。
(○は1つ)

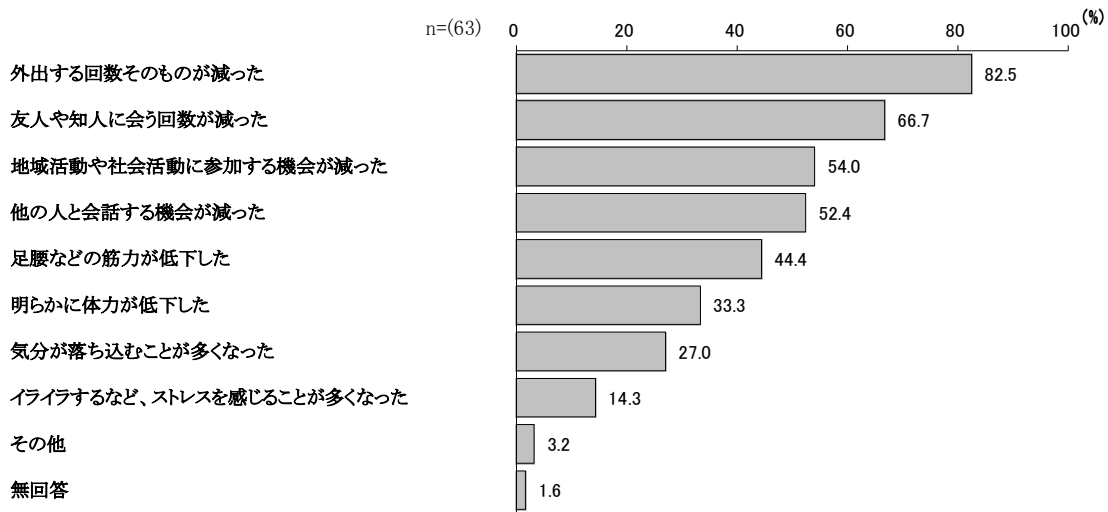


新型コロナウイルスの影響による日常生活の変化、身体的変化、精神的変化の有無をたずねたところ、「あった」(47.6%)、「とてもあった」(33.3%)、「ややあった」(19.0%)を合わせた“あった”は99.9%となっている。

(2) 新型コロナウイルスの影響による変化の内容

【問16で「1. とてもあった」「2. あった」「3. ややあった」と回答した方にお伺いします】

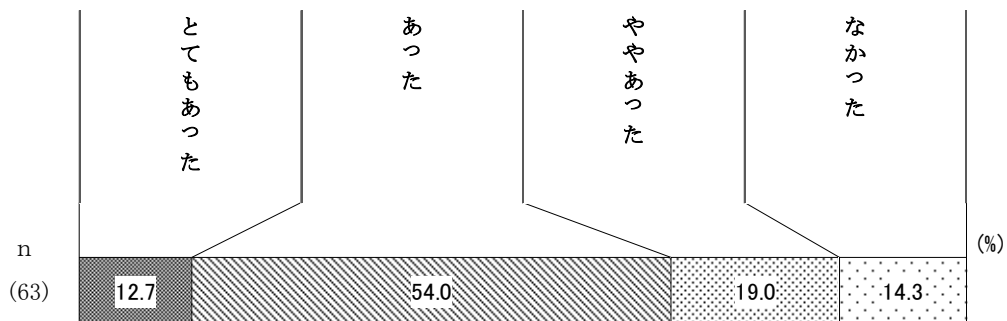
問16-1. どのような変化がありましたか (〇はいくつでも)



新型コロナウイルスの影響による変化の内容をたずねたところ、「外出する回数そのものが減った」が 82.5%と最も多く、以下「友人や知人に会う回数が減った」(66.7%)、「地域活動や社会活動に参加する機会が減った」(54.0%)、「他の人と会話する機会が減った」(52.4%)、「足腰などの筋力が低下した」(44.4%) などとなっている。

(3) 新型コロナウイルスの影響により介護保険（介護予防）サービスの利用を控えたか

問17. あなたが担当している利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、介護保険（介護予防）サービスの利用を控えることができましたか (〇は1つ)



新型コロナウイルスの影響により介護保険（介護予防）サービスの利用を控えたかをたずねたところ、「あった」(54.0%)、「ややあった」(19.0%)、「とてもあった」(12.7%)を合わせた“あった”は 85.7%となっている。

一方、「なかった」は 14.3%となっている。

第2部 調査結果の分析

第4章 介護サービス事業所に対する調査

第4章 介護サービス事業所に対する調査

1. 回答者の属性について

(1) 職員数

問1. 貴事業所の全従業員は何人ですか。(令和4年12月1日現在)

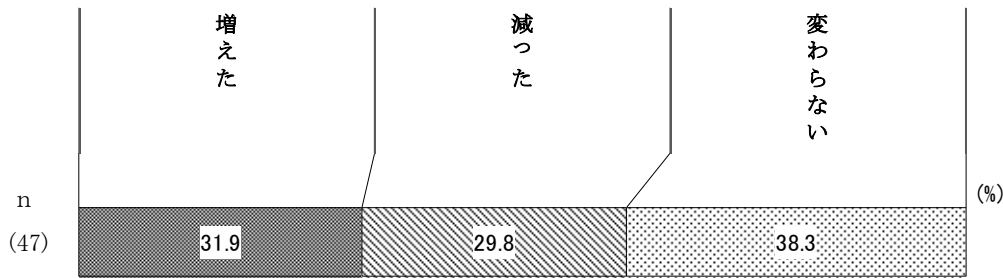
	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
正規職員数	46 100.0	493 10.72	13.05	2	67
非正規職員数	40 100.0	257 6.43	8.56	0	50
合計の人数	46 100.0	750 16.30	20.13	2	117

職員数をたずねたところ、正規職員数の平均は 10.72 人、非正規職員数の平均は 6.43 人、合計従業員数の平均は 16.30 人となっている。

2. 運営状況について

(1) 1年前と比べたサービスの利用者数の変化

問2. 令和4年12月1日現在、貴事業所のサービスの利用者数は、1年前に比べてどのようになっていますか。(〇は1つ)



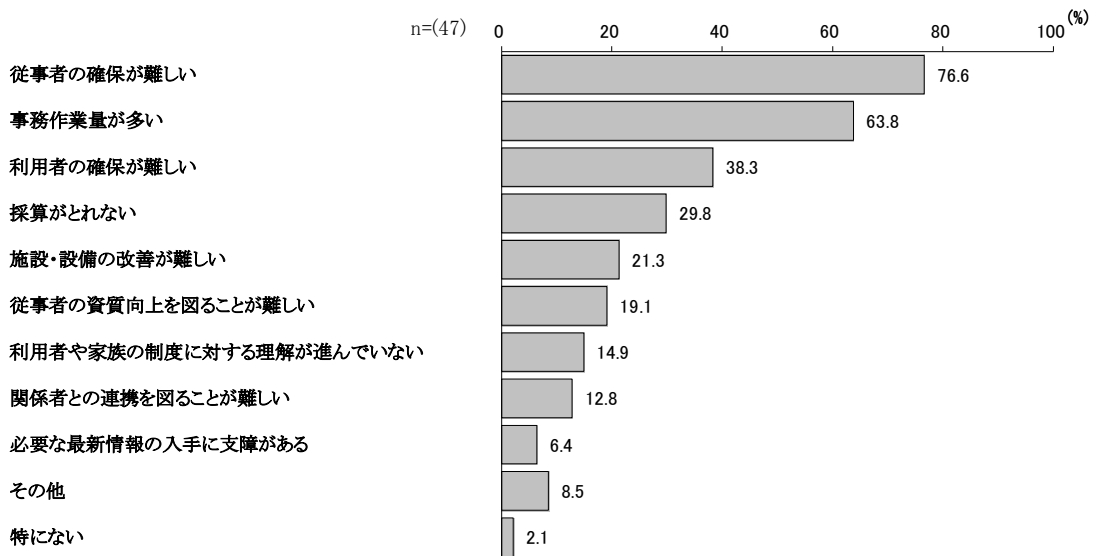
1年前と比べたサービスの利用者数の変化をたずねたところ、「増えた」が31.9%、「減った」が29.8%となっている。

なお、「変わらない」は38.3%となっている。

(2) 経営上の問題

問3. 円滑な事業運営を進めていく上で、経営上の問題を感じることはありますか。

(〇はいくつでも)



経営上の問題をたずねたところ、「従事者の確保が難しい」が76.6%と最も多く、以下「事務作業量が多い」(63.8%)、「利用者の確保が難しい」(38.3%)、「採算がとれない」(29.8%)、「施設・設備の改善が難しい」(21.3%)などとなっている。

3. サービスの提供状況等について

(1) 介護保険対象サービスの現状と今後

問4. 現時点の多賀城市内における介護保険対象サービスについて、(ア) 現在提供しているサービス、(イ) 規模縮小・廃止したいサービス、(ウ) 新規に参入したいサービスはありますか。((ア)(イ)(ウ)それぞれについて○はいくつでも)

	調査数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定施設入居者生活介護	福祉用具貸与	居宅介護支援	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
上段：実数 下段：%															
(ア) 現在提供しているサービス	47 100.0	13 27.7	2 4.3	2 4.3	4 8.5	1 2.1	13 27.7	4 8.5	1 2.1	2 4.3	1 2.1	1 2.1	13 27.7	-	1 2.1
(イ) 規模縮小・廃止したいサービス	47 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(ウ) 新規に参入したいサービス	47 100.0	1 2.1	-	2 4.3	1 2.1	1 2.1	-	-	1 2.1	1 2.1	1 2.1	-	-	-	-

	調査数	介護療養型医療施設	介護医療院	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	介護予防訪問入浴介護	介護予防訪問看護
上段：実数 下段：%														
(ア) 現在提供しているサービス	47 100.0	-	-	3 6.4	-	5 10.6	4 8.5	2 4.3	5 10.6	1 2.1	1 2.1	-	1 2.1	1 2.1
(イ) 規模縮小・廃止したいサービス	47 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(ウ) 新規に参入したいサービス	47 100.0	-	-	-	-	1 2.1	-	2 4.3	-	-	-	1 2.1	-	1 2.1

	調査数	介護予防訪問リハビリテーション	介護予防居宅療養管理指導	介護予防通所リハビリテーション	介護予防短期入所生活介護	介護予防短期入所療養介護	介護予防特定施設入居者生活介護	介護予防福祉用具貸与	介護予防支援	介護予防認知症対応型通所介護	介護予防小規模多機能型居宅介護	介護予防認知症対応型共同生活介護	指定介護予防支援（地域包括支援センター）	無回答
上段：実数 下段：%														
(ア) 現在提供しているサービス	47 100.0	3 6.4	-	3 6.4	-	-	-	1 2.1	11 23.4	3 6.4	2 4.3	4 8.5	5 10.6	2 4.3
(イ) 規模縮小・廃止したいサービス	47 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 2.1	-	-	46 97.9
(ウ) 新規に参入したいサービス	47 100.0	1 2.1	-	-	1 2.1	1 2.1	-	-	-	-	1 2.1	-	2 4.3	41 87.2

介護保険対象サービスについて、現在提供しているサービスをたずねたところ、「訪問介護」「通所介護」「居宅介護支援」（ともに27.7%）が最も多くなっている。

規模縮小・廃止したいサービスをたずねたところ、「介護予防小規模多機能型居宅介護」（2.1%）となっている。

新規に参入したいサービスをたずねたところ、「訪問看護」「小規模多機能型居宅介護」「指定介護予防支援（地域包括支援センター）」（ともに4.3%）、「訪問介護」「訪問リハビリテーション」「居宅療養管理指導」「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」「特定施設入居者生活介護」「地域密着型通所介護」「複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）」「介護予防訪問看護」「介護予防訪問リハビリテーション」「介護予防短期入所生活介護」「介護予防短期入所療養介護」「介護予防小規模多機能型居宅介護」（ともに2.1%）となっている。

（2）新規に参入したいと考える一番の介護保険対象サービスとその理由

問4-1. 新規に参入したいと考える一番のサービスは何ですか。また、その理由を記入してください。

新規に参入したいと考える一番の介護保険対象サービスとその理由をたずねたところ、3件の回答があった。内容は以下の通りである。

サービス名	参入したいと考える理由
訪問看護	市全体をみても不足している。
特定施設入居者生活介護	老健利用者の在宅復帰先として連携したい。利用者本人は在宅に帰れる状態になっても、家族が難しいケースが多い。老健よりも自由度の高い生活ができる施設をつくりたい。
指定介護予防支援 （地域包括支援センター）	現在の包括支援センターはあまりに医学的バックボーンに欠ける。医療→介護の正確・安全な橋渡しをするために参入したい。適正なサービス選択を利用者に提示するための手伝いをしたい。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の過不足

問5. 現時点の多賀城市内における介護予防・日常生活支援総合事業について、(ア) 現在、供給が不足していると感じるサービス、(イ) 今後、需要が増えたり必要となると考えられるサービスはありますか。(ア)(イ)それぞれについて〇はいくつでも)

	調査数	介護予防訪問介護相当サービス	軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)	介護予防通所介護相当サービス	短期集中予防サービス事業(市の独自基準によるサービス)	認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)	健康ストレッチ教室	筋運アップ教室	地域リハビリテーション活動支援事業	無回答
上段：実数 下段：%										
(ア) 現在供給が不足していると感じるサービス	47 100.0	13 27.7	4 8.5	4 8.5	2 4.3	9 19.1	2 4.3	2 4.3	2 4.3	26 55.3
(イ) 今後需要が増えたり必要となると考えられるサービス	47 100.0	10 21.3	8 17.0	6 12.8	6 12.8	14 29.8	14 29.8	13 27.7	10 21.3	17 36.2

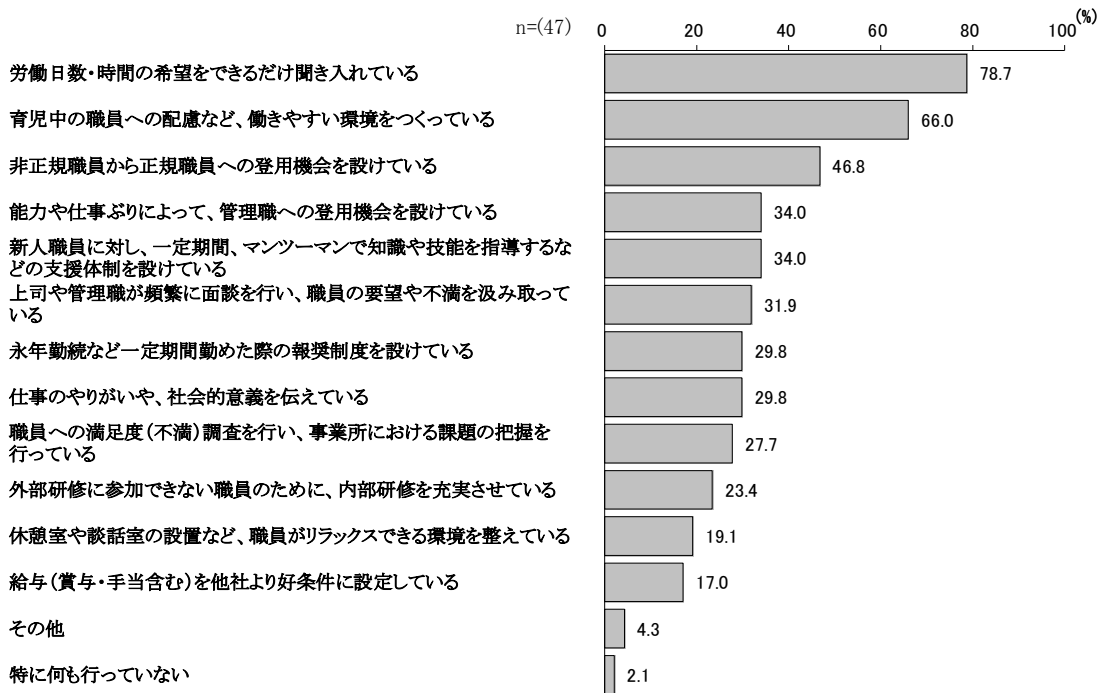
介護予防・日常生活支援総合事業について、現在供給が不足していると感じるサービスをたずねたところ、「介護予防訪問介護相当サービス」(27.7%)が最も多く、以下「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」(19.1%)、「軽度生活援助サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「介護予防通所介護相当サービス」(ともに8.5%)などとなっている。

今後需要が増えたり必要となると考えられるサービスをたずねたところ、「認知症高齢者見守り支援サービス事業(市の独自基準によるサービス)」「健康ストレッチ教室」(ともに29.8%)が最も多く、以下「筋運アップ教室」(27.7%)、「介護予防訪問介護相当サービス」「地域リハビリテーション活動支援事業」(ともに21.3%)などとなっている。

4. 人材の定着・育成等について

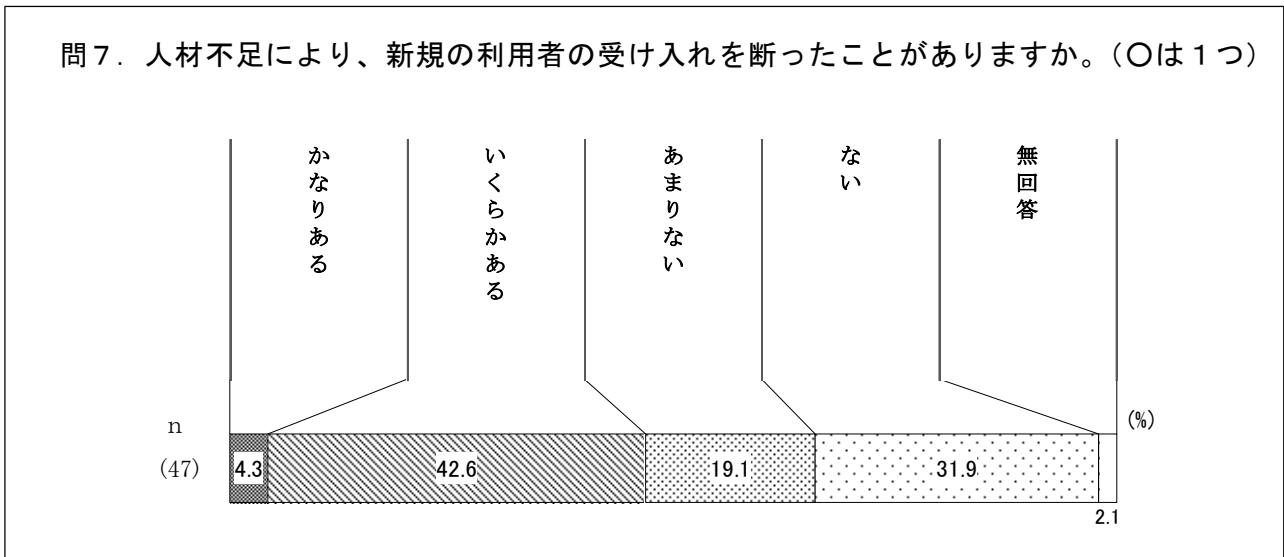
(1) 人材の定着・育成についての取り組み

問6. 貴事業所では、多賀城市内において人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取り組みを行っていますか。（〇はいくつでも）



人材の定着・育成（離職の防止）についての取り組みをたずねたところ、「労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が78.7%と最も多く、以下「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」（66.0%）、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」（46.8%）、「能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている」「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」（ともに34.0%）、「上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている」（31.9%）などとなっている。

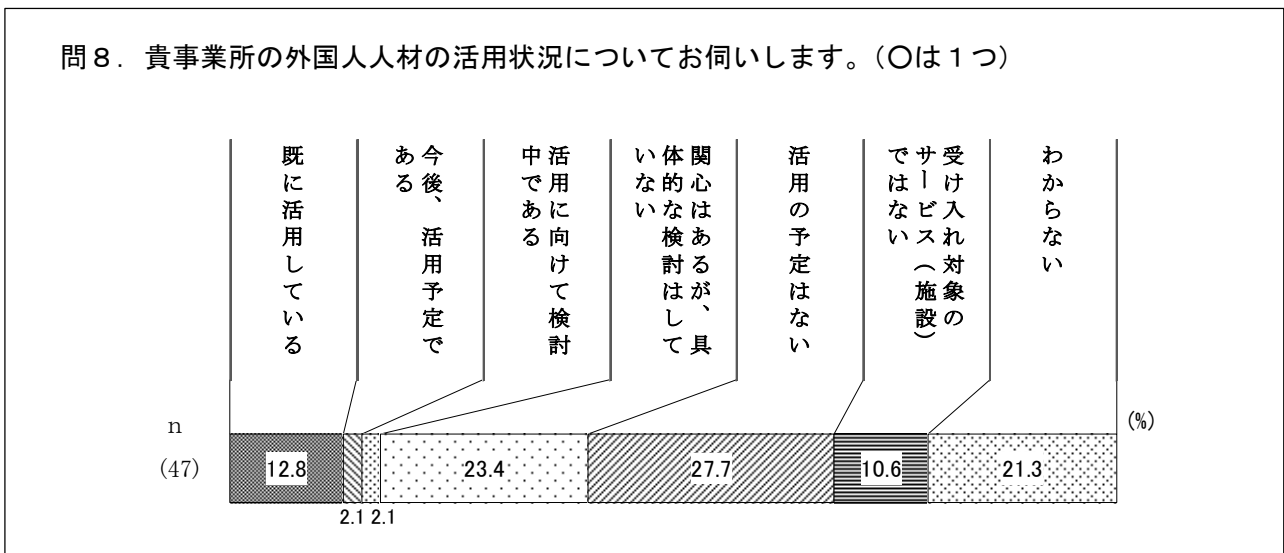
(2) 人材不足により新規利用者の受け入れを断ったことの有無



人材不足により新規利用者の受け入れを断ったことの有無をたずねたところ、「いくらかある」が42.6%と最も多く、「かなりある」(4.3%)を合わせた“ある”は46.9%となっている。

一方、「ない」(31.9%)、「あまりない」(19.1%)を合わせた“ない”は51.0%となっている。

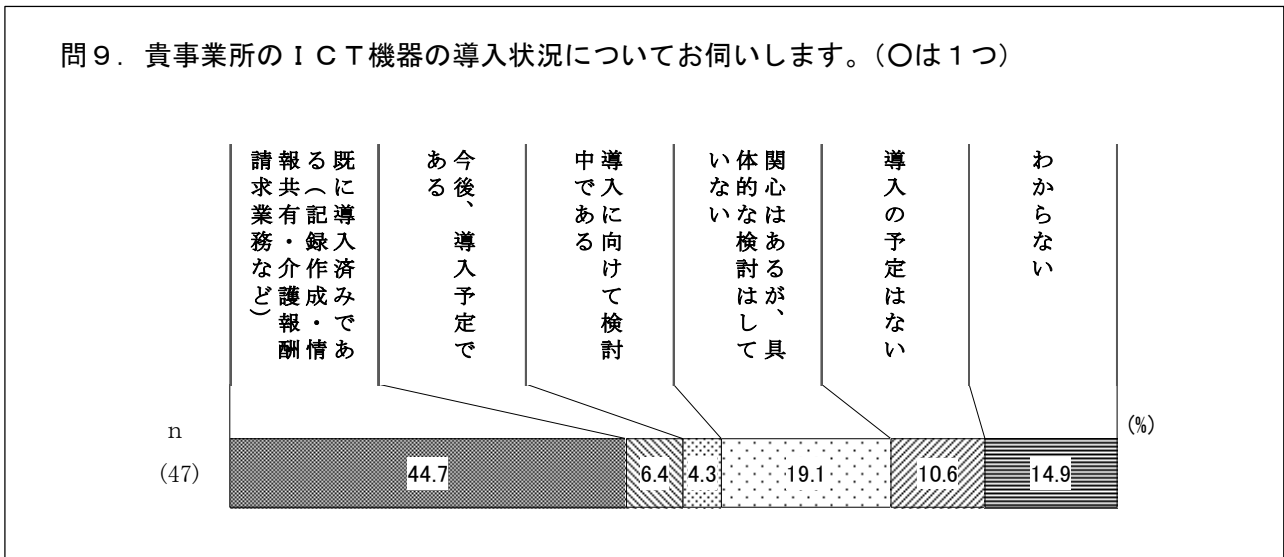
(3) 外国人人材の活用状況



外国人人材の活用状況についてたずねたところ、「活用の予定はない」が27.7%と最も多く、以下「関心はあるが、具体的な検討はしていない」(23.4%)、「既に活用している」(12.8%)、「受け入れ対象のサービス(施設)ではない」(10.6%)などとなっている。

なお、「わからない」は21.3%となっている。

(4) ICT機器の導入状況

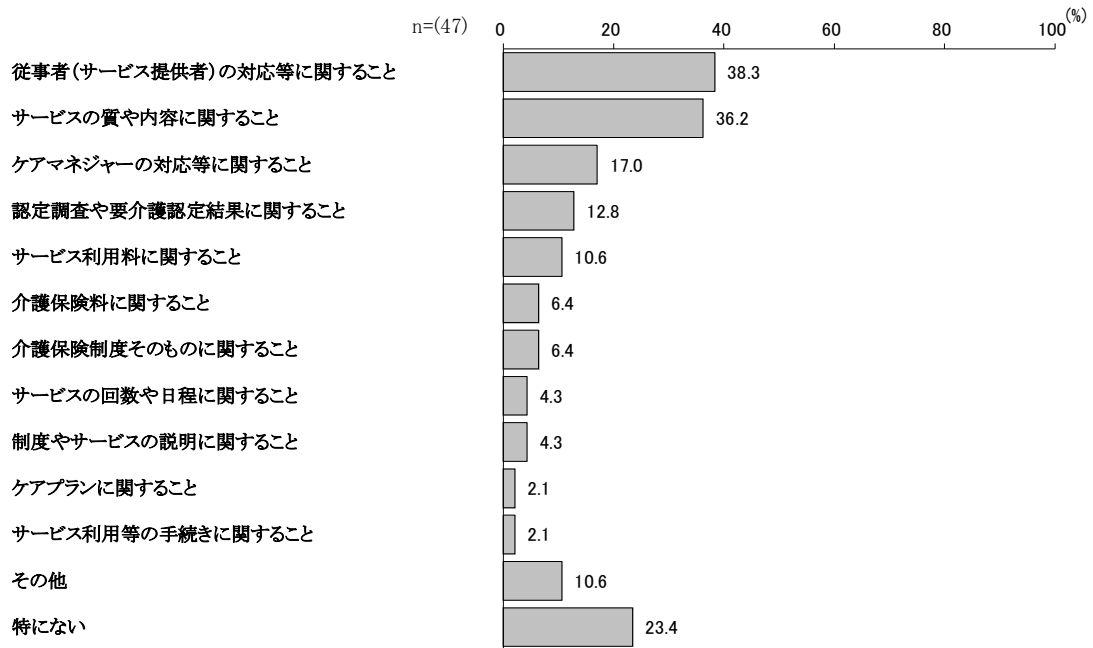


ICT機器の導入状況についてたずねたところ、「既に導入済みである(記録作成・情報共有・介護報酬請求業務など)」が44.7%と最も多く、以下「興味はあるが、具体的な検討はしていない」(19.1%)、「導入の予定はない」(10.6%)、「今後、導入予定である」(6.4%)、「導入に向けて検討中である」(4.3%)となっている。

5. 苦情処理体制やサービスの質の向上への対策について

(1) 利用者や家族からあげられる苦情の内容

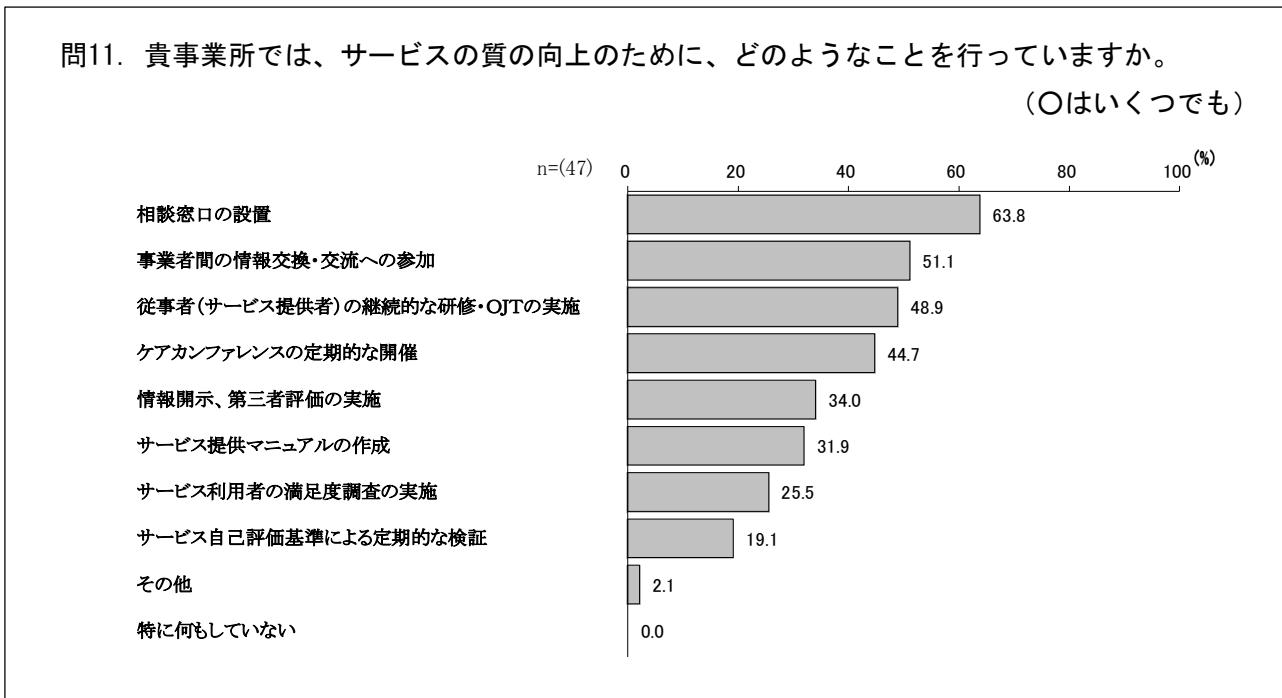
問10. 貴事業所における、利用者や家族からあげられる苦情の内容について、どのようなことがありますか。(〇はいくつでも)



利用者や家族からあげられる苦情の内容をたずねたところ、「従事者（サービス提供者）の対応等に関する事」が38.3%と最も多く、以下「サービスの質や内容に関する事」(36.2%)、「ケアマネジャーの対応等に関する事」(17.0%)、「認定調査や要介護認定結果に関する事」(12.8%)、「サービス利用料に関する事」(10.6%) などとなっている。

なお、「特にな」は23.4%となっている。

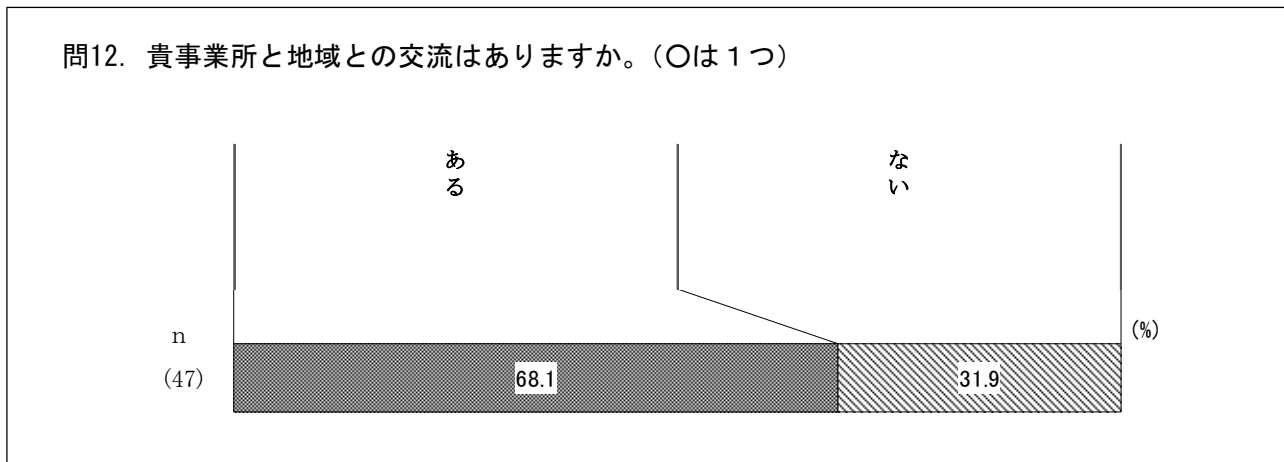
(2) サービスの質の向上のためにやっていること



サービスの質の向上のためにやっていることをたずねたところ、「相談窓口の設置」が63.8%と最も多く、以下「事業者間の情報交換・交流への参加」(51.1%)、「従事者(サービス提供者)の継続的な研修・OJTの実施」(48.9%)、「ケアカンファレンスの定期的な開催」(44.7%)、「情報開示、第三者評価の実施」(34.0%)などとなっている。

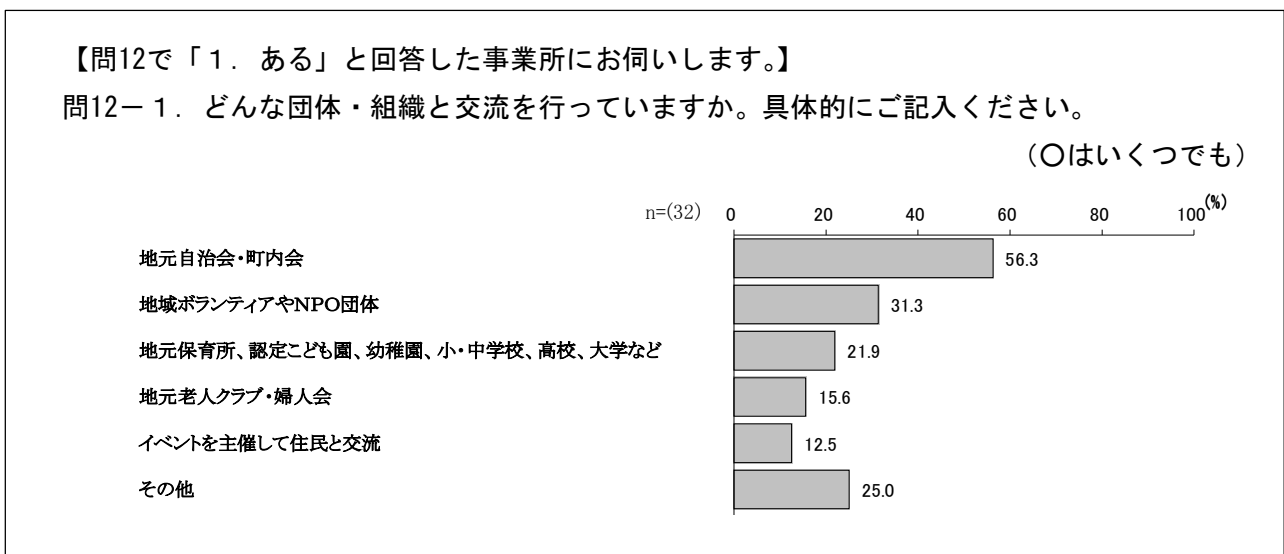
6. 地域とのつながりについて

(1) 地域との交流状況



地域との交流状況をたずねたところ、「ある」が68.1%となっており、「ない」(31.9%)を上回っている。

(2) 交流を行っている団体・組織



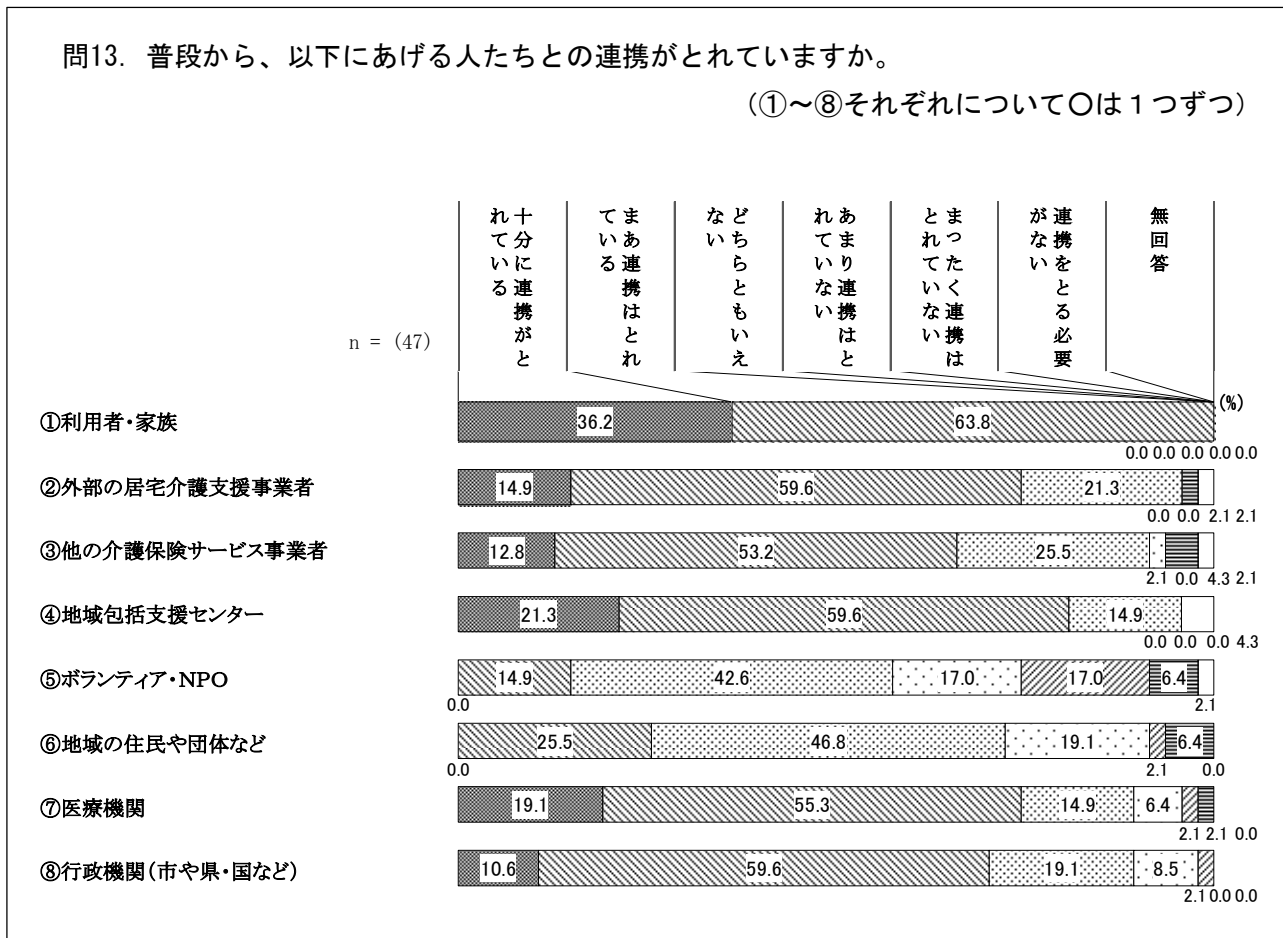
交流を行っている団体・組織をたずねたところ、「地元自治会・町内会」が56.3%と最も多く、以下「地域ボランティアやNPO団体」(31.3%)、「地元保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高校、大学など」(21.9%)、「地元老人クラブ・婦人会」(15.6%)、「イベントを主催して住民と交流」(12.5%)となっている。「その他」の回答では、認知症カフェの開催、近隣住民、民生委員・児童委員などがある。

7. 関係機関との連携について

(1) 連携状況

問13. 普段から、以下にあげる人たちとの連携がとれていますか。

(①～⑧それぞれについて〇は1つずつ)



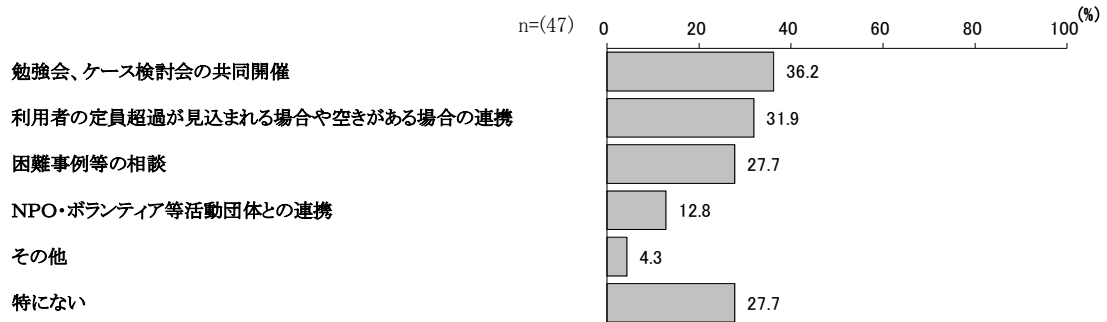
関係者・関係機関との連携をたずねたところ、『⑤ボランティア・NPO』、『⑥地域の住民や団体など』を除くすべての関係者・関係機関で「十分に連携がとれている」、「まあ連携はとれている」を合わせた“連携はとれている”が60.0%以上となっており、特に『①利用者・家族』(100.0%)、『④地域包括支援センター』(80.9%)は80.0%以上となっている。

一方、「あまり連携はとれていない」、「まったく連携はとれていない」を合わせた“連携はとれていない”は『⑤ボランティア・NPO』(34.0%)、『⑥地域の住民や団体など』(21.2%)で多くなっている。

(2) 他法人との連携について取り組んでいること

問14. 他法人との連携について、貴事業所として取り組んでいることはありますか。

(〇はいくつでも)



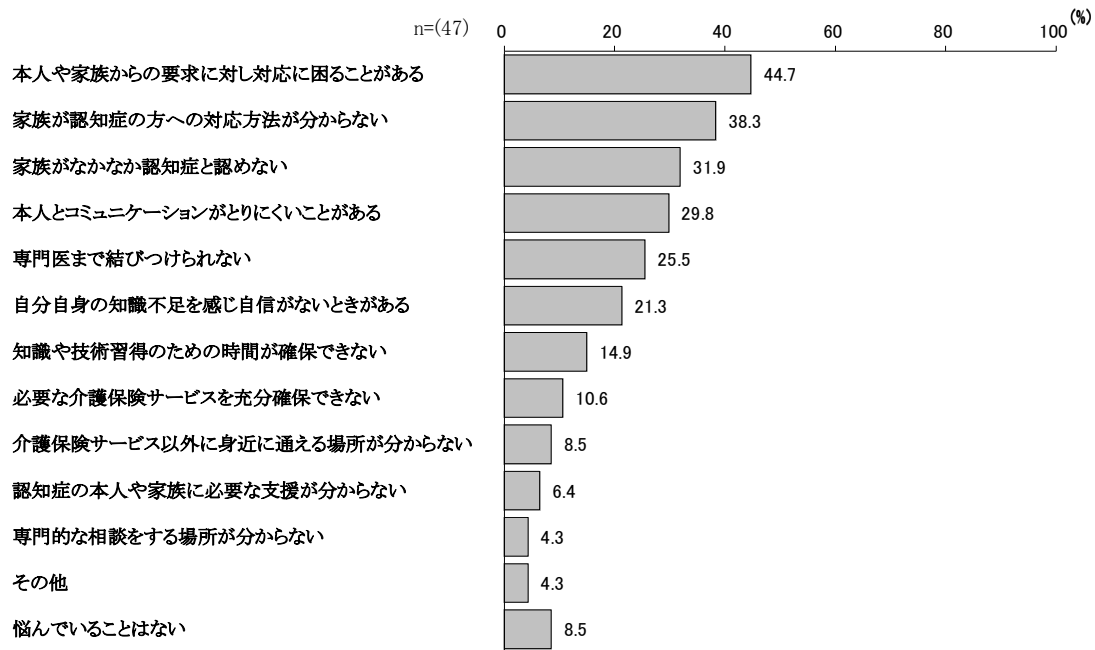
他法人との連携について取り組んでいることをたずねたところ、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が36.2%と最も多く、以下「利用者の定員超過が見込まれる場合や空きがある場合の連携」(31.9%)、「困難事例等の相談」(27.7%)、「NPO・ボランティア等活動団体との連携」(12.8%)となっている。

なお、「特にない」は27.7%となっている。

8. 認知症の対応について

(1) 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して悩んでいること

問15. 認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいることがありますか。
 (〇はいくつでも)

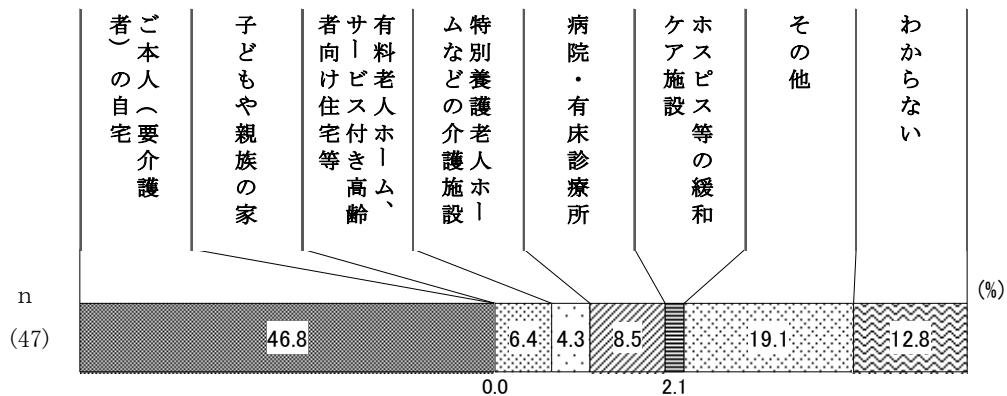


認知症の要介護（要支援）認定者とその家族に対して、悩んでいることをたずねたところ、「本人や家族からの要求に対し対応に困ることがある」が44.7%と最も多く、以下「家族が認知症の方への対応方法が分からない」(38.3%)、「家族がなかなか認知症と認めない」(31.9%)、「本人とコミュニケーションがとりにくいことがある」(29.8%)、「専門医まで結びつけられない」(25.5%)、「自分自身の知識不足を感じ自信がないときがある」(21.3%)、「知識や技術習得のための時間が確保できない」(14.9%) などとなっている。

9. 地域包括ケアの実現に向けた取り組みについて

(1) 利用者にとっての望ましい人生の最期の場所

問16. 日々の業務を通じて、事業所として、利用者は人生の最期をどこで迎えるのが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

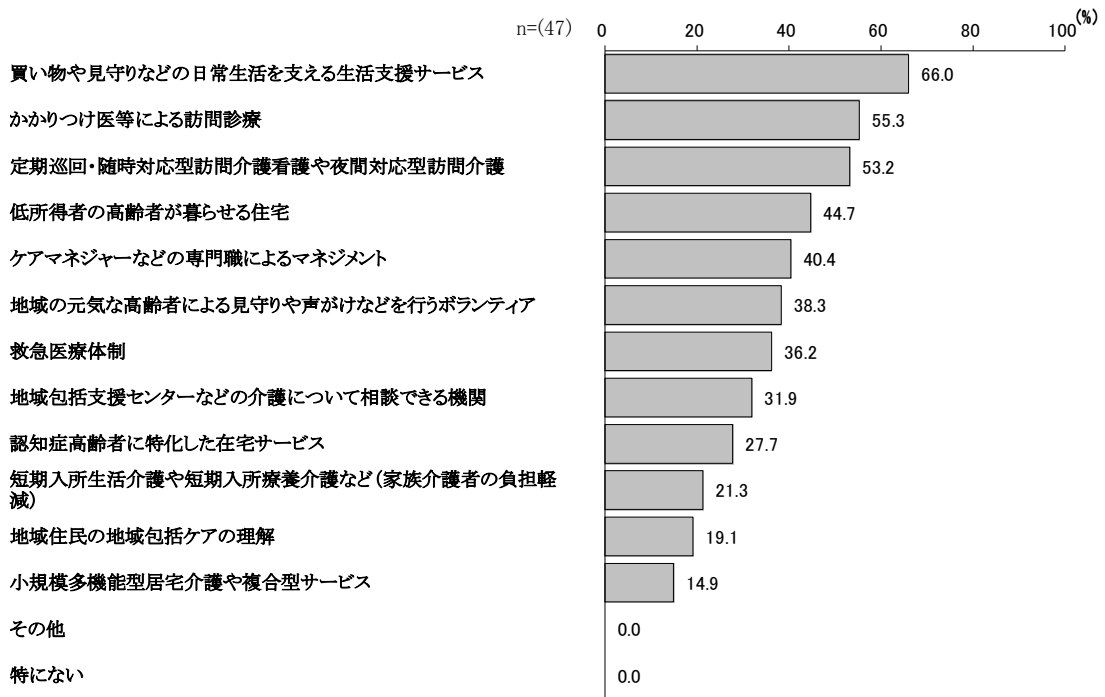


望ましい人生の最期の場所をたずねたところ、「ご本人（要介護者）の自宅」が46.8%と最も多く、以下「病院・有床診療所」（8.5%）、「有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等」（6.4%）、「特別養護老人ホームなどの介護施設」（4.3%）などとなっている。

なお、「わからない」は12.8%となっている。

(2) 自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うこと

問17. 地域包括ケアシステムの推進に向け、たとえ重度の要介護者となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるようにするために、事業所の視点からどのようなことが特に重要だと思いますか。(〇は5つまで)

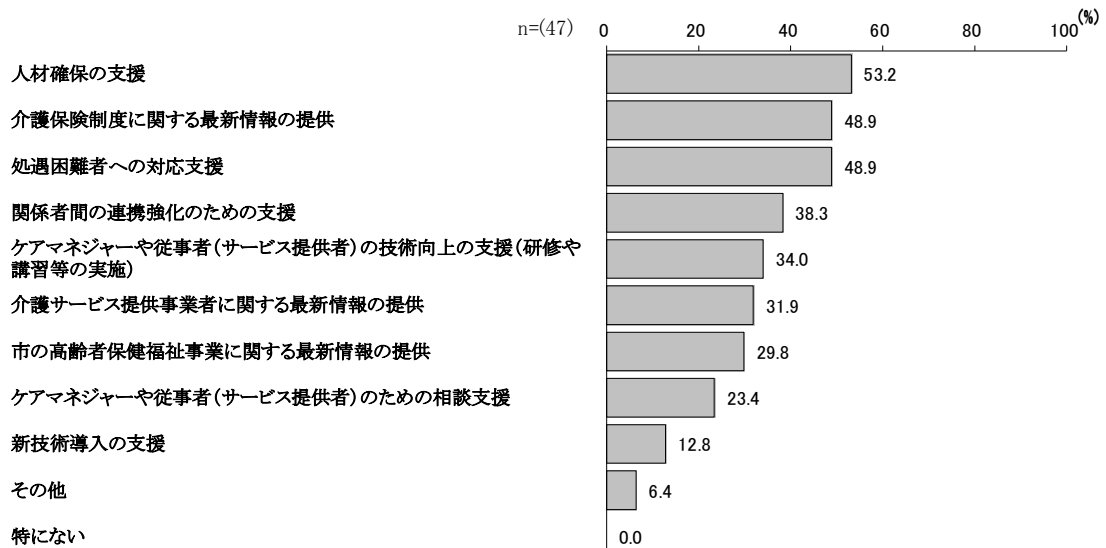


自分らしい暮らしを最期まで続けるため、特に重要だと思うことをたずねたところ、「買い物や見守りなどの日常生活を支える生活支援サービス」が66.0%と最も多く、以下「かかりつけ医等による訪問診療」(55.3%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護や夜間対応型訪問介護」(53.2%)、「低所得者の高齢者が暮らせる住宅」(44.7%)、「ケアマネジャーなどの専門職によるマネジメント」(40.4%)、「地域の元気な高齢者による見守りや声かけなどを行うボランティア」(38.3%)、「救急医療体制」(36.2%)、「地域包括支援センターなどの介護について相談できる機関」(31.9%) などとなっている。

10. 行政に対する要望について

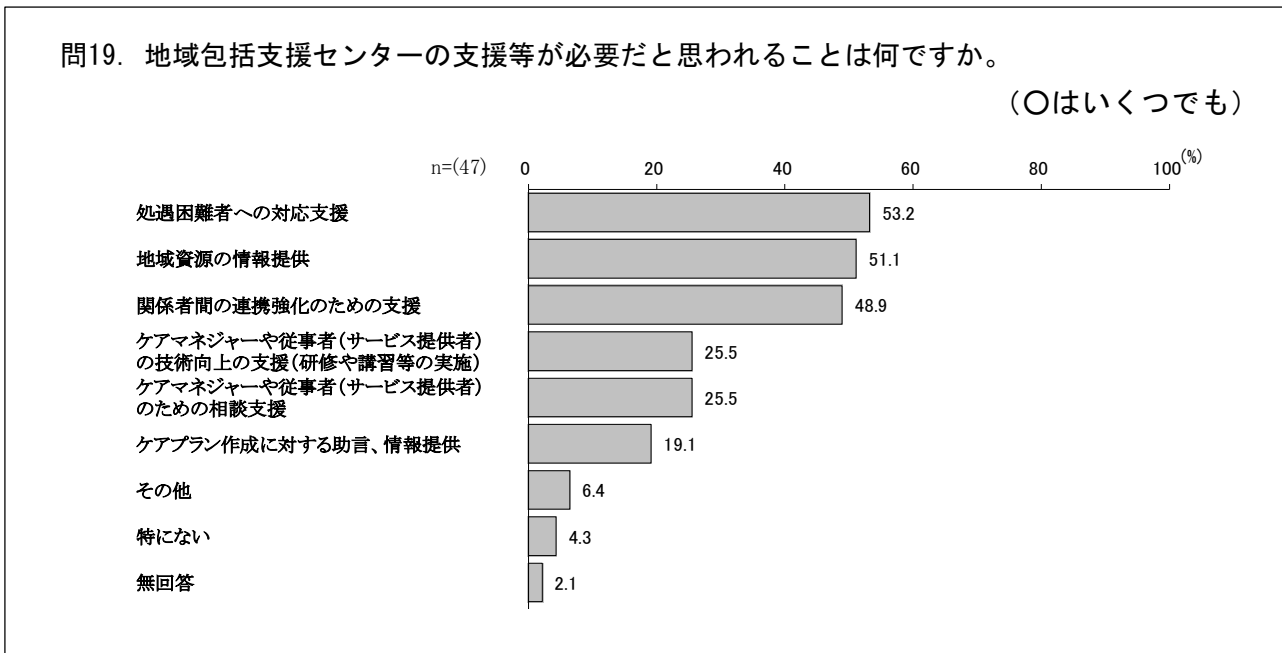
(1) 行政の支援等が必要だと思われること

問18. 行政の支援等が必要だと思われることは何ですか。(〇はいくつでも)



行政の支援等が必要だと思われることをたずねたところ、「人材確保の支援」が 53.2%と最も多く、以下「介護保険制度に関する最新情報の提供」「処遇困難者への対応支援」（ともに 48.9%）、「関係者間の連携強化のための支援」（38.3%）、「ケアマネジャーや従事者（サービス提供者）の技術向上の支援（研修や講習等の実施）」（34.0%）、「介護サービス提供事業者に関する最新情報の提供」（31.9%）、「市の高齢者保健福祉事業に関する最新情報の提供」（29.8%）などとなっている。

(2) 地域包括支援センターの支援等が必要だと思われること



地域包括支援センターの支援等が必要だと思われることをたずねたところ、「処遇困難者への対応支援」(53.2%)、「地域資源の情報提供」(51.1%)、「関係者間の連携強化のための支援」(48.9%)がともに多く、以下「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)の技術向上の支援(研修や講習等の実施)」「ケアマネジャーや従事者(サービス提供者)のための相談支援」(ともに25.5%)、「ケアプラン作成に対する助言、情報提供」(19.1%)となっている。

多賀城市
高齢者福祉計画（第9期介護保険事業計画）
策定のための実態調査及び分析等報告書

発行日 令和5年3月
発行元 多賀城市 保健福祉部 介護・障害福祉課
住所 〒985-8531
多賀城市中央二丁目1番1号
電話 022-368-1141
FAX 022-368-7394
URL <https://www.city.tagajo.miyagi.jp/>
集計・分析 株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所